笠置町庁舎耐震補強工事

令和３年２月

建築						電気		機械	
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
Ａ－０１	図面リスト	Ａ－４３	改修事務室展開図（1）	Ｓ－０１	既存建物耐震改修工事仕様書（１）	Ｅ－０１	電気設備工事特記仕様書１	Ｍ－０１	機械設備　特記仕様書１
０２	建築改修工事特記仕様書１	４４	改修事務室展開図（2）	０２	既存建物耐震改修工事仕様書（２）	０２	電気設備工事特記仕様書２	０２	機械設備　特記仕様書２
０３	建築改修工事特記仕様書２	４５	改修事務室展開図（3）	０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	０３	電気設備工事　受変電設備　結線図・参考姿図	０３	給排水衛生設備　改修１階平面図
０４	建築改修工事特記仕様書３	４６	現況改修１階男子便所展開図	０４	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	０４	電気設備工事　分電盤リスト	０４	給排水衛生設備　改修２階平面図
０５	建築改修工事特記仕様書４	４７	現況改修１階女子便所展開図	０５	鉄骨工作標準図（１）	０５	電気設備工事　幹線・動力設備　改修１階平面図	０５	給排水衛生設備　器具リスト
０６	建築改修工事特記仕様書５	４８	現況改修２階男子便所展開図	０６	鉄骨工作標準図（２）	０６	電気設備工事　幹線・動力設備　改修２階平面図	０６	給排水衛生設備　現況・改修１階、２階平面詳細図
０７	建築改修工事特記仕様書６	４９	現況改修２階女子便所展開図	０７	基礎伏図	０７	電気設備工事　幹線・動力設備　改修３階平面図	０７	空気調和・換気設備　機器リスト
０８	建築改修工事特記仕様書７	５０	現況改修1階パッケージ室展開図	０８	１階柱壁２階床梁伏図	０８	電気設備工事　照明器具参考姿図No. １	０８	空気調和設備　改修１階平面図
０９	建築改修工事特記仕様書８	５１	現況改修2階パッケージ室展開図	０９	２階柱壁３階床梁伏図	０９	電気設備工事　照明器具参考姿図No. ２	０９	空気調和設備　改修２階平面図
１０	建築改修工事特記仕様書９	５２	現況改修1階風除室展開図	１０	３階柱R階床伏図	１０	電気設備工事　電灯設備　改修１階平面図	１０	空気調和設備　改修３階平面図
１１	建築改修工事特記仕様書１０	５３	現況１階天井伏図	１１	母屋伏図	１１	電気設備工事　電灯設備　改修２階平面図	１１	換気設備　改修１階平面図
１２	付近見取図	５４	現況２階天井伏図	１２	Y1通り軸組図	１２	電気設備工事　電灯設備　改修３階平面図	１２	換気設備　改修２階平面図
１３	配置図（仮設計画図）	５５	現況３階天井伏図	１３	Y2通り軸組図	１３	電気設備工事　コンセント設備　改修１階平面図	１３	換気設備　改修３階平面図
１４	建物求積図	５６	改修１階天井伏図	１４	Y3通り軸組図	１４	電気設備工事　コンセント設備　１階平面詳細図	１４	給排水衛生設備　現況１階平面図
１５	現況・改修仕上表	５７	改修２階天井伏図	１５	Y4通り軸組図	１５	電気設備工事　放送・自動火災報知設備　改修１階平面	１５	給排水衛生設備　現況２階平面図
１６	現況１階平面図	５８	改修３階天井伏図	１６	Y5通り軸組図	１６	電気設備工事　放送・自動火災報知設備　改修３階平面	１６	給排水衛生設備　現況３階平面図
１７	現況２階平面図	５９	１階建具伏図	１７	X1通り軸組図	１７	電気設備工事　既設受変電設備撤去図	１７	空気調和設備　現況１階平面図
１８	現況３階平面図	６０	２階建具伏図	１８	X2通り軸組図	１８	電気設備工事　コンセント設備　現況１階平面図	１８	空気調和設備　現況２階平面図
１９	現況屋根伏図	６１	３階建具伏図	１９	X3通り軸組図	１９	電気設備工事　電灯設備　現況１階平面図	１９	空気調和設備　現況３階平面図
２０	改修１階平面図	６２	現況建具リスト（１）	２０	X4通り軸組図	２０	電気設備工事　電灯設備　現況２階平面図	２０	換気設備　現況１階平面図
２１	改修２階平面図	６３	現況建具リスト（２）	２１	X5通り軸組図	２１	電気設備工事　電灯設備　現況３階平面図	２１	換気設備　現況２階平面図
２２	改修３階平面図	６４	改修建具リスト（１）	２２	X6通り軸組図	２２	電気設備工事　放送・自動火災報知設備　現況１階平面	２２	換気設備　現況３階平面図
２３	改修屋根伏図	６５	改修建具リスト（２）	２３	スリット詳細図（１）	２３	電気設備工事　放送・自動火災報知設備　現況３階平面		
２４	現況立面図（１）	６６	現況・改修１階(X6通･Y2-Y3通間)開口閉鎖詳細図	２４	スリット詳細図（２）				
２５	現況立面図（２）	６７	現況・改修１階(X6通･Y1-Y2通間)開口閉鎖詳細図	２５	スリット詳細図（３）				
２６	現況立面図（３）	６８	現況・改修１階(X1通･Y2-Y3通間)開口閉鎖詳細図	２６	増設壁詳細図（１）				
２７	現況立面図（４）	６９	現況・改修１階(X1通･Y1-Y2通間)開口閉鎖詳細図	２７	増設壁詳細図（２）				
２８	改修立面図（１）	７０	現況・改修１階(Y3通･X1-X4)スリット詳細図	２８	増設壁詳細図（３）				
２９	改修立面図（２）	７１	現況・改修１階(Y3通･X4-X5通間)(X5通･Y2-Y3通間)スリット詳細図	２９	増設壁詳細図（４）				
３０	改修立面図（３）	７２	現況・改修２階(X4通･Y2-Y3通間)片持ち梁増し打ち詳細図	３０	増設壁詳細図（５）				
３１	改修立面図（４）	７３	現況・改修２階(X5通･Y1-Y2通間)増し打ち壁詳細図	３１	増し打ち壁詳細図				
３２	現況矩計図（１）	７４	現況１階(Y1通･X3-X6通間)増設壁詳細図	３２	開口閉鎖詳細図（１）				
３３	現況矩計図（２）	７５	改修１階(Y1通･X3-X6通間)増設壁詳細図	３３	開口閉鎖詳細図（２）				
３４	現況矩計図（３）	７６	現況２階(Y1通･X3-X5通間)増設壁詳細図	３４	開口閉鎖詳細図（３）				
３５	現況矩計図（４）	７７	改修２階(Y1通･X3-X5通間)増設壁詳細図	３５	開口閉鎖詳細図（４）				
３６	改修矩計図（１）	７８	現況１階(Y2通･X3-X5通間)増設壁詳細図	３６	片持ち梁詳細図				
３７	現況改修１階男女便所平面詳細図	７９	改修１階(Y2通･X3-X5通間)増設壁詳細図	３７	補強水平ブレース詳細図				
３８	現況改修２階男女便所平面詳細図	８０	現況・改修１階出納室建具取替詳細図	３８	補強水平ブレース架構詳細図				
３９	現況改修１階パッケージ室詳細図	８１	現況３階(Y2通･X3-X5通間)補強水平ブレース詳細図（１）						
４０	現況改修１階風除室詳細図	８２	現況３階(Y2通･X3-X5通間)補強水平ブレース詳細図（２）						
４１	現況事務室展開図（1）	８３	改修３階(Y2通･X3-X5通間)補強水平ブレース詳細図（１）						
４２	現況事務室展開図（2）	８４	改修３階(Y2通･X3-X5通間)補強水平ブレース詳細図（２）						

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事

縮尺：ー

図面名：図面リスト

令和　年　月　日

図面番号：A-01

建築改修工事 特記仕様書

【1】 工 事 概 要

1．工 事 場 所　京都府相楽郡笠置町笠木西通90-1

2．敷 地 面 積　1,147.22　㎡

3．建築物概要

	棟　名	構　造	階　数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	備　考
	社会福祉施設	RC造	3	317.94	516.52	
	庁舎	RC造	3	447.75	748.72	

4．そ の 他

【2】 適 用 範 囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。
上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）をいう。（以下、これを「改修標仕」という。）
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。

【3】 工 事 区 分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工 事 仕 様

1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	① 適用基準等	● 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）　平成31年版　（監修：国土交通省） ● 建築工事標準詳細図　平成28年版　（監修：国土交通省） ○ 敷地調査共通仕様書　令和元年版　（監修：国土交通省） ● 建築構造設計基準及び参考資料　平成30年版　（監修：国土交通省） ● 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)　平成31年版　（監修：国土交通省） ● 公共建築木造工事標準仕様書　平成31年版　（監修：国土交通省） ● 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）　平成31年版　（監修：国土交通省） ● 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）　平成31年版　（監修：国土交通省） （注：監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部を示す）
	② 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。 （評価名簿によるもの） 床型枠用鋼製デッキプレート（ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｷ）、鉄骨柱下無収縮モルタル、 無収縮グラウト材（ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ形、現場調合形）、押出成形セメント板、 成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁器質タイル、既製調合モルタル（ﾀｲﾙ工事用）、既製調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材（ﾓﾙﾀﾙ用）、 アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、 錠前類（ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠）、クローザー類(ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ、ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ)、自動扉機構（制御装置・駆動装置、検出装置、 制御装置・駆動装置・検出装置）、自閉式上吊り引戸機構(手動開き式)、 重量シャッター、軽量シャッター、ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ、ガラス(ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ、型板ｶﾞﾗｽ、 網入板ｶﾞﾗｽ・線入板ｶﾞﾗｽ、熱線吸収板ｶﾞﾗｽ、倍強度ｶﾞﾗｽ、熱線反射ｶﾞﾗｽ）、 ガラスブロック（中空）、防水剤、現場発泡断熱材、ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（3000N、5000N）、 可動間仕切、移動間仕切(ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ)、トイレブース、煙突用成形ライニング材、 天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム（屋上緑化システム、 屋上緑化軽量システム）、トップライト、エポキシ樹脂、 タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、 鋳鉄製ふた（マンホールふた・弁栓ふた）

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	④ 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速（Vo）　●３２　○　（平成12年5月31日建設省告示第1454号） 地表面粗度区分　○Ⅰ　●Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ 多雪地域の指定　○なし　●あり
	⑤ 現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第１０条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。
	⑥ 工事工程報告	月報は毎月末日に〆め、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（　）曜日に提出する。
	⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する　（適用事項は、現場説明書による）　○適用しない
	⑧ 設備工事との取合い	施工範囲 ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ○ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。
	⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。
	⑩ 工事写真 (1.2.4)	工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほか監督職員の指示による。 下記のものを監督職員に提出する。

		部　数(ネガ1枚につき)	分　類　・　規　格	原版の大きさ（mm）
着　工　前		○ 1　○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
工　事　中		○ 1　○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
完成時	屋　内	○ 2　○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
	（　）箇所		○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上
	外　観	○ 2　○	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上
	（　）箇所		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上

写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。
完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。
○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。

	11 電気保安技術者 (1.3.3)	適用する
	⑫ 施工条件 (1.3.5)	現場説明書による
	⑬ 発生材の処理等 (1.3.12)	○ 引渡しを要するもの　（　） ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの （　） ● 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による） ○ アスファルトコンクリート塊　○ セメントコンクリート塊　○ 建設発生木材 ● 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による） ○ 指定地処分　（　） ● 自由処分　（　最寄りの再資源化施設へ搬出すること　） ● 指定副産物以外の搬出 ● 構外搬出適切処理　○（　） ○ 特別管理産業廃棄物

種　類	処 理 方 法
○ 廃石綿等	
○ ＰＣＢを含む機器類	
○ ＰＣＢ含有シーリング	
○ 廃油	
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）	
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）	
○ ＳＦ６ガス使用機器	

○ 廃石綿の処分地　（　㈱京都環境保全公社瑞穂センター　）

せっこうボードの処理方法
○ 石綿含有せっこうボードの処理　改修標仕9.1.5による
○ ひ素・カドミウム含有のせっこうボードの処理
　○ 製造業者にて処分　○ 埋立処分
○ その他のせっこうボードの処理
　○ 最終処分　○ 再資源化

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項		ＰＣＢ含有シーリング材の分析調査 ○ 行う　（　箇所 ）　○ 行わない ＰＣＢ含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 ○ 蛍光灯ランプ　○ ＨＩＤランプ　○ 硬質塩化ビニル管・継手 再生資源利用（促進）計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項14建設副産物の取扱い2)再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。 ● 建設発生土及び建設副産物処理計画書、報告書 を提出すること。 マニフェスト制度 ● 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ● 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。
	14 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)	既存破壊部分の補修方法　○ 図示による　○（　）
	⑮技能士 (1.6.2)	(1.6.2)

工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	
仮設工事	● とび作業	
鉄筋工事	● 鉄筋組立作業	
コンクリート工事	● 左官作業	● 型枠工事作業
	● ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業	
鉄骨工事	● 構造物鉄工作業	○ とび作業
ﾌﾞﾛｯｸ及びALCﾊﾟﾈﾙ工事	○ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業	○ ALCﾊﾟﾈﾙ工事作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	○ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工作業	○ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	○ ｶﾞﾗｽ工事作業	
防水工事	○ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業	● ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
	○ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業	○ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業
	○ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業	○ FRP防水工事作業
	○ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業	
	○ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業	
	○ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業	
石工事	○ 石張り作業	
タイル工事	○ タイル張り作業	
木工事	○ 大工工事作業	
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業	○ かわらぶき作業
	○ スレート工事作業	
金属工事	● 鋼製下地工事作業	○ 内外装板金作業
左官工事	● 左官作業	
塗装工事	● 建築塗装作業	
建具工事	● ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業	
	● ガラス工事作業	● 自動ドア施工作業
内装工事	● ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業	● ﾎﾞｰﾄﾞ仕上工事作業
	○ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上工事作業	● 壁装作業
排水工事	○ 建築配管作業	
舗装工事	○ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業	
	○ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業	
植栽工事	○ 造園工事作業	

ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。

	16 施工の検査等 (1.6.5)	見本施工の実施　○ 適用する（　） ○ 適用しない
	⑰化学物質の濃度測定 (1.6.9)	適用する　（適用事項は、現場説明書による）
	⑱ 完成図 (1.8.2)	作成する　（提出部数 ○ 2部 ○___部）　詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。
	⑲ 保全に関する資料 (1.8.3)	作成する　（提出部数 ○ 2部 ○___部） ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ● 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。

章	項　目	特　記　事　項
2 仮設工事	①足場その他 (2.1.3) (2.2.1)	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場　●施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○仮設ゴンドラを使用する。 ○移動式足場を使用する。 内部足場　※ 脚立、足場板等　○ ＿＿＿＿ 防護シート等 ○ 防音パネル　○ 防音シート　○ 養生シート　● ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ Ａ種　● Ｂ種　○ Ｃ種　○ Ｄ種　○ Ｅ種　（ 表2.2.1 ）
	②既存部分の養生 (2.3.1)	足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中桟及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS Ａ 8971（屋根工事用足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。 既存部分の養生　※ 行う（ ※ ビニールシート、合板 ○＿＿＿＿＿＿ ） ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う（ ※ ビニールシート ○＿＿＿＿＿＿ ）　○ 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管　○ 行う　○ 行わない 養生の方法　○ 取り外しのうえ清掃　○＿＿＿＿＿＿ 保管場所　○ 室内にてカバー掛の上、適切保管　○＿＿＿＿＿＿ 家具の移動　○ 行う　（ 図示 ）　○ 行わない
	3 仮設間仕切り (2.3.2)	○ 設ける　（ 図示 ） ○ 設けない

種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填
○ Ａ種	○ せっこうボード 種類 ○GB-R 厚さ ○　mm ○ 9.5mm	○ なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/㎥ ○＿＿＿ 厚さ○50mm
○ Ｂ種	○ 合板 材質 ○ﾗﾜﾝ合板 ○＿＿＿ 厚さ ○　mm ○ 9mm		
※ Ｃ種	全面シート張り		

	④監督職員事務所 (2.4.1)	規模　○ 10㎡程度　○ 20㎡程度　○ 35㎡程度　○ 65㎡程度　○ 100㎡程度 仕上　床　○ 合板張り素地　○ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ敷き　○ ﾊﾟﾝﾁｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 内壁、天井　○ 合板又はせっこうﾎﾞｰﾄﾞ張り、合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り 屋根　○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り　○ 鉄板張り調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 休憩室　○ 設けない　○ 設ける（畳敷き）　○ ＿＿＿＿＿＿ 備品　○ 机　○ いす　○ 保護帽　○ ゴム長靴　○ 雨がっぱ　○ 衣類ﾛｯｶｰ（上記６品、＿＿人分程度） ○ 書棚　○ 黒板　○ 製図板　○ 掛時計　○ 温度計 ○ 消火器　○ 掃除具　○ 懐中電灯　○ 湯沸器　○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器　○ コピー機　○ ネット回線　○ 流し台　○＿＿＿＿＿＿ ○ 改修標仕（平成31年版）　○ 建築改修工事監理指針（令和元年版） ○ 建築工事施工チェックシート　○ 建築工事標準詳細図（平成28年版） ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）
	⑤工事用水	構内既存の施設　● 利用できない　○ 利用できる　（ ○ 有償　○ 無償 ）
	⑥工事用電力	構内既存の施設　● 利用できない　○ 利用できる　（ ○ 有償　○ 無償 ）
	⑦仮囲い等	● 図示による　○＿＿＿＿＿＿
	⑧設計ＧＬ	○ 図示による　● 設計ＧＬ＝現状ＧＬ

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名	笠置町庁舎耐震補強工事
図面名	改修工事特記仕様書（1）
縮尺	－
令和　年　月　日	
図面番号	A-02

章：（2）土・鉄筋・コンクリート工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（平成31年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。
なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。

①埋め戻し及び盛土 (3.2.3) (8.28.3)

○ A種 砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め （表3.2.1）
● B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め
○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め
○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め
○ その他（材料＿＿＿＿＿＿工法＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（ m3）
発生場所 （ ）

②建設発生土の処理 (3.2.5)

下記に定めるほかは、現場説明書による
○ 構外指示の受入場所に処分
受入場所 ○（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○＿＿＿＿＿＿
土壌調査 ○ 行う（受入場所指定の検査） ○＿＿＿＿＿＿
○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例施行規則第７条第３項１３号及び第４項に規定する方法
仮置場所 ○＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
○ 構内指示の場所に敷き均し
○ 構内指示の場所にたい積
● 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、搬出土量が少量（５００m3以内）かつ緊急の場合等

③鉄筋の種類 (5.2.1)

（表5.2.1）

	種類の記号	径（mm）	備考
異形鉄筋	※ SD295A	D16以下	
	※ SD345 ○	D19以上	

4 溶接金網 (5.2.2)

網目の形状、寸法 ＿＿＿＿＿＿ 鉄線の径 ＿＿＿＿mm

⑤コンクリートの種類 (6.2.1)

種類 ※ 普通コンクリート ○＿＿＿＿＿＿ （表6.2.1）
類別 ※ Ⅰ類 ○ Ⅱ類

⑥コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)

設計基準強度（Fc）

打設部位		Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
構造体	基礎	○ 24 ○	○ 15 ○ 18	
	上部	○ 24 ○	○ 15 ○ 18	土間スラブを含む
土間コンクリート		○ 18 ○	○ 15 ○ 18	側溝・犬走り
捨コンクリート		○ 18 ○	○ 15 ○ 18	
軽量コンクリート		○ 21 ○	※ 21 ○ 18	
無筋コンクリート		※ 18 ○	○ 15 ○ 18	標仕6.14.1による

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
｛Fc＋構造体強度補正値(S)｝N/mm2
(6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

⑦セメントの類別 (6.3.1)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントB種 （適用箇所 ＿＿＿＿＿＿）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントB種（施工箇所 ＿＿＿＿＿＿）

⑧骨材 (6.3.1)

粗骨材 ※砂利(JIS A5308),砕石(JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○ 再生骨材H
細骨材 ※砂(JIS A5308),砕砂(JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○ 銅ｽﾗｸﾞ ○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ ○ 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分 ※ A（無害） ○＿＿＿＿＿＿

⑨混和材料 (6.3.1)

○混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種(JIS A 6204)
防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○混和材 ※ フライアッシュ(JIS A 6201)Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

⑩構造体強度補正値 (6.3.2)

※ 気温による構造体強度補正値（S） （表6.3.2）

予想平均気温（℃） 普通	早強	補正値 (S)	期間（打設日） 南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm2	3/6 ～ 6/30 9/11～ 11/15	3/11～ 7/20 9/1 ～ 11/5	3/11～ 7/10 9/1 ～ 10/31
0以上8未満	0以上5未満	6 N/mm2	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市（一部を除く）、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む）

⑪コンクリートの試験 (6.9.2) ～(6.9.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

12 軽量コンクリート (6.10.1) ～(6.10.3)

常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可
種類 ○ 1種 ○ 2種
施工箇所 ＿＿＿＿＿＿
気乾単位容積質量 ＿＿＿＿t/m3

13 寒中コンクリート (6.11.1)

※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

14 暑中コンクリート (6.12.2)

※ 暑中における構造体強度補正値（S）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	7月11日～8月31日	※ 6N/mm2 ○ 3N/mm2
中部地域	7月21日～8月31日	
南部地域	7月 1日～9月10日	

⑮ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

章：（2）土・鉄筋・コンクリート工事

1 既存下地の処理 (3.2.6)

既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○＿＿＿＿

2 アスファルト防水 (3.3.2) ～(3.3.5)

○ 保護防水工法

種別		防水層	施工箇所
○ P1 B 工法	○ B-1 ○ B-2 ○ B-3	表3.3.3	
○ P1 BI 工法	○ BI-1 ○ BI-2	表3.3.4	
○ T1 BI 工法	○ BI-3		
○ P2 AI 工法	○ AI-1 ○ AI-2 ○ AI-3	表3.3.5	
○ P2 A 工法	○ A-1 ○ A-2 ○ A-3	表3.3.6	

○ 露出防水工法

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ M4 C 工法	○ C-1 ○ C-2 ○ C-3 ○ C-4	表3.3.7			
○ M3 D 工法 ○ P0 D 工法	○ D-1 ○ D-2 ○ D-3 ○ D-4	表3.3.8			

○ 露出防水絶縁断熱工法

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ P0 DI 工法 ○ M3 DI 工法 ○ M4 DI 工法	○ DI-1 ○ DI-2	表3.3.9			

○ 屋内防水工法

種別		防水層	施工箇所
○ P1 E 工法 ○ P2 E 工法	○ E-1 ○ E-2	表3.3.10	

○断熱材（屋根保護防水断熱工法）
厚さ ＿＿＿mm

○断熱材（屋根露出防水断熱工法）
厚さ ＿＿＿mm
種類 ＿＿＿＿＿＿

ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿

章：3 防水改修工事

3 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ～(3.4.4)

○ 露出防水密着工法

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ M4 AS 工法	○ AS-T1 ○ AS-T2 ○ AS-J2	表3.4.1			

○ 露出防水絶縁工法

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ M3 AS 工法 ○ P0 AS 工法	○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ AS-J1 ○ AS-J3	表3.4.2			

○ 露出防水絶縁断熱工法

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ M3 ASI 工法 ○ M4 ASI 工法 ○ P0 ASI 工法	○ ASI-T1 ○ ASI-J1	表3.4.3			

押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 ○＿＿＿＿
断熱材（露出防水絶縁断熱工法）
厚さ ＿＿＿mm
種類 ○＿＿＿＿＿＿
脱気装置（絶縁工法） ※設ける 材種（ ） 設置数量（1箇所/＿＿＿㎡）
防湿層（露出防水絶縁断熱工法） ○設ける ○設けない

4 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 (3.5.2) ～(3.5.4)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ P0 S 工法 ○ S4 S 工法	○ S(I)-F1 P部材入隅増張（※有り ○無し）	表3.5.1 表3.5.2 表3.5.3			
○ P0 SI 工法 ○ S4 SI 工法	○ S(I)-F2 ○ S(I)-M1 ○ S(I)-M2 ○ S(I)-M3				
○ S3 S 工法 ○ S3 SI 工法	○ S(I)-F1 P部材入隅増張（※有り ○無し） ○ S(I)-F2				
○ M4 S 工法 ○ M4 SI 工法	○ S(I)-M1 ○ S(I)-M2 ○ S(I)-M3				
○ PIS 工法	S-C1		モルタル塗り厚さ＿＿＿mm		

絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15（保護防水工法）
※ フラットヤーンクロス（70g/㎡程度）（保護防水断熱工法）
○
押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○
立上がり部の保護 ○ 乾式保護材(＿＿＿＿) ○ 普通れんが(JIS R 1250) ○ 化粧れんが(JIS R 1250) ○＿＿＿＿ ○ コンクリート(工法＿＿＿＿＿＿)
保護層 平場のコンクリート厚さ ○＿＿＿mm ○ こて仕上げ＿＿＿mm ○ 床タイル張り等仕上げ＿＿＿mm
コンクリート仕上がりの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種
脱気装置 ○ 設ける 材種（ ） 設置数量（1箇所／ ㎡）
伸縮調整目地 ※ 成形伸縮目地材 ○＿＿＿＿＿＿
成形緩衝材 ※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の指定品 ○＿＿＿＿＿＿
屋上排水溝 ※ 図示による

断熱材（断熱工法）
厚さ ○ ＿＿＿mm
種類
機械的固定工法の場合
○＿＿＿＿＿＿
接着工法の場合
○＿＿＿＿＿＿
○S－M2 ○SI－M2 の場合で立ち上がりが接着工法の場合
立上り面のシートの厚さ ※ 1.5 mm ○＿＿＿mm
SI－M1及びSI－M2の場合の防湿用フィルム ○ 設置する

接着工法の場合で、PCｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の場合
目地処理 ※ 図示による ○＿＿＿＿
入隅部の増張り（S－F1、SI－F1の場合） ※図示による ○＿＿＿＿
絶縁用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○＿＿＿＿＿＿
仕上げ塗料 ○ ｶﾗｰ ○ ｼﾙﾊﾞｰ
脱気装置（接着工法） ○設ける 材種（ ） 設置数量(1箇所/＿＿＿㎡)
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの
○＿＿＿＿＿＿

章：3 防水改修工事

5 塗膜防水 (3.6.2) ～(3.6.3)

種別及び工程		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ P0X 工法 ○ L4X 工法	※ X-1 ○ X-2 ○ X-1 ※ X-2	表3.6.1			
○ P1Y 工法 ○ P2Y 工法	※ Y-2 ○＿＿＿	表3.6.2			

脱気装置(X-1) ○設ける 材種（ ） 設置数量（1箇所/＿＿＿㎡）
保護層 ○ 設ける ○ 設けない

6 漏水試験

※ 水張り試験を行う （ ○ 屋内 ○ 屋外 ）

7 保証書

※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。
（保証年限は工事目的物引渡しより１０年間以上とする。）

8 施工標識

工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。
材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○＿＿＿＿
設置数量 （ ） 箇所

⑨シーリング (3.7.2) ～(3.7.8)

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 ※ 改修標仕表3.7.1による

シーリング改修工法及び施工箇所

改修工法の種別	施工箇所
○ シーリング充填工法	
● シーリング再充填工法	
○ 拡幅シーリング再充填工法	
○ ブリッジ工法	

目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地
※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○＿＿＿＿
ガラス回りの目地
※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○＿＿＿＿
その他の目地
※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○＿＿＿＿

シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 （部位＿＿＿＿）
○ 引張接着性試験 （部位＿＿＿＿）

10 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)

※ 外とい（外気に接するとい）

	材種	その他
ルーフドレン	※ ルーフドレン（JCW 301） ○	取付け ○＿＿＿＿ ※水はけ良く、床面より下げ、周囲の除間にモルタルを充填する
軒どい	○ 硬質塩化ビニル製（角形） ○	（前高） 巾120mm （カラー）巾150mm
たてとい	○ 硬質塩化ビニル管（VP） ○	（カラー）径 75mm
谷どい	○	
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下

○ 内とい（VP管は使用しない）

	材質	その他
たてとい及び横走り管	○ SGP ○	径 75mm
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下
防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による	※F☆☆☆☆

※ 掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場のといを除く）
○ 養生鉄管を設ける（径＿＿＿ 厚さ＿＿＿ 長さ＿＿＿）
○ 既存といの撤去及び養生 （ ）
○ 鋼管製といの防露巻 （※改修標仕表3.8.4 による ○＿＿＿＿）
○ たてとい受金物（ ）

11 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)

（表3.9.1）

種類	幅	板厚(mm)	表面処理	備考
○ 250 形	○ 240 ○ 250	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種 ○ AC-1種 ○ AC-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。
○ 300 形	300	1.8	○ BA-1種 ○ BA-2種	
○ 350 形	350	2.0	○ BB-1種 ○ BB-2種	
○			○ BC-1種 ○ BC-2種	
曲げ材 ○ ｵｰﾌﾞﾝ形 ○ ｼｰﾙ形	○＿＿＿	※ 2.0 ○＿＿＿	○ C種	

既存笠木等の撤去 ○ 行う （範囲 ○図示 ○ ） ○ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ○
板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○
建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○＿＿＿＿

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当

工事名	笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺	－
図面名	改修工事特記仕様書（2）	令和 年 月 日	図面番号 A-03

章	項目	特記事項
4 外壁改修工事	1 施工数量調査 (1.5.2)	調査範囲　○ 外壁改修範囲　　○ 図示の範囲 調査内容　ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　○ 図示　○＿＿＿＿ 調査報告書の部数　○ 2部　○＿＿＿＿ ※ 施工に先立ち、建築仕上診断技術者（BELCA）による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。
	2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.2)	○ コンクリート打放し仕上げ ○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○＿＿＿＿	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○＿＿＿＿	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○＿＿＿＿	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○＿＿＿＿	○130

エポキシ樹脂　○ 低粘土形　○ 中粘土形
コア抜取り検査　○ 行う　○ 行わない（注入状況確認方法＿＿＿＿）
抜取り個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき1個　○＿＿＿＿
抜取り部の補修方法　○ 図示　○
○ Uカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料　※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系　○＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填　○ 行う　○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

○ モルタル塗り仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

エポキシ樹脂　○ 低粘土形　○ 中粘土形
コア抜取り検査　○ 行う　○ 行わない
抜取り個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき1個　○
抜取り部の補修方法　○ 図示　○
○ Uカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料　※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系　○
ポリマーセメントモルタルの充填　○ 行う　○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

章	項目	特記事項
4 外壁改修工事	3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.2)	○ タイル張り仕上げ ○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

エポキシ樹脂　○ 低粘土形　○ 中粘土形
ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
抜取り個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき1個　○
抜取り部の補修方法　○ 図示　○
○＿＿＿＿
○ Uカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料　※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系　○
ポリマーセメントモルタルの充填　○ 行う　○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂

タイル撤去後の補修

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコーン樹脂 ○ ウレタン樹脂	
○ タイル張替え工法		

○ コンクリート打放し仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル	

(4.4.9)

○ モルタル塗り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ 充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル	
○ モルタル塗替え工法	※ 改修標仕表4.4.1による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示　○

(4.5.8)

○ タイル張り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による) ○ ｳﾚﾀﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	
○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による) ○ ｳﾚﾀﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　○改修標準仕様書４．５．１による　○
タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
○ 行う　○ 行わない
抜取り部の補修方法　○ 図示　○
○ セメントモルタルによるタイル張り
タイル張りの工法
外装タイル　○ 密着張り　○ 改良圧着張り　○改良積上げ張り
外装ユニットタイル　○ マスク張り　○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系　○
伸縮調整目地その他の目地　※ 変性シリコーン系　○
タイルの種類　○ 外装タイル　○ ユニットタイル

章	項目	特記事項
4 外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ～(4.4.15)	○ モルタル塗り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部 指定部	注入口（箇所/㎡）一般部 指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※16 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○		○		
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※50	
ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※ 9 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		○		
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※50	
ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※16 ○	※16 ○		○	

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○
注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm 程度
○
○ 充填工法
○ エポキシ樹脂モルタル　○ ポリマーセメントモルタル
○ モルタル塗替え工法
既製目地材　○ 使用する（形状　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置　※ 図示　○

(4.5.9) ～(4.5.15)

○ タイル張り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部 指定部	注入口（箇所/㎡）一般部 指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※16 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○		○		
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※50	
ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※ 9 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		○		
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※50	
ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ			※25	※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ｷｬﾋﾟﾗﾘｰ固定工法			○	○	

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○
注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm 程度
○

(4.2.2) (4.5.8)

工法	1箇所の面積(㎡)	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による) ○ ｳﾚﾀﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	
○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による) ○ ｳﾚﾀﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　○改修標準仕様書４．５．１による　○
タイル張り下地等の下地モルタル　及び下地調整塗材塗り の接着力試験
○ 行う　○ 行わない
抜取り部の補修方法　○ 図示　○
○ セメントモルタルによるタイル張り
タイル張りの工法
外装タイル　○ 密着張り　○ 改良圧着張り　○改良積上げ張り
外装ユニットタイル　○ マスク張り　○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系　○
伸縮調整目地その他の目地　※ 変性シリコーン系　○
タイルの種類　○ 外装タイル　○ ユニットタイル

章	項目	特記事項
4 外壁改修工事	5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)	タイル張り仕上げ ○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法 位置　※ 改修標仕表4.5.1による　○ 図示による 寸法(幅×深さ) ｺﾝｸﾘｰﾄ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ 20mm以上×10mm以上　○＿＿＿＿ その他　※ 10mm以上×10mm以上　○＿＿＿＿
	6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)	建築補修用注入エポキシ樹脂　※ 低粘度形　○ 中粘度形

ひび割れの幅（mm）	0.2～0.3未満	0.3～0.5未満	0.5～1.0以下
注入孔の間隔（mm）	２００程度	３００程度	３００程度
注入量（CC/mm）			

※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法　○ 手動式エポキシ樹脂注入工法
○ 機械式エポキシ樹脂注入工法
ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
（ 抜取り個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき１個 ○＿＿＿＿ ）
（ 抜取り部分の補修方法　＿＿＿＿ ）
○＿＿＿＿

7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5)	シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○ 行う	
8 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ注入工法 (4.2.2)	アンカーピンの材質　※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○＿＿＿＿	
9 注入口付アンカーピンニング注入工法 (4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質　※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径外径6mm 程度 ○＿＿＿＿	
10 モルタル塗替え工法 (4.2.2)	モルタル　○現場調合材料 ○既調合材料（＿＿＿＿） 既製目地材　○使用する（形状 ＿＿＿＿）	

11 ﾀｲﾙ部分張替え工法及びﾀｲﾙ張替え工法 (4.2.2) (4.5.8)

施工箇所及びタイルの種別	形状寸法(mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他
○ 図示		○ 磁器 ○ せっ器 ○ 陶器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	○ 有り ○ 無し		

○ 既調合モルタル（＿＿＿＿）
タイルの試験張り　※ 行わない　○ 行う
タイルの見本焼き　※ 行わない　○ 行う
施工後の確認及び試験（タイル部分張替え工法を除く）
浮きの確認　※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験　※ 接着力試験機による接着力試験を行う　○ 行わない

12 窓下人研面台の補修	タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置　※改修標仕表4.5.1による　○図示による	
13 仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)	○ シール工法　（※仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。） ※ 塗膜防水　（※弾性ウレタン系　○エポキシ系　）	

薄付け仕上塗材　（ JIS A 6909 ）　(表4.2.4)

種類（呼び名）	仕上げ	工法	備考
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状　○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状　○ さざ波状	ローラー	
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状　○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状　○ さざ波状	ローラー	
○ 外装薄塗材Ｅ	○ 砂壁状　○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状　○ 凹凸状	こて	
	○ ゆず肌状　○ さざ波状	ローラー	
	○ 着色骨材砂壁状	○こて　○吹付け	
○ 可とう形外装薄塗材Ｅ	○ 砂壁状　○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状　○ 凹凸状	こて	
	○ ゆず肌状　○ さざ波状	ローラー	
○ 防水形外装薄塗材Ｅ	○ ゆず肌状　○ さざ波状	ローラー	
（ ○ 増塗材 ）	○ 凹凸状	吹付け	
○ 外装薄塗材Ｓ	砂壁状	吹付け	

厚付け仕上塗材　（ JIS A 6909 ）　(表4.2.4)

種類（呼び名）	仕上げ	工法	備考
○ 外装厚塗材Ｃ	○ 吹放し　○ 凸部処理	吹付け	
	○ 平たん状　○ 凹凸状	こて	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起し　○ かき落とし		
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し　○ 凸部処理	吹付け	
○ 外装厚塗材Ｅ	○ 平たん状　○ 凹凸状	○こて	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起し	○ローラー	

℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：－	図面番号：A-04
				図面名：改修工事特記仕様書（3）	令和　年　月　日	

4 外壁改修工事

複層仕上塗材 （ JIS A 6909 ） (表4.2.4)

種　類（呼び名）	仕　上　げ	工　法	備　考
○ 複層塗材ＣＥ	○ 凸部処理	吹付け	
○ 複層塗材Ｓｉ	○ 凹凸状		
○ 複層塗材Ｅ			
○ 複層塗材ＲＥ	○ ゆず肌状	ローラー	
○ 可とう形複層塗材ＣＥ	○ 凸部処理　○ 凹凸状	吹付け	
	○ ゆず肌状	ローラー	
○ 防水形複層塗材ＣＥ	○ 凸部処理	吹付け	
○ 防水形複層塗材Ｅ	○ 凹凸状	（ ○増塗材）	
○ 防水形複層塗材ＲＥ	○ ゆず肌状	ローラー	

可とう形改修用仕上塗材 （ JIS A 6909 ） (表4.2.4)

種　類（呼び名）	仕　上　げ	工　法	備　考
○ 可とう形改修塗材Ｅ	○ 平たん状	ローラー	
○ 可とう形改修塗材ＲＥ	○ さざ波状	ローラー	
○ 可とう形改修塗材ＣＥ	○ ゆず肌状	吹付け	

防火材料の指定　※ なし　○ _____

下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修

※ 行う（ 参考工法　：_____　製造所　：_____ ）

○ 行わない

仕上塗材の耐候性　※ 耐候形３種　○_____

仕上塗材の上塗材　溶媒　※ 水系　○ 弱溶剤系　○ 溶剤系

樹脂　※ アクリル系　○_____

外観　※ つや有　○ つやなし　○ メタリック

14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)

既存塗膜の除去方法　※ 試験施工実施

○ サンダー工法

○ 高圧水洗工法（試験施工実施）（ 加圧力　○ 30Mpa　○_____ ）

○ 塗膜はく離剤工法（製造所：_____ ）

○ 水洗い工法（ ○ ﾃﾞｯｷﾌﾞﾗｼ　○ 高圧ﾎﾟﾝﾌﾟ10～15pa ）

既存塗膜の除去範囲

※ 既存仕上げ面全体　○ 既存壁面の（ ____ ％ ）　○ 別図に示す範囲

下地処理　下地のひび割れ部等の補修　○ 図示による

下地調整材　※ セメント系下地調整材（JIS A 6916）

○ ポリマーセメントモルタル

○ 防水形仕上塗材主材（JIS A 6910(複層仕上塗材)）

15マスチック塗材塗り (4.7.2)

種別　○ Ａ種　○ Ｂ種 (表4.6.7)

16 部分改修工法 (4.6.6)

仕上げ塗材の種類　○ 薄付け仕上塗材　○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材

○ 防水形複層仕上塗材　○ マスチック塗材

施工箇所　○ 別図に示す範囲　○_____

17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.2.2) (4.8.2)

外壁用塗膜防水塗り

仕上げの形状 _____ 工法 _____

外壁用仕上げ塗材の耐候性 ※ JIS A 6909の耐候性Ｉ種相当　○_____

下地挙動緩衝材の適用　○ 適用する　○ 適用しない

吹付け工法の模様材の種類 _____ 所要量_____(kg/㎡)

外壁用仕上げ塗材の種類 _____ 所要量_____(kg/㎡)

5 建具改修工事

①性能

※「第１章　一般共通事項　4　風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

②施工数量調査 (1.5.2)

※ 行う（●建具金物　○ガラス　○ガラス止め材　○_____ ）

※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。

○ 行わない

③改修工法 (5.1.3)

既存建具を新規建具に改修する場合

※ かぶせ工法（○カバー工法　○持出し工法　○ノンシール工法）

● 撤去工法（○はつり工法　○引き抜き工法）

新規に建具を設置する場合

新規建具を設ける壁の開口方法　※ 図示による　○_____

新規建具周囲の補修工法及び範囲　※ 図示による　○_____

④防火戸 (5.1.4)

※ 図示による　○_____

ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動

○ 連動させる　（※建具表による　○_____ ）

○ 連動させない

5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)

建具見本の製作　○ 行う　（建具番号_____ ）

特殊な建具の仮組　○ 行う　（建具番号_____ ）

○ ブラインドボックス等の再使用　（_____ ）

6 防犯建物部品 (5.1.7)

開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所

・ドア　適用箇所　（_____ ）

・サッシ　適用箇所　（_____ ）

・シャッター　適用箇所　（_____ ）

5 建具改修工事

⑦アルミニウム製建具 (5.2.2) ～(5.2.5)

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)

性能等級	○ Ａ種	○ Ｂ種	○ Ｃ種
耐風圧性	※ Ｓ－４　○	※ Ｓ－５　○	※ Ｓ－６　○
気密性	※ Ａ－３　○		※ Ａ－４　○
水密性	※ Ｗ－４　○		※ Ｗ－５　○
枠見込み(mm)	※ 図示　○ ７０　○ １００		○ 図示　○

表面処理 (表5.2.2)

種　別	色	施　工　箇　所
○ ＢＢ－１種	○ 標準　○ 特注	※ 図示による　○
● ＢＢ－２種	● 標準　○ 特注	※ 図示による　○
○	○ 標準　○ 特注	
○	○ 標準　○ 特注	
○	○ 標準　○ 特注	

○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 _____ ）

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 _____ ）

○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 _____ ）

結露水の処理方法　※ 図示による　○_____

水切り、ぜん板等　※ 図示による　○_____

※ 出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。

8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)

防虫網　網の種別　※ 合成樹脂製　○ ガラス繊維入り合成樹脂製

○ ステンレス製（SUS316）

形　式　※ 外部可動式　○ 固定式

線径、網目　※ 0.25mm以上、16～18メッシュ　○_____

防鳥網　○ 設置する

9 樹脂製建具 (5.3.2) ～(5.3.4)

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1)

性能等級	○ Ａ種	○ Ｂ種	○ Ｃ種
耐風圧性	※ Ｓ－４　○	※ Ｓ－５　○	※ Ｓ－６　○
気密性	※ Ａ－４　○		
水密性	※ Ｗ－４　○	※ Ｗ－５　○	
枠見込み(mm)	※ 図示　○		

○ 防音ドア、防音サッシとする場合　（遮音性の等級 ○ T-1　○ T-2　○_____ ）

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合　（断熱性の等級 ○ H-4　○ H-5　○ H-6 ）

ガラス　※ 複層ガラス　○ 単板ガラス　○ 三重ガラス　○_____

表面色　○ 標準色　○ 特注色

10 鋼製建具 (5.4.2) ～(5.4.4)

外部に面する建具の耐風圧性　○ Ｓ－４　○ Ｓ－５　○ Ｓ－６ (表5.2.1)

簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない (表5.4.1)

○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 _____ ）

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 _____ ）

○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 _____ ）

JISただし書き建具の寸法許容差（これ以外は改修標仕による）

※ 製造所標準製作規定寸法許容差による

鋼板類の厚さ　※ 表5.4.2（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く）

○_____ ㎜

⑪鋼製軽量建具 (5.5.2) ～(5.5.4)

簡易気密型ドアセットの気密性　※ 適用する（Ａ－３）　○ 適用しない

○ 防音ドア、防音サッシとする場合　（遮音性の等級 _____ ）

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合　（断熱性の等級 _____ ）

○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 _____ ）

鋼板　※ 表面処理亜鉛めっき鋼板　○ ビニル被覆鋼板

○ カラー鋼板　○ ステンレス鋼板

鋼板類の厚さ　※ 表5.5.1（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合を除く）

○_____ ㎜

召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板　○

12 ステンレス製建具 (5.6.2) ～(5.6.5)

外部に面する建具の耐風圧性　○ Ｓ－４　○ Ｓ－５　○ Ｓ－６ (表5.2.1)

簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない (表5.4.1)

○ 防音ドア、防音サッシとする場合　（遮音性の等級 ○ T-1　○ T-2　○ T-3 ）

○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合　（断熱性の等級 ○ H-2　○ H-3 ）

○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ○ D-1　○ D-2 ）

ステンレス鋼板の種類　○ SUS304　○ SUS430J1L　○ SUS443J1　○_____

JISただし書き建具の寸法許容差

※ 製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ　※ ＨＬ　○ 鏡面

曲げ加工　※ 普通曲げ　○ 角出し曲げ

5 建具改修工事

⑬建具用金物 (5.7.2) ～(5.7.4)

マスターキーの製作

※ 作成する　（ _____ グループ、各グループ _____ 個 ）　○ 作成しない

○ 在来マスターキーに合わせる

鍵の制作本数　※ ３本１組　○_____

開き戸 (表5.7.1)

金　物　の　種　類	見　え　掛　り　部　の　材　質	そ　の　他
● シリンダー箱錠	○ 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ● ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金，（○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅 ） ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	○ 取付位置（ ） 実用性能項目 ※ ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具）○ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
○ 本締り錠	ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	実用性能項目 ※ ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具）○ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
○ 空錠	○ 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ○ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金，（○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅 ）	○ 取付位置（ ）
○ グレモン錠	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：亜鉛合金，（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	○ 取付位置（ ）
ケースハンドル錠	ステンレス	
点検口錠	亜鉛合金程度，（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
丁番	ｽﾃﾝﾚｽ，（○黄銅 ）	
● ピボットヒンジ	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ，（○亜鉛合金）	亜鉛合金は木製建具用のみ
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き
○ フロアヒンジ	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ，（本体は鋼 ）	ドアクローザー
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ（丁番型）	鋼（焼付け塗装 ）	○ 遅延閉り機能付き
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ（ﾋﾟﾎﾞｯﾄ型）	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ，（本体は鋼 ）	
● ドアクローザー	本体：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ｱｰﾑ部：鋼（焼付け塗装 ）	
閉鎖順位調整器	ｽﾃﾝﾚｽ，（○鋼 ）	
○ 押棒・押板	（○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅，○合成樹脂）	○ 取付位置（ ）
上げ落し（フランス落し）	亜鉛合金程度，（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
○ ｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ	鋼（ｸﾛｰﾑめっき），（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
戸当り	亜鉛合金程度，（○ｽﾃﾝﾚｽ，○黄銅 ）	○ あおり止め付き

引戸 (表5.7.1)

金　物　の　種　類	見　え　掛　り　部　の　材　質	そ　の　他
引戸用錠	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合：ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ等はｽﾃﾝﾚｽ
○ クレセント		○ 取付位置（ ）
引手類		木製建具の場合：ｽﾃﾝﾚｽ（○黄銅）
戸車（上吊りの場合を除く）		
レール（上吊りの場合を除く）	ステンレス，（○ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金　○黄銅 ）	黄銅は木製建具用のみ

金属製建具用丁番　※ 表 5.7.2による　○_____

樹脂製建具用丁番　※ 表 5.7.3による　○_____

⑭自動ﾄﾞｱ開閉装置 (5.8.2) ～(5.8.3)

駆動装置及び検出装置の性能

○ 引き戸用駆動装置性能値

※ 改修標仕 表5.8.1による（○ SSLD-1　○ SSLD-2　○ DSLD-1　● DSLD-2）

○ 種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防　錆	電　源

○ 多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置性能値

※ 改修標仕 表5.8.2による

○ 耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防　錆	電　源

○ 引き戸用検出装置性能値

※ 改修標仕 表5.8.3による

○ 放射無線周波数電磁界耐性	耐電圧	防　錆	防　滴	電　源

戸の開閉方式　※ 建具表による　○_____

引き戸検出装置の種類　○ 表 5.8.4（_____ ）による　※ 建具表による

凍結防止措置　○ 行う

5 建具改修工事

15 自閉式上吊り引戸装置 (5.9.3)

性能値等の区分 (表5.9.1)

適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力(N)	※15以下　○	※20以下　○
手動閉じ力(N)	※15以下　○	※20以下　○

性能等 _____

品質・規格 _____

16 重量シャッター (5.10.2) ～(5.10.4)

種　類　○ 管理用シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ○設ける）　耐風圧強度（ _____ ）

○ 外壁用防火シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ※設ける）　耐風圧強度（ _____ ）

○ 屋内用防火シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ※設ける）

○ 屋内用防煙シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ※設ける）

開閉方式　※ 上部電動式（手動併用）　○ 上部手動式

電動式シャッターには保護装置を設ける

設置箇所　※ 図示による　○_____

スラット及びシャッターケース用鋼板

材　質	めっきの付着量
○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの　○
○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの　○

17 軽量シャッター (5.11.2) ～(5.11.4)

開閉方式　○ 上部電動式（手動併用）　※ 手動式

電動式シャッターには保護装置を設ける

設置箇所　※ 図示による　○_____

耐風圧強度 _____

スラット

材　質	めっきの付着量	形　状
○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの　○	○ インターロッキング形
○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの　○	○ オーバーラッピング形

18 オーバーヘッドドア (5.12.2) ～(5.12.4)

セクション材　※ スチールタイプ　○ アルミニウムタイプ　○ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ

耐風圧性能 _____

開閉方式　※ バランス式　○ チェーン式　○ 電動式

電動式シャッターには保護装置を設ける

設置箇所　※ 図示による　○_____

収納形式　○ スタンダード形　○ ローヘッド形

○ ハイリフト形　○ バーチカル形

ガイドレール等　※ 溶融亜鉛めっき鋼板　○ ステンレス鋼板

19 ガラス (5.13.2) ～(5.13.4)

材料

種　別	種類等	種　別	種類等
● ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ		● 強化ガラス	
● 型板ガラス		○ 熱線吸収板ｶﾞﾗｽ	
○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス	
○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ｶﾞﾗｽ	
○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス	
○		○	

ガラス溝の大きさ (図5.13.1)

種　別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代
● アルミニウム建具	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による
● 鋼製建具			
○ ステンレス建具	○	○	○
○	○	○	○

熱線反射ガラスの映像調整　○ 行わない　○ 行う　（_____ ）

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：－	図面番号：A-05
				図面名：改修工事特記仕様書（4）	令和　年　月　日	

5 建具改修工事

⑳ガラス留め材 (5.13.2)

建具の種類	材質
アルミニウム製	※ シーリング材(SR-1) ○ ガスケット ○ グレイジングチャンネル
鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※ シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種
木製	※ パテ（木製用）

※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

21 ガラスブロック (5.13.5)

寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	パターン	防火認定
×	○ 図示	○ クリア ○ ｶﾗｰ(　) ○ 乳白 ○ 熱線反射		※ なし ○ あり

※ 品質規格はJIS A5212 による
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。

○ 壁用金属枠及び補強材 _____
○ カ骨　材質 ※ SUS304 ○_____
　寸法・形状 ※ 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋 ○_____
○ シーリング ※ 表3.7.1による ○_____
○ 化粧目地モルタルの色 _____
○ 金属製化粧カバー　材質 ○ SUS304 ○_____
　寸法・形状 ※ 図示による ○_____
○ 目地幅の寸法
　○ 平積みの場合 ※ 8mm以上、15mm以下 ○_____
　○ 曲面積みの場合 ※ 外側15mm以下、内側6mm以上
　（曲率半径はｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸの幅寸法の１０倍以上）
　○_____
○ 伸縮調整目地の位置 ※ 6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮調整目地を設ける。
　○_____

㉒木製建具 (16.7.2)

※公共建築工事標準仕様書(H31版)による。

建具材の含水率の種別 ○ A種 ※ B種 ○ C種
代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可
フラッシュ戸
　表面材の合板の種類の適用及び品質等 ○_____
　表面板の厚さ ※ 図示による ○_____
かまち戸
　かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○_____
　見込み寸法 ※ 36mm ○_____
ふすま
　材料の種別 ○ Ⅰ型 ○ Ⅱ型
　上張りの種類 ※ 図示による ○_____
　見込み寸法 ※ 19.5mm ○_____
戸ぶすま
　上張りの種類 ※ 図示による ○_____
　見込み寸法 ※ 30mm ○_____
紙張り障子
　見込み寸法 ※ 30mm ○_____
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○_____

23 ポリカーボネイト樹脂板

種類 _____
厚さ _____mm

6 内装改修工事

① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2) (6.11.2) (6.11.4) (6.11.5) (6.13.2) (6.14.2) (6.16.4) (9.5.3) (9.5.4)

木材、木れんが、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ・ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ、ｶｰﾍﾟｯﾄ、合成樹脂塗床、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、ﾎﾞｰﾄﾞ類、タイル、断熱材の接着に使用する
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆
○_____
木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆
○_____

②他の部分との取り合い等 (6.1.3)

既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
○ 図示による
○ 範囲 （　　） 仕上げ （　　）

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
○ 図示による
○ 範囲 （　　） 仕上げ （　　）

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま
○ 図示による
○ 範囲 （　　） 仕上げ （　　）

6 内装改修工事

③既存床の撤去等 (6.2.2)

種別	工法	施工箇所
● ビニル床シート等	○ 下地ﾓﾙﾀﾙの除去	※ 図示による ○_____
○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○_____
○ フローリング張り床材		
● 床タイル		
● 床組		

コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、４章外壁改修工事による。

改修後の床の清掃範囲
○ 改修棟全面 ● 改修室全面 ○ 改修部分のみ ○ 図示による

④既存壁の撤去等 (6.3.2)

間仕切壁撤去に伴う構造体の補修
※ 改修標仕4.4.9によるモルタル塗り
（塗り厚25mmを超える場合の補修 ●行う ○行わない）
○_____

⑤木下地等 (6.5.1)～(6.5.9)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	○ A種	
	● B種	
	○ C種	
手加工	○ H－A種	
	○ H－B種	※ 内部造作
	○ H－C種	※ 下地材

含水率　下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下)
　造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下)
以下に規定されているものは、その規定による。
「製材の日本農林規格」による製材
○ 下地用針葉樹製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理
			○ 1級 ※ 2級			

○ 造作用針葉樹製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理
			○無節 ○上小節 ○小節 ○並			

○ 広葉樹製材

使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理
			○特等 ※ 1等 ○ 2等		※10%以下 ○	

「製材の日本農林規格」以外の製材 （表12.2.2）

使用箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	含水率
			※A種 ○B種		

使用木材のうち杉、ひのきについては京都府内産木材とする。
○ 工事完成までに、京都府内産木材証明書及びｳｯﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞ CO2計算書を提出すること。
　証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。
　一般財団法人京都府木材組合連合会
　TEL：075-802-2991
　注）証明書は製材所、流通業者の全てが取扱い事業体でなければ発行されない。
　　詳細は上記法人のホームページを参照すること。
○ 工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。
※ 京都府木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都府木材規格(KTS)材証明書
　（発行機関：（一社）京都府木材組合連合会）を提出すること。

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材
○ 造作用集成材

使用箇所	品名	樹種	見付材面数	寸法	見付材面の品質
					※1等 ○2等

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	品名	樹種		寸法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質
		化粧材	芯材				
							※1等 ○2等

○ 化粧ばり構造用集成柱

使用箇所	品名	樹種		寸法	化粧板厚	見付材面の品質
		化粧材	芯材			
						○1等 ○2等

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材
○ 造作用集成材

使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率
				※15%以下 ○

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率
						※15%以下 ○

○ 化粧ばり構造用集成柱

使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率
						※15%以下 ○

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材
○ 造作用単板積層材

使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理
			○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	○適用する ○適用しない

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
○ 造作用単板積層材

使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
		○表面化粧加工なし ○_____ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	※14%以下 ○	○適用する ○適用しない

ＣＬＴ（直行集成板）

施工箇所	品名	曲げ性能（強度等級）	種別	接着性能（使用環境）	樹種	寸法(mm)

合板 等
普通合板

使用箇所	品名	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理
※押入れ、物入れ		※5.5mm ○____		※1類 ○2類	広葉樹 ※2等以上 ○_____ 針葉樹 ※C-D以上 ○_____	○防虫処理 ○難燃処理 ○防炎処理

構造用合板

使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理
※畳床下地材、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り下地材		※2級以上 ○____	※12mm ○____		※1類 ○特類	※C-D以上 ○_____		○防虫処理 ○強度等級 _____

「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

使用箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理
				○1類 ○特類	

「合板の日本農林規格」による天然化粧合板

使用箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ	接着程度	防虫処理
			○1類 ○2類	

「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

使用箇所	品目	厚さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			○1類 ○2類			

パーティクルボード

使用箇所	厚さ	各種区分
	※15mm ○____	※13Pタイプ又は13Mタイプ ○_____

構造用パネル

使用箇所	等級	厚さ

6 内装改修工事

⑥軽量鉄骨天井下地 (6.6.2)～(6.6.4)

ＭＤＦ

使用箇所	厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

造作材化粧面の釘打ち
※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘打ち ○ 釘頭現し

諸金物の形状、寸法及び材質
※ かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.5から表6.5.7までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表8.20.1［鉄鋼の亜鉛めっきの種別］のＦ種程度の亜鉛めっきを施したもの
○_____

○防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材　適用部位 _____
○ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	○K2 ○K3 ○K4
	○K2 ○K3 ○K4

○ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※改修標仕6.5.5(1)(b)② ⑦～④による ○	※JIS K 1571に適合又は同等品 ○
	○	

○薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理　適用部位 _____

防虫処理　※ 行う（範囲：ラワン材等　※「製材の日本農林規格」による保存処理 K1）
○ 行わない

野縁等の種類　屋内 ※ 19型 ○ 25型　（表6.6.1）
　屋外 ○ 19型 ※ 25型
野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 _____mm
周辺部の端からの寸法 _____mm
野縁の間隔 _____mm
はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し
既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する
あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う（ __箇所以上、 __N/箇所 ）
● 行わない

開口補強
吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○_____
天井のふところの補強
（1.5m以上3m以下） ※ 行う
（3mを超える） ※ 行う（ 図示による ）
天井下地材における耐震性を考慮した補強 ● 行う ○ 行わない
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ● 行う ○ 行わない

⑦軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)

スタッド、ランナー等の種類 （表6.7.1）
※ 表6.7.1におけるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類 ○_____
スタッドの高さが5mを超える場合
※ 図示による ○_____

⑧ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)

● ビニル床シート

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	工法	施工箇所
発泡層無	○ 単層ビニル床シート	ＴＳ				
	※ 複層ビニル床シート	ＦＳ	○ 2.5 ※ 2.0	※ 無地	※ 熱溶接	※ 仕上表による
発泡層有	● 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	ＨＳ	○	○ マーブル	○	
	○ クッションフロア	ＫＳ				

○ ビニル床タイル

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	寸法	施工箇所
接着形	※ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＫＴ				
	○ 単層ビニル床タイル	ＴＴ	○ 2.5 ※ 2.0			
	○ 複層ビニル床タイル	ＦＴ				
置敷形	○ 置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＡ	○			
	○ 薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＢ				

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事
図面名：改修工事特記仕様書（5）
縮尺：－
令和　年　月　日
図面番号：A-06

6 内装改修工事

9 カーペット敷き (6.9.3)～(6.9.4)

○ 織じゅうたん

種別	織り方	パイル形状	帯電性	色柄	接合方法	施工箇所
○ A種 ○ B種 ○ C種			○ 適用	※ 無地 ○	○ ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法 ○	

○ タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	施工箇所
		○ ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ○ 全面接着工法	○ 適用	

○ ニードルパンチカーペット

厚さ(mm)	帯電性	施工箇所
	○ 適用	

○ タイルカーペット

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所
※ ー種 ○ ニ種	※ ループパイル ○	※ 500×500 ○	※ 6.5 ○	

タイルカーペットの敷き方　平場部分　※ 市松敷き　○ ＿＿＿＿
階段部分　※ 模様流し　○ ＿＿＿＿

下敷き材　※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第２種２号　呼び厚さ8mm
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

見切り、押さえ金物　材質、形状等　※ 図示による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

10 合成樹脂塗床 (6.10.2)(6.10.3)

厚膜型塗床材
○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
※ 平滑仕上げ　○ 防滑仕上げ　○ つや消し仕上げ
塗厚（mm）○ ＿＿＿＿
○ エポキシ樹脂系塗床材
※ 薄膜流しのべ工法　（ ○ 平滑　○ 防滑 ）
○ 厚膜流しのべ工法　（ ○ 平滑　○ 防滑 ）
○ 樹脂モルタル工法　（ ○ 平滑　○ 防滑 ）
薄膜型塗床材
○ エポキシ樹脂系塗床材

11 フローリング張り (6.11.2)～(6.11.6)

単層フローリング　(表6.11.1)～(表6.11.6)

種類	樹種	厚さ(mm)	大きさ	工法	備考
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ１等	※ なら ○	○ ○ 15 ○ 12 ○ 8	 ○ 表6.11.1 ○ 表6.11.3 ○ 表6.11.5	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ１等	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○		○ 接着工法	○ 防水処理足金物付

○ 帯電防止床シート　○ 帯電防止タイル

種類	性能	厚さ(mm)
○ ○	※ 体積抵抗値 1.0×10^{9} Ω以下 ○	

● 視覚障害者用床タイル

種類	形状	備考
● 塩化ビニル系 ○ レジンコンクリート系 ○ 磁器又はせっ器質タイル	※ ３００mm角 ● １５０mm角 ○	

○ 耐動荷重性床シート

種類	厚さ(mm)	備考
○ ○	○ ○	

○ 防滑性床シート　○ 防滑性床タイル

種類	寸法	厚さ(mm)
○ ○	○ ○	

● ビニル幅木

種類	高さ(mm)	厚さ(mm)
○ 軟質　● 硬質	※ 60　○ 75　○ 100　○	※ 1.5　○ 2.0

○ ゴム床タイル張り

色柄	種類	厚さ(mm)	寸法(mm)
	○ 単層品　○ 積層品		

6 内装改修工事

12 畳敷き (6.12.2)

⑬ せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2)(6.13.3)

複合フローリング

種類	樹種	厚さ(mm)	工法	種別	備考
○ １×６タイプ ○ フローリングボードタイプ ○	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	○ A種 ○ B種 ○ C種	

接着工法のフローリング裏面の緩衝材　※ 合成樹脂発泡シート ○＿＿＿＿

仕上げ塗装　○ ウレタン樹脂ワニス塗り（１液形）B種
○ オイルステインの上ワックス塗り　○ 生地のままワックス塗り
○ ＿＿＿＿＿＿

種別　○ A種　○ B種　○ C種　○ D種（ KT-＿＿ ）

種別　※ 表6.13.1によるＪＩＳ規格品とする　(表6.13.1)

種類	規格、厚さ(mm)等	
● せっこうボード(GB-R)	※ 12.5(不燃)　○ 9.5(準不燃)	
● 化粧せっこうボード(GB-D)	● 杉柾模様 ○ トラバーチン模様 (軽鉄下地は専用のものとする)	○ 12.5(不燃)
○ 不燃積層せっこうボード(GB-NC)	○ トラバーチン模様 ○ 模様なし	※ 9.5(不燃)
○ シージングせっこうボード(GB-S)	○ 15(不燃)　○ 12.5(準不燃)　※ 9.5(準不燃)	
○ 強化せっこうボード(GB-F)	○ 21(不燃)　○ 15(不燃)　○ 12.5(不燃)	
○ ロックウール吸音ボード(RW-B)	※ 25　○	
○ グラスウール吸音ボード(GW-B)	※ 25　○	
○ 吸音あなあきせっこうボード(GB-P)	○ 9.5(準不燃)	
○ ロックウール化粧吸音板(DR)	内部用　フラット　○ 12(不燃)　※ 9(不燃)	
	内部用　立体模様　○ 15(不燃)　※ 12(不燃)	
	軒天用　フラット　○ 12(不燃)　※ 9(不燃)	
	軒天用　立体模様　○ 15(不燃)　※ 12(不燃)	
○ けい酸カルシウム板(0.8FK)	タイプ２（無石綿）○ 8.0　○ 6.0　○	
● メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による　※ 1.2	
○ 難燃木毛セメント板	○ 30　○ 25　○ 20　○ 15	
○ 断熱木毛セメント板	○ 30　○ 25　○ 20　○ 15	
○ 普通合板	厚さ　接着の程度　表板樹種	
	板面の品質　防虫処理○行う	
○ 天然木化粧合板	厚さ　接着の程度	
	化粧板樹種　○ なら　○ しおじ　防虫処理○行う	
○ 特殊加工化粧合板	厚さ　接着の程度　化粧加工の方法	
	表面性能　○F　○FW　○W　○WS　防虫処理○行う	
● その他下張り用合板		

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
○ アクリル系シーリング　○ ウレタン系シーリング　○ ジョイントコンパウンド
合板類の張付け　(表6.13.3)
○ A種　※ B種
せっこうボードの目地処理　(表6.13.5)
● 継目処理　○ 突付け　○ 目透かし

⑭ 壁紙張り (6.14.2)(6.14.3)

防火性能・種類・規格・施工箇所　※ 図示による　○ 下表による

施行箇所	防火性能	品質・規格

下地調整　モルタル及びプラスター面　○ RA種　※ RB種　(表7.2.4)
コンクリート面　○ RA種　※ RB種　(表7.2.5)
せっこうボード面　○ RA種　※ RB種　(表7.2.7)

⑮ 天井廻り縁　材質　● アルミニウム製　○ 塩化ビニル製

⑯ モルタル塗り (6.15.2)～(6.15.6)

モルタル　○ 現場調合材料
○ 既調合材料（＿＿＿＿＿＿）
既製目地材
○ 適用する　（形状 ＿＿＿＿＿＿＿＿）
床塗り
目地の種類　※ 押目地　○ ＿＿＿＿
目地割り　※ 2㎡程度　○ ＿＿＿＿
最大目地間隔　※ 3m程度　○ ＿＿＿＿

6 内装改修工事

17 タイル張り (6.16.2)～(6.16.4)

伸縮調整目地等　床面　※ 縦・横とも４m以内ごと　○ ＿＿＿＿
壁面　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
施工後の確認及び試験
浮きの確認　※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験　※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う　○ 行わない

タイルの種類

施工箇所・ﾀｲﾙの種類	形状・寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性	耐滑り性	役物	色	工法その他
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	

タイルの試験張り　○ 行わない　○ 行う
タイルの見本焼き　○ 行わない　○ 行う
○ 既調合モルタル ＿＿＿＿＿＿＿＿
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　○ 目荒し工法　○ ＿＿＿＿

18 セルフレベリング材塗り (6.17.2)

※種類及び品質は表6.17.1による
種類　○ せっこう系　○ セメント系
厚さ（mm）　○ 10　○ 15　○ ＿＿＿＿

7 塗装改修工事

①塗装材料 (7.1.3)

塗料のホルムアルデヒド等の放散量　※ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿

②下地調整 (7.2.1)～(7.2.7)

塗替えで下地調整の種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 塗替え面積の30%　○ 図示　○ ＿＿＿＿ (表7.2.1)～(表7.2.7)

素地	種別	備考
木部	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	
鉄鋼面	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	
亜鉛めっき鋼面	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	
モルタル及びプラスター面	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する　○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びＡＬＣパネル面	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する　○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ面	○ RA種　○ RB種 ○ RC種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する　○ 適用しない
せっこうボード及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面	○ RA種　※ RB種 ○ RC種	

3 錆止め塗料塗り (7.3.2)(7.3.3)

錆止め塗料の種別　(表7.3.1)～(表7.3.4)

塗面	種別	屋外	屋内	規格名称	塗料種類	塗装工程種別	備考
鉄鋼面	A種	※	※	鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰさび止め	１種	新規鉄鋼面 見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見え隠れ部分 ○A種 ※B種 ○C種 塗替え ○A種 ○B種 ※C種	
	B種	−	○	水系さび止め	−		EP-G塗
		−	○	鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰさび止め	２種		
亜鉛めっき鋼面	A種	※	※	一液形変性エポキシ樹脂さび止め	−	○A種　○B種　○C種 新規鋼製建具 ※A種　○B種　○C種 塗替え ○A種　○B種　※C種	
	B種	○	○	変成ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ	−		
	C種	−	○	水系さび止め	−		EP-G塗

7 塗装改修工事

④塗装工程 (7.4.2)～(7.15.2)

工程の種別　(表7.4.1)～(表7.14.1)

記号	名称	種別		
ＳＯＰ	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 種類 ※ １種 ○＿＿＿	木部	新規外部	※ A種　○ B種　○ C種
			新規内部	○ A種　※ B種　○ C種
			塗替え	○ A種　※ B種(外部の場合工程3,工程4は行わない)　○ C種
		鉄鋼面		○ A種　※ B種　○ C種
		亜鉛めっき面	鋼製建具	※ A種　○ B種　○ C種
			塗替え	
			その他塗替え・新規	○ A種　※ B種　○ C種
ＣＬ	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り	○ A種　※ B種		
ＦＥ	ﾌｪﾉｰﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ塗り	木部		表7.6.1
		鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面		表7.6.2
ＮＡＤ	ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料塗り	○ A種　※ B種		
ＤＰ	耐候性塗料塗り	鉄鋼面		○ A種　○ B種　○ C種
		亜鉛めっき鋼面		○ A種　○ B種　○ C種
		ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		○ A-1種　○ B-1種　○ C-1種 ○ A-2種　○ B-2種　○ C-2種
	上塗り	○ １級　ふっ素樹脂系等 ○ ２級　シリコン系等 ○ ３級　ポリウレタン系等		
ＥＰ-Ｇ	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ面,ﾌﾟﾗｽﾀｰ面,ﾓﾙﾀﾙ面,せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面,その他ﾎﾞｰﾄﾞ面		○ A種　※ B種　○ C種 しみ止め ○ ＿＿＿＿ ※ しみ止めｼｰﾗｰ(B種及びC種の場合)
		木部	新規	※ A種　○ B種　○ C種
			塗替え	○ A種　※ B種　○ C種
		鉄鋼面		○ A種　※ B種　○ C種
		亜鉛めっき鋼面		○ A種　※ B種　○ C種
ＥＰ	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	○ A種　※ B種　○ C種 しみ止め　○ ＿＿＿＿ ※ しみ止めｼｰﾗｰ(B種及びC種の場合)		
ＥＰ-Ｔ	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ模様塗料塗り	○ A種　※ B種　○ C種		
ＵＣ	ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り	○ A種　※ B種		
ＯＳ	ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り	表7.13.1		
ＷＰ	木材保護塗料塗り	○ A種　※ B種		

8-1 耐震補強工事（鉄筋工事）

①鉄筋の種類 (8.2.1)

(表8.2.1)

	種類の記号	径(mm)	備考
異形鉄筋	※ ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１６以下	
	※ ＳＤ３４５ ○	Ｄ１９以上	

※ SD295AはＦｃ:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する

2 溶接金網 (8.2.2)　網目の形状、寸法 ＿＿＿＿　鉄線の径（mm）＿＿＿＿

③鉄筋の継手 (8.3.4)(8.4.2)(8.4.3)

部位	接合方法	径(mm)
● 図示	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手 ○ 機械式継手　○ 溶接継手	Ｄ１９以上
○		
● 図示	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手 ○ 機械式継手　○ 溶接継手	Ｄ１６以下
○		

○ 機械式継手　適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
施工完了後の継手部の試験　※ 行う　○ 行わない
不合格となった継手部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 溶接継手　適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
溶接完了後の溶接部の試験　※ 行う　○ 行わない
不合格となった溶接部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ　※ 構造図による　○＿＿＿＿
○ 鉄筋継手位置　※ 構造図による　○ 表8.3.3による
○ 鉄筋の定着長さ　※ 構造図による　○ 表8.3.4による

○ 帯筋組立の形、継手及び定着　※ 構造図による

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事
図面名：改修工事特記仕様書（6）
縮尺：－
令和　年　月　日
図面番号：A-07

8－1 耐震補強工事（鉄筋工事）

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※ 構造図による　○表8.3.6による（次の2項目のかぶり厚さを除く。）
○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。
○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施工箇所等	最小かぶり厚さ（mm）

機械式継手及び溶接継手のあき　○ ＿＿＿

5 圧接完了後の試験 (8.3.8)

試験方法
○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。

8－2 耐震補強工事（コンクリート工事）

1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)

コンクリートの類別　※ Ⅰ類　○ Ⅱ類

● 普通コンクリート

打設部位		Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
構造体	基礎	○ ２４　○	● １８　○	
	上部	○ ２４　○	○ １８　○	

○ 軽量コンクリート

打設部位(適用箇所)	Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	備考
	○ ２１　○	※ ２１　○	

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
｛Ｆｃ ＋構造体強度補正値(S)｝N/mm2
（標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない）

②普通ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 (8.2.5)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
○ 高炉セメントのＢ種（施工箇所 ＿＿＿＿＿）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントのＢ種（施工箇所 ＿＿＿＿＿）

骨材
粗骨材　※砂利(JIS A5308),砕石(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
細骨材　※砂(JIS A5308),砕砂(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 銅ｽﾗｸﾞ　○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ（無害）　○ ＿＿＿＿＿

混和材料　○混和剤　※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種(JIS A6204)
防錆剤　※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○混和材　※ フライアッシュ(JIS A6201)Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

③構造体強度補正値 (8.2.5)

※ 気温による構造体強度補正値（Ｓ）　(表8.2.4)

予想平均気温（℃）		補正値	期間（打設日）		
普通	早強	（Ｓ）	南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm2	3/6 ～ 6/31 9/11～ 11/15	3/11～ 7/20 9/1 ～ 11/5	3/11～ 7/10 9/1 ～ 10/31
0以上 8未満	0以上 5未満	6 N/mm2	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む）

④構造体用モルタル (8.2.6)

モルタル圧縮強度　Fc30N/mm2
フロー値　＿＿＿＿

⑤型枠（せき板） (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)

合板の規格　※「合板の日本農林規格」の「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板の規格」による合板　○ ＿＿＿＿＿
合板の材種　※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板　○ ＿＿＿＿＿
厚さ（mm）　※１２　○ ＿＿

打放し仕上げのせき板
※ 合板せき板を用いる場合　(表8.1.4)

種別	板面の品質	施工箇所
○ Ａ種	※8.2.7(2)(ｱ)　○	
○ Ｂ種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	
○ Ｃ種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	

○ 合板せき板を用いない場合
せき板の材料　＿＿＿＿＿

コンクリートの仕上がりの平たんさ

種別	適用箇所
○ ａ種	
○ ｂ種	
○ ｃ種	

スリーブの材種

適用箇所	材種（規格その他）以上
水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管（JIS G3452 の黒管に厚さ6 mm つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの）
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K6741 のＶＵ）
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板　（径200 mm以下は厚0.4 mm 以上、径200 mmを超え350 mm以下は厚0.6 mm以上）○

外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ　※ 図示による　○ ２０mm
シアコネクターとセパレーターの兼用　○ 可　○ 不可

⑥コンクリートの試験 (8.8.2)～(8.8.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

7 軽量コンクリート (8.9.1)

常時土又は水に直接接する部分の使用　○ 可　○ 不可
種類　○ １種　○ ２種
気乾単位容積質量　＿＿＿＿t/m3

8 暑中コンクリート (8.10.2)

※ 暑中における構造強度補正値（Ｓ）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	７月１１日～８月３１日	※ ６N/mm2 ○ ３N/mm2
中部地域	７月２１日～８月３１日	
南部地域	７月 １日～９月１０日	

9 寒中コンクリート

※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)

コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　○ ＿＿＿＿
設計基準強度　※ 18N/mm2　○ ＿＿＿＿
スランプ　※ 15cm又は18cm　○ ＿＿＿＿
セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントB種
○ フライアッシュセメントB種
適用箇所
※ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所
○ 図示による（　　）

⑪ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

8－3 耐震補強工事（あと施工アンカー工事）

①あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)

○ 金属系アンカー
引張耐力　＿＿＿＿　せん断耐力　＿＿＿＿
径　＿＿＿＿　埋込み長さ　＿＿＿＿
セット方式　※ 本体打込み式改良型　○ ＿＿＿＿
接合筋　種類　＿＿＿＿　長さ　＿＿＿＿
径　＿＿＿＿

● 接着系アンカー
引張耐力　＿＿＿＿　せん断耐力　＿＿＿＿
種類　※ カプセル型回転・打撃式　○ ＿＿＿＿
アンカー筋　※ 改修標仕表8.2.1の異形棒鋼　種類　＿＿＿＿
径　＿＿＿＿　埋込み長さ　＿＿＿＿
新設壁内への定着長さ　＿＿＿＿

埋め込み配管等の探査
範囲　※ あと施工アンカー施工部分全て
方法　※ 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
○ 図示による

②あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7)

性能確認試験　○ 行わない　○ 行う
施工確認試験　※ 行う（引張試験機による引張試験　確認強度 ＿＿＿＿）
○ 行わない
１ロット　※ １日に施工されたものの径及び仕様ごと　○ ＿＿＿＿
試験の箇所数　※ １ロットに対し３本、無作為に抜き取る
○ ＿＿＿＿

8－4 耐震補強工事（鉄骨工事）

①鉄骨の製作工場 (8.1.5)

○ 監督職員の承諾する工場
※ 建築基準法第７７条の５６第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構（旧(社)全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（ ○S ○H ○M ●R ○J ）グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場

②鉄骨制作工場における施工管理技術者 (8.1.5)

○ 適用する　○ 適用しない

③鋼材の種別 (8.2.8)

種類の記号	使用箇所	規格等
SS400		JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136

※ 図示による

④高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

ボルトの種別　● トルシア形高力ボルト（建築基準法の認定品）
○ ＪＩＳ形高力ボルト（JIS B 1186）２種(F10T)
○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（建築基準法の認定品、１種(F8T)）
ねじの呼び　＿＿＿＿
すべり係数試験　○ 行わない
○ 行う　試験方法等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿
ＪＩＳ形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの５倍を超える場合の回転量　＿＿＿＿

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)

摩擦面の処理
○ ブラスト処理（表面粗度５０μmRz以上）
○ りん酸塩処理
○ 図示による（　　）
すべり耐力等の確認方法　○ ＿＿＿＿
試験方法等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿

⑥溶接材料 (8.2.10)

溶接材料
※ 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による
○ 図示による　○

7 ｽﾀｯﾄﾞ (8.2.11)

種類等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

⑧工作図 (8.13.2)

高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ及びｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等
※ 図示による　（図に無い場合は鉄骨設計基準による）

9 ﾎﾞﾙﾄ孔 (8.13.8)

母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ﾎﾞﾙﾄの孔型
※ ねじの呼び径 +1.0 mm　○ ＿＿＿＿

10 仮組 (8.13.10)

○ 実施する 部位（　　）
○ 実施しない

8－4 耐震補強工事（鉄骨工事）

⑪溶接作業者における技能資格者 (8.15.3)

溶接作業者の技量付加試験
※ 行わない
○ 行う　試験の要領　○ 図示による　○ ＿＿＿＿

⑫溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)

開先の形状
● 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による　○ ＿＿＿＿
エンドタブの切断　○ 有　○ 無
切断する箇所及び切断範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
切断面の仕上げ　※ グラインダーにより、粗さ 100μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げる
スカラップの形状
● 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による　○ 改良型スカラップ

H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等
○「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ(独立行政法人建築研究所)」3.5.2による受入検査
○ 抜き取り検査①　※ 抜き取り検査②
JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付則3「溶接」に関する試験方法等
○ JASS 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

⑬溶接部の試験 (8.15.12)

○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)
○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)
※ 超音波探傷試験　工場溶接　平均出検品質限界(AOQL)　※ 全数　○
検査水準　※ 第6水準　○ 第　水準
現場溶接　平均出検品質限界(AOQL)　※ 全数　○

⑭錆止め塗料 (7.3.2) (8.17.2) (8.17.4)

塗料の種別　● 鉄鋼面の錆止め塗料
● 表7.3.1による　※ Ａ種　○ Ｂ種
○ ＿＿＿＿
○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
○ 表7.3.2による　※ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種
○ ＿＿＿＿
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
○ 表7.3.1による　※ Ａ種　○ Ｂ種
○ ＿＿＿＿
耐火被覆材の接着する面への塗装
○ 行わない　○ 行う
耐火被覆材の接着する面以外への塗装
○ 行わない　○ 行う（塗装範囲　○図示による　○ ＿＿＿＿）

15 耐火被覆 (8.18.2)～(8.18.9)

種別

種類	材料・工法	適用箇所（部位・部分）
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○	
○ ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	－	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所（部位・部分）
○ ３０分耐火	
○ １時間耐火	
○ ２時間耐火	
○ ３時間耐火	

16 アンカーボルト

※公共建築工事標準仕様書(H31版) (7.2.4) (7.10.3) による。

適用
○ 構造用アンカーボルト
材質　○ SNR400B　○ ＿＿＿＿
アンカーフレームの形状及び寸法
○ 図示による　○ ＿＿＿＿
○ 建方用アンカーボルト
材質　○ SS400
アンカーボルトの保持及び埋め込み工法　(表7.10.1)
種別　○ Ａ種　○ Ｂ種
柱底均しモルタルの厚さ　○ ５０mm　○ ３０mm

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当
工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 －	図面番号 A-08	
図面名 改修工事特記仕様書（7）	令和　年　月　日		

8－5 耐震補強工事（グラウト）

項目	特記事項
①グラウト材 (8.2.12)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○＿＿＿＿＿＿＿＿ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 （ N/mm2 ） ※ 30以上 ○＿＿＿＿＿＿ ※ 一般部ｺﾝｸﾘｰﾄと同等以上の強度(鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ壁増設工事の壁頭部) ｺﾝｼｽﾃﾝｼｰJ14ﾛｰﾄ値(秒) ※ 6 ～ 10 ○＿＿＿＿＿＿ 乾燥収縮 （ 10^{-4} ） ※ 0 ○＿＿＿＿＿＿ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない
2 柱底等の均しモルタル(8.2.12) ※公共建築工事標準仕様書(H31年版)(7.2.9)(7.10.3)による。	モルタルの種別 ※無収縮モルタル ○＿＿＿＿＿＿ 材料の調合等 ※公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(ｴ)による。 ○＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 厚さ ※図示による ○＿＿＿＿＿＿ 工法 ※Ａ種 ○Ｂ種

8－6 耐震補強工事（現場打ちRC壁の増設工事）

項目	特記事項
1 補強工法	○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
②既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○＿＿＿＿ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による
③既存部分の処理 (8.21.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁（増打ち壁増設の場合） ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の10～15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による
④鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)	割裂補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋 ※ ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き ○ 図示による
⑤コンクリートの打込み工法(8.21.8)	○ 流込み工法 ○ 圧入工法
⑥既存構造体との取合い (8.21.9)	※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による
⑦仕上げ (8.21.10)	※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿＿＿

8－7 耐震補強工事（鉄骨ブレース設置工事）

項目	特記事項
1 補強工法	○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨頬杖付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿） ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
2 既存部分の撤去 (8.22.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。
3 既存部分の処理 (8.22.3)	目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
4 既存構造体との取合い (8.22.7)	割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による
5 仕上げ (8.22.9)	※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿＿＿

8－8 耐震補強工事（柱補強工事）

項目	特記事項
1 補強工法	○ 溶接金網巻き工法 ○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 帯板巻き付け工法 ○ 連続繊維補強工法 ○＿＿＿＿＿＿
2 既存部分の撤去 (8.23.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-２による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※本特記仕様書8-6-2による。
3 既存部分の処理 (8.23.3) (8.24.3)	目荒し程度 ※ 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 柱 及び梁 の成型（連続繊維補強工法） ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。（※ 30R ○＿＿） ○ 図示による
4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖ﾌｰﾌﾟ巻き工法 (8.23.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○＿＿＿＿mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法
5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○＿＿＿＿ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のﾓﾙﾀﾙ剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による ○＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○＿＿＿＿mm

8－9 耐震補強工事（耐震スリット）

項目	特記事項
①耐震スリット新設工事 (8.25.2)	方向：● 垂直方向 ○ 水平方向 タイプ：※ 完全（全貫通型）スリット ○ せん断型部分スリット ○ 耐火性能：● 耐火型 ○ 非耐火型 防水性能：○ 有り ● 無し 品質・規格 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 既存仕上げの撤去範囲 ● 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ● 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ● 図示による ○＿＿＿＿ スリットの充填材 耐火材の使用 ● 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ● 図示による ○＿＿＿＿ 遮音材の使用 ○ 使用する ● 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○＿＿＿＿ 既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿＿＿

8－10 耐震補強工事（免震改修）

項目	特記事項
1 既存部分の撤去 (8.26.5)	既存部分が鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※本特記仕様書8-6-2による。
2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分が鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
3 支承材・減衰材 (8.26.7) (8.26.10)	○ 支承材 材質＿＿＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿＿＿ ○ 減衰材 材質＿＿＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿＿＿ 性能確認試験 項目＿＿＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿＿＿ 製品検査 項目＿＿＿＿＿＿ 内容＿＿＿＿＿＿ 判定基準＿＿＿＿＿＿ 検査頻度＿＿＿＿＿＿ 防錆処置＿＿＿＿＿＿ 設置位置の寸法許容差 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による
4 仕上げ (8.26.13)	※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿＿＿
5 耐火被覆 (8.26.14)	仕様＿＿＿＿＿＿＿＿
6 ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ (8.26.15)	仕様＿＿＿＿＿＿＿＿ 工法＿＿＿＿＿＿＿＿
7 検査 (8.26.16)	項目＿＿＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿＿＿
8 維持管理要領 (8.26.17)	維持管理要領に記載する項目 ※維持管理の目的 ※点検種別(○ 定期点検 ○ 応急点検 ○ 詳細点検) ※点検の実施時期 ※点検項目 ※統括管理体制 ※点検・検査結果の保管 ○＿＿＿＿＿＿ 維持管理に必要な計測機器の設置 ○ 地震計 (仕様＿＿＿＿＿＿) ○ 下げ振り (仕様＿＿＿＿＿＿) ○ けがき板 (仕様＿＿＿＿＿＿) ○ 別置き試験体 (仕様＿＿＿＿＿＿) ○＿＿＿＿ (仕様＿＿＿＿＿＿)

8－11 耐震補強工事（制振改修）

項目	特記事項
1 既存部分の撤去 (8.27.2)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による ○＿＿＿＿ 方法 ※ 図示による ○＿＿＿＿ 既存鉄骨の処置方法 ＿＿＿＿
2 既存部分の処理 (8.27.3)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)	減衰材 材質＿＿＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿＿＿ 性能確認試験 項目＿＿＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿＿＿ 製品検査 項目＿＿＿＿＿＿ 内容＿＿＿＿＿＿ 判定基準＿＿＿＿＿＿ 検査頻度＿＿＿＿＿＿ 防錆処置＿＿＿＿＿＿ 設置位置の寸法許容差 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による
4 仕上げ (8.27.8)	※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿＿＿
5 検査 (8.27.9)	項目＿＿＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿＿＿

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事
図面名：改修工事特記仕様書（8）
縮尺：－
令和 年 月 日
図面番号：A-09

8－12 耐震補強工事（基礎工事）

1 既存部分の処理等 (8.28.2)

既存杭の撤去等
- ○撤去範囲及び方法　○図示による（　　）　○
- ○杭頭部の処理　○図示による（　　）　○
- ○既存杭の補強　○図示による（　　）　○
- ○既存杭の健全性を確認する試験
  - ○図示による（　　）　○

2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)

埋戻し及び盛土の種別
- ○A種 適用箇所（　　）
- ○B種 適用箇所（　　）
- ○C種 適用箇所（　　）土質（　　）受渡場所（　　）
- ○D種　（細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする）
  適用箇所（　　）
- ○ その他（材料　　工法　　）

地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理
- ○図示による　○
- 山留め壁等の存置箇所（　※図示　○　　）

3 杭地業 (8.2.15) (8.28.4)

支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ
- ○図示による（　　）　○

杭の材料、工法、寸法、施行方法等
- ○図示による（　　）　○

○試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法
- ○図示による（　　）　○

○杭の継手の箇所数、材料、工法等
- ○図示による（　　）　○

○杭の溶接継手
- 技能資格者の技量　○図示による（　　）　○
- 溶接部の確認　○図示による（　　）　○

○杭頭の処理　○処理する　○処理しない
- 処理方法（切断にともなう補強方法含む）
  - ○図示による（　　）　○

○杭頭の中詰め材料
- ○基礎のコンクリートと同調合のもの　○

杭の精度
- 水平方向の位置ずれ　○杭径の1/4かつ100mm以下　○
- 杭の傾斜　○1/100以内　○

記録する施工状況等
- ○図示による（　　）　○

4 砂利地業等 (8.2.15)

材料　○再生クラッシャラン　○切込砂利　○切込砕石
- 砂利厚さ　○60mm　○
- 砂地業　○山砂　○川砂　○砕砂

5 捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業 (8.28.4)

- 捨ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　※50mm　○

9 ユニット及びその他の工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（平成31年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 家具、ﾕﾆｯﾄ等の揮発性有機化合物対策

収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等の
- ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄ等の放散量　※F☆☆☆☆　○

収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤
- ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄ等の放散量　※F☆☆☆☆　○
- 含まれる可塑剤　※ ﾌﾀﾙ酸ｰﾌﾞﾁﾙ等を含有しない、難揮発性のもの　○

②フリーアクセスフロア (20.2.2)

※ 建設技術評価制度「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の技術評価を取得した製品とする。

施工箇所	寸法 (mm)	フロア高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗

- スロープ及びボーダー　※ 製造所の標準仕様　○ 図示による
- コンセント等の取付け　※ 製造所の標準仕様　（コンセント本体は別途設備工事）
- 配線用取出し用開口　※ 対応品又は工場加工品　（施工箇所は図示）
- 空調用吹出しパネル　○ あり　（ ※ 固定式　○ 可変式　施工箇所は図示 ）

※ 表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕１９章内装工事による。

フリーアクセスフロアの試験方法
- 耐荷重性能　○
- 耐衝撃性能　○
- ローリングロード性能　○
- 耐燃焼性能　○

3 可動間仕切 (20.2.3)

種類				パﾈﾙ内に取付ける建具
構造形式	構成基材	表面仕上	遮音性	寸法・形状
○ パネル式 ○ スタッド式 ○ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式		○メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付 ○		

パネル材料のホルムアルデヒト放散量　F☆☆☆☆

9 ユニット及びその他の工事

4 移動間仕切 (20.2.4)

パネル操作方法による種類	パネル表面材・仕上	パネル圧接装置の操作方法	遮音性能

- あと施工アンカー　材質（　　）　寸法（　　）
- 引抜耐力試験　※ 行う

5 トイレブース (20.2.5)

- 表面材　○ メラミン樹脂系化粧板　○ ポリエステル樹脂系化粧板
- 脚部　※ 幅木型　○ 足金物型
- パネル材料のホルムアルデヒト放散量　F☆☆☆☆
- ドアエッジの材質　※ トイレブース製造所の仕様による　○

⑥階段滑り止め (20.2.6)

- 材種　○ ステンレス製（SUS304）　幅　○ 約３５mm　○
- 形状　○ ビニルタイヤ入り　両端ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞ　○ あり　（ ○ ビニル　○ SUS304 ）
- 取付工法　※ 接着工法　○ 埋込み工法

⑦階段手すり

- ● ステンレス製　（SUS304　ＨＬ仕上）　径　mm　（仕様は金属工事参照）
- ○ 集成材　径　mm　○ クリアラッカー仕上げ
- ○ ビニル製ハンドレール　※ 丸型　径　mm　○ 平型　幅　mm

8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)

	区分	種類	色彩	備考
○ 黒板	※ 焼付け ○	○ 鋼製黒板 ○ ほうろう黒板	※ 緑 ○ 黒	○ 曲面 ○ スクリーン付引分け
○ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ		○ ほうろう白板 ○	※ 白	○ 曲面 ○ スクリーン付引分け

- 額縁金属　○ アルミ製　（表面処理の種別　○ Ｂ－２　○ Ｂ－１ ）
- 品質・規格

9 鏡 (20.2.9)

- 厚さ（mm）　※５　○

10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)

衝突防止表示
- ※ 図示による （ 市販品　○ ステンレス製 径 30 mm　○ ）
- ○ なし

法令に基づく表示
- ※ 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札

厚さ(mm)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5 ○	○ アクリル板 ○ アルミ板		○ 角太ゴシック ○ 丸	○ シルク印刷 ○	○ 平付型 ○ 持出型

- 外国語表現　○ 行う　（ ○ 英語　○ ）
- 寸 法（mm）　○ 50×250　○ 60×250　○ 図示による

ピクトグラフ（便所、車いす、階段等）

厚さ(mm)	材質	印刷等の種別	取付け形式	備考
○ 5 ○	○ アクリル板 ○ アルミ板	○ シルク印刷 ○	○ 平付型 ○ 持出型	

- 寸 法（mm）　○ 150×150　○ 図示による

案内板（館内、各階、便所）

厚さ(mm)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5 ○	○ アクリル板 ○ アルミ板		○ 角太ゴシック ○ 丸	○ シルク印刷 ○	○ 平付型 ○ 持出型

- 外国語表現　○ 行う　（ ○ 英語　○ ）
- 寸 法（mm）　○ 600×600　○ 100×600　○ 200×200　○ 図示による

館名板等
- 品質・規格

11 ブラインド (20.2.12)

形式	種類	ｽﾗｯﾄの材質	ｽﾗｯﾄ幅（mm）	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材質
○ 横形	※ ギヤ式 ○ コード式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	※25 ○35	※ 鋼製 ○
○ 縦形	※ ２本操作コード式 ○ １本操作コード式	○ ｱﾙﾐﾗｯﾄ ○ ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	○ 80 ○ 100	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製

12 ロールスクリーン (20.2.13)

- 操作方法　○ スプリング式　○ コード　○ 電動式
- 幅及び高さ
- スクリーンの材種　○ 布製　○ ガラス繊維製　○ 木製
- 品質・規格

(20.2.14)

13 カーテン (20.2.14)

取付箇所	形式				開閉操作方法			カーテン引きれ地の種別・品質・特殊加工等	ひだの種類		
	ｼﾝｸﾞﾙﾀﾞﾌﾞﾙ		片引	引分	電動	ひも引	手引		ﾌﾗﾝｽ	箱つま	ﾌﾟﾘｰﾂ片
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

9 ユニット及びその他の工事

14 カーテンレール (20.2.14)

- 材料　※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材　○ ステンレス　○
- 形式　○ 片引き　○ 引分け　（暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。）
- 形状　○ Ｃ型　○ Ｄ型　※ 角型
- 強さによる区分　※ 10-90　○　仕上げ　※ アルマイト　○

15 ブラインドボックス カーテンボックス

- ○ 図示による　○ 市販品（アルミニウム製　押出し型材）
- 仕様等　清幅×深さ（mm）○ 90×150　○ 150×80　○ 120×80　○
- 表面処理　○ Ｃ－１（無着色）　○ Ｃ－２（着色）

16 くつふきマット

- 材種　○ 塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製（SUS304）受枠）
- ○ 硬質アルミニウム合金（受枠とも）　○
- ○ ゴム製（ステンレス製（SUS304）受枠）

17 鋼製書架及び棚

- 品質・規格

18 収納家具(木製)

- 品質・規格

19 掲示板

	枠の材質	表面の材質	照明器具	施錠	品質・規格
○ 屋内	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2） ○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）		—	—	
○ 屋外	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2） ○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）		○ あり ○ なし	○ あり ○ なし	

20 カウンター

- 品質・規格

21 洗面カウンター

- 材　種　○ メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）○人工大理石（品質　図示）
- 奥行き（mm）　○ 約450　○ 約600　○

22 流し台ユニット

種類	部品寸法（mm）	規格	仕様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 mm
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製１段式
○			

23 非常用救助袋等

※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。
- 形式　○ 傾斜式　○ 垂直式
- 品質・規格

24 鍵箱

- 市販品　形式　※ 釣下式　○ 差込式
- （ ○ 30　○ 60　○ 120　○　）組用　（　）個

25 車止め

形式	材質	柱径・肉厚（mm）	高さ（mm）
○ 上下式鎖内蔵型（ ○ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ付き ）	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304） ○	○ φ76.3 t=2.0 ○ φ114.3 t=2.5	○ GL+700 ○ GL+850

- 基礎　無筋コンクリート造３５０×３５０　Ｈ２５０程度

26 フェンス

表面仕上等	種類	門扉の仕様
○ 亜鉛めっき　○ 樹脂塗装 ○ ビニル被覆　○	○ ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　○ ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ ○ ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ　○	○ 片開き ○ 両開き

10 排水工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（平成31年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 材料 (21.2.1)

材種 （表21.2.1）	管の種類	呼び径	基床の厚さ
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）		
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ ＶＰ　○ ＶＵ ○ ＲＳ－ＶＵ		
○ 硬質ポリ塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手	○ ＤＶ　○ ＶＵ継手		

- ○ 凍上抑制層に用いる材料　○ 砂（○砂の粒度試験）　○

2 側塊、排水桝及びふた (21.2.1)

- ○ 側塊の形状および寸法　※ 図示による　○
- ○ 排水枡の種類　※ 図示による　○

○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種類	適用荷重（安全荷重）
○ 水封形　○ 密閉形（ﾃｰﾊﾟｰ･ﾊﾟｯｷﾝ式）	○ T- 2用（5KN）　○ T-6用（115KN）
○ 中蓋付密閉形　○ 簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式）	○ T-20用（50KN）

○ グレーチングふた

種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状
○ 溝ふた用 ○ 桝ふた用 ○ 嵩上げ用 ○ Ｕ字溝用	○ 鋼製 ○ ｽﾃﾝﾚｽ製 ○ 鋳鉄製 ○ 樹脂製	受枠　※ なし ○ あり ○ 図示 ボルト固定 ※ なし ○ 図示	○ T- 2用 ○ T- 6用 ○ T-14用 ○ T-20用	○ 普通目 ※ 細目	○ 平形 ※ 凹凸形

10 排水工事

3 縁石 (21.3.1)

- 歩車道境界ブロックのJIS による呼び名　※ Ａ　○
- 地先境界ブロックのJIS による呼び名　○ Ａ　○ Ｃ　○
- 砂利地業の厚さ　※ 100mm　○

4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)

- 鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名　○ 250A　※ 250B　○
- コンクリートL形のJIS による呼び名　○ 250A　※ 250B　○
- 鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名　○ 240　○ 300A　○ 360A　○
- 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)　※１８　○
- スランプ(cm)　○１５　○１８　○
- 現場打の鉄筋　種類の記号　※ SD295A　○

11 舗装工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（平成31年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)

路床の構成
- ○凍上抑制層　厚さ　○ 図示による　○
- ○透水性舗装　フィルター層の厚さ　車道部　○ 図示による　○ 150mm　○
  歩道部　○ 図示による　○ 50mm　○

盛土に用いる材料　○ Ａ種　※ Ｂ種　○ Ｃ種　○ Ｄ種　（表3.2.1）

路床安定処理　○ 行う　○ 行わない
- 路床安定処理用材料　※ 添加材料による安定処理　（表22.2.2）
- 種類　○ 地盤改良材　（　）　○ 高炉ｾﾒﾝﾄＢ種
- ○ 普通ポルトランドセメント　○ 生石灰　特号　○ 生石灰　１号
- ○ フライアッシュセメントＢ種　○ 消石灰　特号　○ 消石灰　１号
- 添加量　kg/m3

路床土の支持力比(CBR)試験　○ 行う　（ ※ 乱した土　○ 乱さない土 ）

路床締固め度の試験　※ 行う（埋戻し部、盛土部）　○ 行わない

2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)

- 路盤の厚さ　mm
- 材料　○ 再生クラッシャラン（RC-40, 30, 20）
- ○ クラッシャラン（C-40, 30, 20）　○ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ（CS-40）
- 路盤締固め度の試験　※ 行う

3 アスファルト舗装 (22.4.2) ～(22.4.6)

舗装の種類	表層(mm)	基層(mm)	カラー舗装の種類
※ アスファルト舗装			※ 顔料混入加熱アスファルト混合物

アスファルト　○ 再生アスファルト（ ○ ６０～８０　○ ８０～１００ ）
- ○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分	○ 一般地域	○ 寒冷地域
表層	○ 密粒度アスファルト混合物（13） ○ 細粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）

施工
- シールコート　○ 行わない　○ 行う　（ 施工範囲　）
- シールコート用乳剤の種別　○ PK-1　○ PK-2
- アスファルト混合物の抽出試験　○ 行う　○ 行わない
- アスファルト締固め度、厚さの試験　○ 行う　○ 行わない

④コンクリート舗装 (22.5.2) ～(22.5.6)

構成

コンクリートの種類	部位	厚さ(mm)	設計基準強度(N/mm²)	スランプ(cm)

- 早強セメント　※ 使用しない　○ 使用する
- 目地
- 注入目地材料　※ 低弾性タイプ　○ 高弾性タイプ
- 種類　○ 突合せ目地　○ 収縮目地　○ 伸縮調整目地　○
- 間隔　○ 5m程度ごと　○ 4m程度ごと　○ 3m程度ごと　○
- コンクリート版厚さの試験　※ 行う

5 カラー舗装 (22.6.2) ～(22.6.4)

種類	部位	配合その他
※ 加熱系ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 添加剤　○ 着色骨材　○ 自然石 結合材　○ ｱｽﾌｧﾙﾄ　○ 石油樹脂（添加量　） ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験 ○ 適用する　※ 適用しない 舗装の厚さ　mm	○ 車路 ○ 歩行者用通路	
○ 常温系ニート工法		
○ 常温系塗布工法		

着色部の下部　○ アスファルト舗装　○ コンクリート舗装

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名	笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 －
図面名	改修工事特記仕様書（9）	令和　年　月　日
		図面番号 A-10

11 舗装工事

6 透水性舗装 (22.7.2)～(22.7.6)

舗装構成及び厚さ　※ 図示による　○＿＿＿＿＿＿
表層の厚さの試験　※ 行う　○ 行わない
開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験　○ 行う　※ 行わない

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

○ コンクリート平板舗装

種　類	寸 法 (mm)	厚さ (mm)	目　地
※ 普通平板(N)　○ カラー平板(C)	○ ３００角	※ ６０	※ 砂
○ 洗出平板(W)　○ 擬石(S)　○	○	○	○ モルタル

品質・規格 ＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材　※ 砂　○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種　類	部位	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	曲げ強度 (N/mm²)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック ○ ｷｮｳｴﾝｶﾞ	車路		※ 80 ○＿＿	※ 5.0 ○＿＿	※ 標準品
○ 透水性ブロック	歩行者用通路		※ 60 ○ 80	※ 3.0 ○＿＿	○＿＿＿＿ ○＿＿＿＿
○ 植生ブロック	―		○ 60 ※ 80 ○ 100		

品質・規格 ＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材　※ 砂

○ 舗石舗装

種　類	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	工　法	基　層	基層の厚さ(mm)
○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※ 70 ○＿＿
○＿＿＿		○＿＿＿	○＿＿＿	○ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※ 50 ○＿＿

品質・規格 ＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材　※ 砂　○ 空練りモルタル

8 砂利敷き (22.9.2)

通　路　※ Ａ種　○ Ｂ種
建物周囲その他　○ Ａ種　※ Ｂ種
※ 下敷きの使用材料は再生クラッシャランとする

9 白線引き

種　類　○ 溶融式　○ ペイント式　幅 (cm) ○ 15　○＿＿＿

12 環境配慮改修工事

1 一般事項 (9.1.1)

○ 石綿含有吹付け材除去工事
　○ 除去工法　(　　)
　○ 封じ込め工法　(　　)
　○ 囲い込み工法　(　　)
○ 石綿含有保温材除去工事
○ 石綿含有成形板除去工事

2 仕上げ工事 (9.1.1)

石綿含有建材除去後の仕上げ工事
※ 図示による　○＿＿＿＿＿＿

3 施工調査等 (9.1.1)

施工調査
○ 行う
　石綿の除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。
　調査範囲　※ 図示による　○＿＿＿＿＿＿
　調査事項
　※ 石綿使用部位の確認
　※ 石綿層の厚さの確認
　※ 施工範囲と工事管理区分の確認
　※ 更衣施設等の仮設計画
　※ 廃棄物等の搬出方法
○ 行わない

石綿含有分析方法
○ 行う（分析結果を監督職員に提出する）
　※ JIS A 1481に基づくこと

材　料　名	定性分析	定量分析
	○ (　箇所数　)	○ (　箇所数　)
	○ (　箇所数　)	○ (　箇所数　)
	○ (　箇所数　)	○ (　箇所数　)
	○ (　箇所数　)	○ (　箇所数　)

　サンプル数　１箇所あたり３サンプル
○ 行わない
既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与　○ あり　○ なし

4 石綿粉じん濃度測定 (9.1.1)

○行う

測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備　考
除去作業前	除去作業室内	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	
	調査対象室外部付近	○ 1点　○ 2点　○　点	
除去作業中	除去作業室内	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	
	ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入り口	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	
	集じん・排気 装置の排出口	出口吹出し風速1m/秒以下の位置 各　○ 1点　○ 2点　○ 3点	除去作業室外の場合
	除去作業室外 施工区画周辺	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	
	除去作業室外 敷地境界	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	
除去作業後	除去作業室内	○ 1点　○ 2点　○　点	ｼｰﾄ養生中
除去作業後	除去作業室内	○ 1点　○ 2点　○ 3点　○　点	ｼｰﾄ撤去後
	調査対象室外部付近	○ 1点　○ 2点　○　点	1週間以降

※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。
○ 行わない
測定方法
・ 自動測定器による測定

測定場所	測定方法
○ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口 ○ 集じん・排気装置の排出口(除去作業室外)	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙｶｳﾝﾀｰ 繊維状粒子自動測定器(ﾘｱﾙﾀｲﾑﾌｧｲﾊﾞｰﾓﾆﾀｰ)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-1に基づいた測定

測定場所	ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀ 直径 (mm)	試料の吸引流量 (L/mm)	試料の吸引時間 (min)
○ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口 ○ 集じん・排気装置の排出口(除去作業室外)	25	5	30
○ ○	47	10	120
○ ○	47	10	240
○ ○			

測定機関　※ (公社) 日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。
○＿＿＿＿＿＿＿＿
報告書提出部数　※ 3 部　○＿＿部

5 石綿含有吹付け材の除去 (9.1.3)

施工業者
※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。
○ 「吹付石綿粉じん飛散防止処理技術」について(一財)日本建築ｾﾝﾀｰの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。

除去を行う範囲
※ 図示による（仕上げ表による　床・壁・天井毎に種別を確認）
○ 全ての室　○＿＿＿＿＿＿

除去工法
※ 改修標仕9.1.3(2)(ｱ)(a)～(d)による
○＿＿＿＿＿＿＿＿

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
※ 密封処理（二重袋梱包）
　隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。
※ 湿潤化
○ セメント固化
○ 溶融固化
除去物等の保管
※ 他の建設副産物等と分別して保管する。
※ 飛散防止措置を講ずる。
※ 石綿等の保管場所であることの表示を行う。
除去した石綿含有吹付け材等の処分方法
○ 埋立処分（管理型最終処分場）
○ 中間処理（溶融施設）

6 石綿含有保温材の除去 (9.1.4)

除去を行う範囲
※ 図示による
○＿＿＿＿＿＿＿＿
除去方法
※ 原形のまま手ばらし
○ 手ばらし以外(この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)
○＿＿＿＿＿＿＿＿
除去した石綿含有保温材の処分
○ 埋立処分（管理型最終処分場）
○ 中間処理（溶融施設）

12 環境配慮改修工事

⑦石綿含有成形板の除去 (9.1.5)

除去を行う範囲
※ 図示による
○＿＿＿＿＿＿＿＿
除去の方法
※ 湿潤化したのちに手ばらし
○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕
○＿＿＿＿＿＿＿＿
除去した石綿含有成形板の処分
● 石綿含有せっこうボード
　※ 埋立処分（管理型最終処分場）
○ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
　○ 埋立処分（安定型最終処分場）
　○ 中間処理（溶融施設）

除去を行う石綿成形板の仕様

種　類	厚さ(mm)	種　類	厚さ(mm)
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○
● ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸ｶﾙｼｳﾑ板	○
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿ｾﾒﾝﾄけい酸ｶﾙｼｳﾑ板	○
○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○

8 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.3)

工法の種類　○ Ｐ１Ｂ Ｉ　○ Ｔ１Ｂ Ｉ
　○ Ｐ２Ａ Ｉ　○ Ｍ３Ｄ Ｉ
　○ Ｐ０Ｄ Ｉ　○ Ｍ４Ｄ Ｉ

9 外断熱改修工事 (9.3.2)～(9.3.4)

断熱材　種類　○＿＿＿＿＿＿　厚さ (mm) ○＿＿＿
断熱材の施工　○ 断熱材製造所の仕様による　○＿＿＿＿＿＿
不陸等の下地調整　○ 外装材製造所の仕様による　○＿＿＿＿＿＿
外装材　○ 取付ける　(　種類＿＿＿＿＿＿　防火性能＿＿＿＿＿＿)
外装材の施工　○ 断熱材製造所の仕様による　○＿＿＿＿＿＿
既存外壁　○ 仕上げ材の撤去(　　)
　○ 下地面の清掃(　　)
　○ 下地の欠損部の改修　(　4.1.4［外壁改修工法の種類］による　)
施工　※ 断熱材製造所の仕様による　○＿＿＿＿＿＿
通気層　○ 有(厚さ＿＿＿mm)　○ 無
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法　○＿＿＿＿＿＿

10 ガラス改修工事 (9.4.2) (9.4.3)

複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
※ 建具表による
断熱性による区分
○ Ｔ１　○ Ｔ２　○ Ｔ３　○ Ｔ４　○ Ｔ５　○ Ｔ６
日射取得性、日射遮へい性による区分
○ Ｇ　○ Ｓ
乾燥気体の種類
○ 空気　○ アルゴン
上記以外は、改修特記仕様書第５章　建具改修工事による

11 断熱・防露改修工事 (9.5.2) (9.5.3)

	材　料 (種類)		その他
断熱材打込み工法	○ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾞﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材		断熱材厚さ ○＿＿mm
	○ 押出型ﾎﾞﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材		
	○ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材A種又は断熱材	JIS A 9511	接着剤の ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※Ｆ☆☆☆☆ ○＿＿＿
	○ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材 (※ Ｆ☆☆☆☆　○＿＿＿)	JIS A 9521	
	○		
断熱材現場発泡工法	※ Ａ種１　○ Ａ種１Ｈ　○ Ｂ種１ (難燃性を有するものとする)	JIS A 9526	吹付け厚さ ○＿＿mm

※ 接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量は6-1揮発性有機化合物に記載のとおりとする
※ 特定フロンを使用とする。

(9.5.4)
○ 断熱材後張り工法
　断熱材の種類　○＿＿＿＿＿＿
　断熱材の厚さ (mm)　○＿＿＿＿

12 環境配慮改修工事

12屋上緑化 (9.6.2)～(9.6.4)

樹木の種類、寸法、数量等　※ 図示による　○ 下表による

種　類	寸　法	数　量	備　考

芝・地被類の種類
※ 図示による
○ コウライシバ (※ 目地張り　○＿＿＿＿)
○ ノシバ (※ 目地張り　○＿＿＿＿)
○ セダム類 (○ カット　○ ふるい　○ プラグ苗　○＿＿＿)

材料　○ 見切材＿＿＿＿　○ 舗装材＿＿＿＿
　○ 排水孔＿＿＿＿　○ ﾏﾙﾁﾝｸﾞ材＿＿＿＿

かん水装置　○ 設置する (種類＿＿＿＿＿＿)
　○ 設置しない

支柱材　○ 杉(焼き丸太)　○ 竹　○ ひのき　○ から松(皮はぎ)
　形式　※ 図示による　○＿＿＿＿
　防腐処理方法　○ 加圧式防腐処理丸太　○＿＿＿＿
幹巻用材料　○ 幹巻き用テープ　○ わら及びこも

既存保護層の撤去　○ 行う (工法は3.2.3［既存保護層等の撤去］による)
　○ 行わない

新植芝及び地被類の枯補償　※ 引渡しの日から１年　○ 引渡しの日から＿＿年

13透水性アスファルト舗装改修工事 (9.7.2)～(9.7.5) (9.7.9)

既存舗装の撤去及び再利用　※ 図示による　○＿＿＿＿＿＿

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
○ 盛土	○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種 ○ Ｄ種　○	○ 図示 ○
○ 凍上抑制層	○ 再生クラッシャランＧ　○ クラッシャラン ○ 切込み砂利　○ 砂　○＿＿＿＿	○ 図示 ○
○ フィルター層	○ 砂　○＿＿＿＿	○ 図示 ○

路床安定処理　○ 適用する　○ 適用しない
路床安定処理の方法　○＿＿＿＿　○ 添加材料による安定処理
・路床安定処理用添加材料
　○ 普通ポルトランドセメント　○ 高炉セメントＢ種
　○ フライアッシュセメントＢ種
　○ 生石灰 (○ 特号　○ １号)　○ 消石灰 (○ 特号　○ １号)
試験
　砂の粒度試験　○ 行う　○ 行わない
　路床土の支持力比 (ＣＢＲ) 試験　○ 行う　○ 行わない
　現場ＣＢＲ試験　○ 行う　○ 行わない
　路床締固め度の試験　○ 行う　○ 行わない
路盤
　路盤の厚さ　○ 図示　○
　路盤材料

種類別	
砕石	○ クラッシャラン
	○ 粒度調整砕石
再生材	○ 再生クラッシャラン
	○ 再生粒度調整砕石
○ クラッシャラン鉄鋼スラグ	
○ 粒度調整鉄鋼スラグ	
○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	

舗装の構成　○ 図示による　○
　開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　○ 行う　○ 行わない

舗装の平たん性　※ 著しい不陸がないもの　○＿＿＿＿＿＿

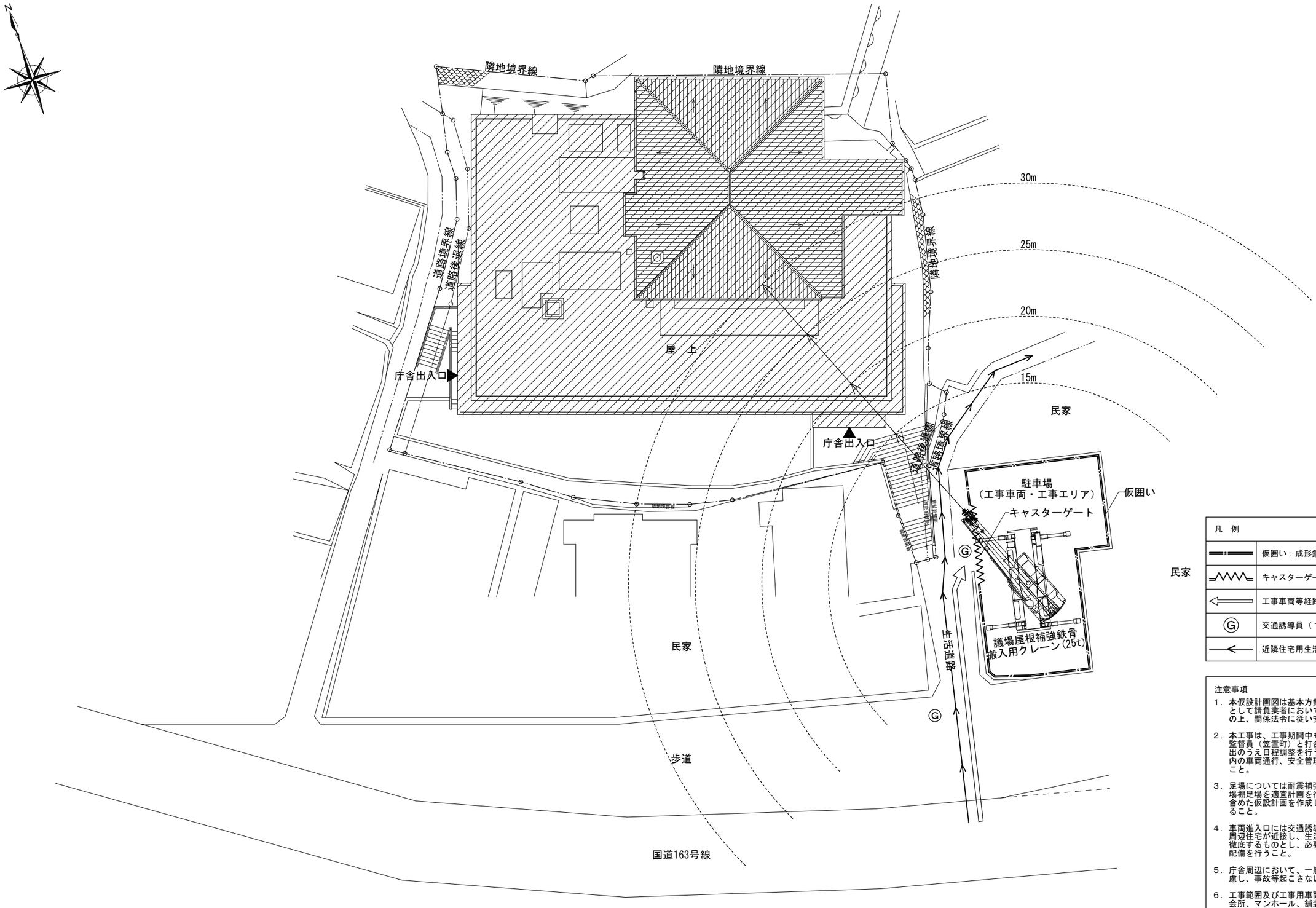
株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名　笠置町庁舎耐震補強工事
図面名　改修工事特記仕様書 (10)
縮尺　－
令和　年　月　日
図面番号　A-11

付近見取図　1/2500

	株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 付近見取図	縮尺 1/2500 令和 年 月 日	図面番号 A-12



凡　例	
═══	仮囲い：成形鋼板　H=3.0m
～～～	キャスターゲート　W=6.0m　1か所
⇦	工事車両等経路
Ⓖ	交通誘導員（１名配置・適宜移動）
←──	近隣住宅用生活道路

注意事項

1．本仮設計画図は基本方針を示したもので、これを参考として請負業者において構造及び施工方法を十分検討の上、関係法令に従い安全に設置すること。

2．本工事は、工事期間中も庁舎利用があるため、事前に監督員（笠置町）と打合せを行い、工程表を作成し提出のうえ日程調整を行うと共に、庁舎内の通行、敷地内の車両通行、安全管理及び騒音対策に万全を期すること。

3．足場については耐震補強工事他に伴い、外部足場、議場棚足場を適宜計画を行い、仮囲い・仮設間仕切等も含めた仮設計画を作成し、監督員と協議のうえ決定すること。

4．車両進入口には交通誘導員を配備させると共に、特に周辺住宅が近接し、生活道路があるため、安全確保は徹底するものとし、必要に応じて適宜移動及び臨時に配備を行うこと。

5．庁舎周辺において、一般車両及び周辺住人の通行に配慮し、事故等起こさないよう十分に注意すること。

6．工事範囲及び工事用車両進入経路にある門扉、側溝、会所、マンホール、舗装面において、工事用車両の通行により損傷しないよう十分に養生を行うこと。

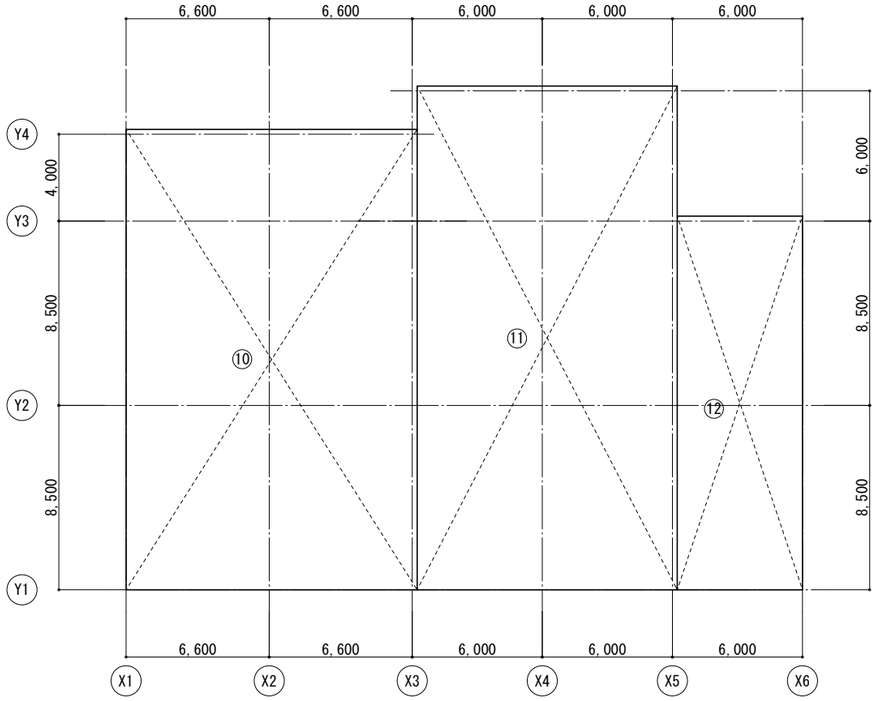
7．工事完了に際して，工事期間中に使用した敷地は清掃、整地を十分に行い，損傷のある部分は補修を行うこと。

配置図　1/200

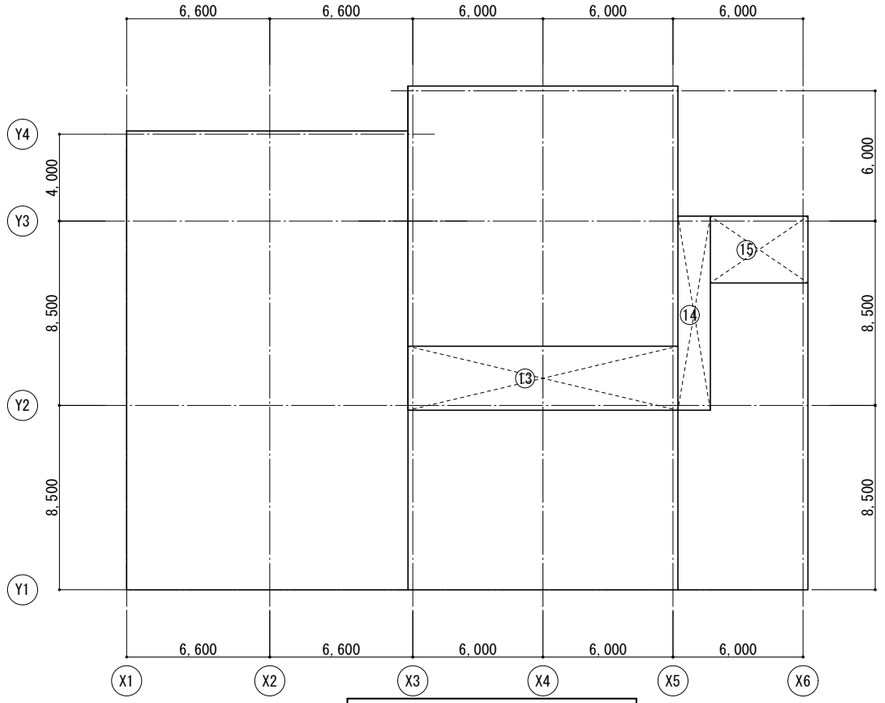
凡　例

今回改修建物を示す

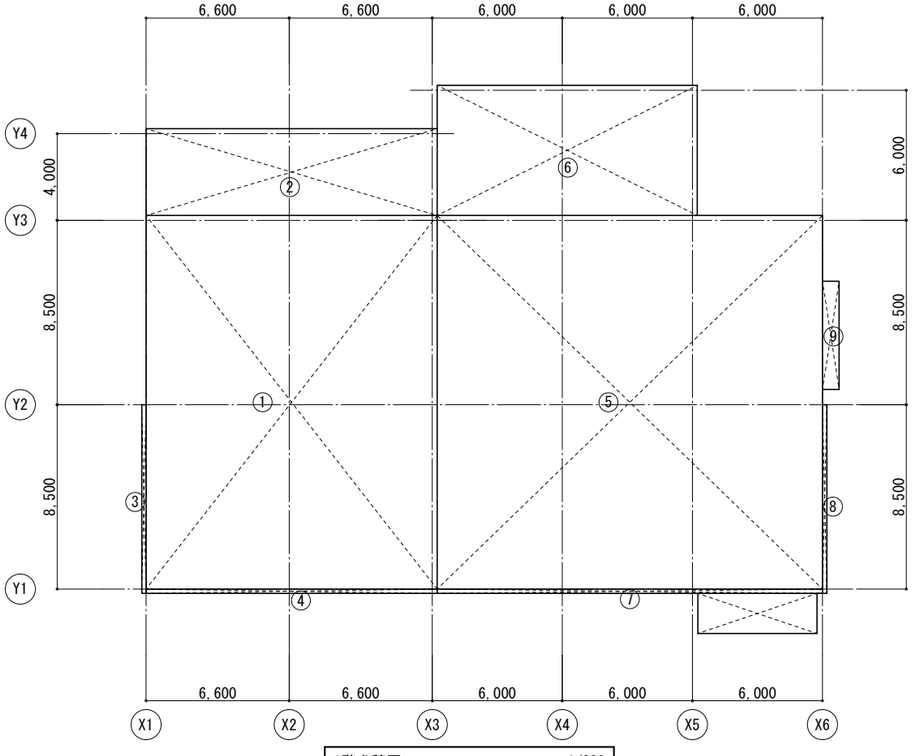
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/200	図面番号：A-13
				図面名：配置図（仮設計画図）	令和　年　月　日	



2階求積図　1/200



3階求積図　1/200



1階求積図　1/200

社会福祉施設　建築面積求積表

符号	計算式	計
①	17.23 × 13.43	231.40
②	4.00 × 13.43	53.72
③	0.20 × 8.70	26.64
④	0.20 × 13.43	6.18
	計	317.94

庁舎　建築面積求積表

⑤	17.78 × 17.23	306.35
⑥	6.00 × 12.00	72.00
⑦	0.20 × 17.77	3.55
⑧	0.20 × 8.70	1.74
⑨	4.99 × 0.77	64.11
	計	447.75

社会福祉施設　延床面積求積表

符号	計算式	計
1階		
①	17.23 × 13.43	231.40
Ⓐ	計	231.40
2階		
⑩	21.23 × 13.43	285.12
Ⓑ	計	285.12
	Ⓐ + Ⓑ	516.52

庁舎　延床面積求積表

1階		
⑤	17.78 × 17.23	306.35
Ⓒ	計	306.35
2階		
⑪	23.23 × 12.00	278.76
⑫	17.23 × 5.78	99.59
Ⓓ	計	378.35
3階		
⑬	2.95 × 12.45	36.73
⑭	8.95 × 1.50	13.43
⑮	3.08 × 4.50	13.86
Ⓔ	計	64.02
	Ⓒ + Ⓓ + Ⓔ	748.72

延床面積	1,265.24
建築面積	765.69

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

図面名　建物求積図

縮尺　1/200

令和　年　月　日

図面番号　A-14

現況内部仕上表　　※ビニール床タイルはアスベスト含有建材として撤去・処分を行う

階	室　名	床高	床	巾　木	壁	天　井	廻り縁	天井高	備　考
1	風除室	±0	グラニットタイル貼	—	志野タイル貼【一部撤去】	ｶﾗｰｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ貼【撤去】	アルミ	2900	ｱﾙﾐ製両開きドア【撤去】
	ロビー（東）	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 吹付タイル	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	3000	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	ロビー（西）	+70	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	ソフト巾木 H=100	モルタルこて押え下地 内装用吹付タイル	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	—	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	事務室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0 【一部撤去】	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 吹付タイル	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼【一部撤去】	アルミ	3000	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	出納室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 吹付タイル	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	3000	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	倉庫	±0	防水モルタルこて押え下地 カラークリート	モルタルコテ押え H=100	モルタルこて押え	モルタルこて押え下地 リシン吹付	アルミ	2760	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	印刷室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	ソフト巾木 H=100	モルタルこて押え下地 VP塗	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0	アルミ	2700	—
	男子更衣室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0	ソフト巾木 H=100	モルタルこて押え下地 VP塗	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0	アルミ	2700	—
	男女便所	-100	25角モザイクタイル貼 【撤去】	—	100角デザインタイル貼 【撤去】	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0【撤去】	アルミ	2700	便器・補助手摺 洗面カウンター【撤去】
	パッケージ室	±0	モルタルこて押え	モルタルコテ押え H=100	コンクリート打放し	ＰＢｔ＝9.5【撤去】	アルミ	2650	鋼製両開きドア【撤去】 ガラリ【撤去】
	宿直室	±0	タタミ	—	ＰＢ　ｔ＝12.5 ビニルクロス貼 【一部撤去】	杉柾合板ｔ＝6.0 底目地目地貼	アルミ	2650	アルミ製引き違い窓 【撤去】
2	第一会議室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床シート	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 シナベニア【一部撤去】	石膏ボードｔ＝9.5 ビニルクロス	アルミ	2700	アルミ製引き違い窓 【撤去】
	第二会議室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床シート	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 シナベニア	石膏ボードｔ＝9.5 ビニルクロス【一部撤去】	アルミ	2700	—
	議場	±0	モルタルこて押え下地 カーペット敷	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 桜練付ベニヤ板	石膏ボードｔ＝9.0 ビニルクロス貼【撤去】	アルミ	5130	—
	廊下	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 吹付タイル	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0	アルミ	2700	—
	男女便所	-100	25角モザイクタイル貼 【撤去】	—	100角デザインタイル貼 【撤去】	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0【撤去】	アルミ	2700	便器・補助手摺 洗面カウンター【撤去】
	パッケージ室	±0	モルタルこて押え	モルタルコテ押え H=100	コンクリート打放し 断熱ガラスクロス【撤去】	コンクリート打放し 断熱ガラスクロス【撤去】	アルミ	2700	—
3	ボイラー室	±0	モルタルこて押え	—	コンクリート打放し ガラスクロス貼【撤去】	コンクリート打放し ガラスクロス貼【撤去】	アルミ	—	ガラスクロス【撤去】
	倉庫	±0	モルタルこて押え	—	モルタルこて押え 【撤去】	ＡＬＣ板素地	アルミ	2600	—

改修内部仕上表

階	室　名	床高	床	巾　木	壁	天　井	廻り縁	天井高	備　考
1	風除室	±0	グラニットタイル貼	—	志野タイル貼 【一部撤去のまま】	ｶﾗｰｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ貼【新設】	アルミ	2900	SUS製自動ドア【新設】
	ロビー（東）	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 EP塗【一部新設】	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	3000	
	ロビー（西）	+70	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	ソフト巾木 H=100	モルタルこて押え下地 EP塗【一部新設】	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	—	
	事務室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 EP塗【一部新設】	ロックウール天井吸音板 ｔ＝12.0【一部新設】	アルミ	3000	アルミ製縦滑り出し窓 【新設】
	出納室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100	モルタルこて押え下地 吹付タイル	ロックウール不燃立体 吸音天井板貼	アルミ	3000	アルミ製引き違い窓 【新設】 アルミ製外倒し窓【新設】
	倉庫	±0	防水モルタルこて押え下地 カラークリート	モルタルコテ押え H=100	モルタルこて押え t=25【一部新設】	モルタルこて押え下地 リシン吹付	アルミ	2760	—
	印刷室	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	ソフト巾木 H=100	モルタルこて押え下地 VP塗	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0	アルミ	2700	アルミ製引き違い窓 アルミ製外倒し窓 【新設】
	男女便所	-100	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0 【新設】	ビニール巾木 H=60	モルタル金こて押え下地 EP-G塗【新設】	化粧ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0【新設】	アルミ	2700	軽量鋼製片開きドア 【新設】
	多目的便所	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0 【新設】	ビニール巾木 H=60	モルタル金こて押え下地 EP-G塗【新設】	化粧ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0【新設】	アルミ	2650	軽量鋼製2連引きドア 【新設】
	倉庫（2）	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0 【新設】	ビニール巾木 H=60	モルタル金こて押え下地 EP-G塗【新設】	化粧PB　ｔ＝9.5【新設】	アルミ	2650	軽量鋼製片開きドア 【新設】
	宿直室	±0	タタミ	—	ＰＢ　ｔ＝12.5 ビニルクロス貼 【一部新設】	杉柾合板ｔ＝6.0 底目地目地貼	アルミ	2650	—
2	第一会議室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床シート	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 EP塗【新設】	石膏ボードｔ＝9.5 ビニルクロス	アルミ	2700	アルミ製引き違い窓 【新設】
	第二会議室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床シート	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 シナベニア	石膏ボードｔ＝9.5 ビニルクロス【一部新設】	アルミ	2700	—
	議場	±0	モルタルこて押え下地 カーペット敷	木製巾木 H=100	モルタルこて押え下地 桜練付ベニヤ板	ロックウール天井吸音板 ｔ＝12.0【新設】	アルミ	5130	—
	廊下	±0	モルタルこて押え下地 ビニル床シート=2.0	テラゾブロック貼 H=100 一部ビニール巾木 H=100	モルタルこて押え下地 EP塗【一部新設】	石綿ケイ酸カルシウム板 ｔ＝4.0	アルミ	2700	—
	男女便所	-100	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0 【新設】	ビニール巾木 H=60	モルタル金こて押え下地 EP-G塗【新設】	化粧ケイ酸カルシウム板 ｔ＝6.0【新設】	アルミ	2700	軽量鋼製片開きドア 【新設】
	更衣室	±0	モルタルこて押え下地 ビニール床タイルt=2.0 【新設】	ビニール巾木 H=60	モルタル金こて押え下地 EP-G塗【新設】	化粧PB　ｔ＝9.5【新設】	アルミ	2700	軽量鋼製片開きドア 【新設】
3	ボイラー室	±0	モルタルこて押え	—	LGS下地 PB t=12.5【新設】	コンクリート打放し	アルミ	—	—
	倉庫	±0	モルタルこて押え	—	LGS下地 PB t=12.5【新設】	ＡＬＣ板素地【一部新設】	アルミ	2600	—

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

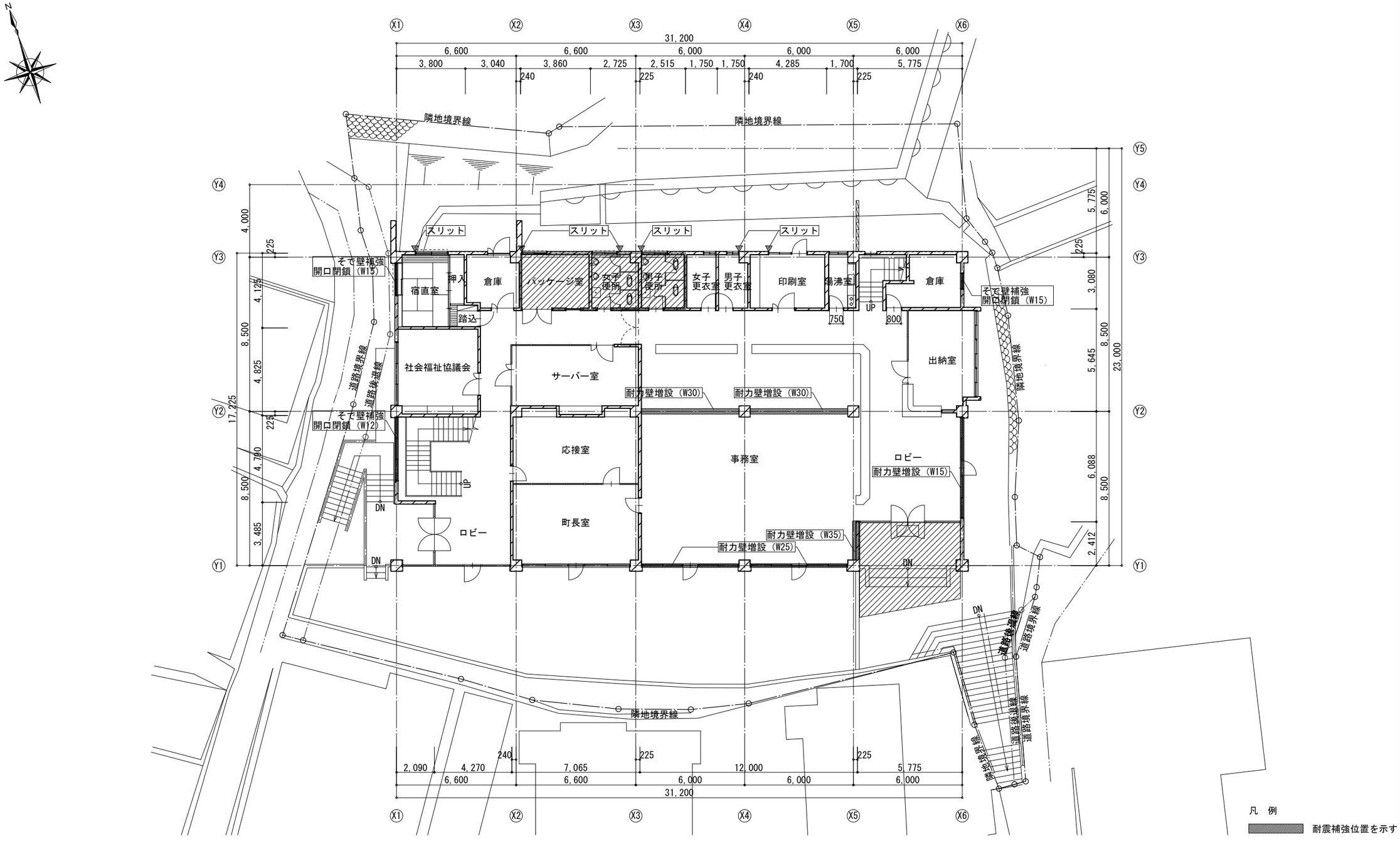
工事名：笠置町庁舎耐震補強工事

図面名：現況・改修仕上表

縮尺：—

令和　年　月　日

図面番号：A-15



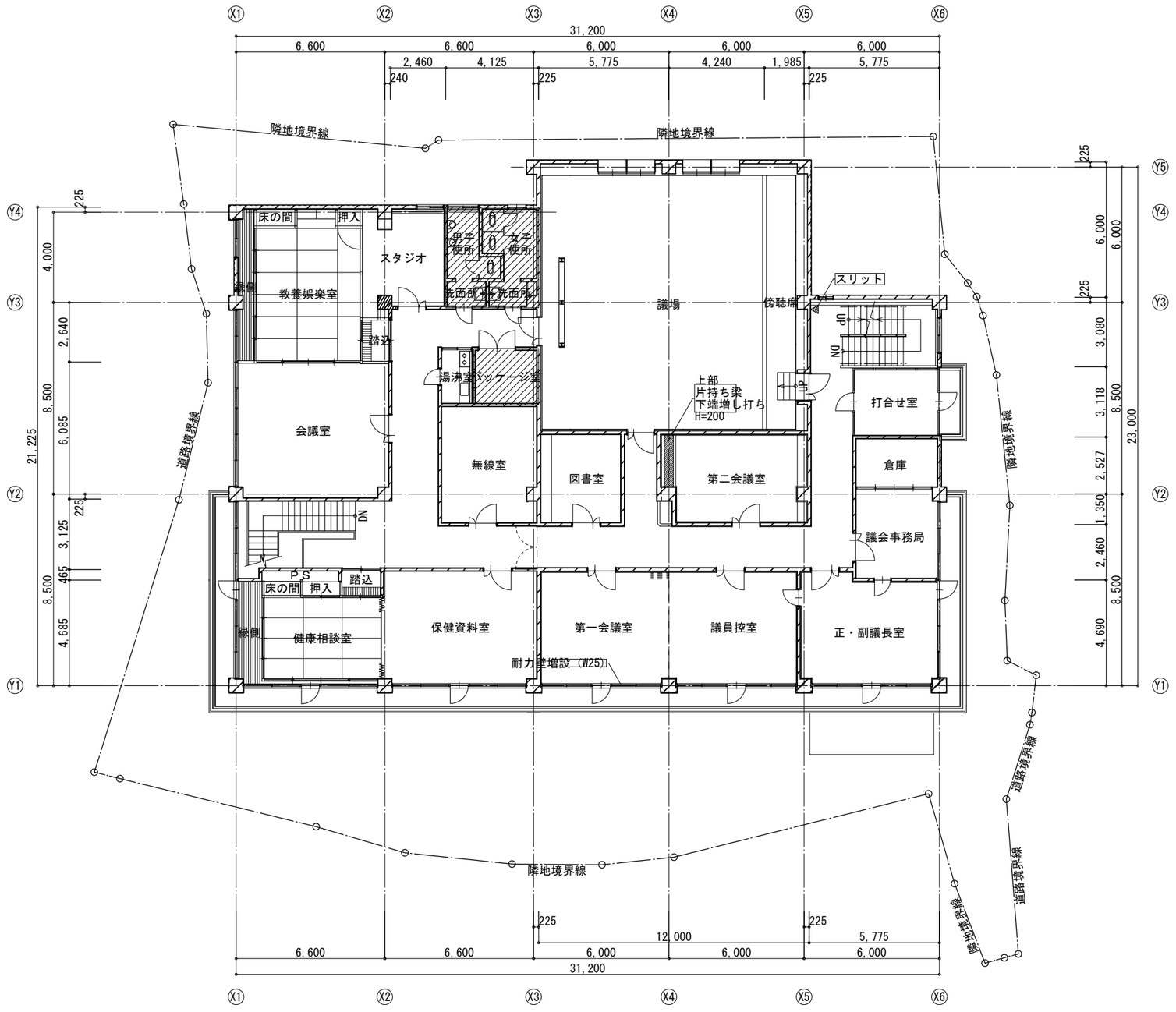
凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

現況１階平面図　　1/150

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/150	図面番号：A-16
				図面名：現況1階平面図	令和　年　月　日	



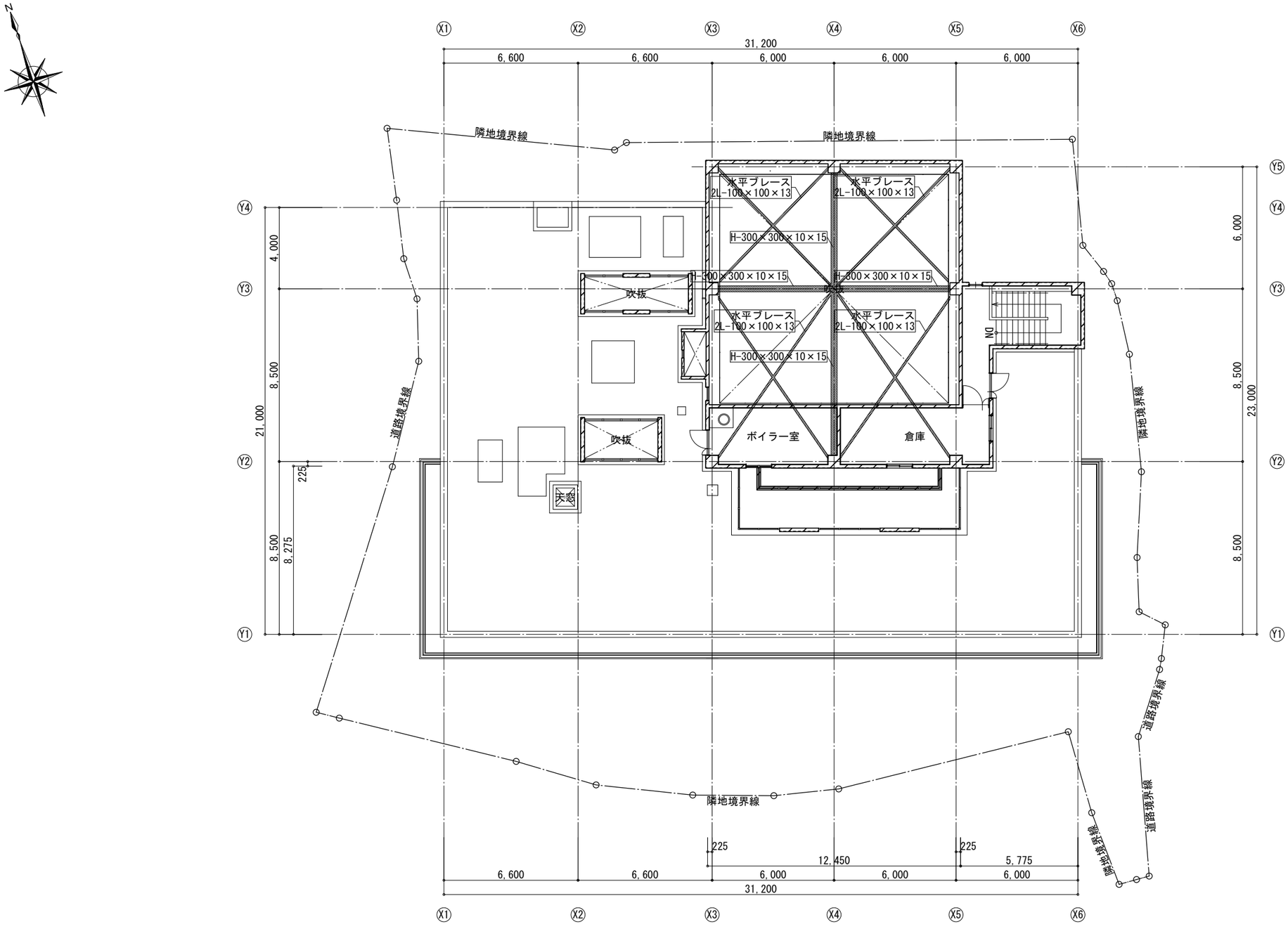
現況２階平面図　1/150

凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況2階平面図	縮尺：1/150 令和　年　月　日	図面番号：A-17



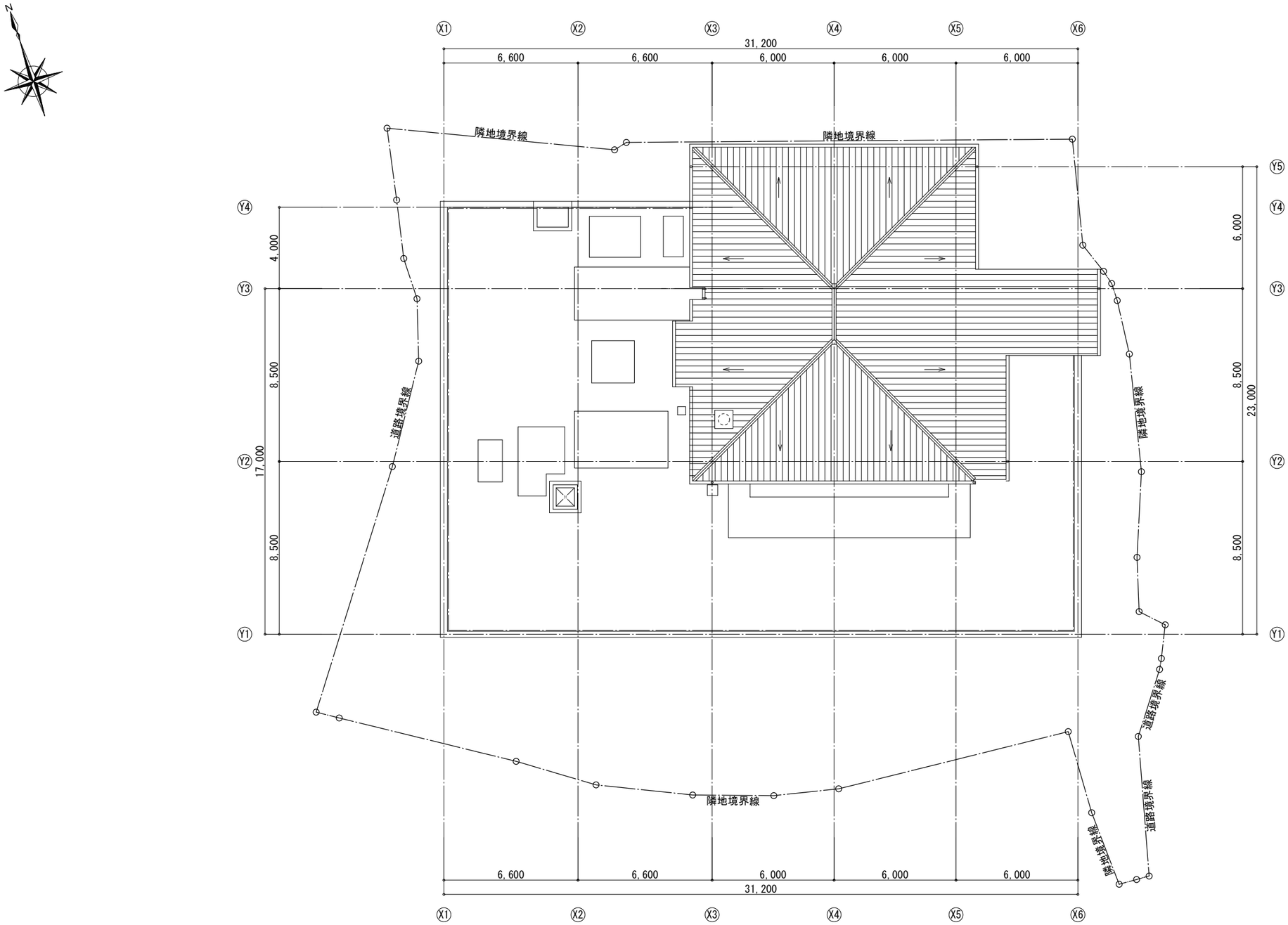
現況３階平面図　1/150

凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 現況3階平面図	縮尺 1/150 令和 年 月 日	図面番号 A-18



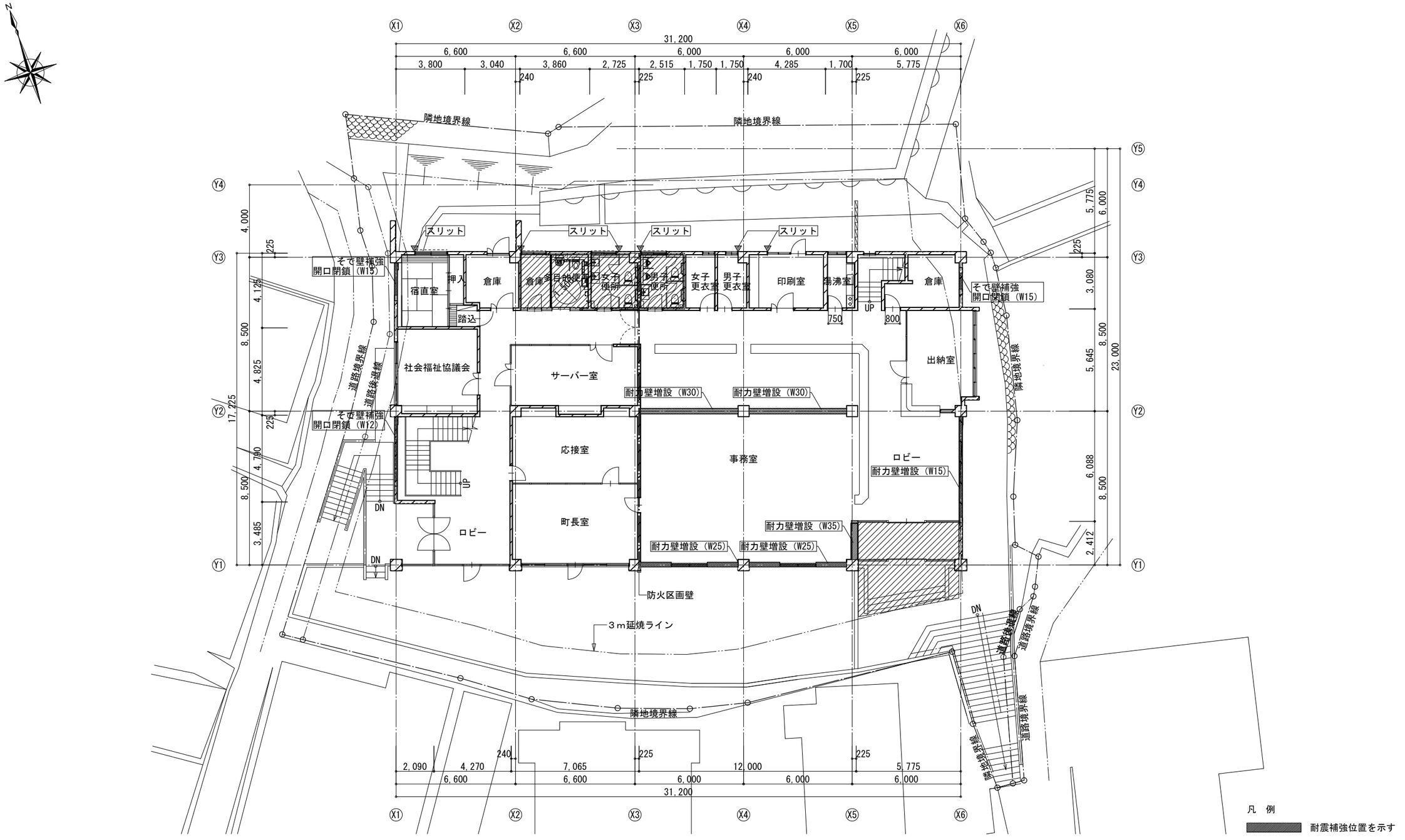
現況屋根伏図　1/150

凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

	株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 現況屋根伏図	縮尺 1/150 令和　年　月　日	図面番号 A-19



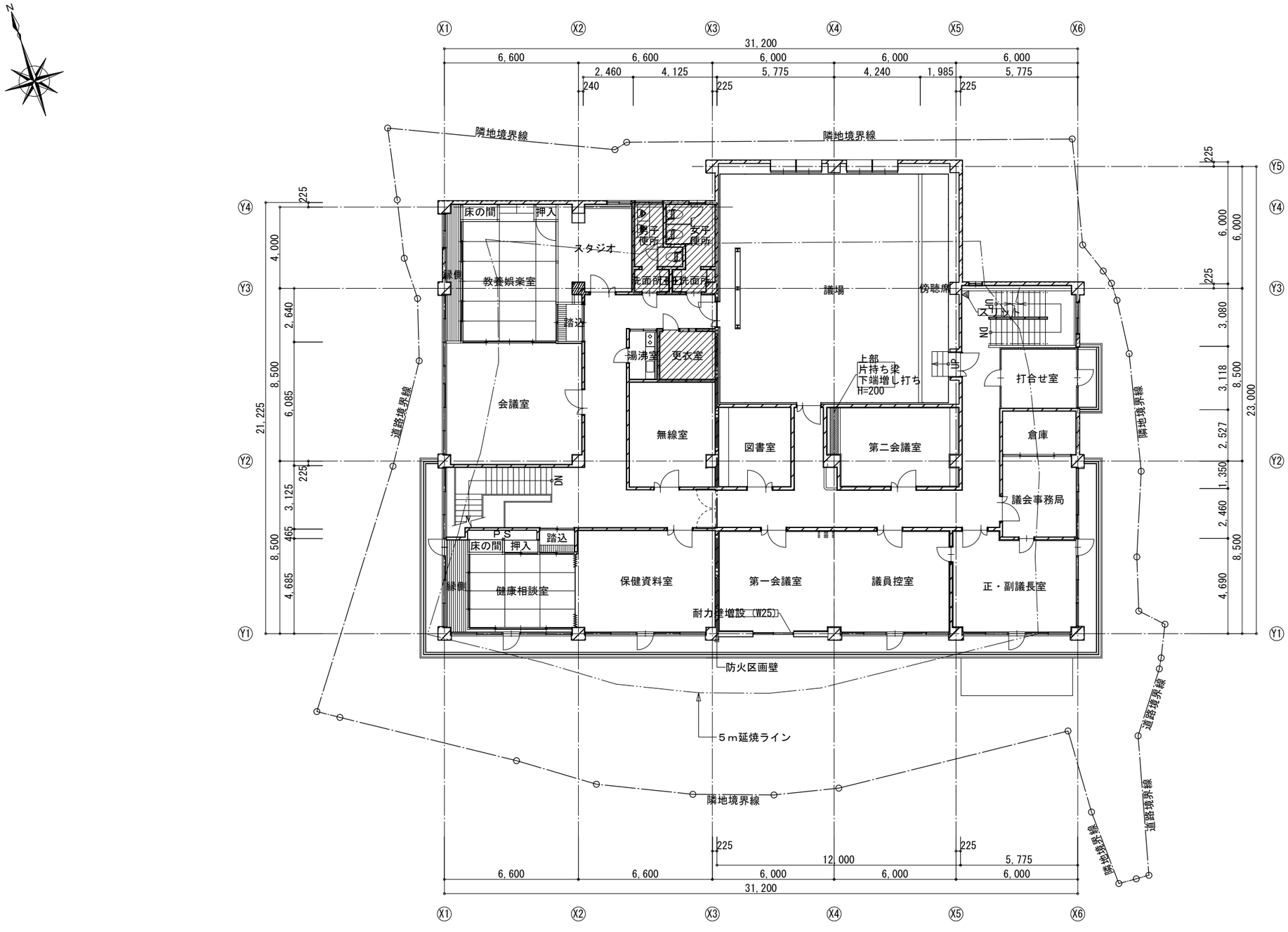
凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

改修１階平面図　1/150

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修1階平面図	縮尺：1/150 令和　年　月　日	図面番号：A-20



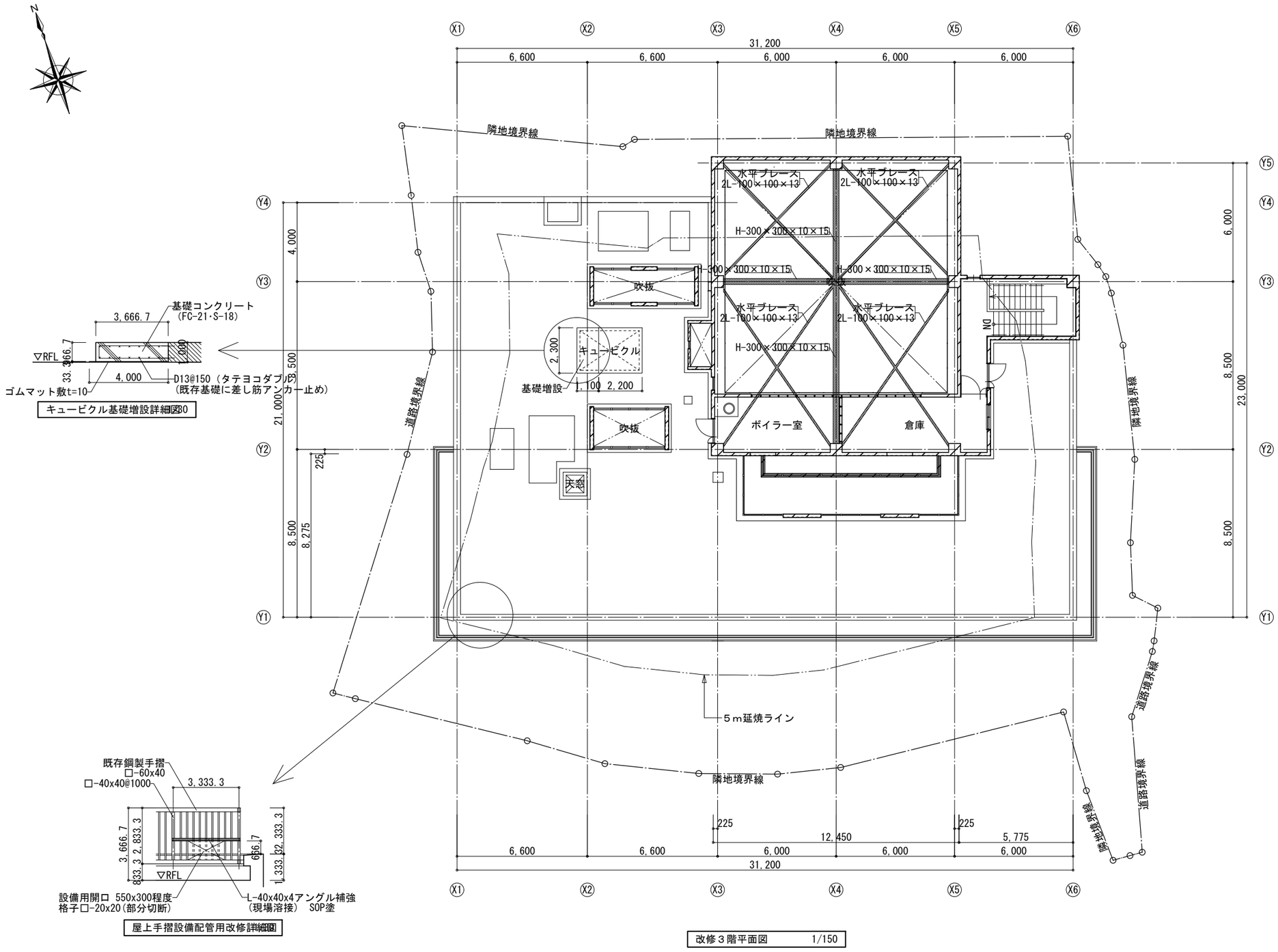
凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

改修２階平面図　1/150

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-21
				図面名 改修2階平面図	令和　年　月　日	



キュービクル基礎増設詳細図30

屋上手摺設備配管用改修詳細図

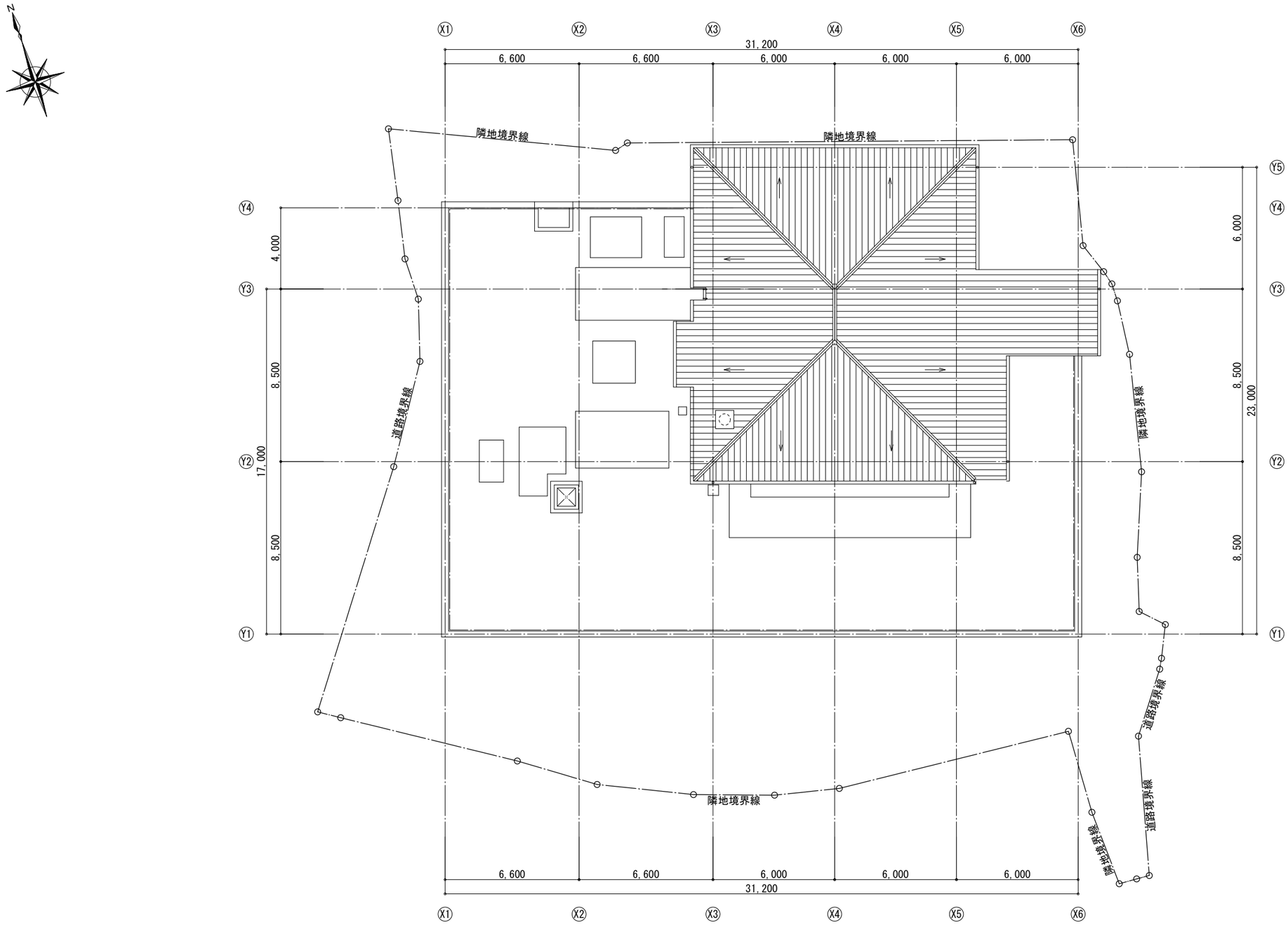
改修３階平面図　1/150

凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-22
				図面名 改修3階平面図	令和 年 月 日	



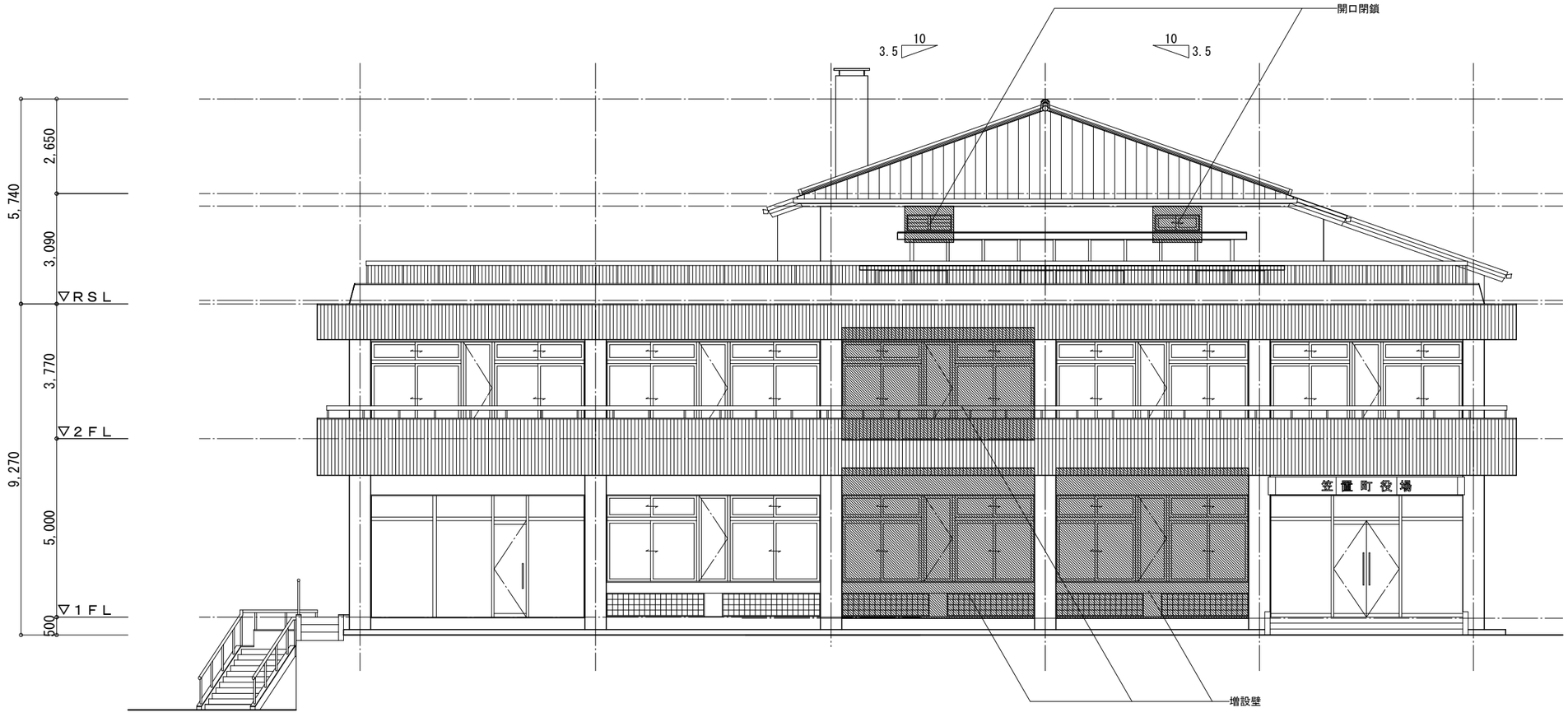
改修屋根伏図　1/150

凡　例

耐震補強位置を示す

改修範囲を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修屋根伏図	縮尺：1/150 令和　年　月　日	図面番号：A-23



南側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

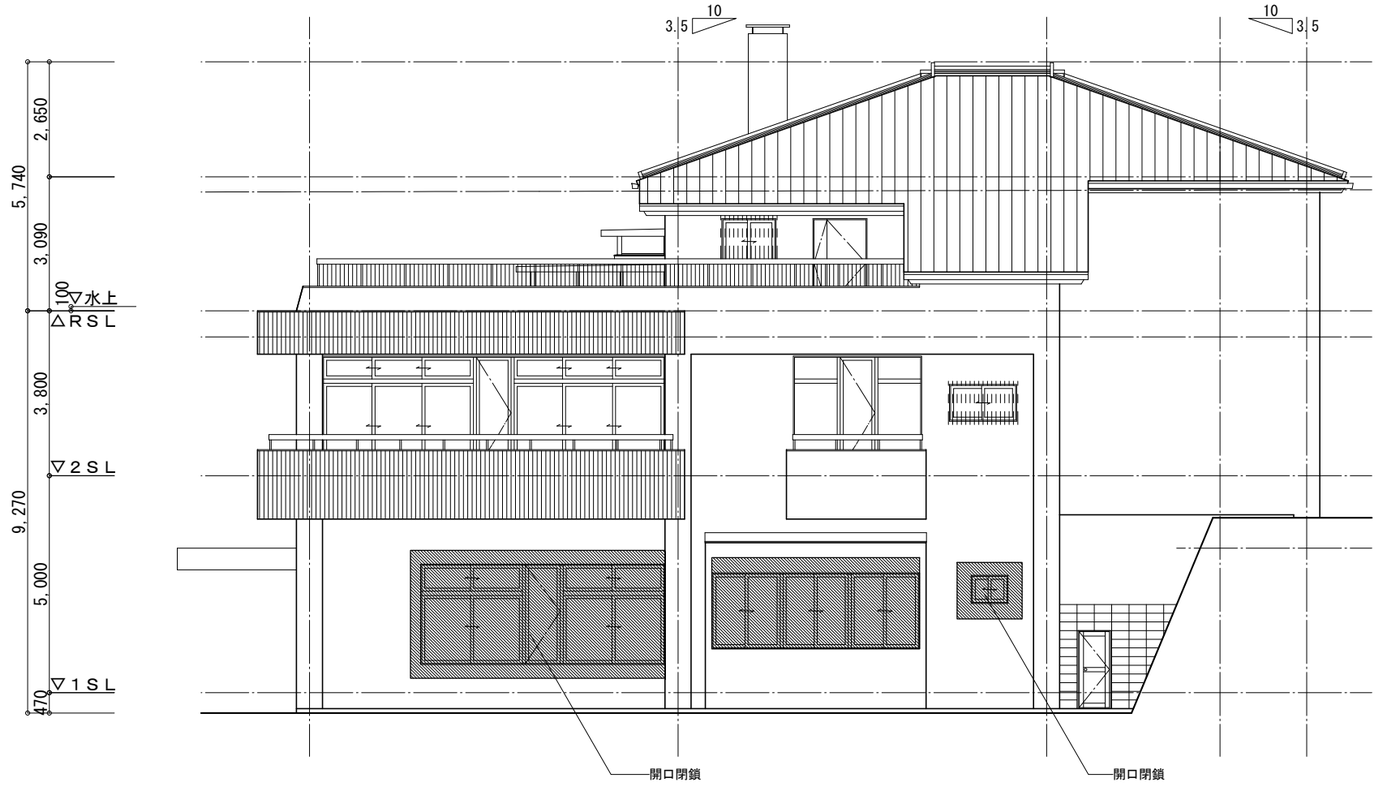
℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 A-24
				図面名 現況立面図（1）	令和　年　月　日	

北側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 A-25
				図面名 現況立面図（2）	令和　年　月　日	



東側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

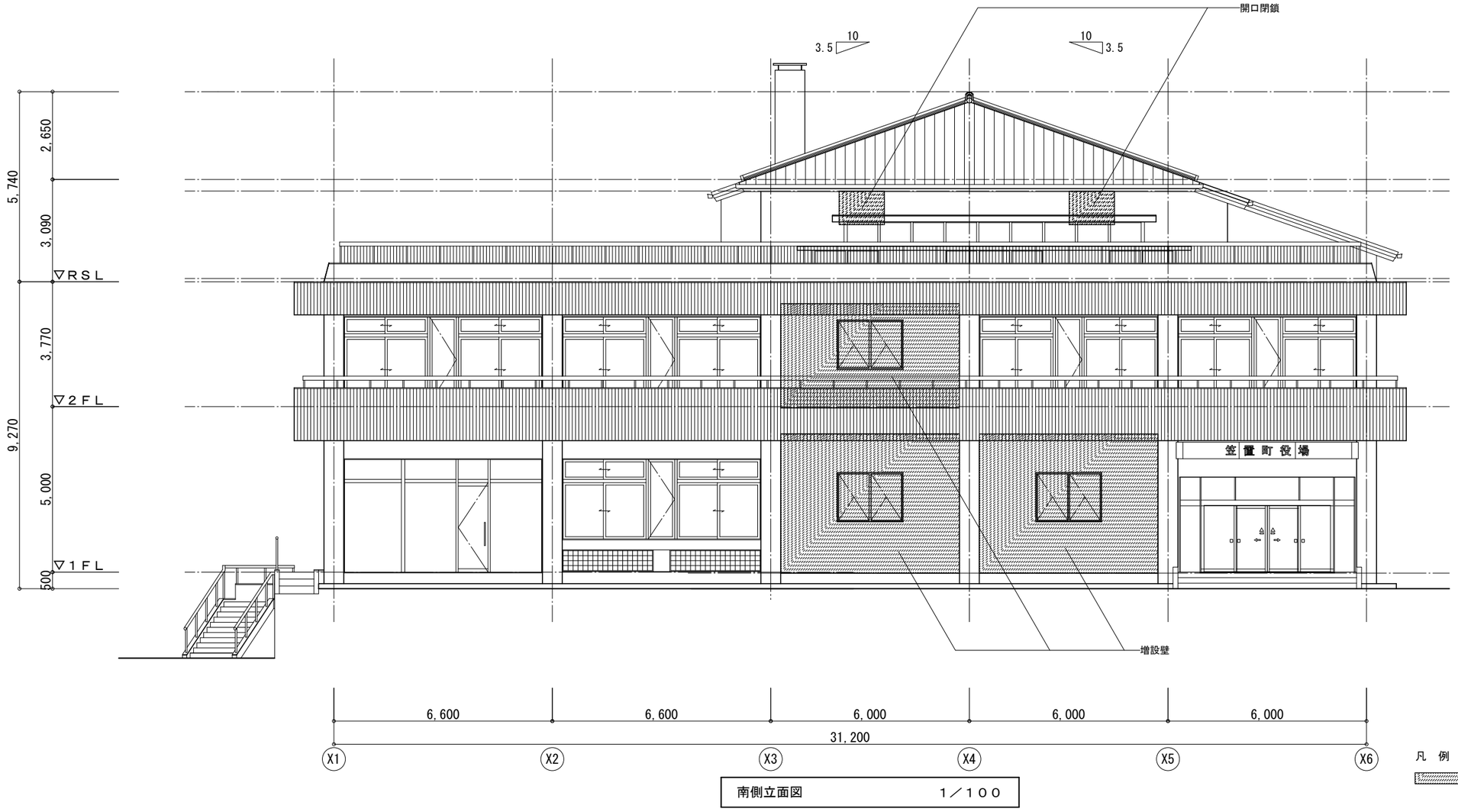
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況立面図（3）	縮尺：1/100 令和　年　月　日	図面番号：A-26

西側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

	％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 A-27
					図面名 現況立面図（4）	令和 年 月 日	



南側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

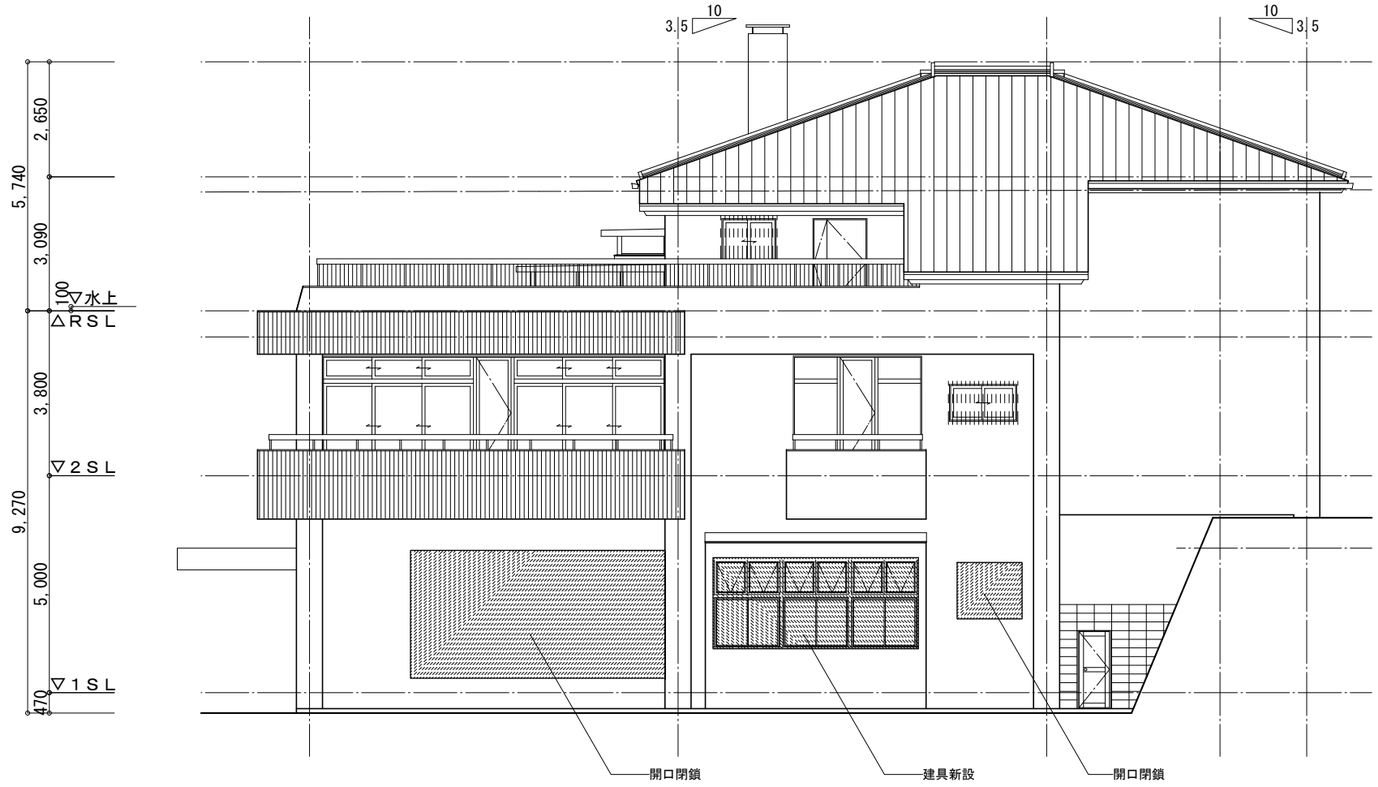
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 A-28
				図面名 改修立面図（1）	令和　年　月　日	

北側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 A-29
				図面名 改修立面図（2）	令和　年　月　日	

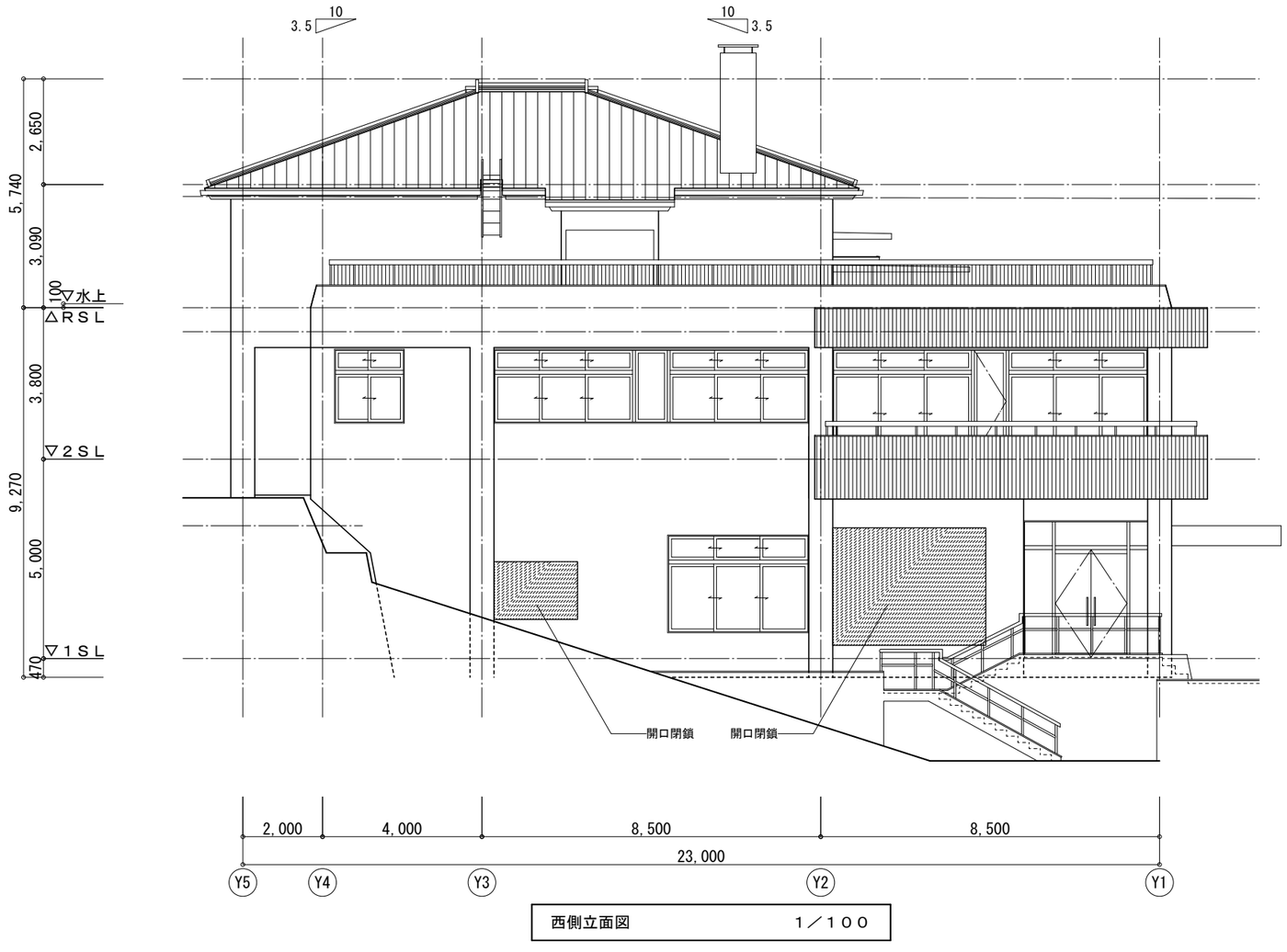


東側立面図　　1／100

凡　例

耐震補強位置を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修立面図（3）	縮尺：1/100 令和　年　月　日	図面番号：A-30

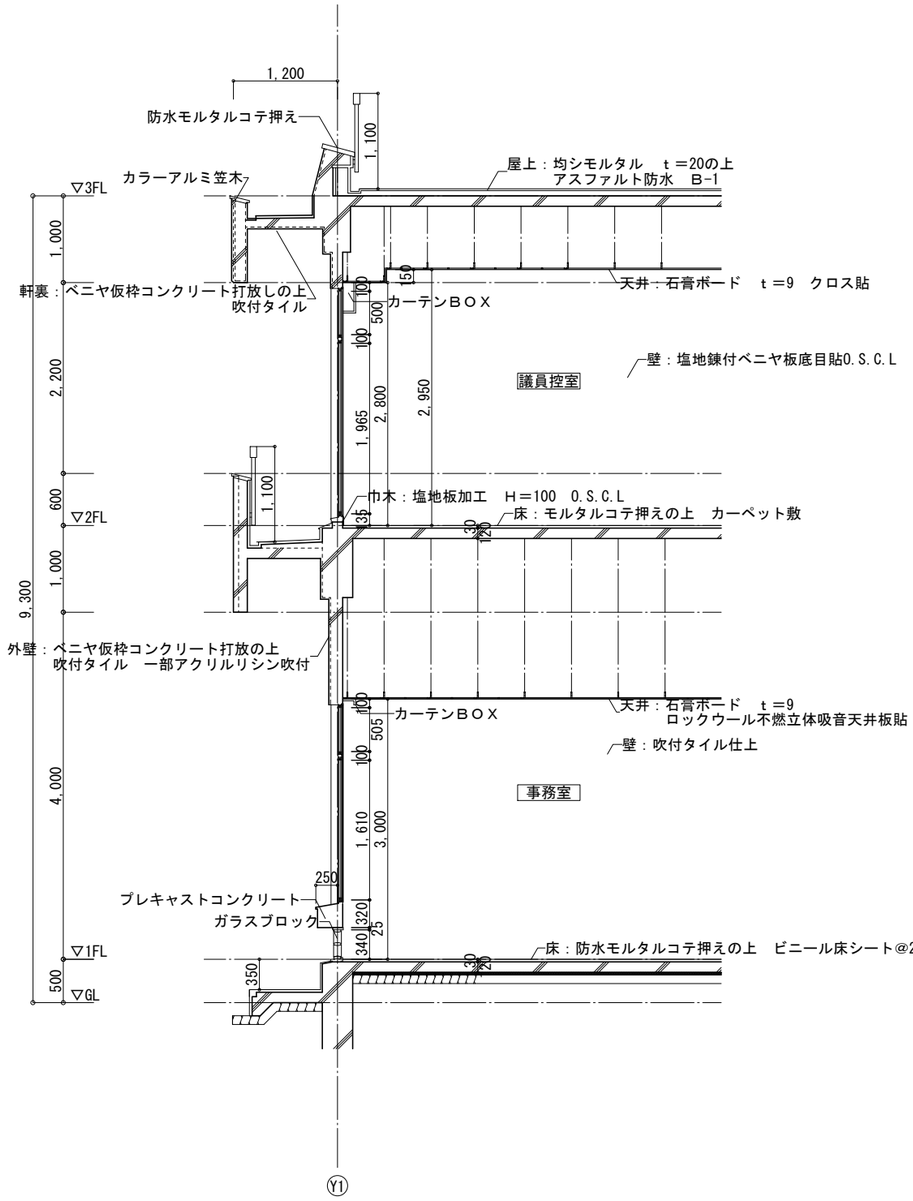


西側立面図　　1／100

凡　例

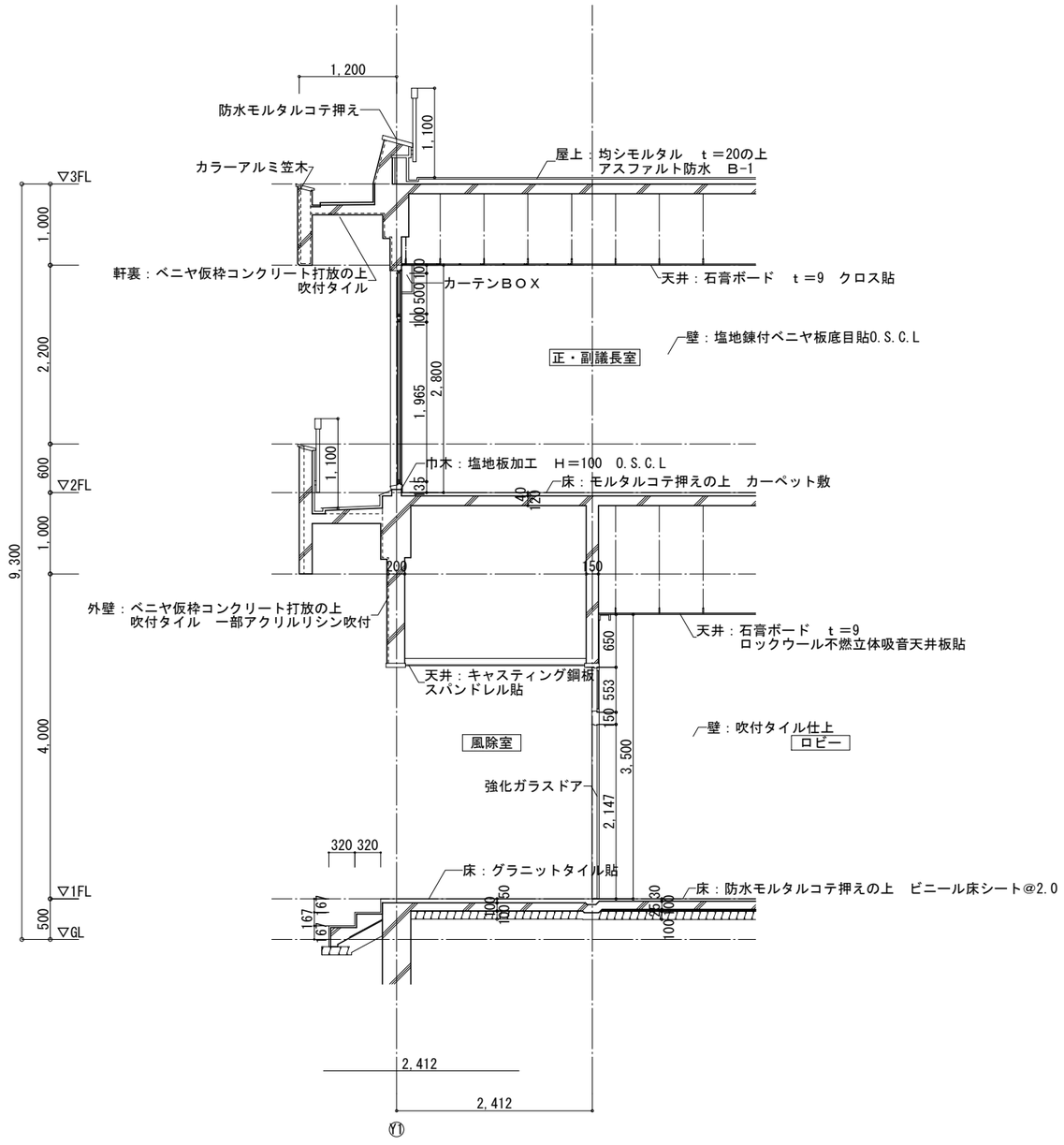
耐震補強位置を示す

％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 改修立面図（4）	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 A-31



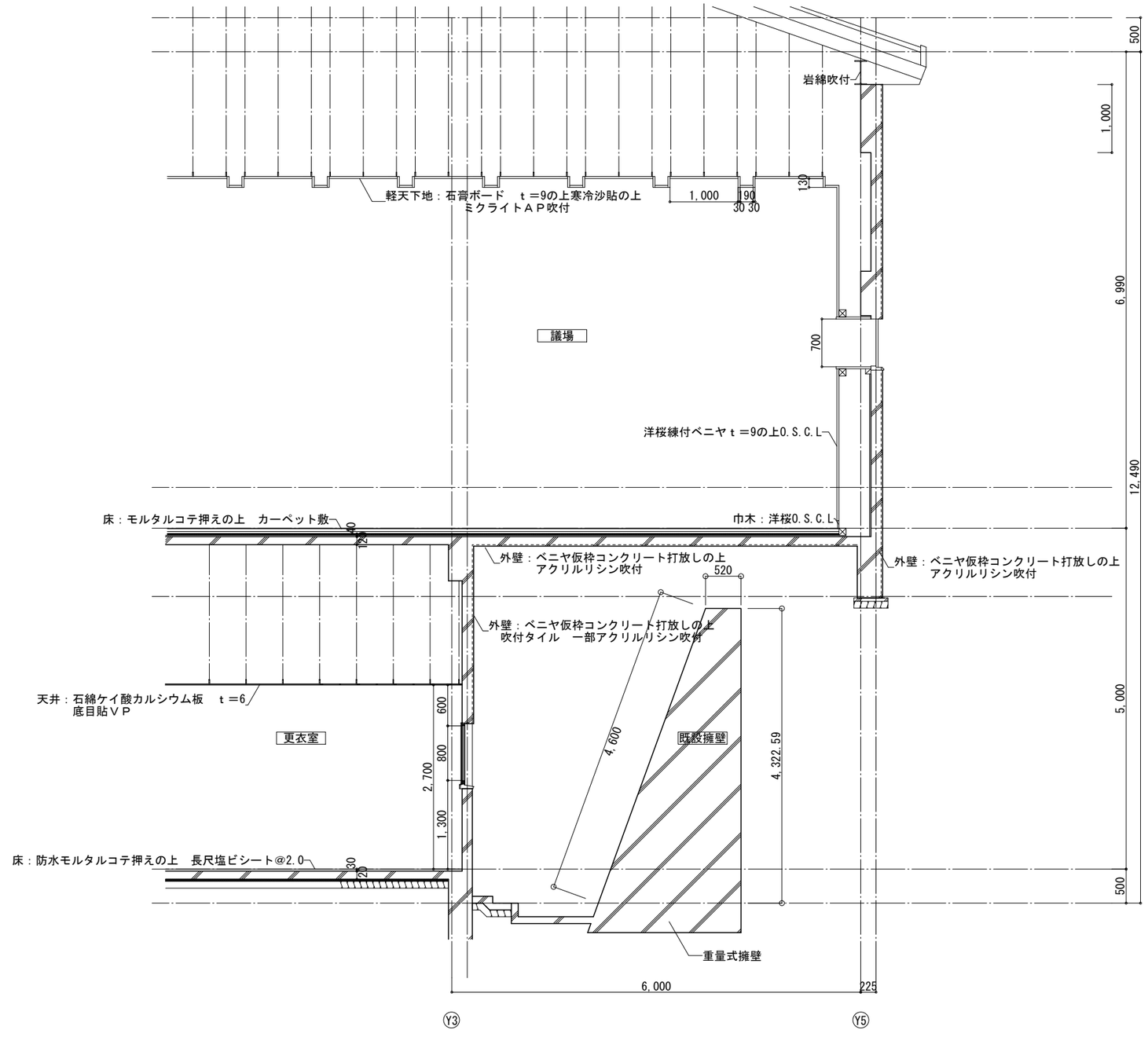
現況矩計図（１）　1/50

	㈱山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況矩計図（1）	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-32



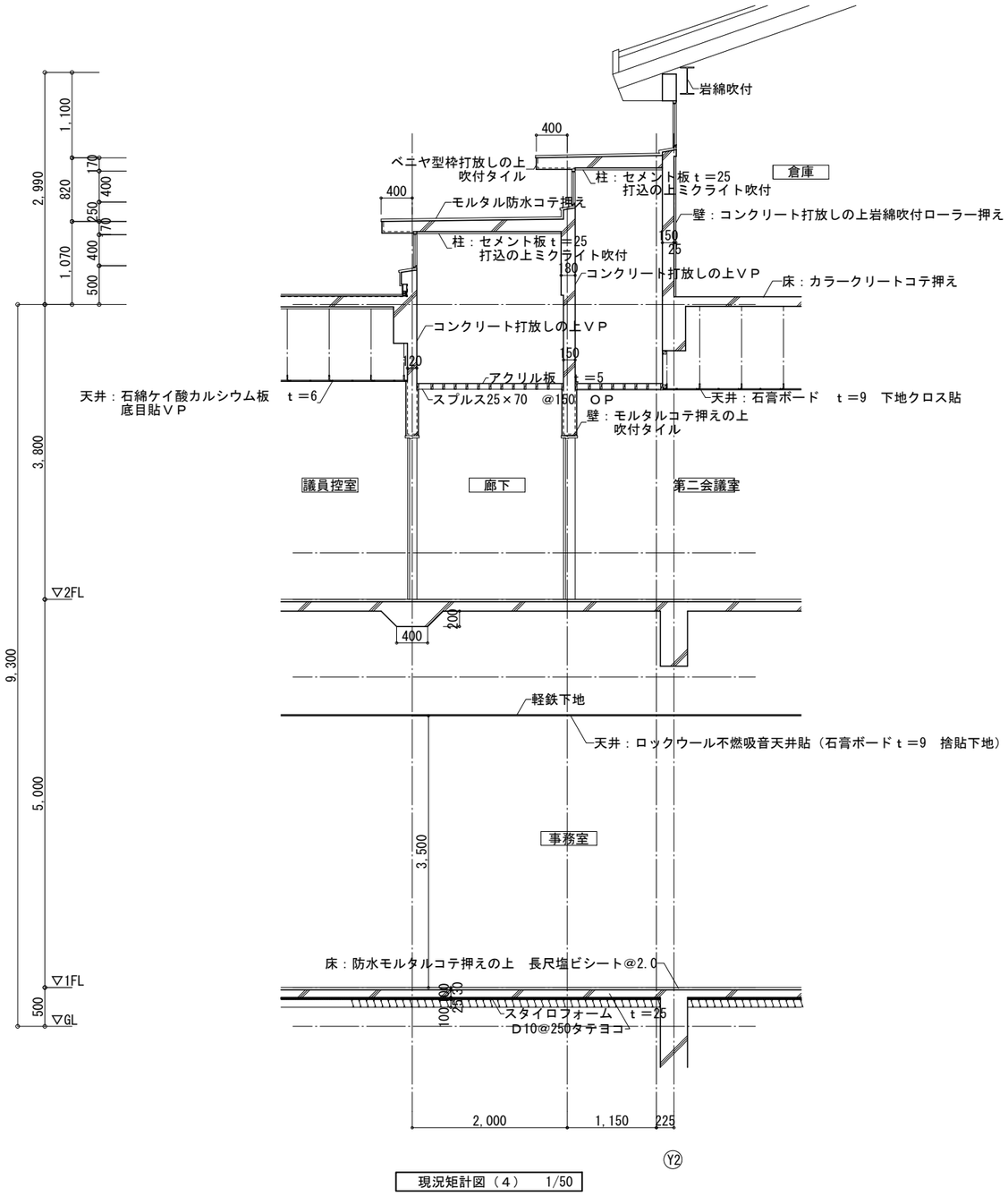
現況矩計図（２）　1/50

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-33
				図面名 現況矩計図（2）	令和　年　月　日	



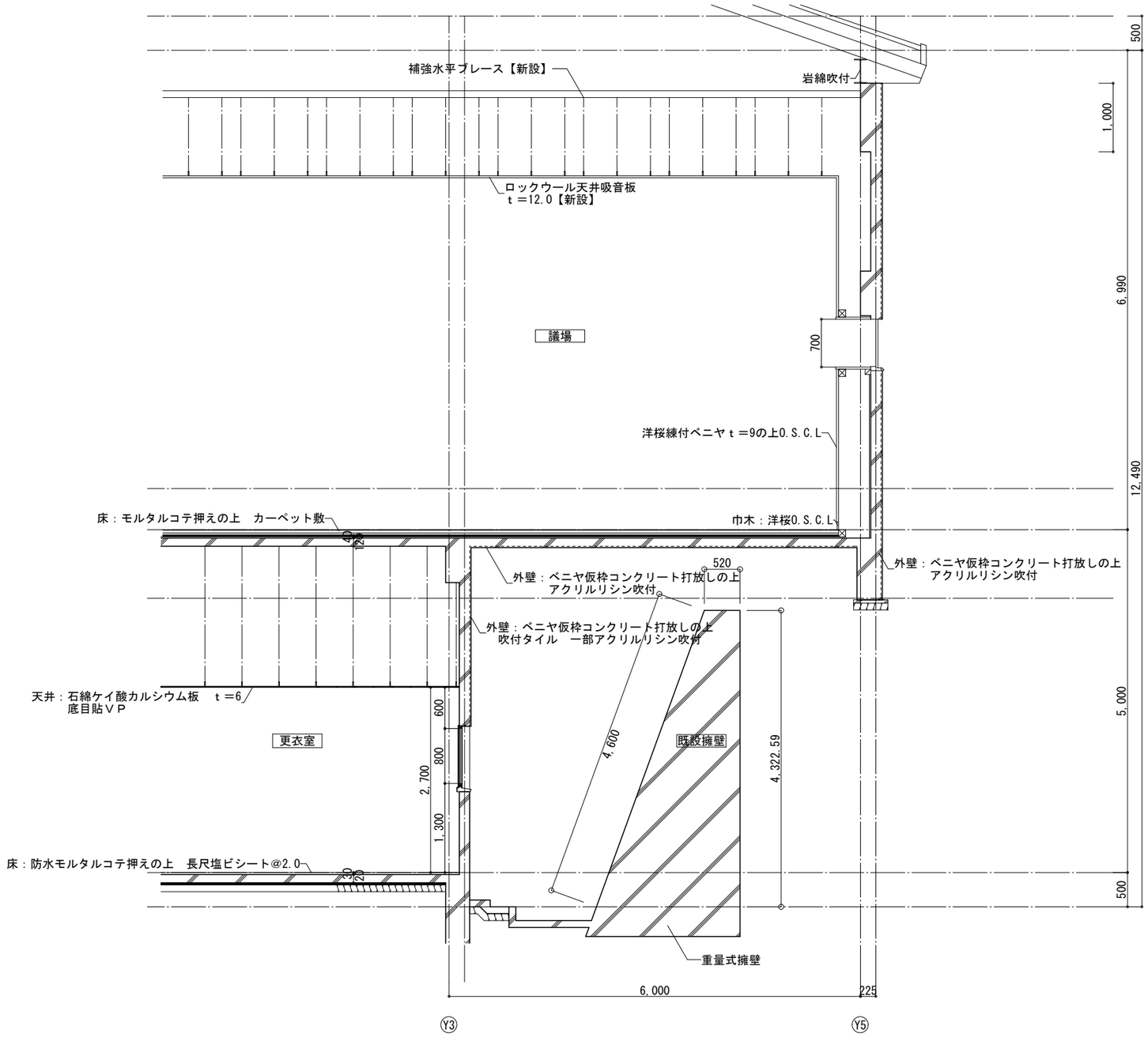
現況矩計図（３）　1/50

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況矩計図（3）	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-34



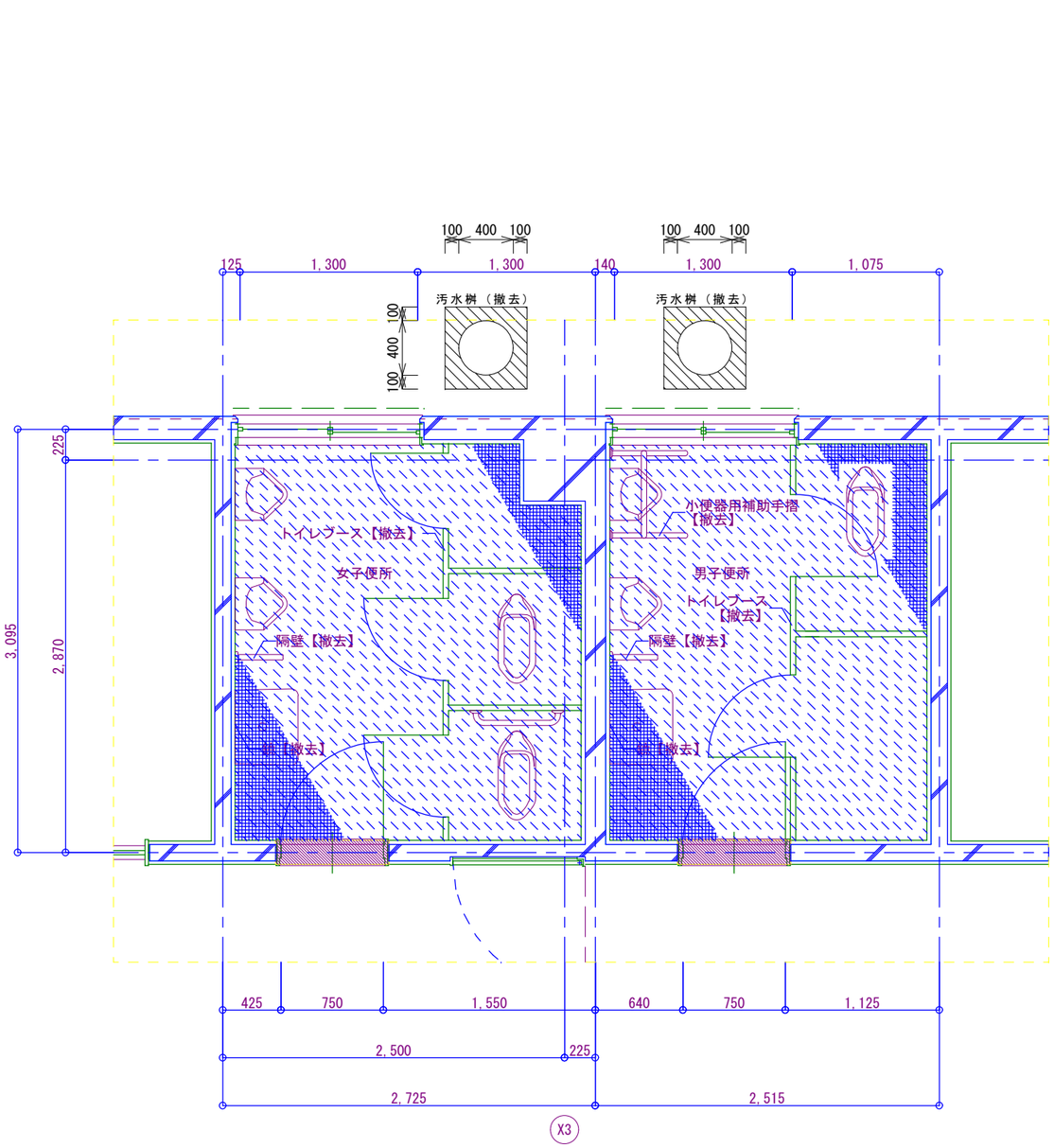
現況矩計図（４）　1/50

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名	笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺	1/50	図面番号	A-35
				図面名	現況矩計図（4）	令和　年　月　日			



改修矩計図（３）　1/50

℅ 株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-36
				図面名 改修矩計図（1）	令和　年　月　日	

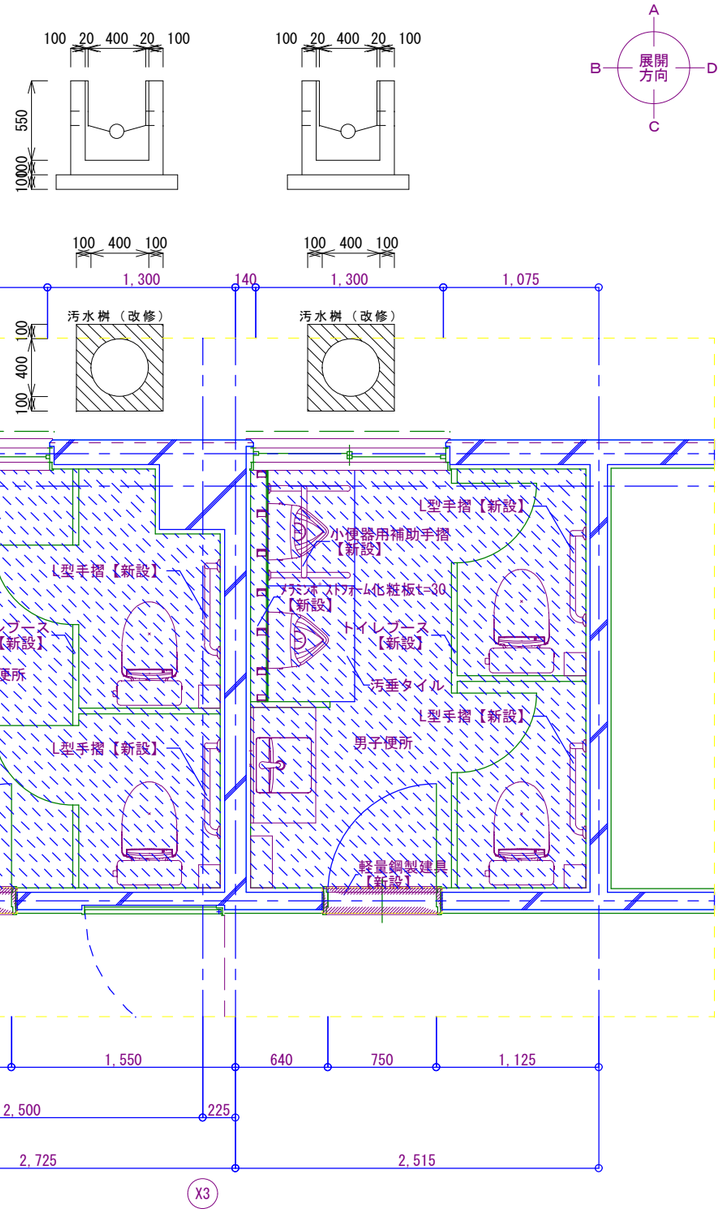


凡　例

撤去部分を示す

コンクリート土間撤去範囲を示す
（t=100・D10@250シングル）
端部鉄筋を500mm以上残す

現況１階男女便所平面詳細図　１／３０



凡　例

改修部分を示す

コンクリート土間新設範囲を示す
（t=120・D10@250シングル）
既存端部鉄筋に定着

改修1階男女便所平面詳細図　１／３０

※仕上材は抗菌仕様とする

１階便所　改修仕上表	
床	モルタル金こて押えの上 ビニール床シート貼　t2
巾木	ビニール巾木　H60
壁	モルタル金こて押えの上　EP-G塗
天井	化粧ケイ酸カルシウム板　t6
備考	ライニング、汚垂タイル トイレブース、樹脂被覆補助手摺

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

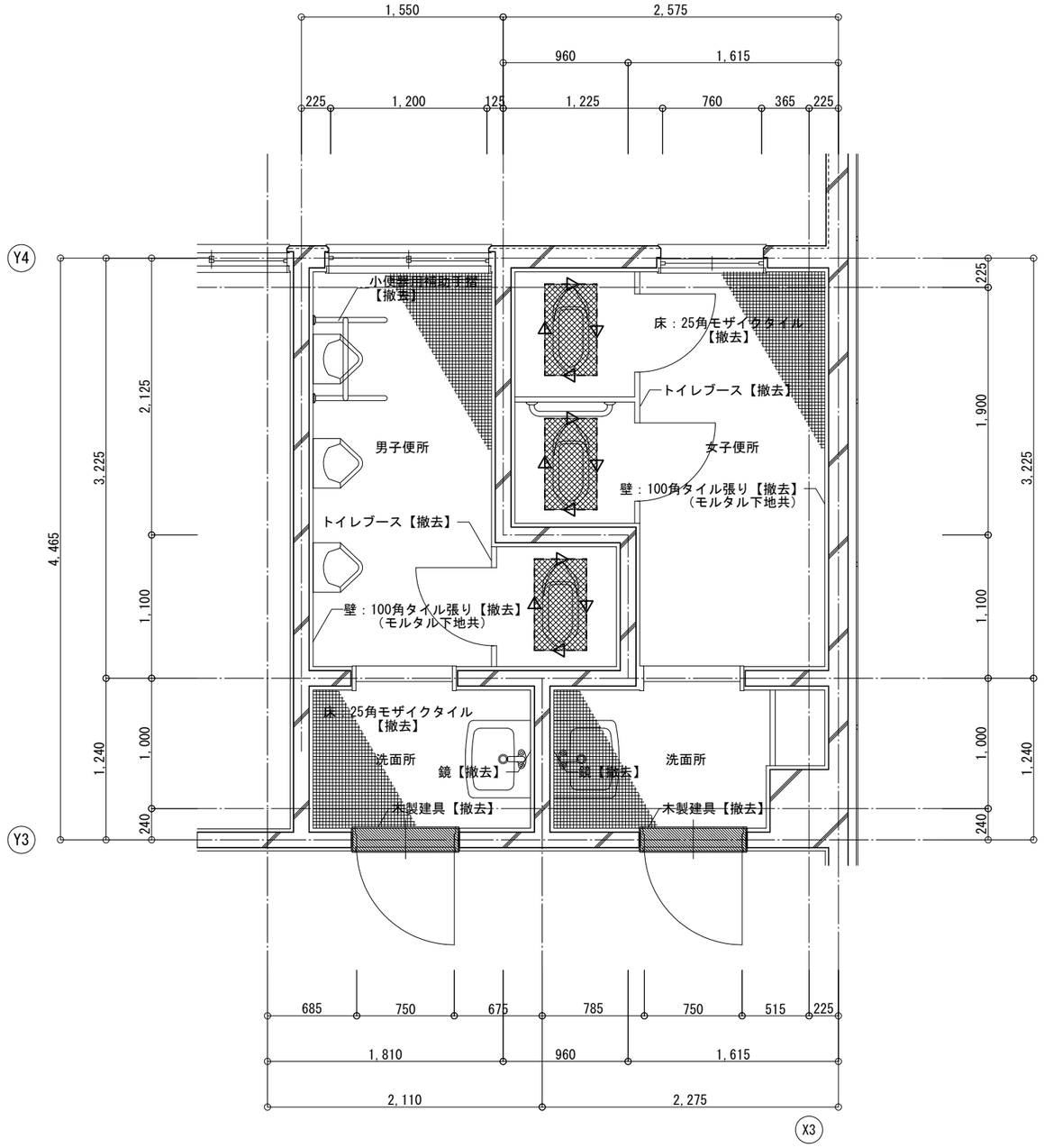
工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

図面名　現況改修1階男女便所平面詳細図

縮尺　1/30

令和　年　月　日

図面番号　A-37



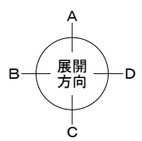
凡　例

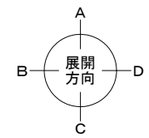
撤去部分を示す

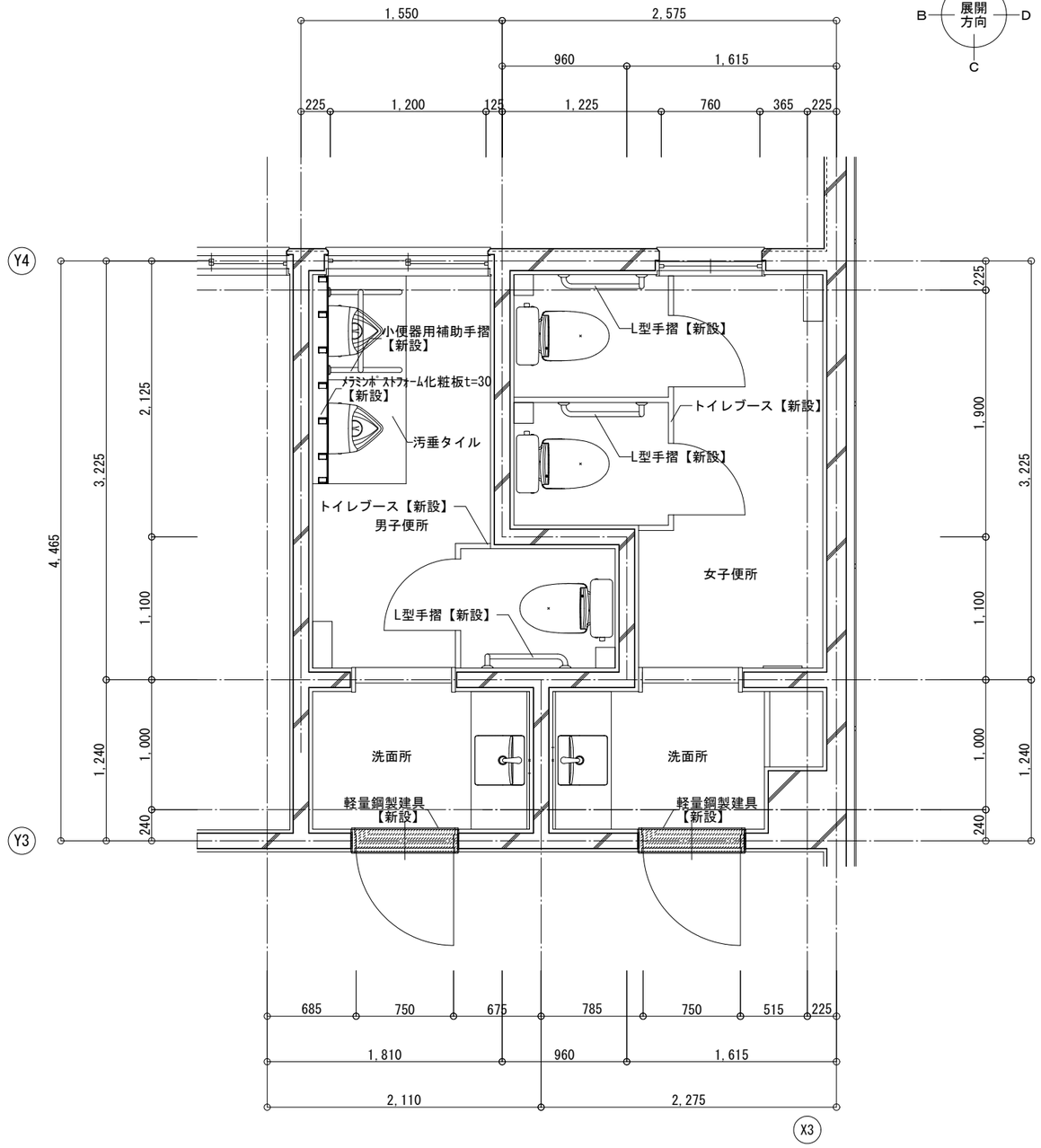
コンクリート土間撤去部分を示す

カッター切りを示す

現況２階男女便所平面詳細図　１／３０







凡　例

改修部分を示す

改修２階男女便所平面詳細図　１／３０

※仕上材は抗菌仕様とする

２階便所　改修仕上表	
床	モルタル金こて押えの上 ビニール床シート貼　t2
巾木	ビニール巾木　H60
壁	モルタル金こて押えの上　EP-G塗
天井	化粧ケイ酸カルシウム板　t6
備考	ライニング、汚垂タイル トイレブース、樹脂被覆補助手摺

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

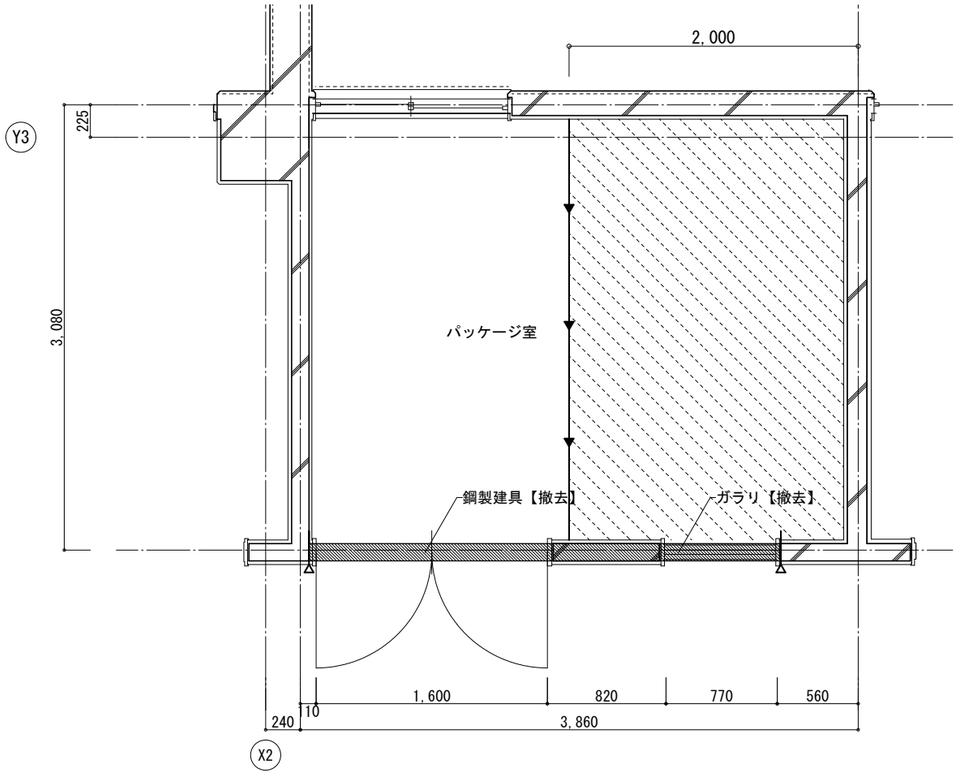
工事名：笠置町庁舎耐震補強工事

図面名：現況改修２階男女便所平面詳細図

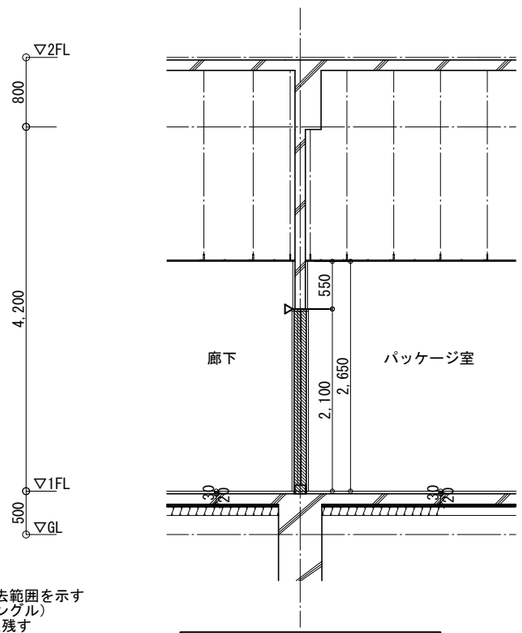
縮尺：1/30

令和　年　月　日

図面番号：A-38



現況平面詳細図　　1／３０



現況断面図　　1／５０

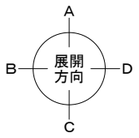
凡　例

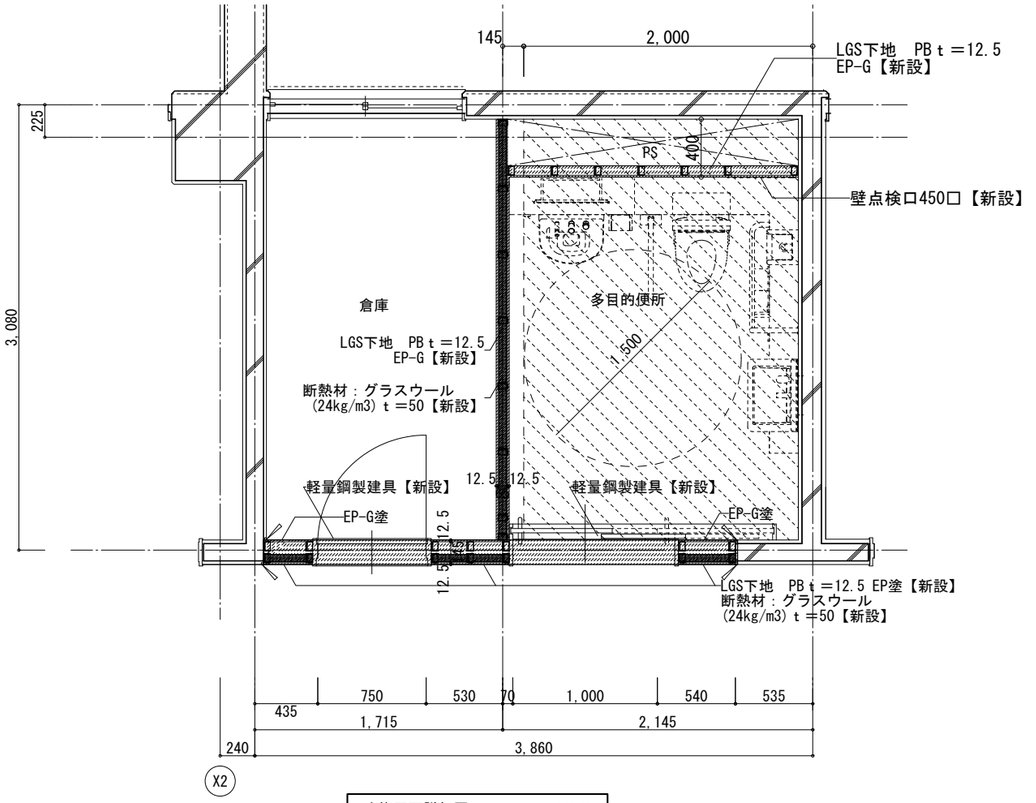
撤去部分を示す

コンクリート土間撤去範囲を示す
（t=100・D10@250シングル）
端部鉄筋を500㎜以上残す

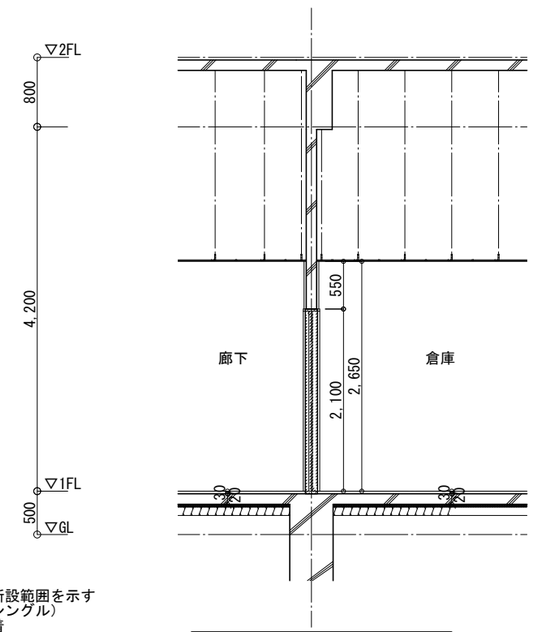
▼　コンクリートカッターを示す

▽　モルタルカッターを示す





改修平面詳細図　　1／３０



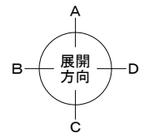
改修断面図　　1／５０

凡　例

改修部分を示す

コンクリート土間新設範囲を示す
（t=120・D10@250シングル）
既存端部鉄筋に定着

／　シーリングを示す



株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

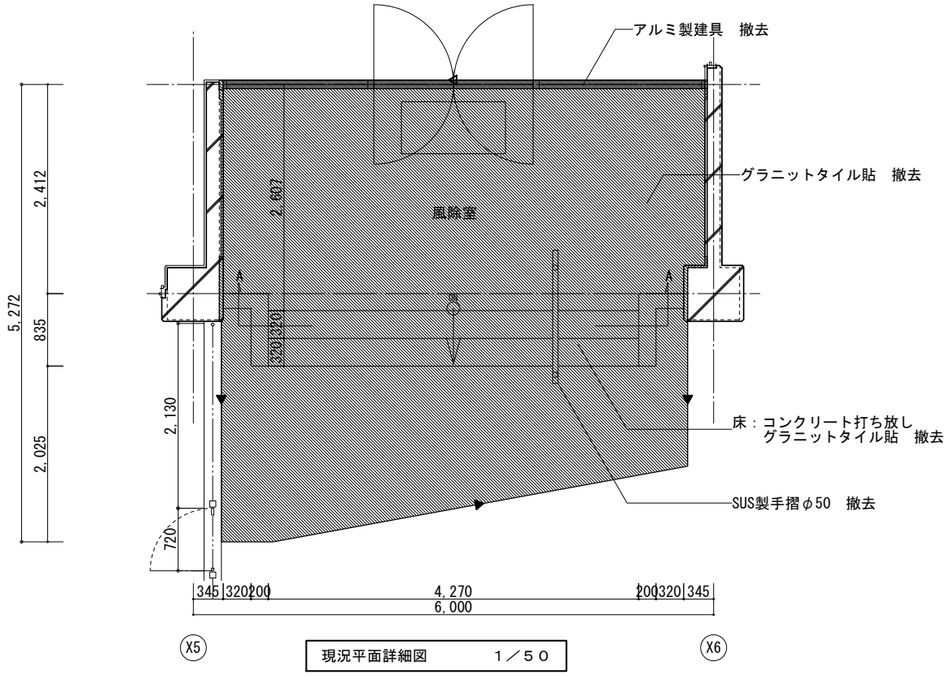
工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

図面名　現況改修１階パッケージ室詳細図

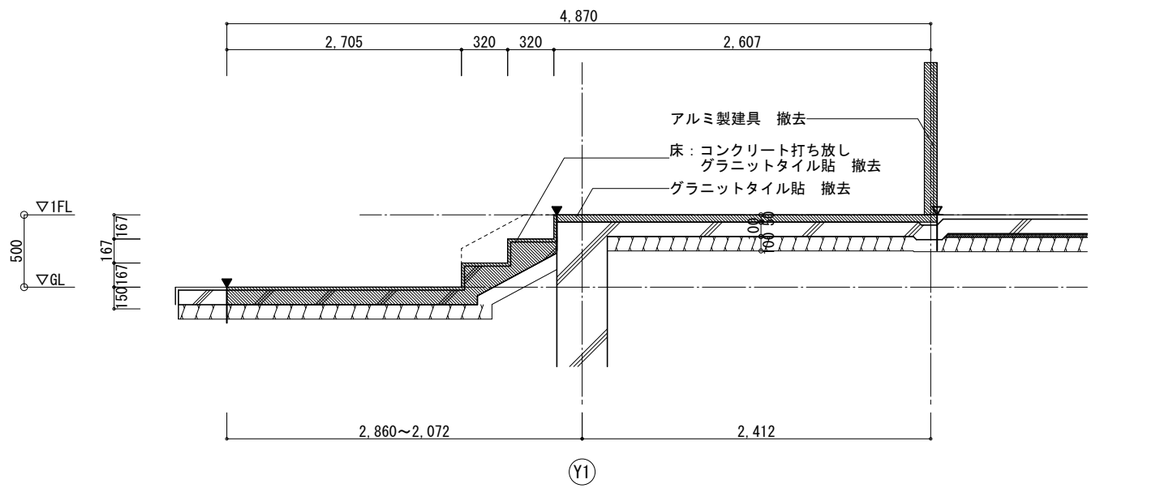
縮尺　1/30・1/50

令和　年　月　日

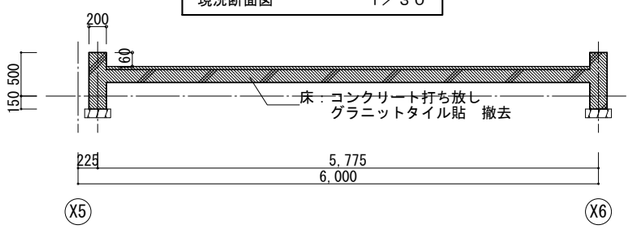
図面番号　A-39



現況平面詳細図　　1／５０



現況断面図　　1／３０



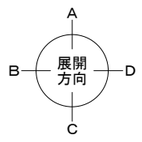
現況A-A間断面図　　1／５０

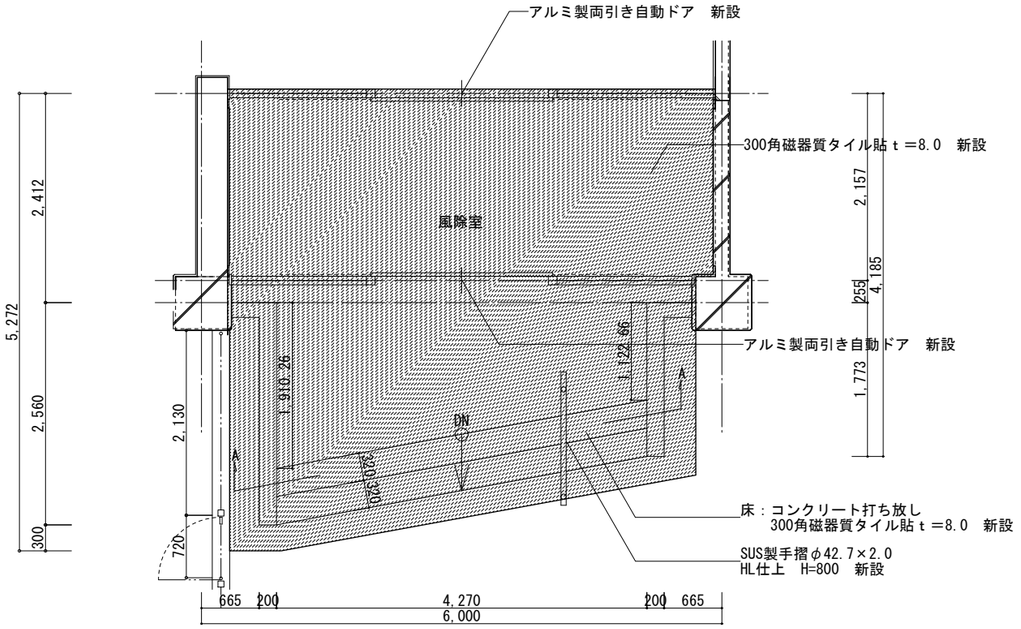
凡　例

撤去部分を示す

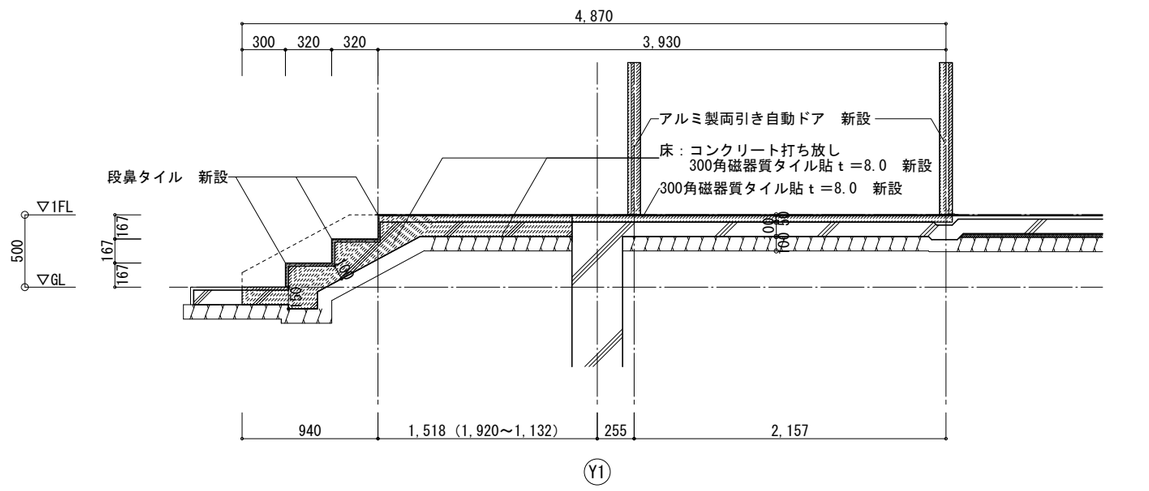
▼　コンクリートカッターを示す

▽　モルタルカッターを示す

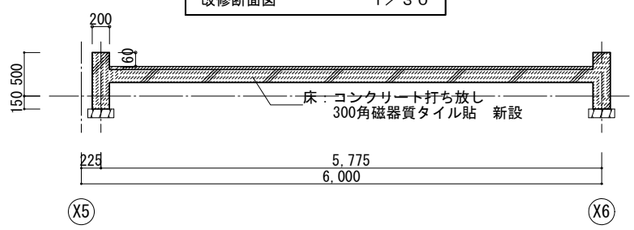




改修平面詳細図　　1／５０



改修断面図　　1／３０

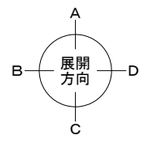


改修A-A間断面図　　1／５０

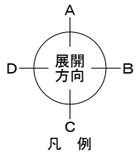
凡　例

改修部分を示す

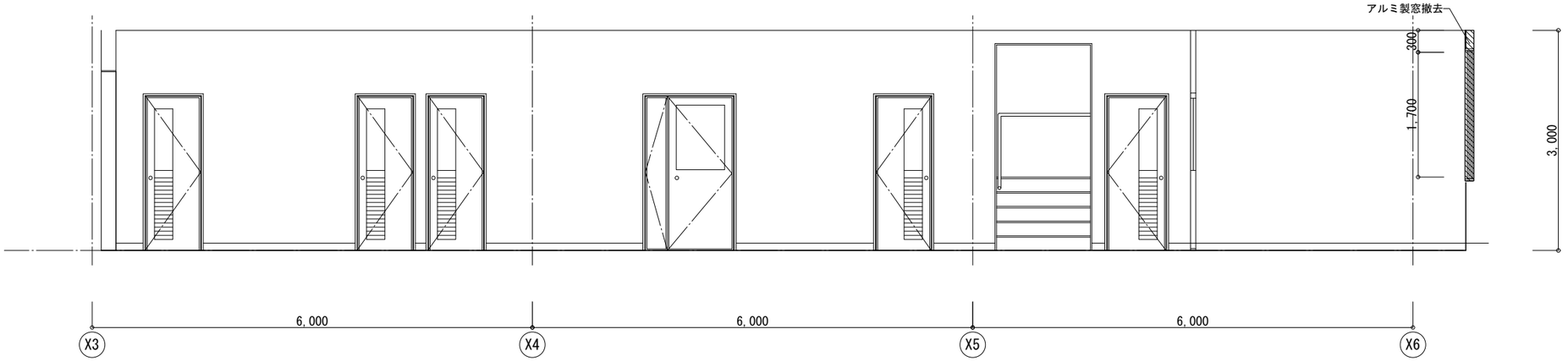
シーリングを示す



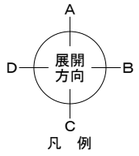
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修１階風除室詳細図	縮尺：1/30・1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-40



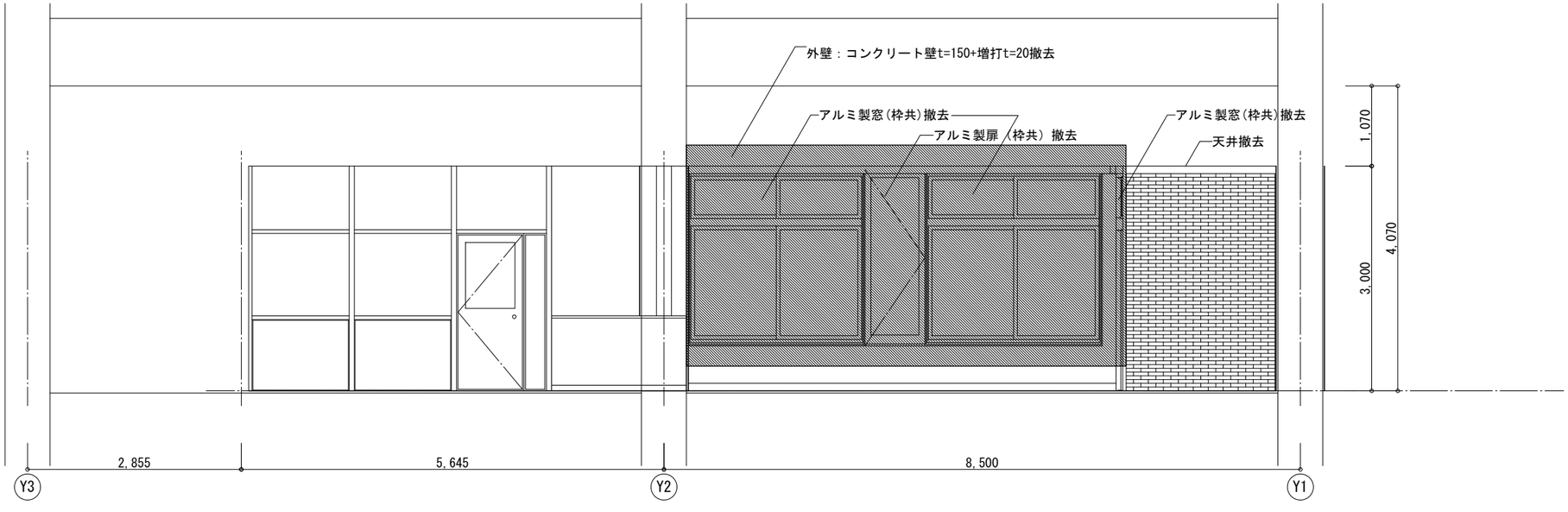
凡　例



A面



凡　例

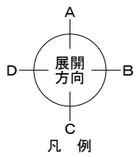


B面

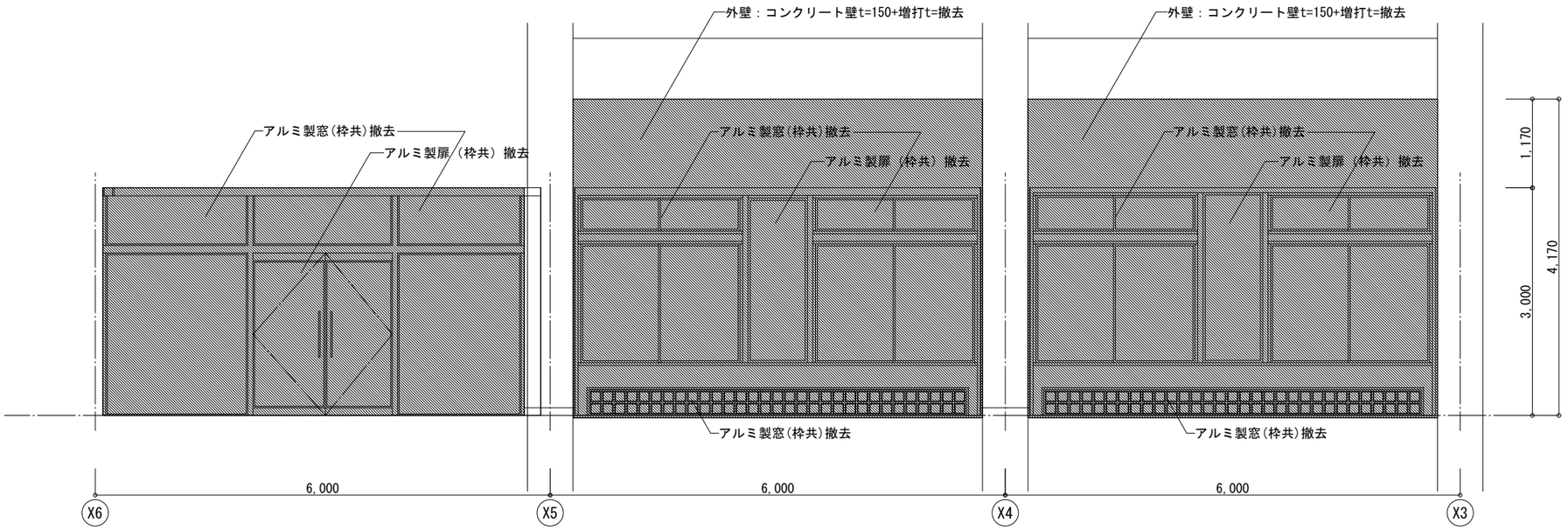
凡　例

撤去部分を示す

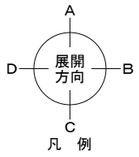
％ 株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 現況事務室展開図（1）	縮尺 1/50 令和　年　月　日	図面番号 A-41



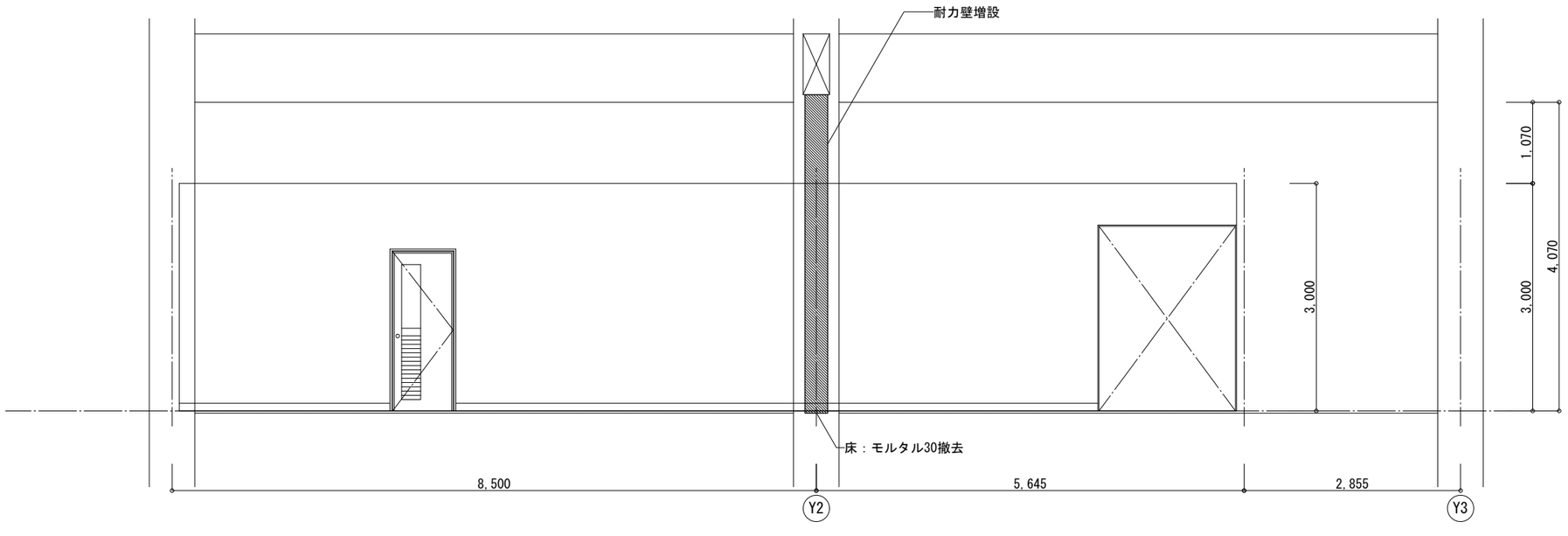
凡　例



C面



凡　例

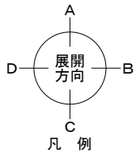


D面

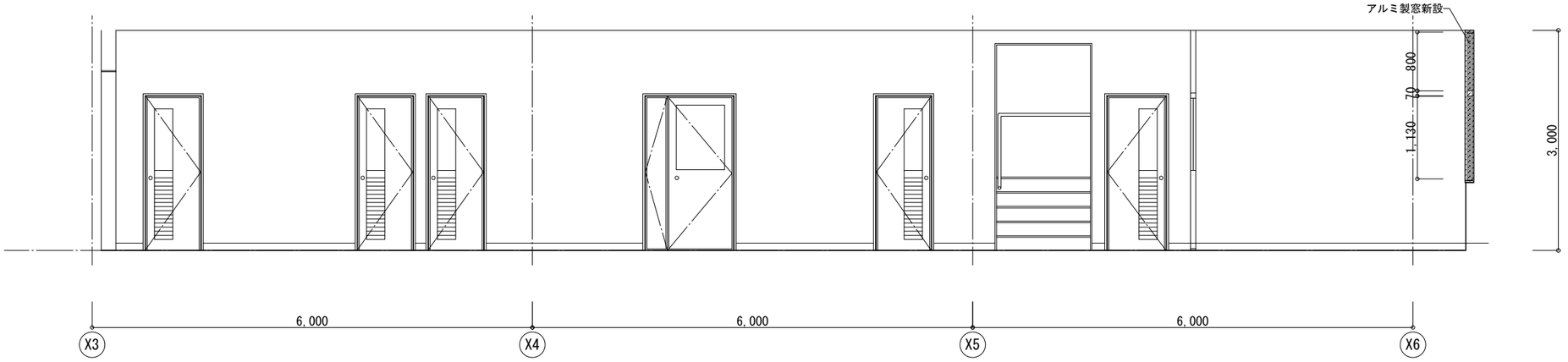
凡　例

撤去部分を示す

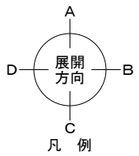
	％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 現況事務室展開図（２）	縮尺 1/50 令和 年 月 日	図面番号 A-42



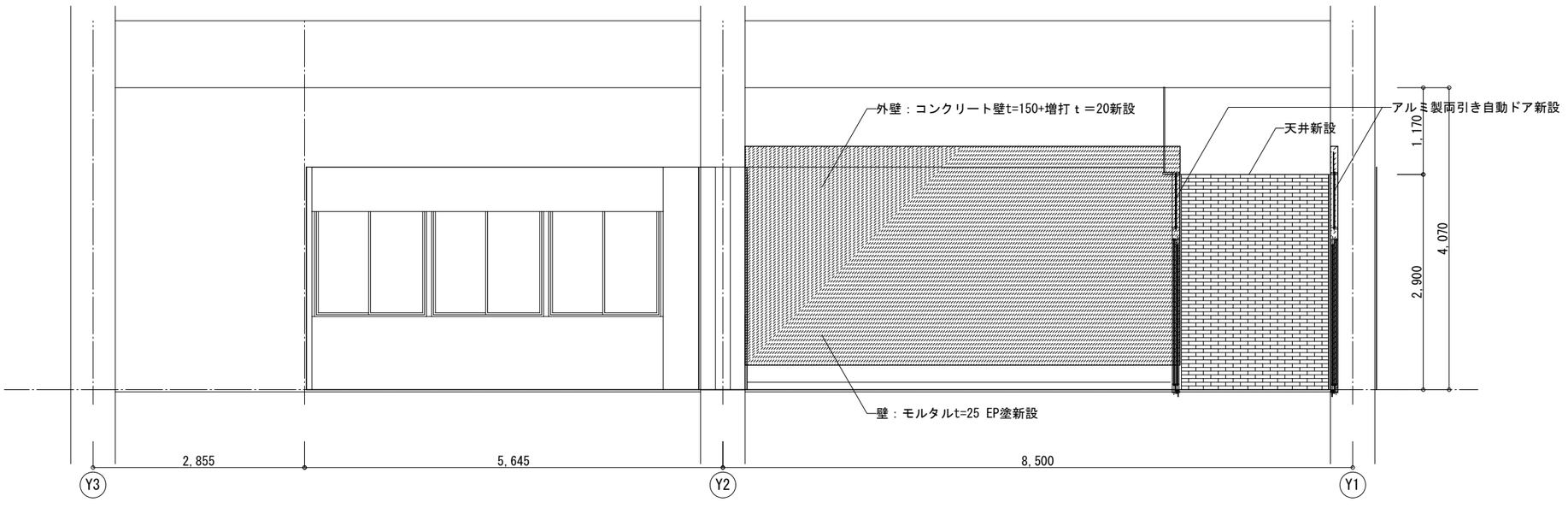
凡　例



A面



凡　例

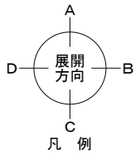


B面

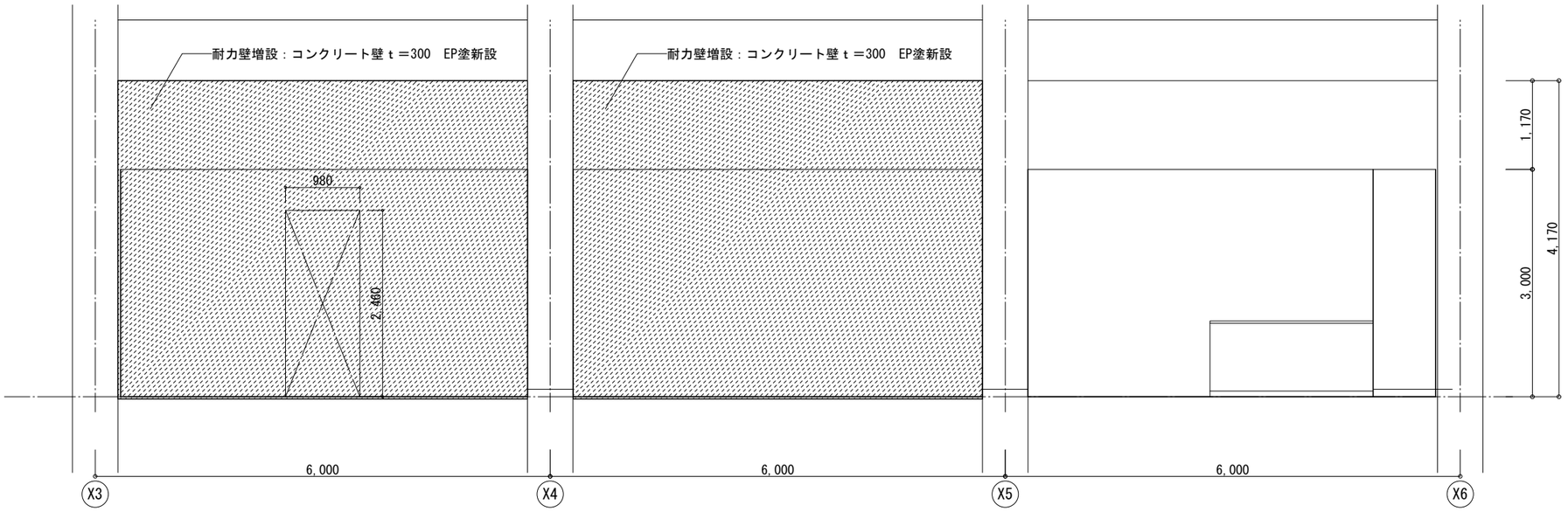
凡　例

改修部分を示す

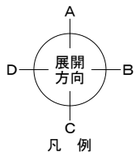
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修事務室展開図（1）	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-43



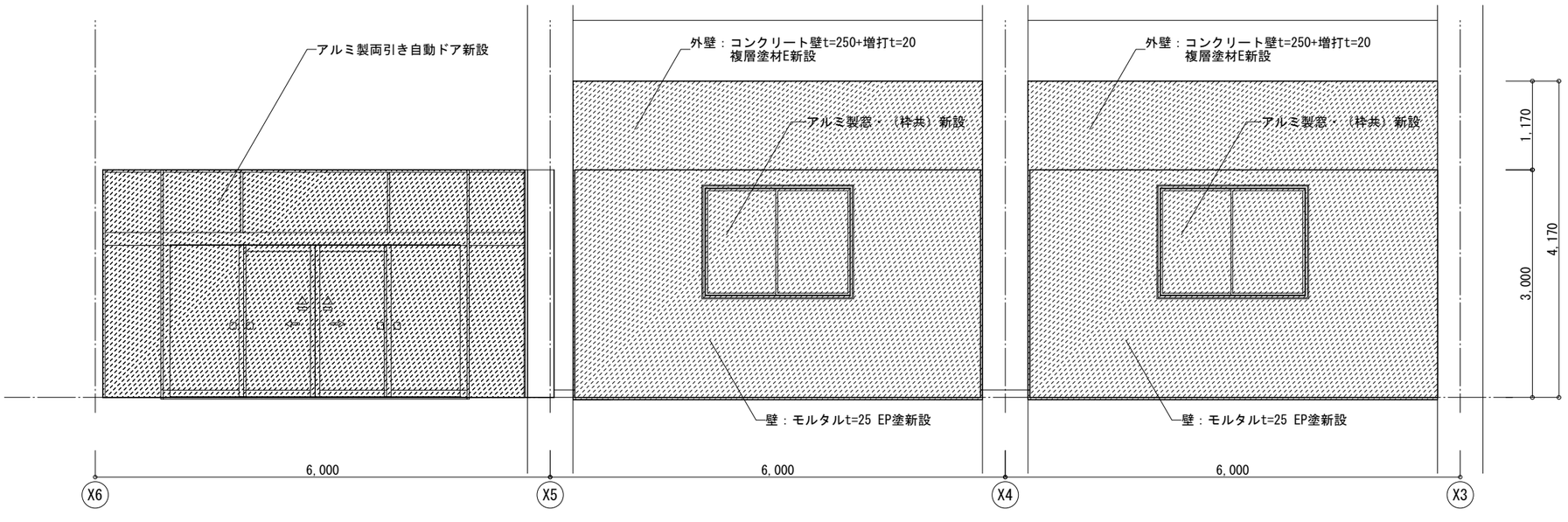
凡　例



C面



凡　例

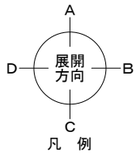


C面

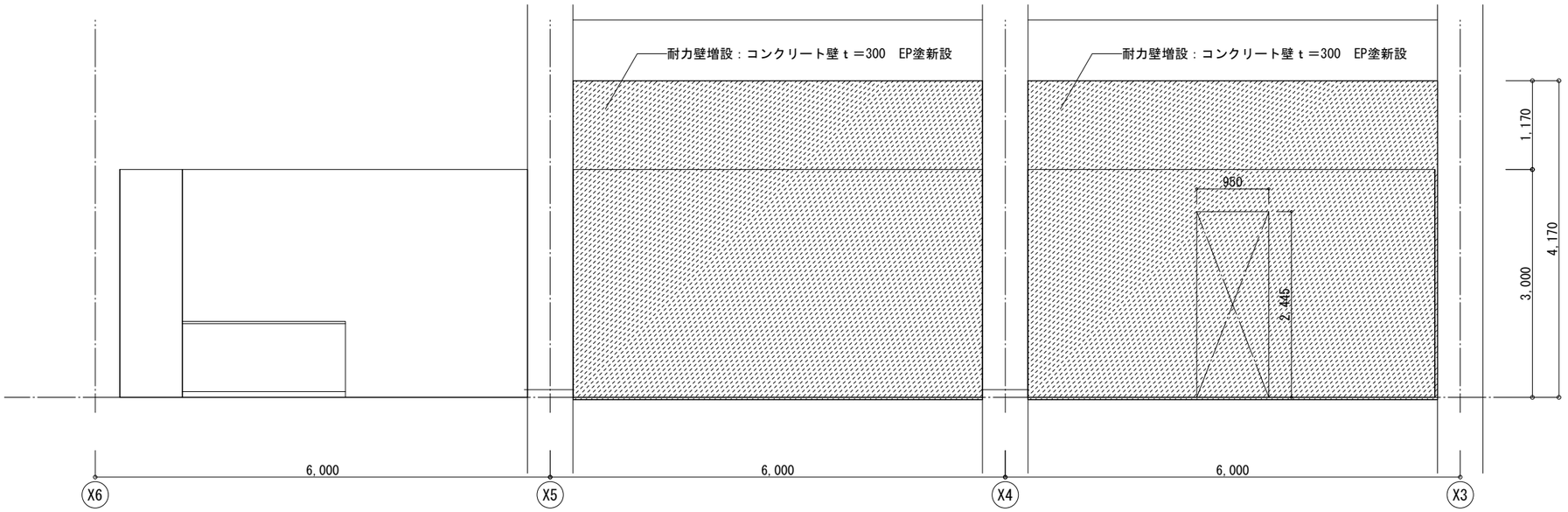
凡　例

改修部分を示す

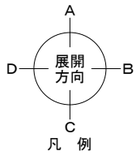
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修事務室展開図（2）	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-44



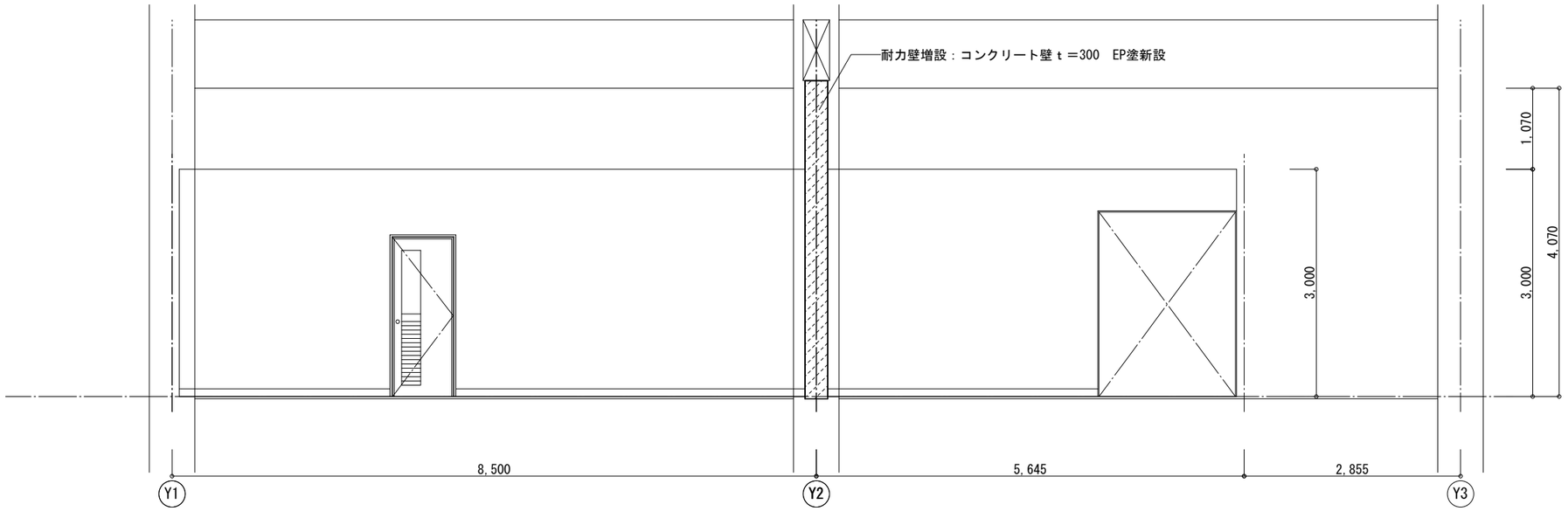
凡　例



A面



凡　例

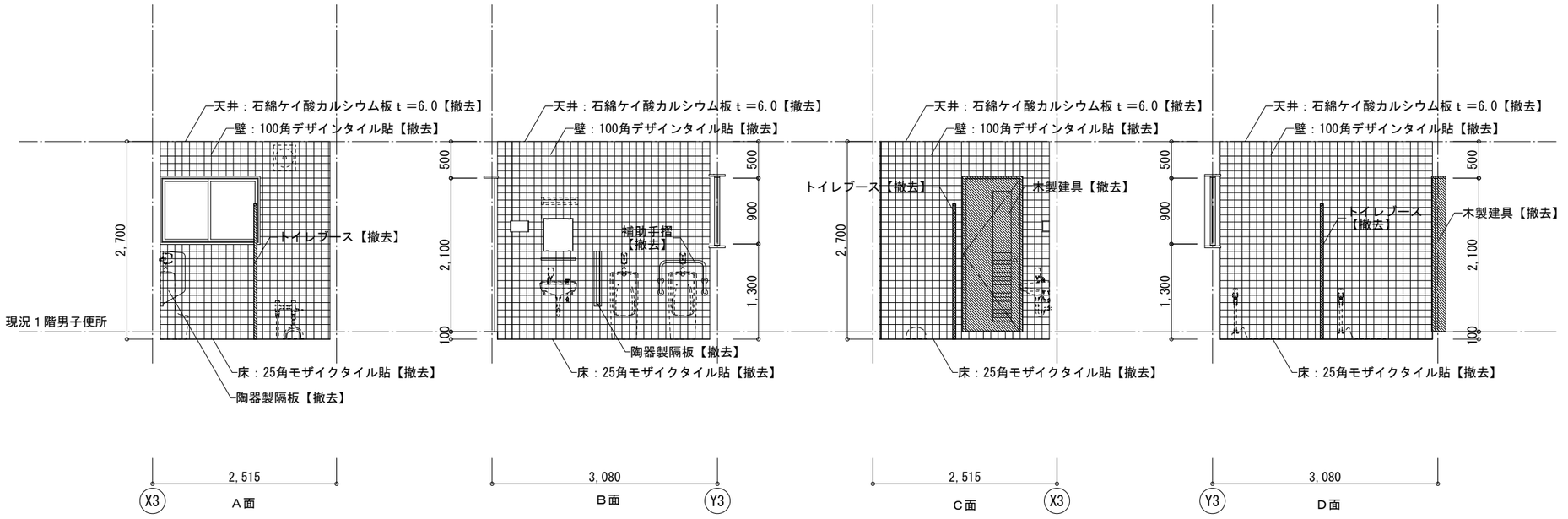


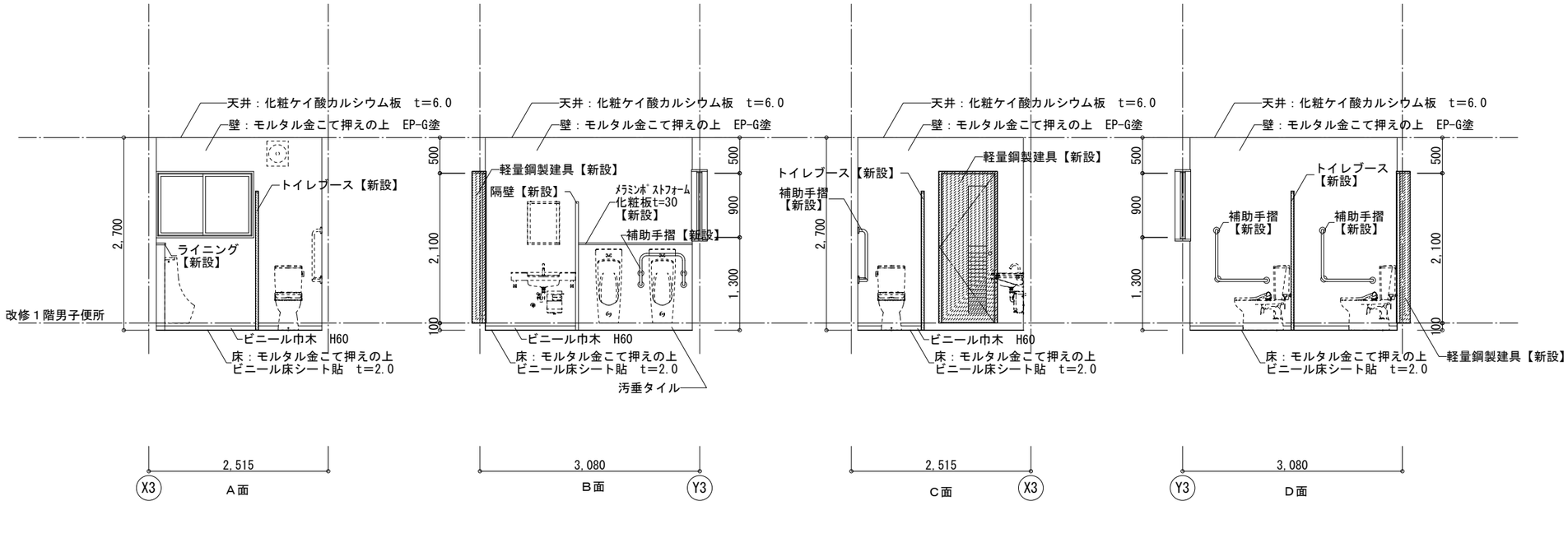
D面

凡　例

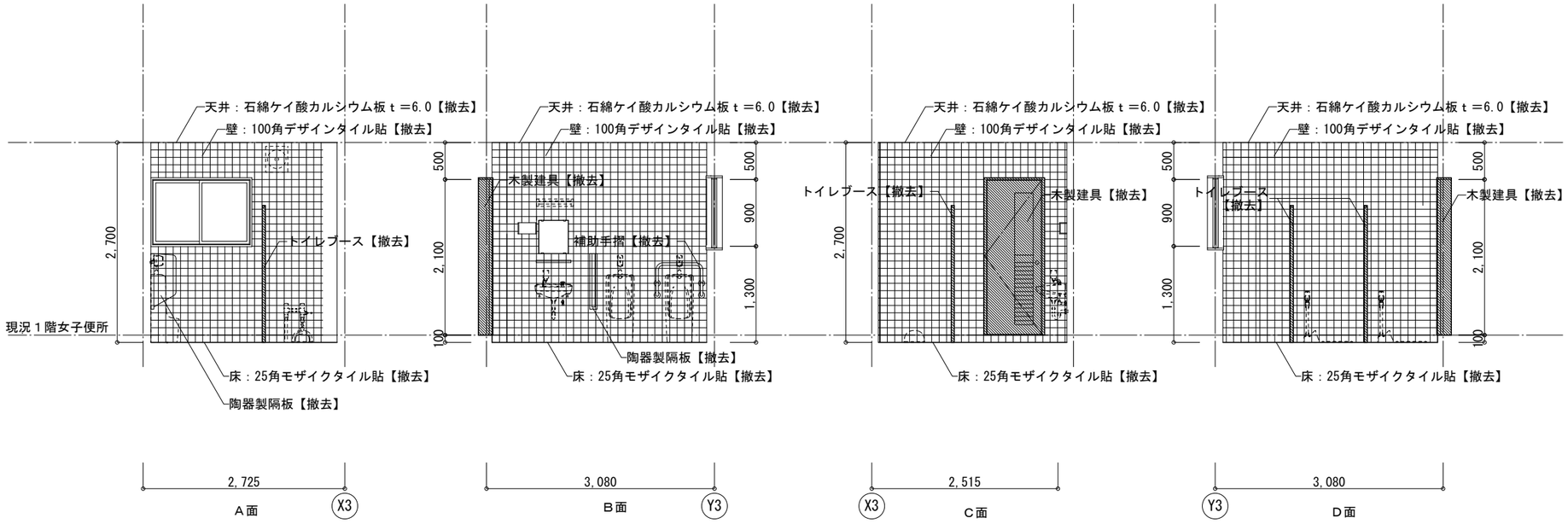
改修部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：改修事務室展開図（３）	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-45



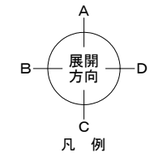


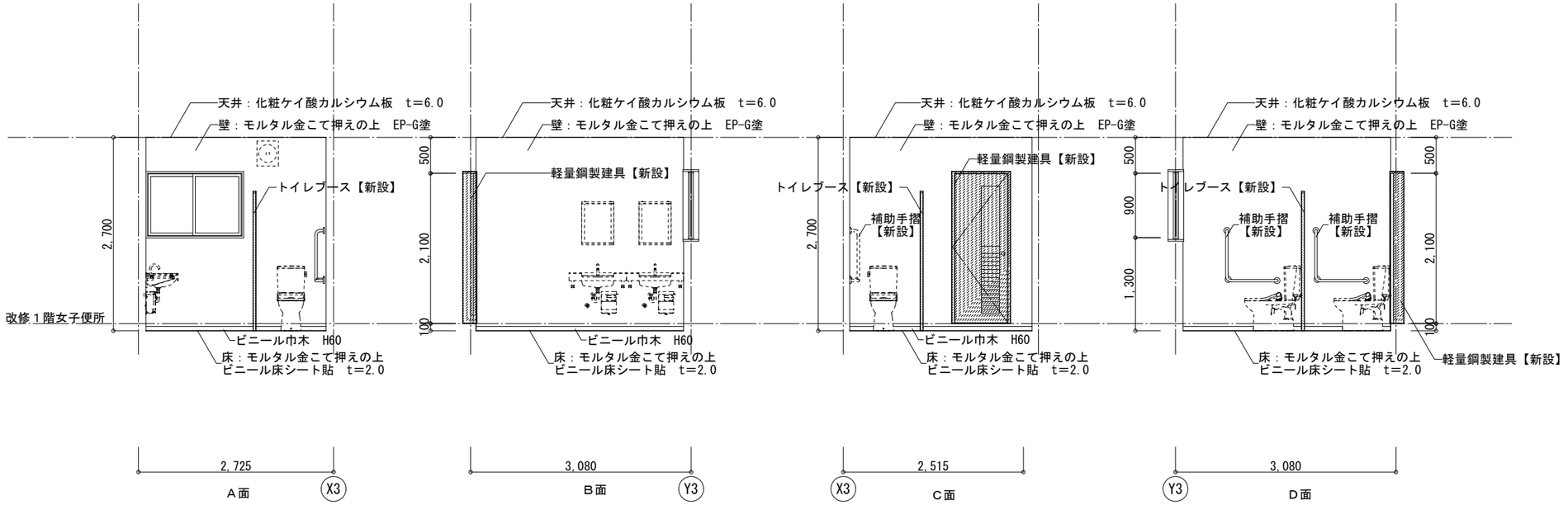
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修１階男子便所展開図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-46



凡　例

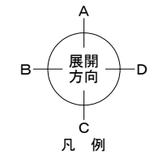
撤去部分を示す



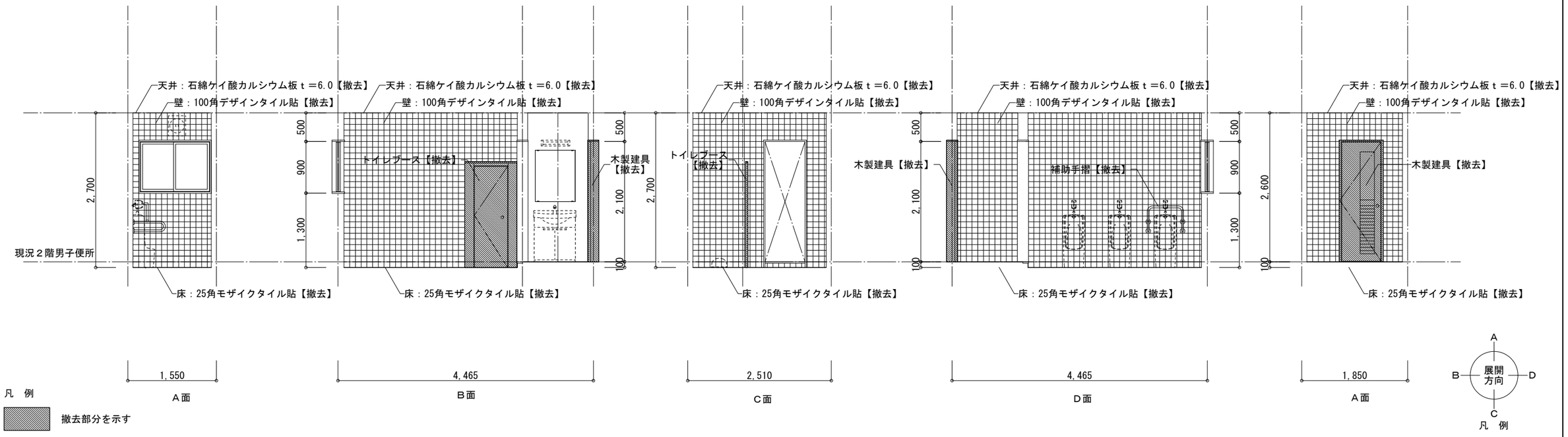


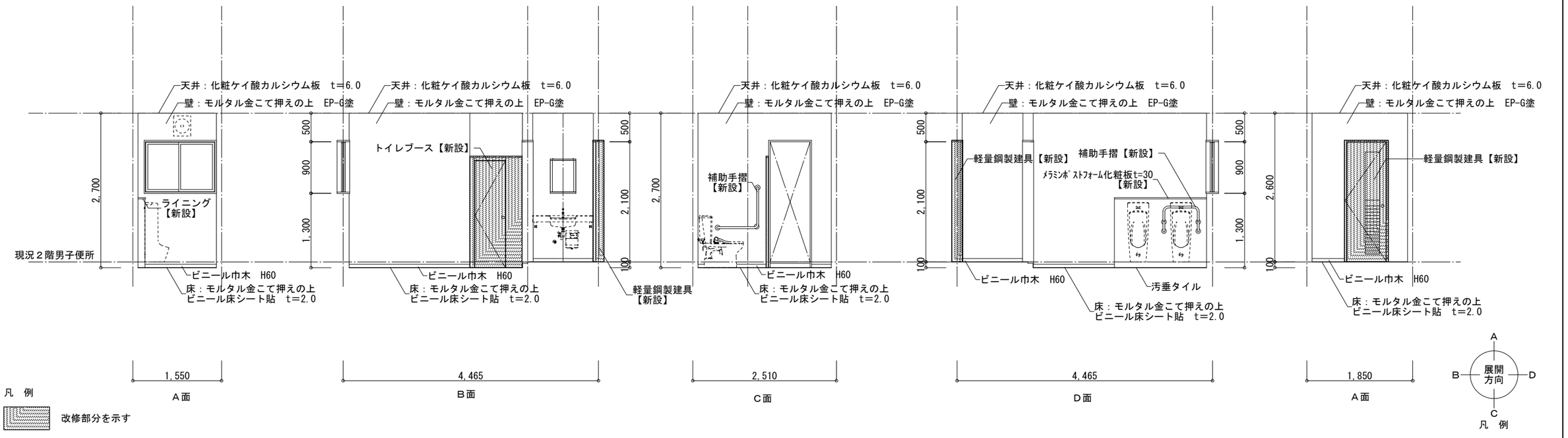
凡　例

改修部分を示す

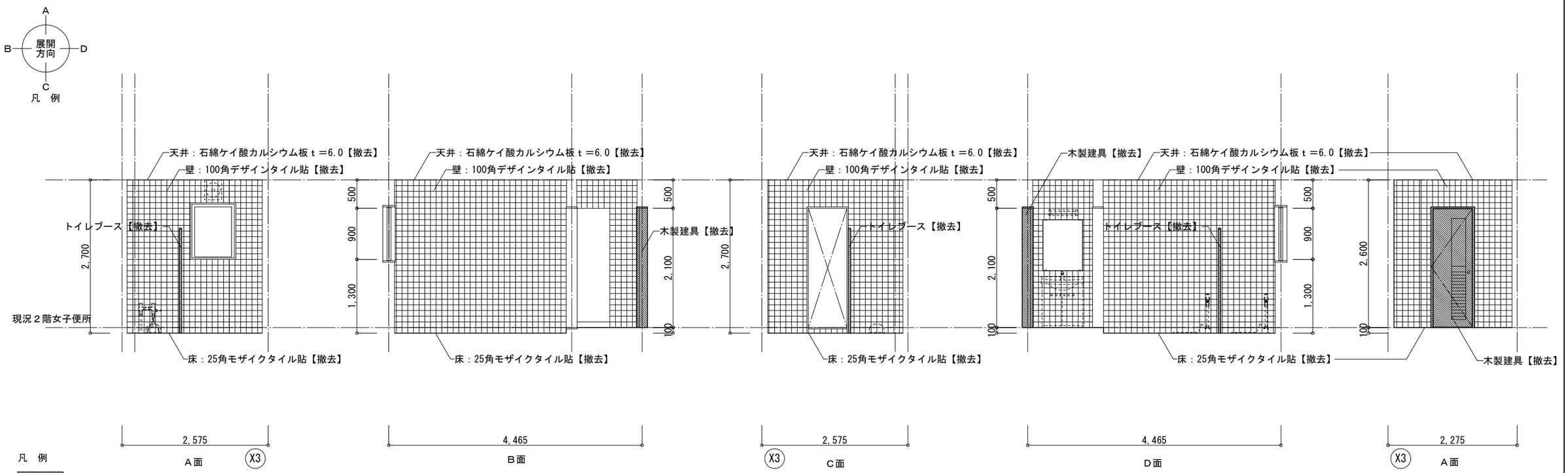


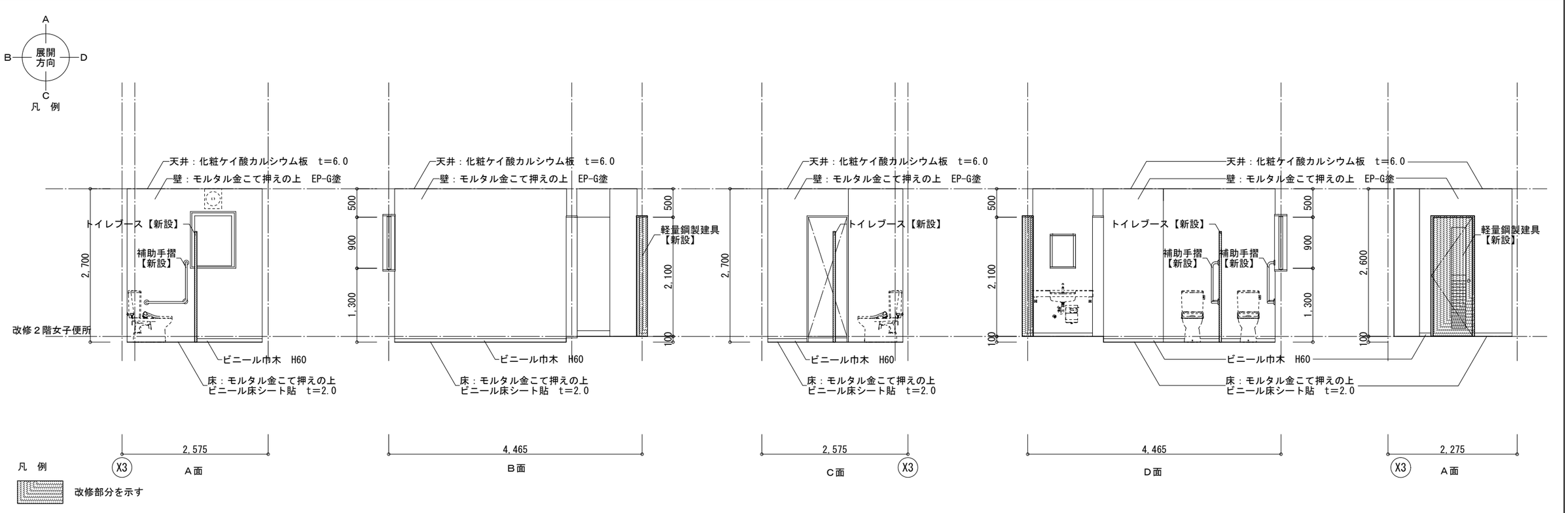
㈱山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修１階女子便所展開図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-47



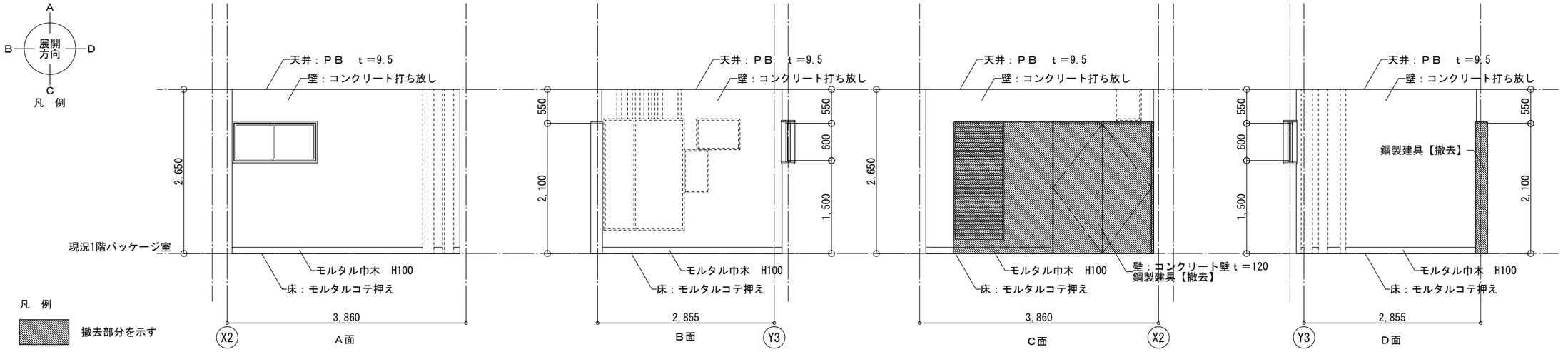


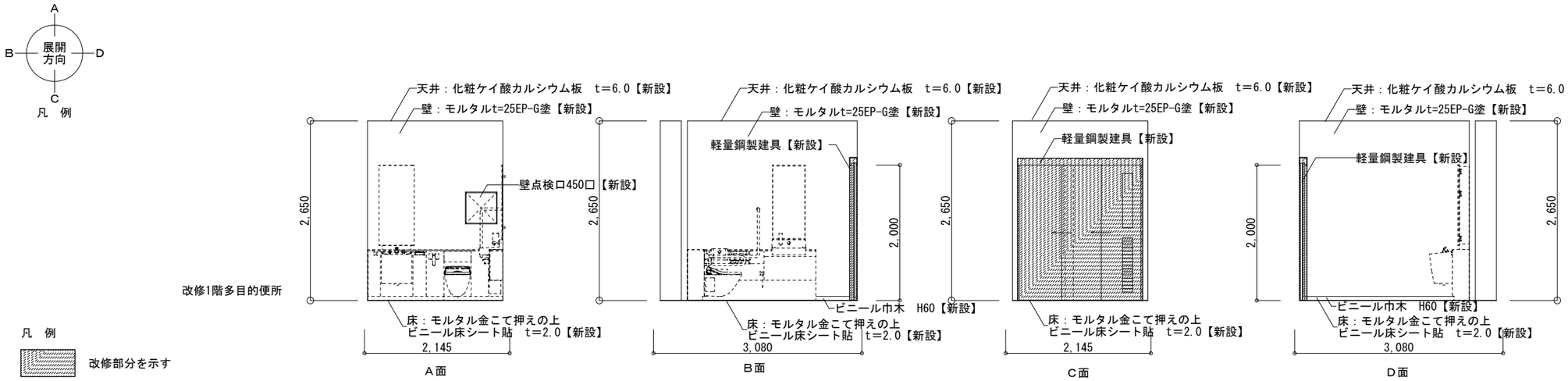
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修２階男子便所展開図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-48

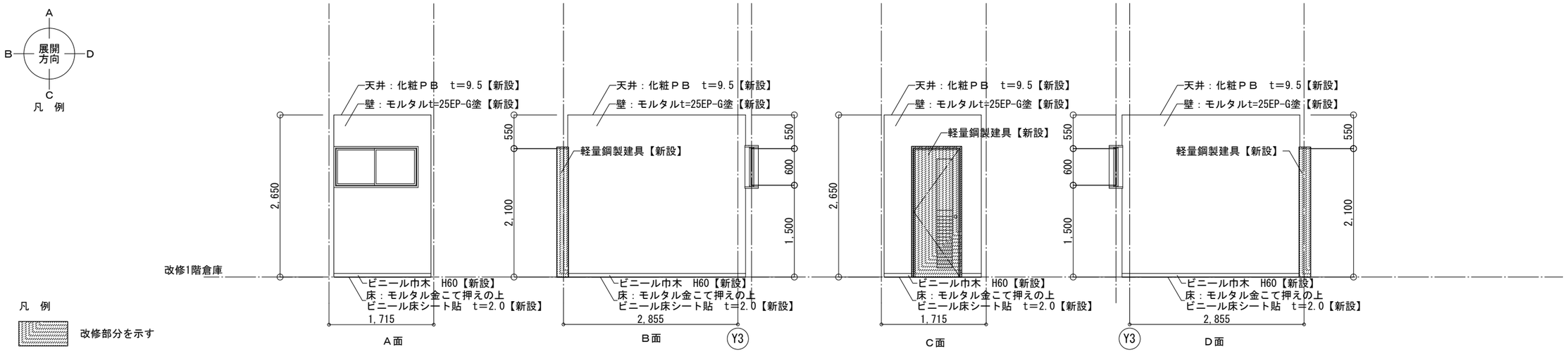




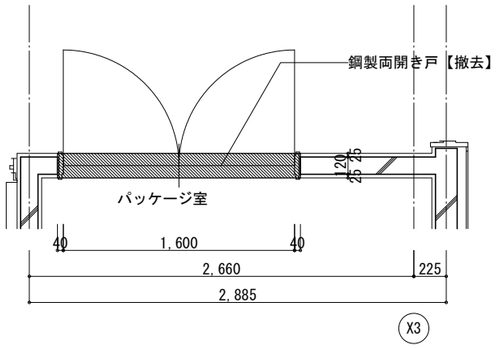
	℅ 株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修２階女子便所展開図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-49







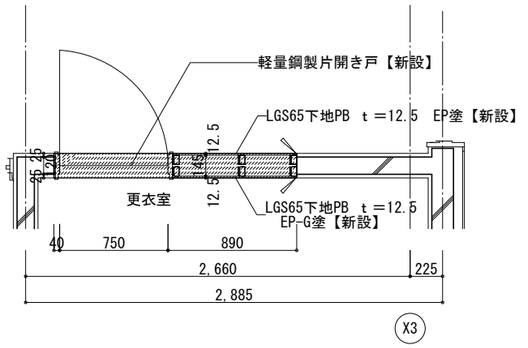
℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50
				図面名 現況改修1階パッケージ室展開図	令和 年 月 日
					図面番号 A-50



凡　例

撤去部分を示す

現況2階パッケージ室平面詳細図　1/30

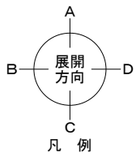


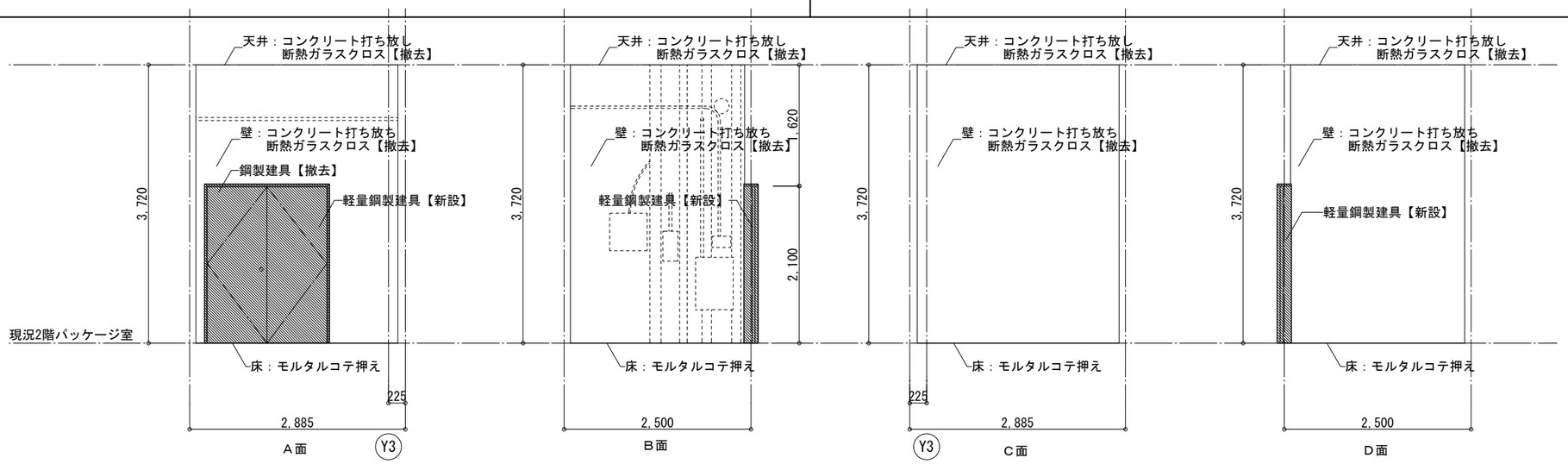
凡　例

改修部分を示す

シーリングを示す

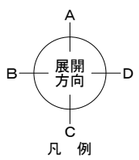
改修2階更衣室平面詳細図　1/30

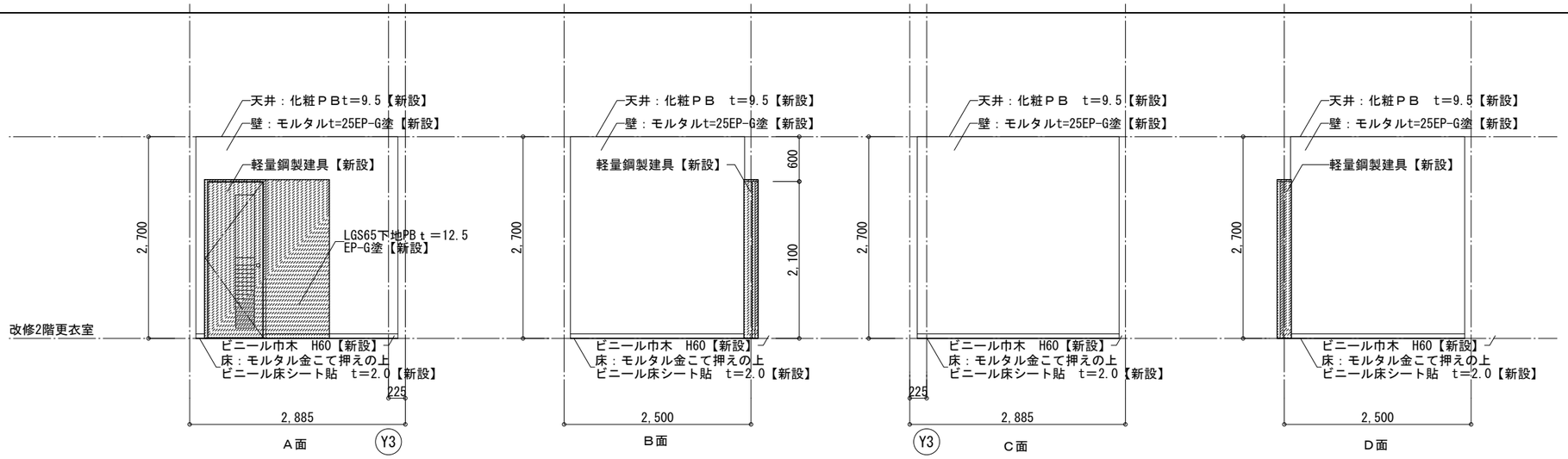




凡　例

撤去部分を示す





凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

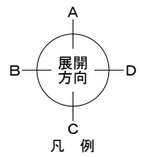
工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

縮尺　1/30・1/50

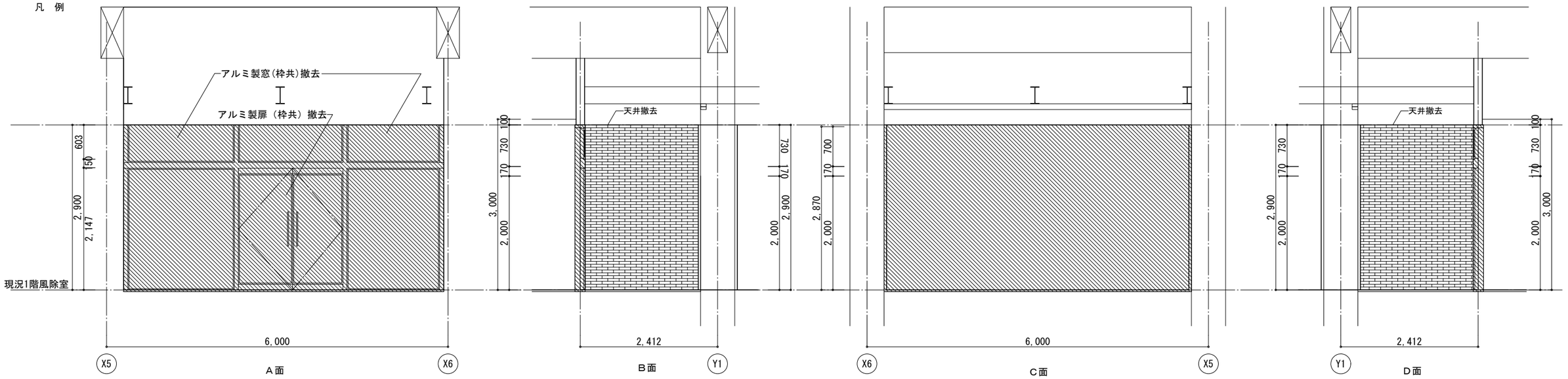
図面名　現況改修2階パッケージ室展開図

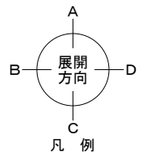
令和　年　月　日

図面番号　A-51

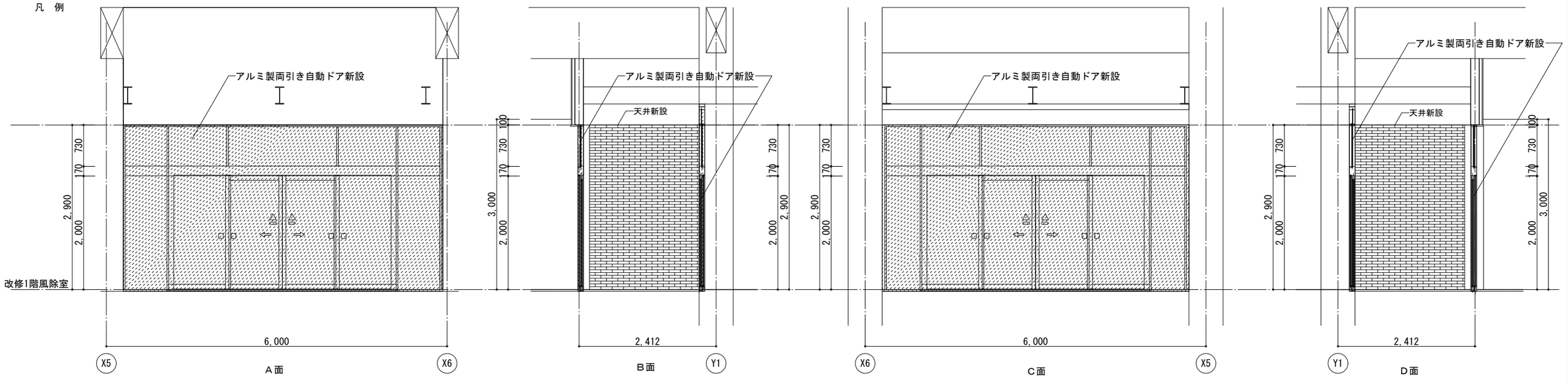


凡　例

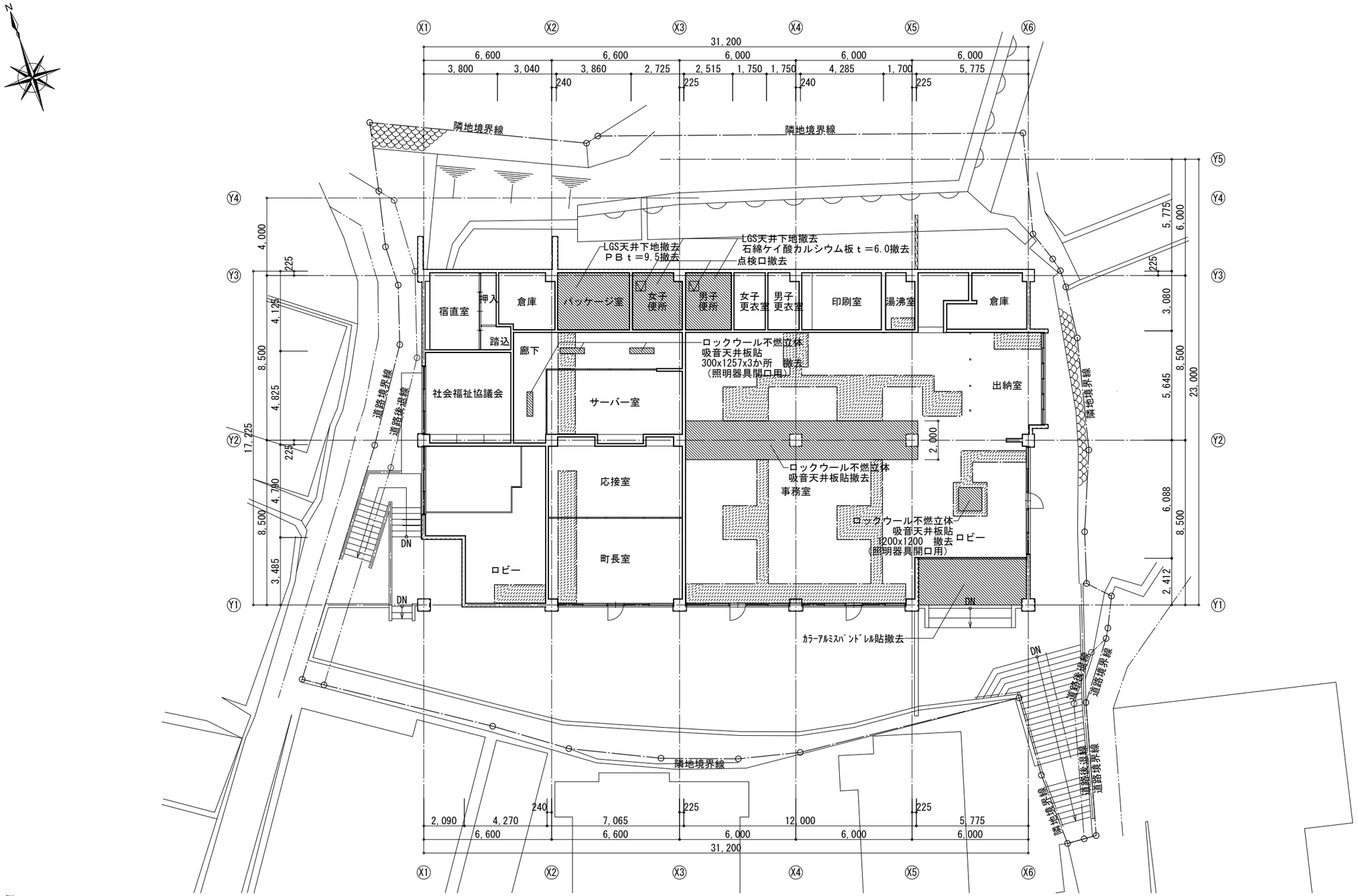




凡　例



	株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況改修１階風除室展開図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-52



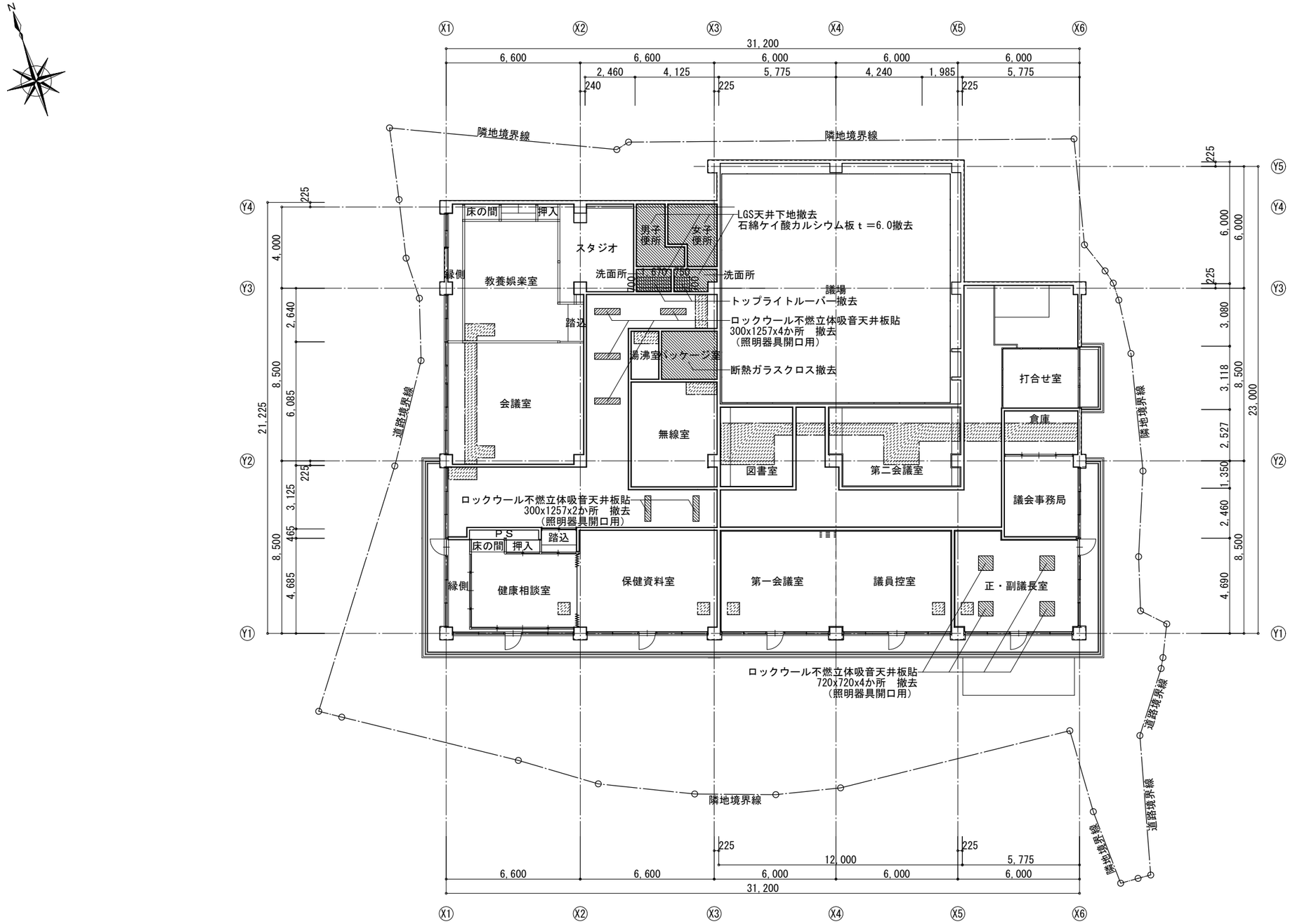
凡　例

撤去部分を示す

設備工事に伴う天井ボード
一時取外し・復旧範囲を示す
（１階：６２．０㎡）

現況１階天井伏図　1/150

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-53
				図面名 現況１階天井伏図	令和　年　月　日	



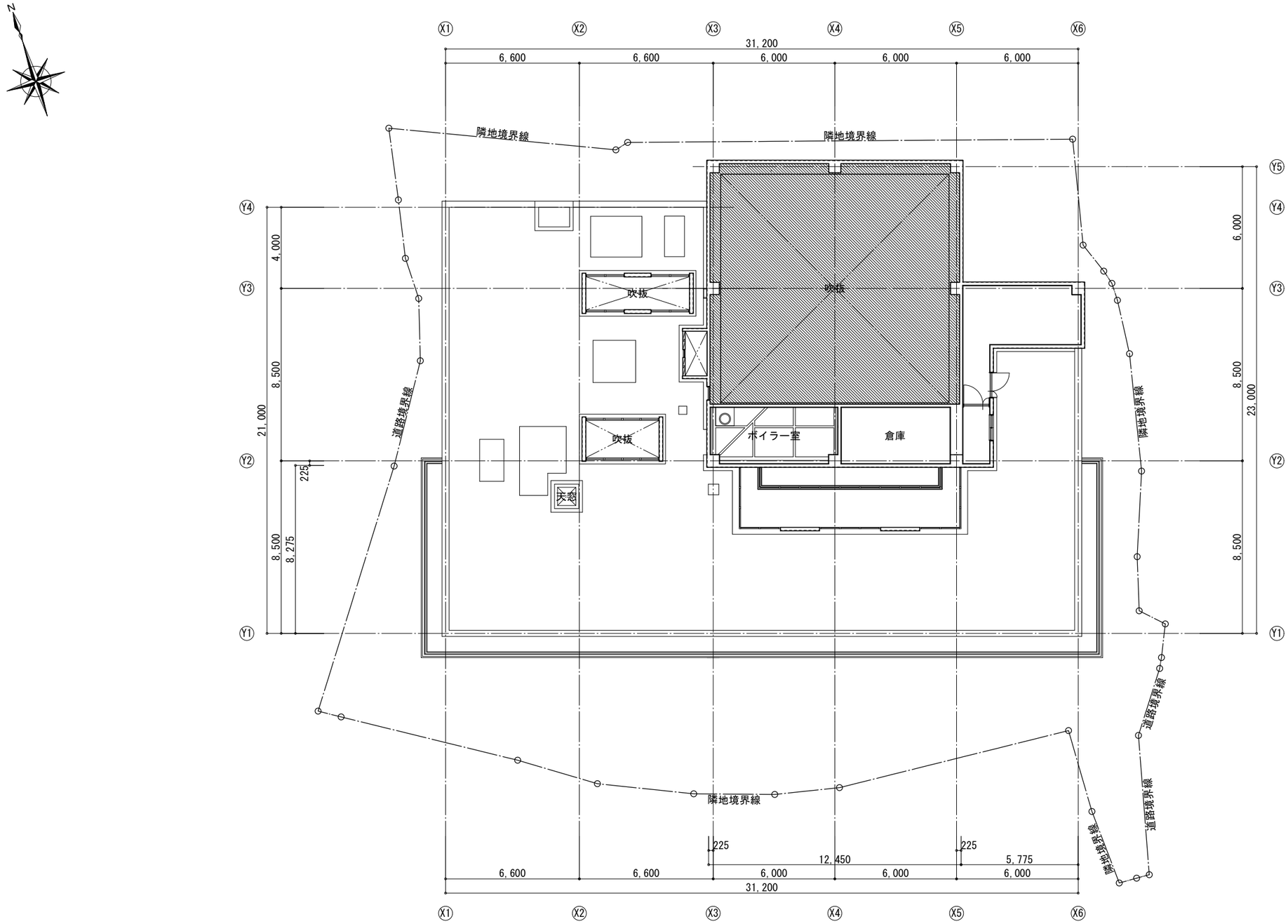
凡　例

撤去部分を示す

設備工事に伴う天井ボード
一時取外し・復旧範囲を示す
（２階：３０．０㎡）

現況２階天井伏図　1/150

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-54
				図面名 現況２階天井伏図	令和　年　月　日	

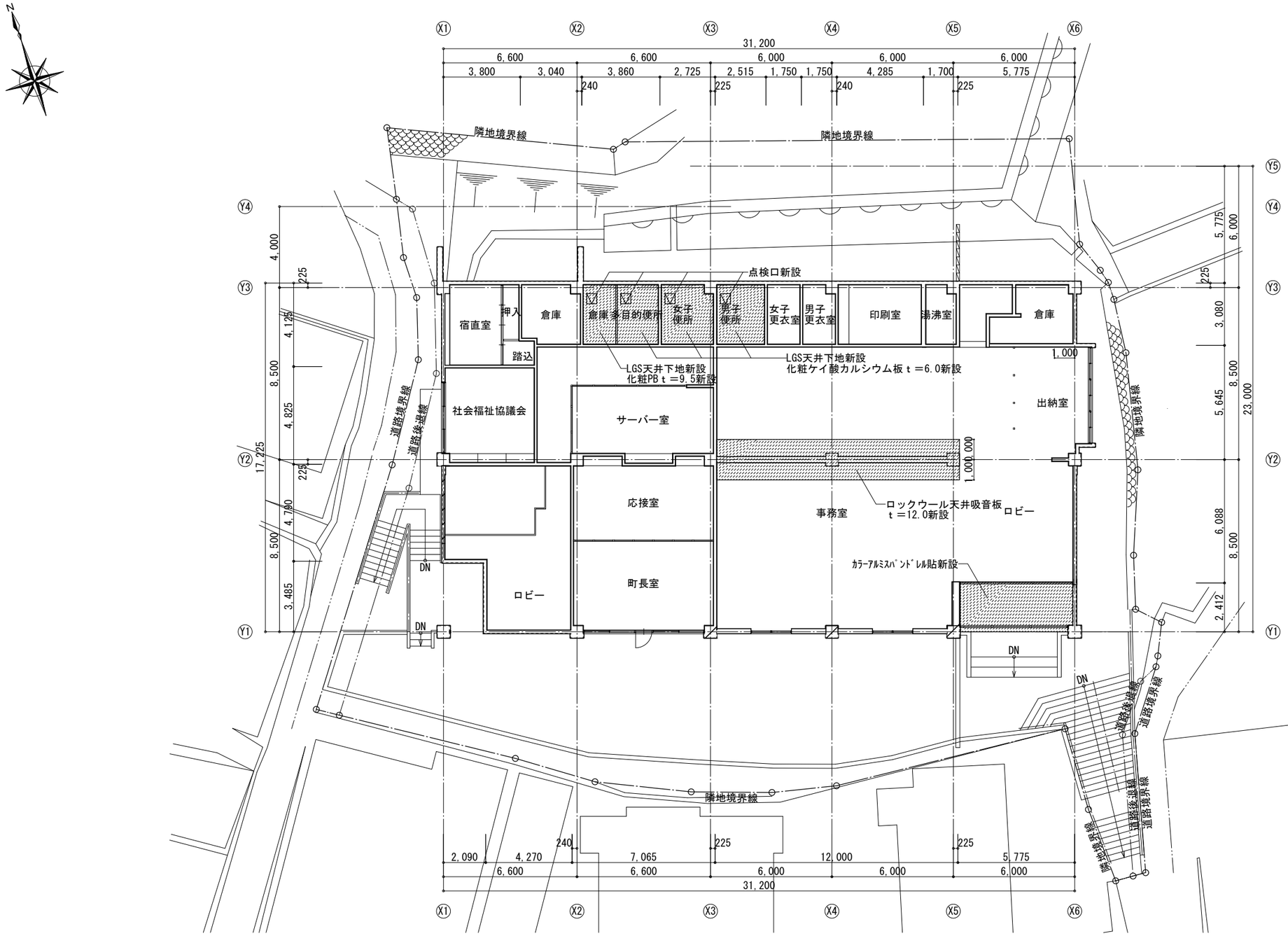


現況３階天井伏図　1/150

凡　例

撤去部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-55
				図面名 現況３階天井伏図	令和　年　月　日	

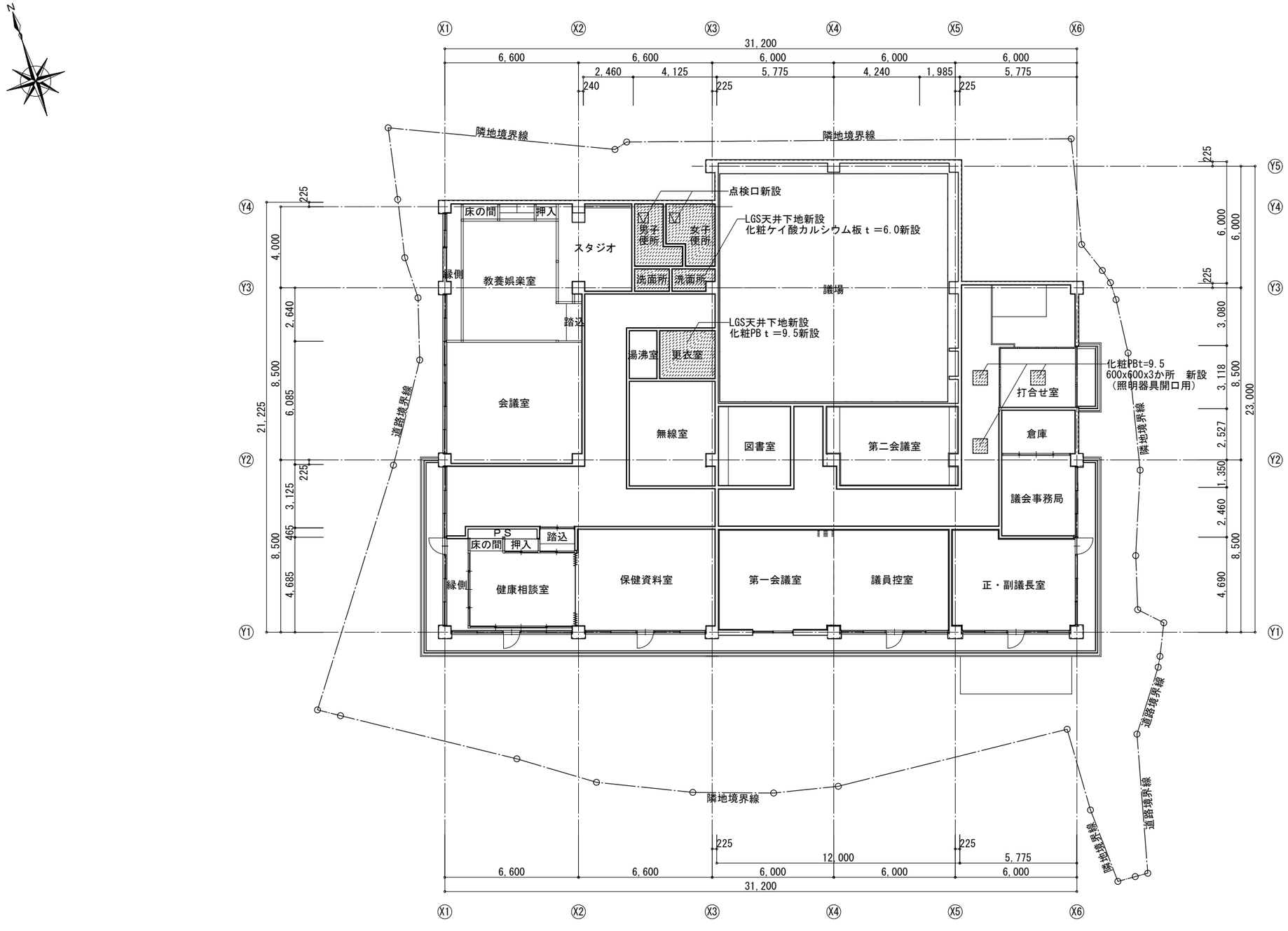


改修１階天井伏図　　1/150

凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-56
				図面名 改修１階天井伏図	令和　年　月　日	

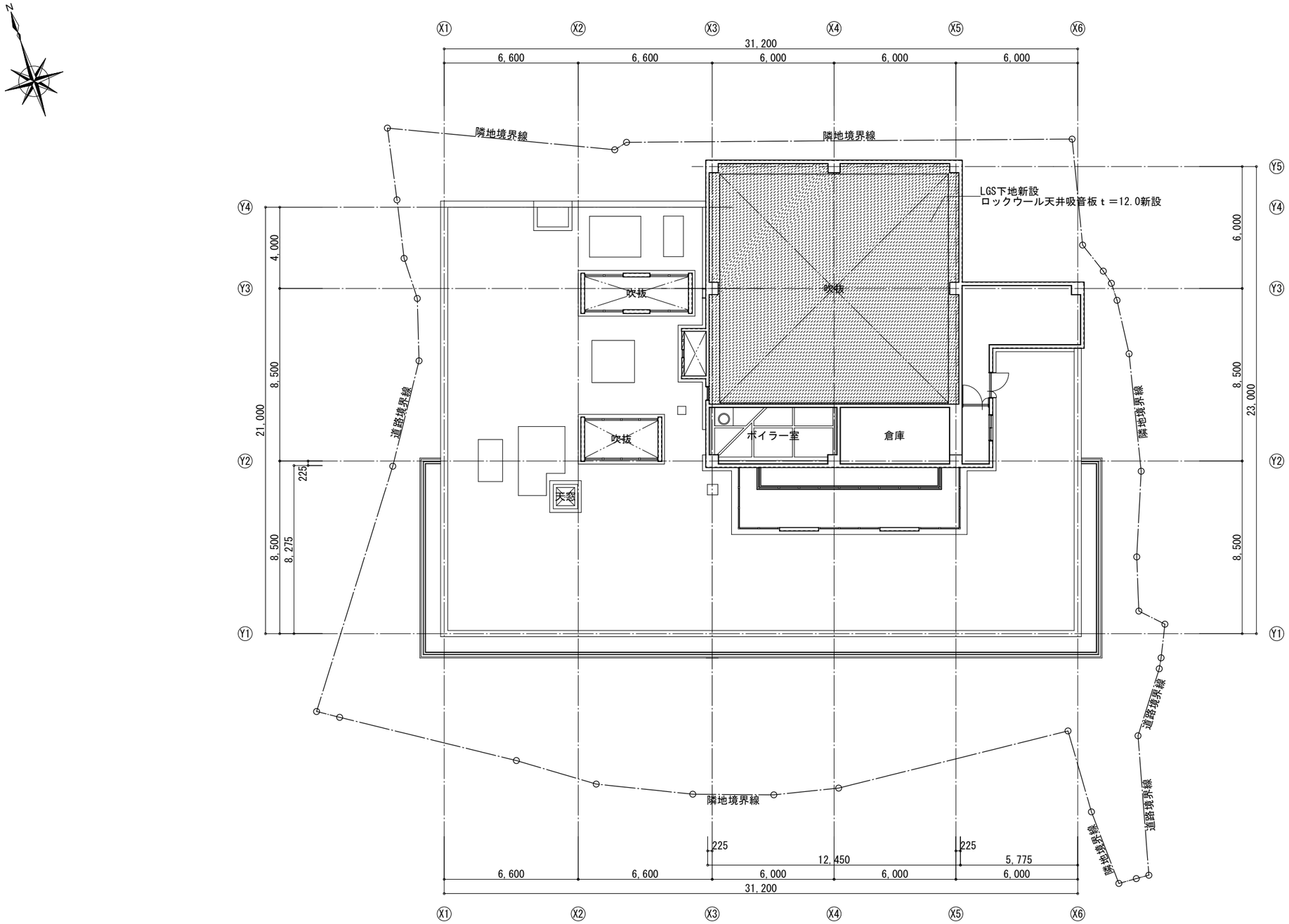


改修２階天井伏図　1/150

凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/150	図面番号：A-57
				図面名：改修２階天井伏図	令和　年　月　日	

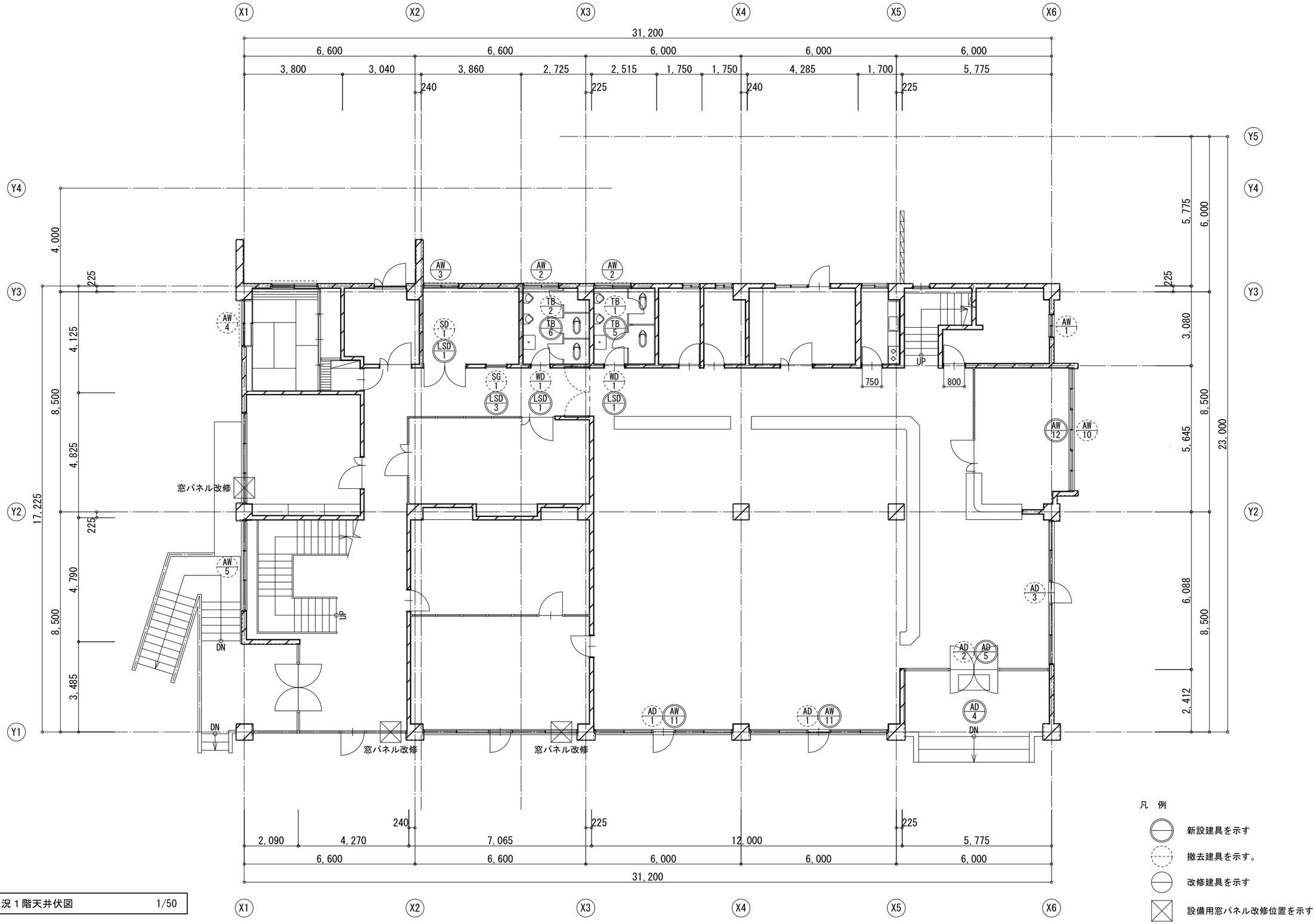


改修３階天井伏図　1/150

凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/150	図面番号 A-58
				図面名 改修３階天井伏図	令和　年　月　日	

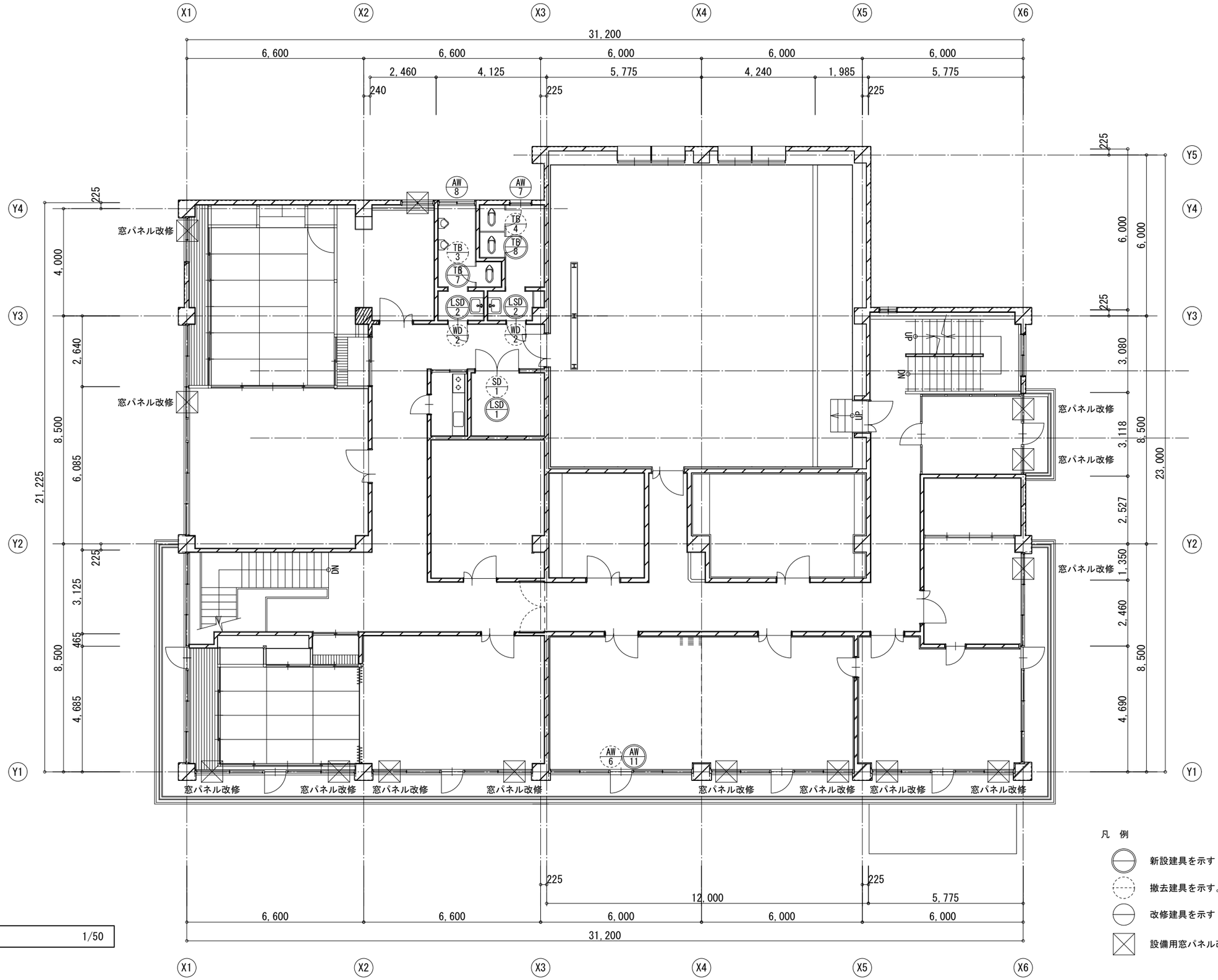


凡 例

- 新設建具を示す
- 撤去建具を示す。
- 改修建具を示す
- 設備用窓パネル改修位置を示す

現況１階天井伏図　1/50

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-59
				図面名 1階建具伏図	令和 年 月 日	

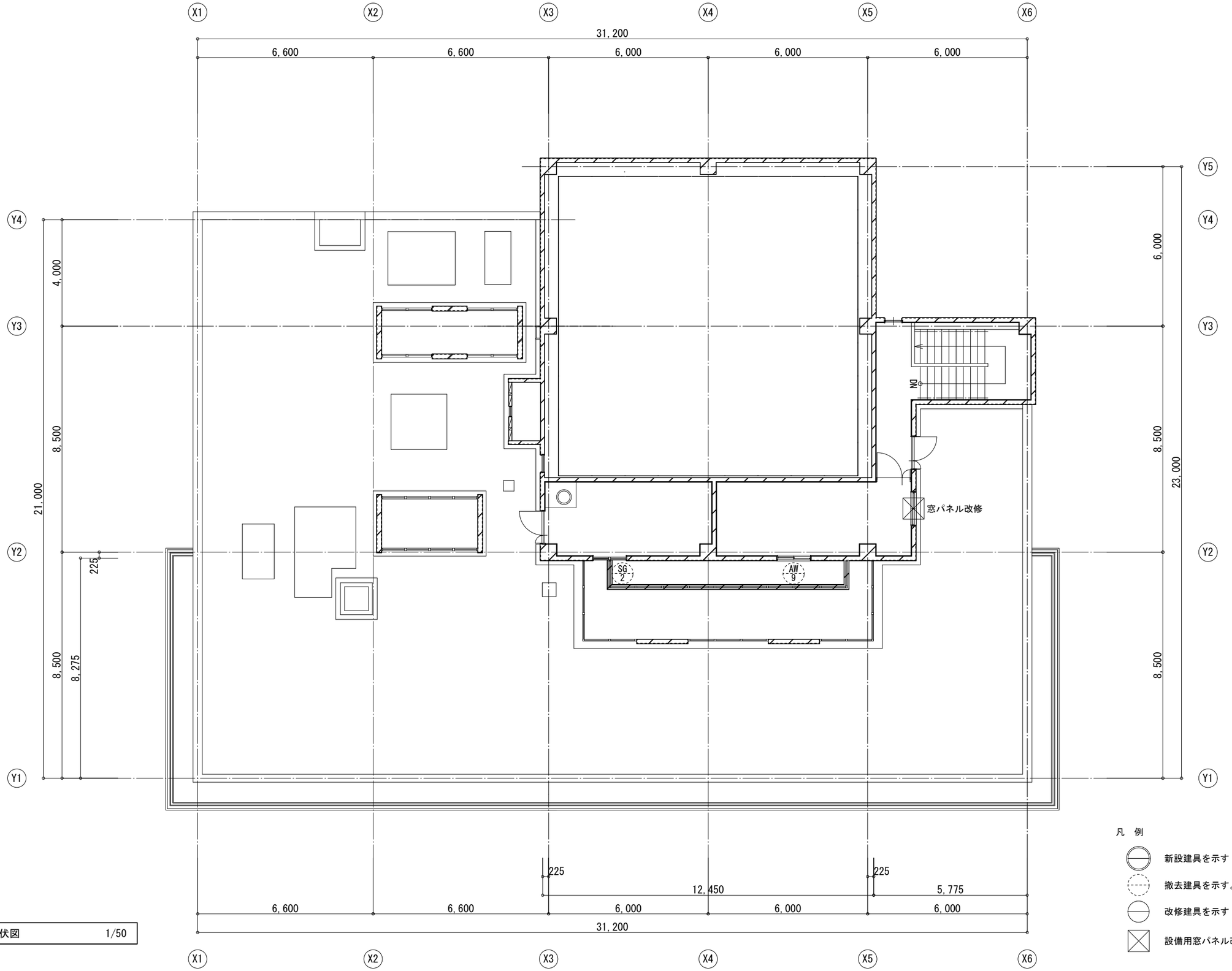


現況２階天井伏図　1/50

凡　例

- 新設建具を示す
- 撤去建具を示す。
- 改修建具を示す
- 設備用窓パネル改修位置を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-60
				図面名：２階建具伏図	令和　年　月　日	



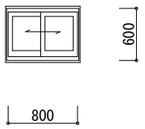
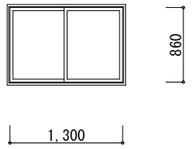
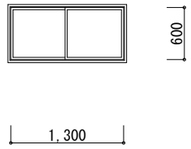
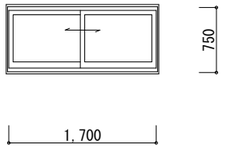
現況３階天井伏図　1/50

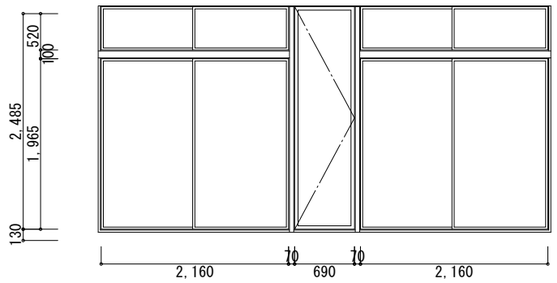
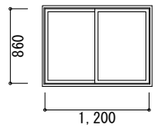
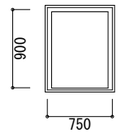
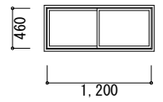
凡　例

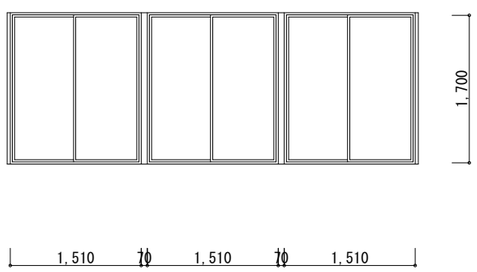
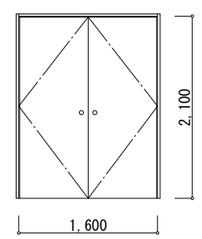
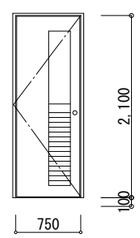
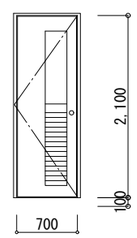
- 新設建具を示す
- 撤去建具を示す。
- 改修建具を示す
- 設備用窓パネル改修位置を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-61
				図面名：３階建具伏図	令和　年　月　日	

建具リスト　　1/100

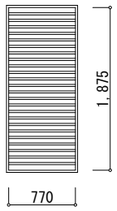
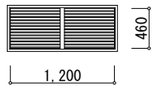
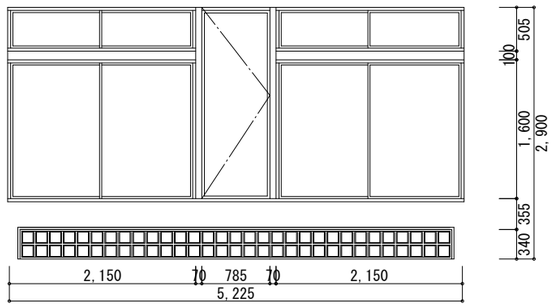
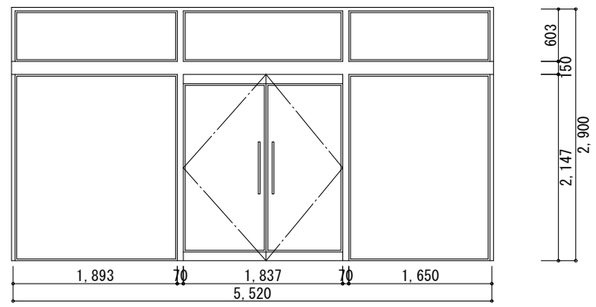
等号名称	AW 1 引き違い戸 【撤去】	AW 2 引き違い戸	AW 3 引き違い戸	AW 4 引き違い戸 【撤去】	AW 5 引き違い戸 【撤去】
位置個数	1階倉庫 1	1階男子便所・女子便所 2	1階パッケージ室 1	1階宿直室 1	1階ロビー 1
姿図					
改修項目	撤去（枠共） 線入型板ガラスt=6.0 撤去	線入型板ガラスt=6.0	線入型板ガラスt=6.0	撤去（枠共） 線入透明ガラス t ＝6.8	撤去（枠共） フロートガラス t ＝6.0

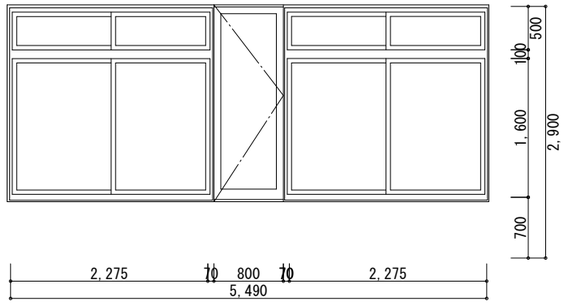
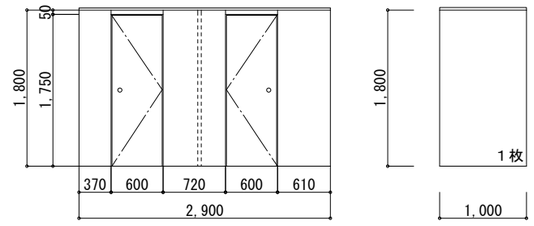
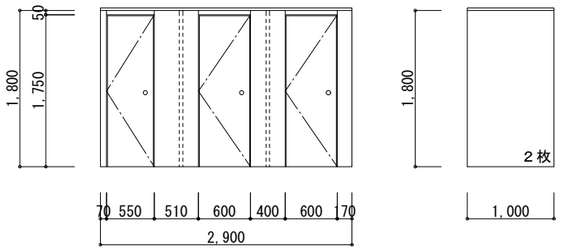
等号名称	AW 6 引き違い戸 【撤去】	AW 7 引き違い窓	AW 8 FIX窓	AW 9 引き違い戸 【撤去】
位置個数	2階第1会議室 1	2階男子便所 1	2階女子便所 1	3階倉庫 1
姿図				
改修項目	撤去（枠共） 線入透明ガラス t ＝6.8撤去	線入型板ガラスt=6.0	線入型板ガラスt=6.0	撤去（枠共） 線入型板ガラスt=6.0

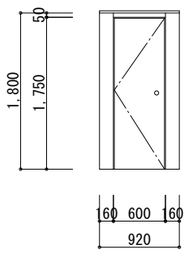
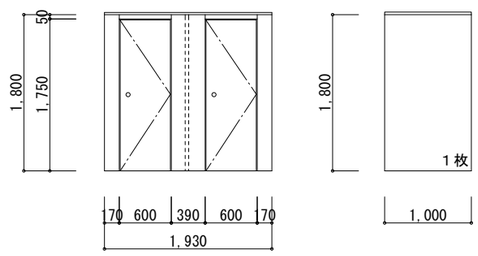
等号名称	AW 10 引き違い戸 【撤去】	SD 1 両開き戸	WD 1 片開き戸 【撤去】	WD 2 片開き戸 【撤去】
位置個数	1階出納室 1	1階パッケージ室・2階パッケージ室	1階男子便所・女子便所 2	2階男子便所・女子便所 2
姿図				
改修項目	撤去（枠共） 線入透明ガラス t ＝6.8撤去	撤去（枠共）	撤去（枠共）	撤去（枠共）

	株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-62
					図面名 現況建具リスト（1）	令和 年 月 日	

建具リスト

等号名称	SG 1 ガラリ 【撤去】	SG 2 ガラリ 【撤去】	AD 1 引き違い戸 【撤去】	AD 2 両開き戸 【撤去】
位置個数	1階パッケージ室 1	3階ボイラー室 1	１階事務所　南面 1	１階事務所　南面 1
姿図				
改修項目	撤去（枠共）	撤去（枠共）	撤去（枠共）	撤去（枠共）
		スチールガラリ　ステンレス防虫網付き　撤去	線入透明ガラス t＝6.8撤去	テッパーライトドア t＝12撤去
				透明フロートガラス t＝8.0撤去

等号名称	AD 3 引き違い戸 【撤去】	TB 1 トイレブース 【撤去】	TB 2 トイレブース 【撤去】
位置個数	１階事務所　東面 1	１階男子便所 1	１階女子便所 1
姿図			
改修項目	撤去（枠共）	撤去枠共ラッシュ戸 撤去	ポリ合板フラッシュ戸 撤去
	線入透明ガラス t＝6.8撤去	丁番、ゴンベ、ラバトリーヒンジ、ラバトリーストライク、ラッチ付き表示錠　撤去	丁番、ゴンベ、ラバトリーヒンジ、ラバトリーストライク、ラッチ付き表示錠　撤去
		頭ツナギステンレスＣ型、足元・壁付金物　撤去	頭ツナギステンレスＣ型、足元・壁付金物　撤去

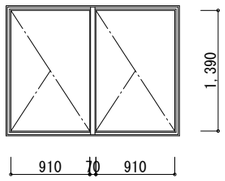
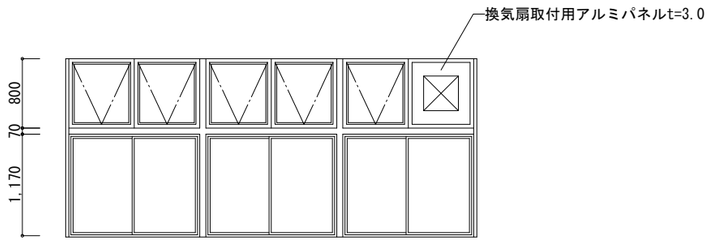
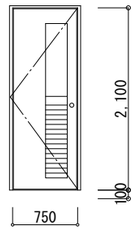
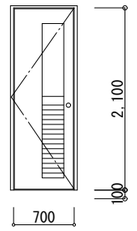
等号名称	TB 3 トイレブース 【撤去】	TB 4 トイレブース 【撤去】
位置個数	２階男子便所 1	２階女子便所 1
姿図		
改修項目	ポリ合板フラッシュ戸 撤去	ポリ合板フラッシュ戸 撤去
	丁番、ゴンベ、ラバトリーヒンジ、ラバトリーストライク、ラッチ付き表示錠　撤去	丁番、ゴンベ、ラバトリーヒンジ、ラバトリーストライク、ラッチ付き表示錠　撤去
	頭ツナギステンレスＣ型、足元・壁付金物　撤去	頭ツナギステンレスＣ型、足元・壁付金物　撤去

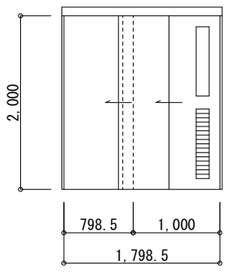
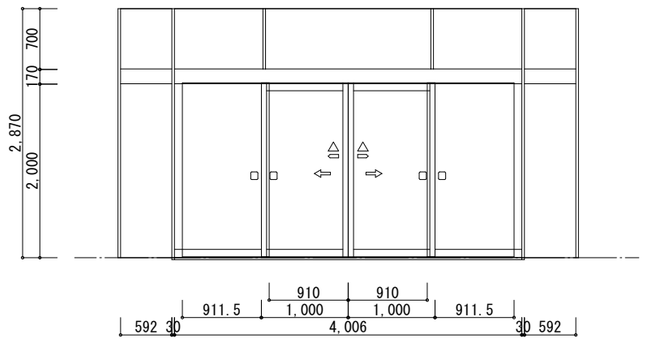
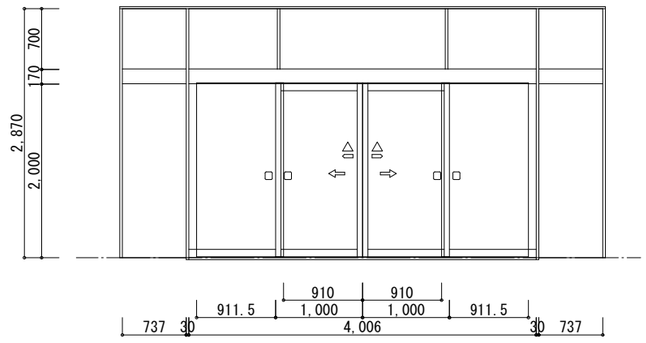
株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事
図面名：現況建具リスト（２）
縮尺：1/50
令和　年　月　日
図面番号：A-63

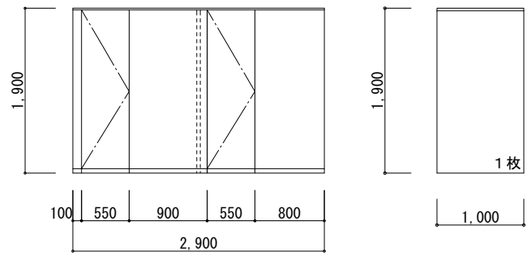
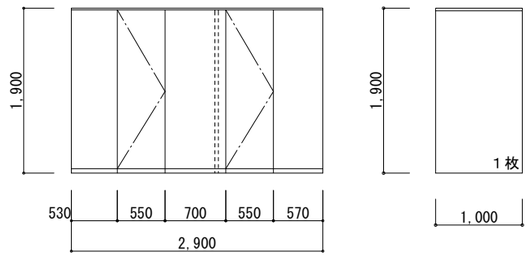
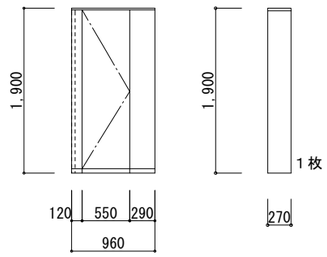
建具リスト　　1/50

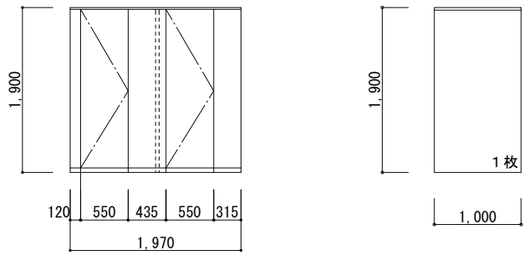
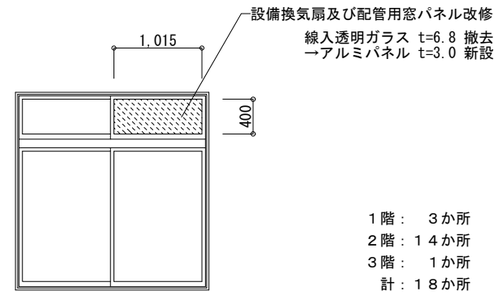
等号名称	AW 11 縦滑り出し窓 【新設】	AW 12 引き違い窓・外倒し窓 【新設】	LSD 1 片開き戸 【新設】	LSD 2 片開き戸 【新設】
位置個数	1階事務室・2階第一会議室　3	1階事務室　1	1階男女便所・1階倉庫・2階更衣室　4	2階男女便所　2
形状寸法				
材質	アルミ製	アルミ製	軽量鋼製	軽量鋼製
仕上	HL	HL	化粧鋼板	化粧鋼板
金物	クレセント　アングルピース　付属金物一式	クレセント　アングルピース　付属金物一式	ピポッドヒンジ・SUSレバーハンドル・ステンレス沓摺t=2.0	ピポッドヒンジ・SUSレバーハンドル・ステンレス沓摺t=2.0
硝子	透明ガラス t=3.0 + A6 + Low-E t=3.0	透明ガラス t=3.0 + A6 + Low-E t=3.0	型板t=4.0	型板t=4.0
見込	80（※見込み寸法はメーカー標準寸法による）	80（※見込み寸法はメーカー標準寸法による）	枠：100　扉：30	枠：100　扉：30
備考		オペレーター付	ガラリ	ガラリ

等号名称	LSD 3 二連引き戸 【新設】	AD 4 両引き自動ドア 【新設】	AD 5 両引き自動ドア 【新設】
位置個数	1階多目的便所　1	2階第1会議室　1	2階第1会議室　1
形状寸法			
材質	軽量鋼製	アルミ製	アルミ製
仕上	化粧鋼板	アルミ　B-2種	アルミ　B-2種
金物	吊り金物・シリンダー表示錠(サムターン)・SUS引き棒L=600 付属金物一式	自動開閉装置　付属金物一式	自動開閉装置　付属金物一式
硝子	型板t=4.0	ドア：強化ガラスt=12　FIX：強化ガラスt=8	ドア：強化ガラスt=12　FIX：強化ガラスt=8
見込	枠：110　扉：30　額縁：180x25	枠：100　扉：40	枠：100　扉：40
備考	ガラリ	衝突防止マーク	衝突防止マーク

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

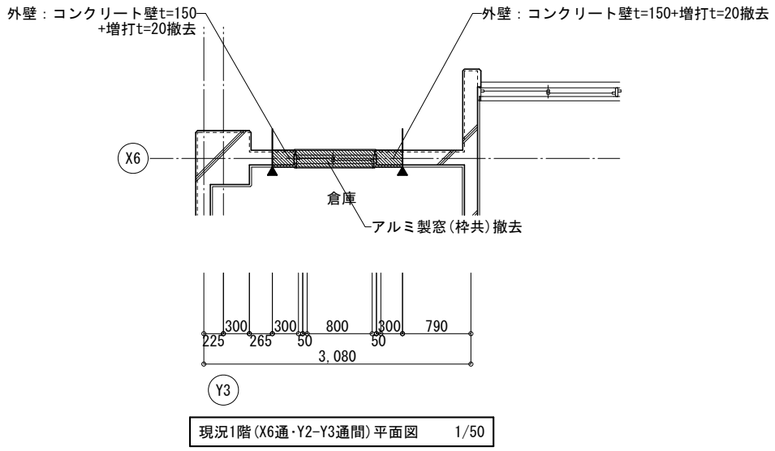
校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/50	A-64
			図面名：改修建具リスト（1）	令和　年　月　日	

等号名称	TB 5 トイレブース 【新設】	TB 6 トイレブース 【新設】	TB 7 トイレブース 【新設】
位置個数	１階男子便所 1	１階女子便所 1	２階男子便所 1
形状寸法			
材質	木製	木製	木製
仕上	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板
金物	丁番、表示錠、頭ツナギ：ステンレス	丁番、表示錠、頭ツナギ：ステンレス	丁番、表示錠、頭ツナギ：ステンレス
硝子			
見込	40	40	40
備考	ステンレス巾木タイプ	ステンレス巾木タイプ	ステンレス巾木タイプ

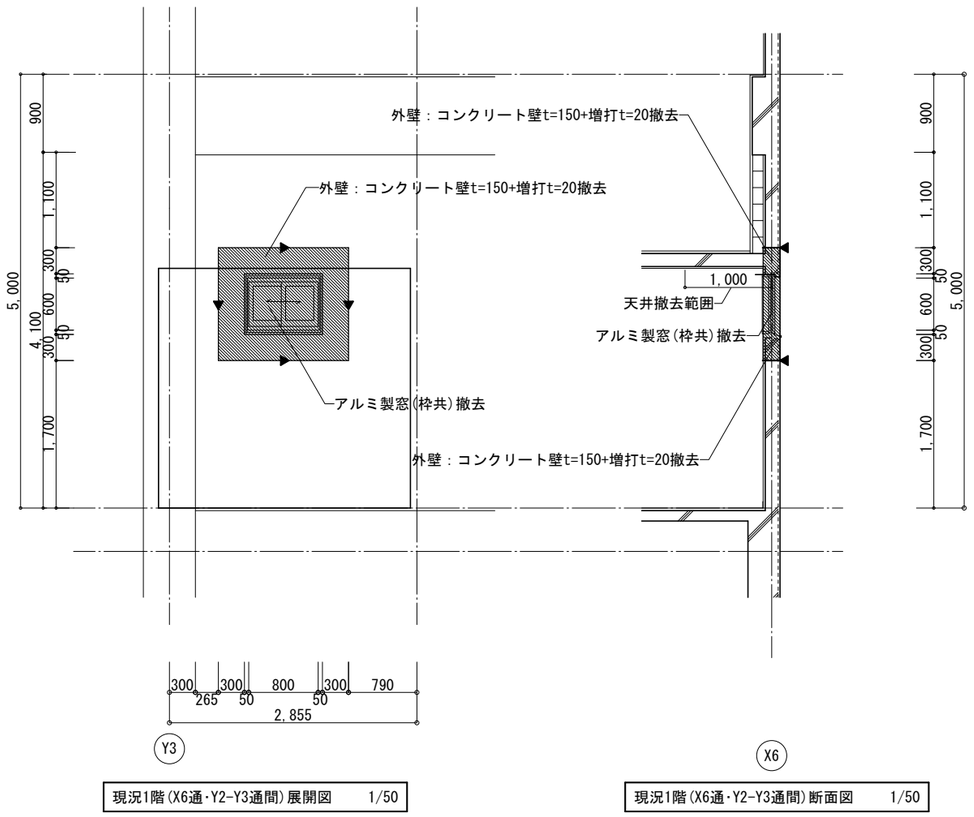
等号名称	TB 8 トイレブース 【新設】		☒ 設備換気扇及び配管用窓パネル改修【既設建具改修】 【改修】
位置個数	２階女子便所 1		各建具伏図による １８
形状寸法			
材質	木製		アルミ製
仕上	メラミン化粧合板		ＨＬ
金物	丁番、表示錠、頭ツナギ：ステンレス		
硝子			線入透明ガラス t=6.8 撤去 → アルミパネル t=3.0 新設
見込	40		
備考	ステンレス巾木タイプ		

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/50	A-65
			図面名 改修建具リスト（２）	令和 年 月 日	



現況1階(X6通･Y2-Y3通間)平面図　1/50



現況1階(X6通･Y2-Y3通間)展開図　1/50

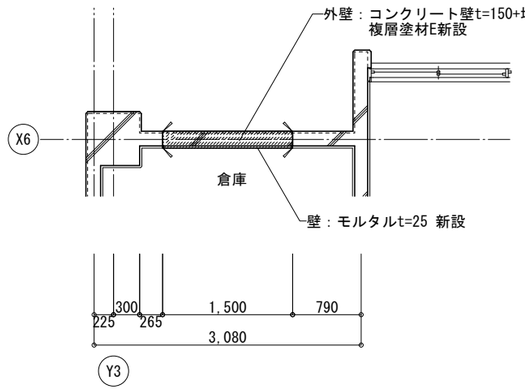
現況1階(X6通･Y2-Y3通間)断面図　1/50

凡　例

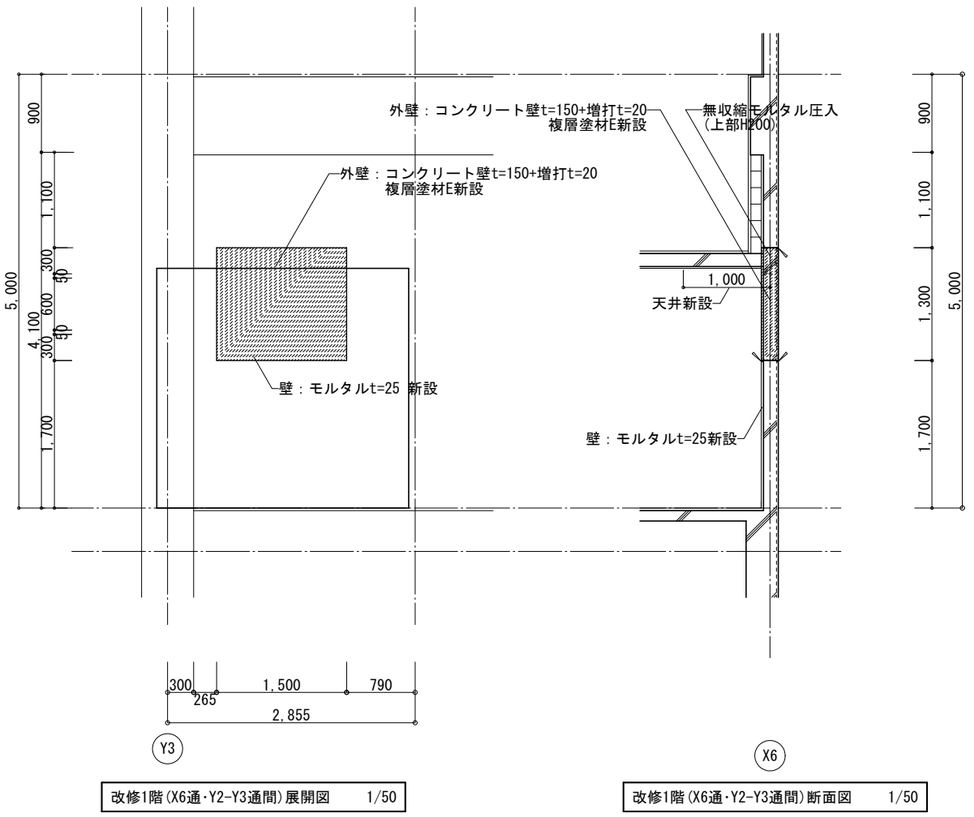
撤去部分を示す

▼　コンクリートカッターを示す

▽　モルタルカッターを示す



改修1階(X6通･Y2-Y3通間)平面図　1/50



改修1階(X6通･Y2-Y3通間)展開図　1/50

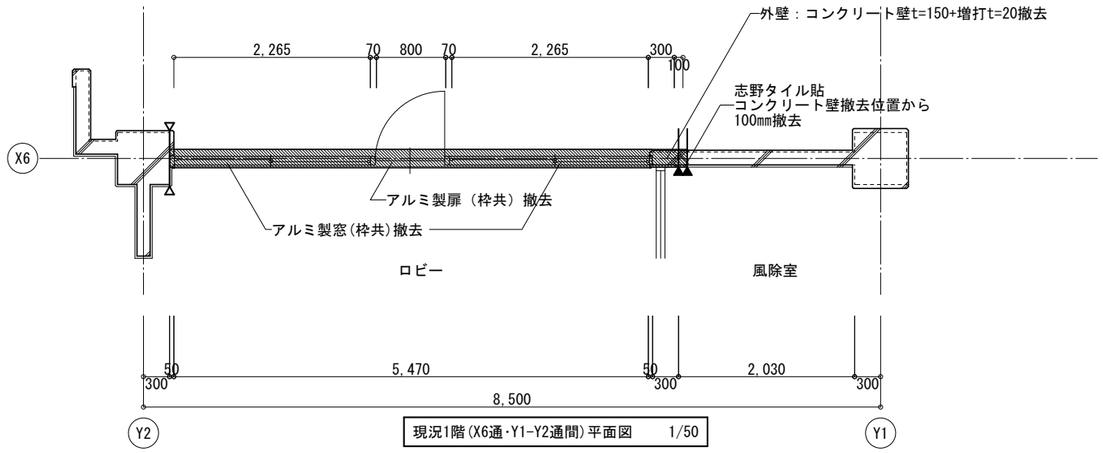
改修1階(X6通･Y2-Y3通間)断面図　1/50

凡　例

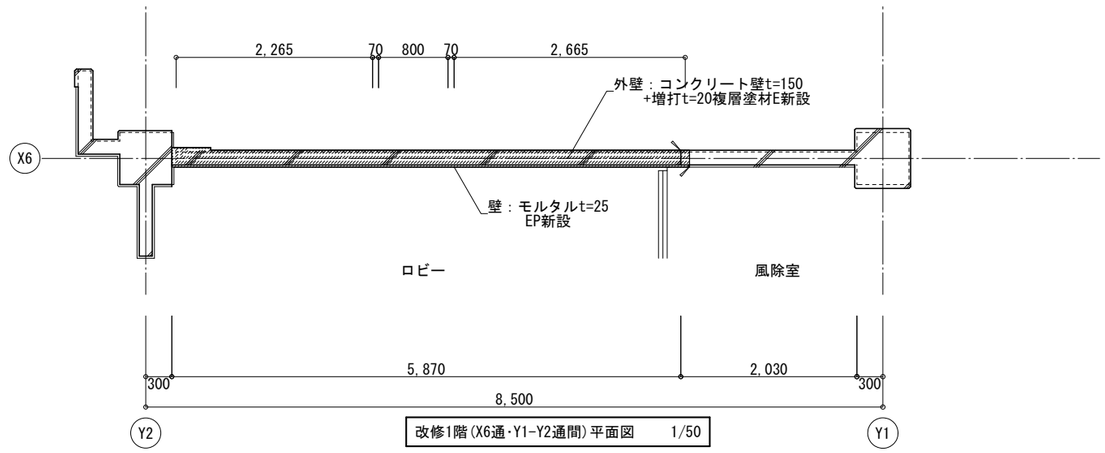
改修部分を示す

シーリングを示す

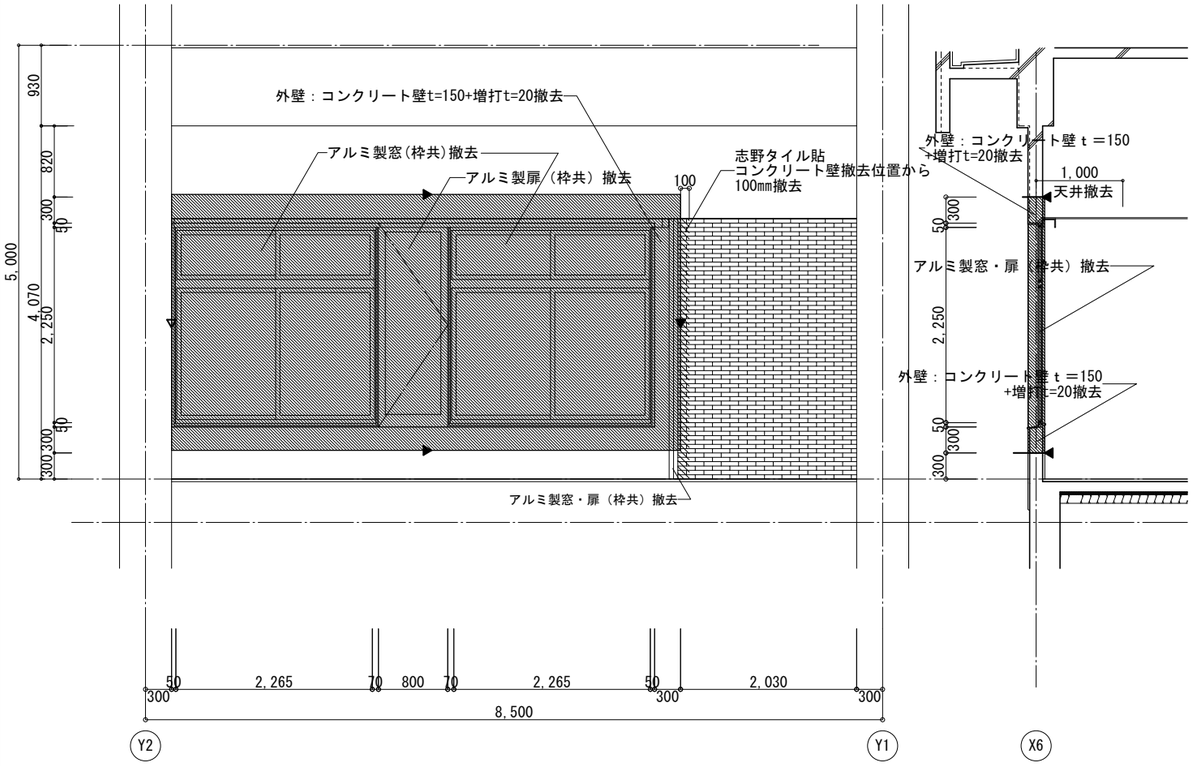
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-66
				図面名：現況・改修１階(X6通･Y2-Y3通間)開口閉鎖詳細図	令和　年　月　日	



現況1階(X6通･Y1-Y2通間)平面図　1/50

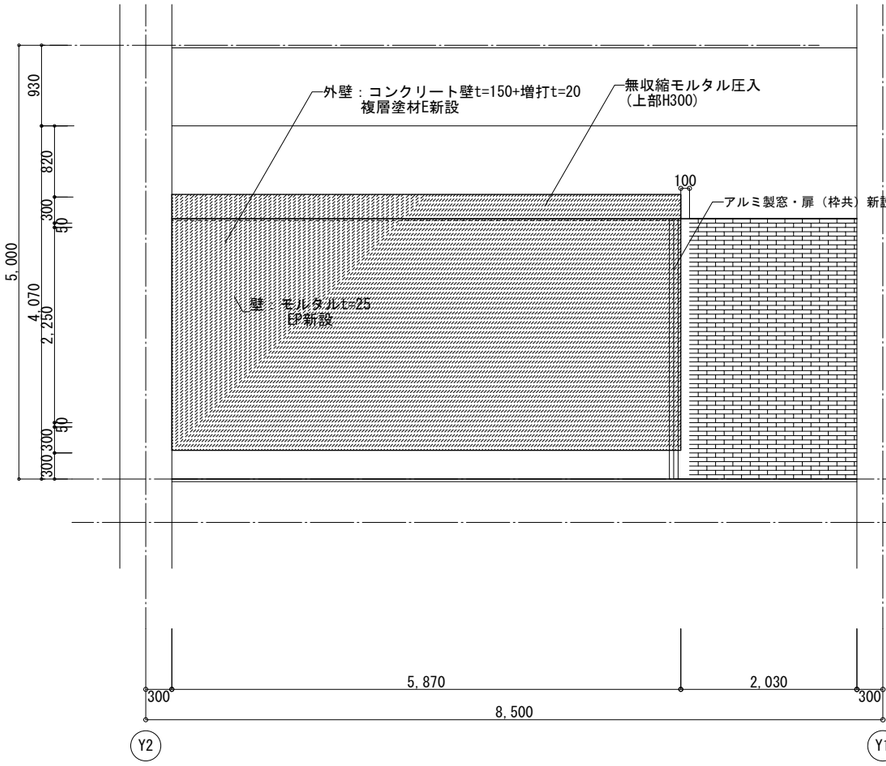


改修1階(X6通･Y1-Y2通間)平面図　1/50

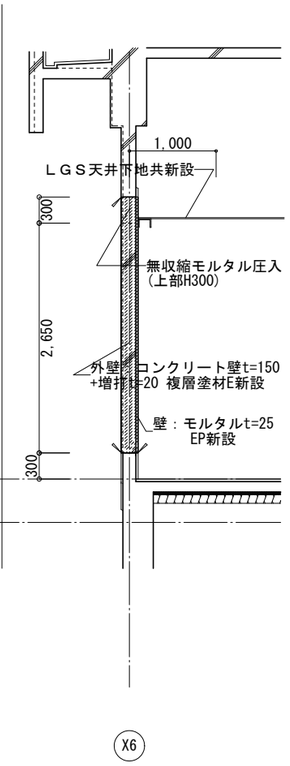


現況1階(X6通･Y1-Y2通間)展開図　1/50

現況1階(X6通･Y1-Y2通間)断面図　1/50



改修1階(X6通･Y1-Y2通間)展開図　1/50



現況1階(X6通･Y1-Y2通間)断面図　1/50

凡　例

撤去部分を示す

▼　コンクリートカッターを示す

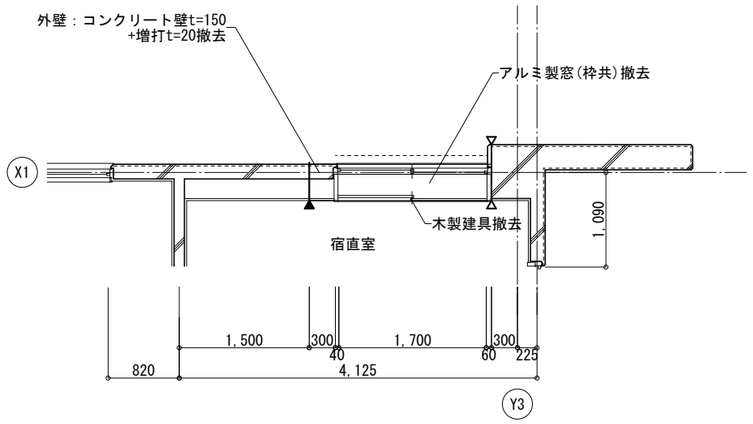
▽　モルタルカッターを示す

凡　例

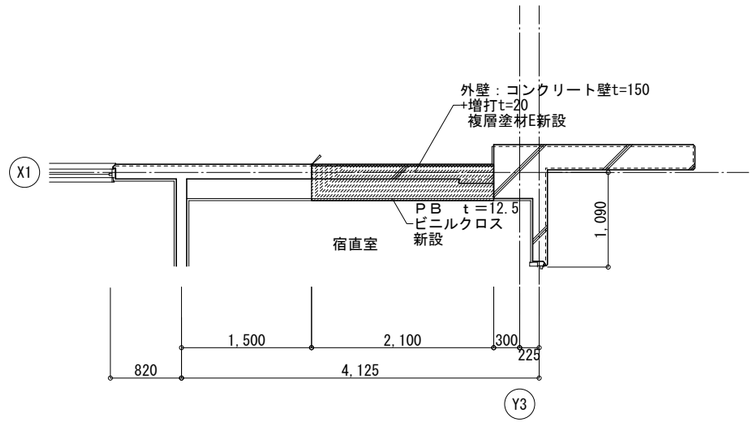
改修部分を示す

シーリングを示す

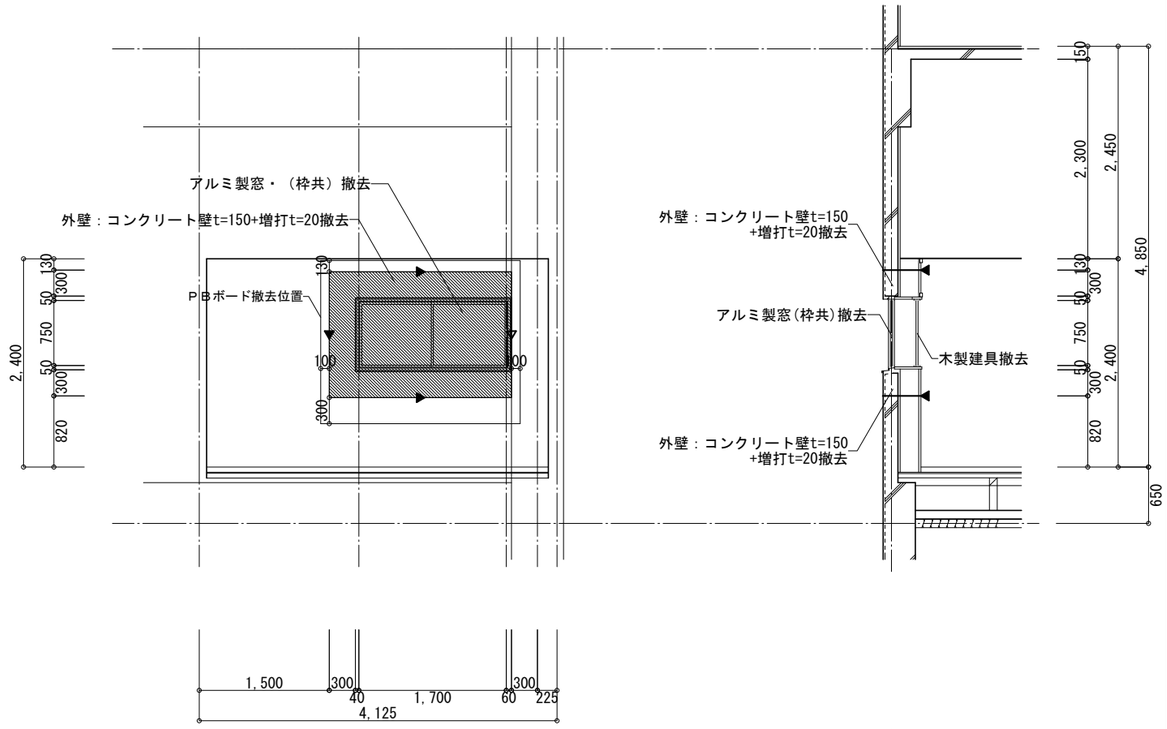
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-67
				図面名：現況・改修１階(X6通･Y1-Y2通間)開口閉鎖詳細図	令和　年　月　日	



現況1階(X1通･Y2-Y3通間)平面図　1/50

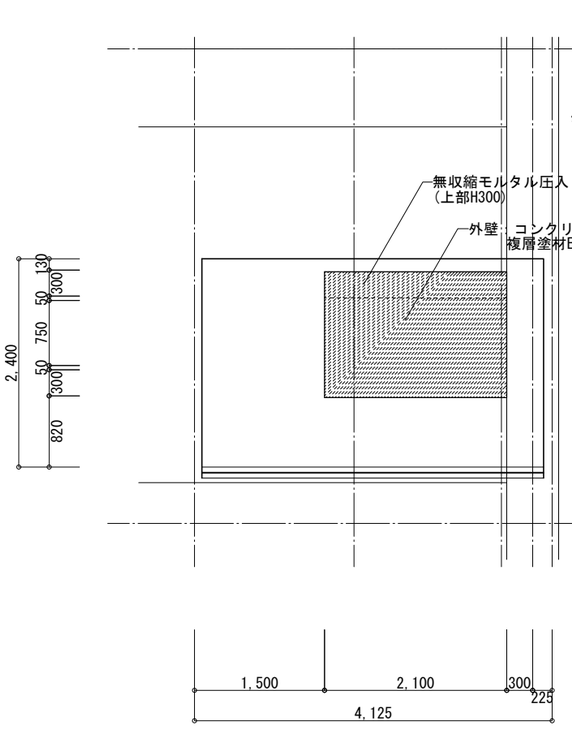


改修1階(X1通･Y2-Y3通間)平面図　1/50

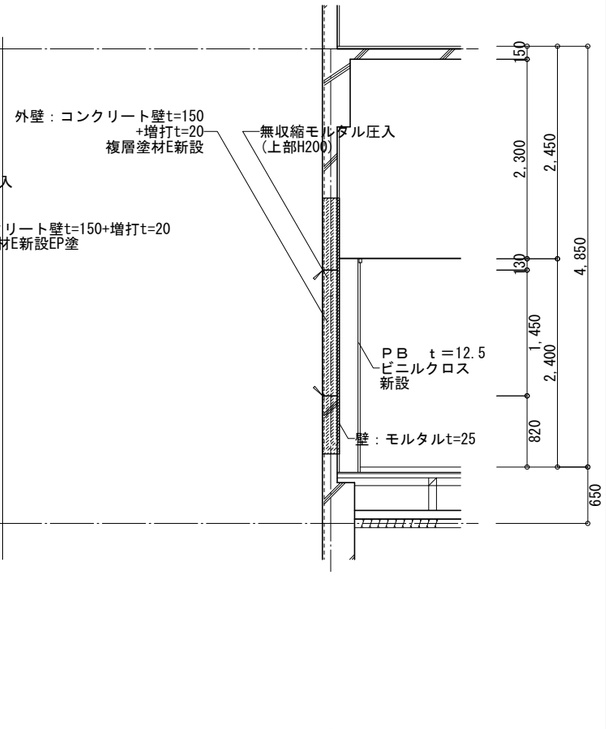


現況1階(X1通･Y2-Y3通間)展開図　1/50

現況1階(X1通･Y2-Y3通間)断面図　1/50



改修1階(X1通･Y2-Y3通間)展開図　1/50



改修1階(X1通･Y2-Y3通間)断面図　1/50

凡　例

撤去部分を示す

▼　コンクリートカッターを示す

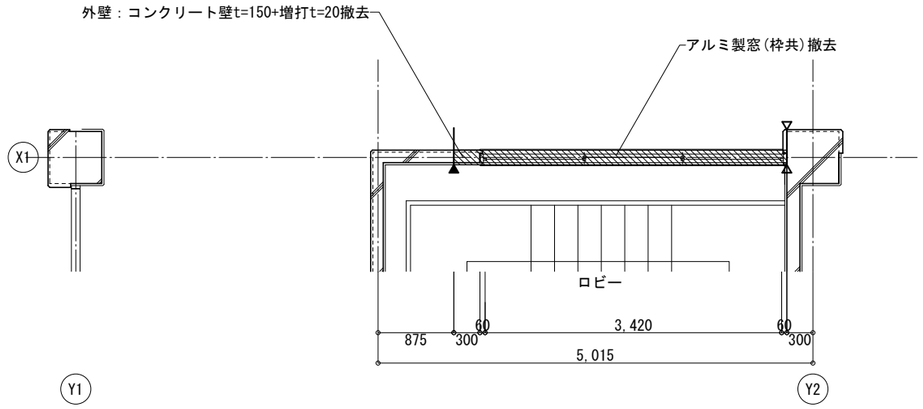
▽　モルタルカッターを示す

凡　例

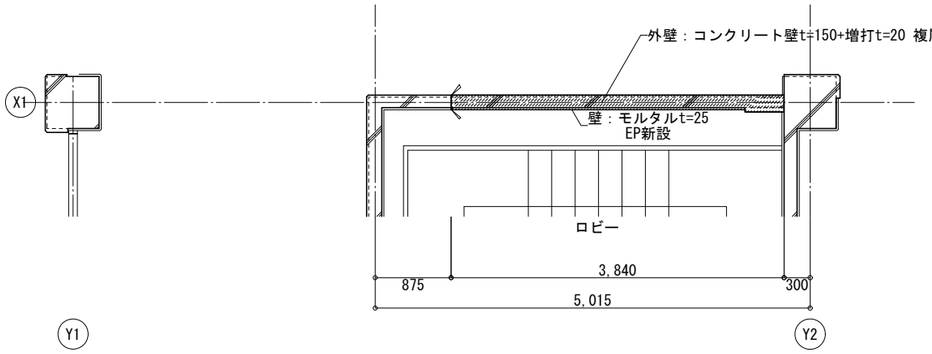
改修部分を示す

シーリングを示す

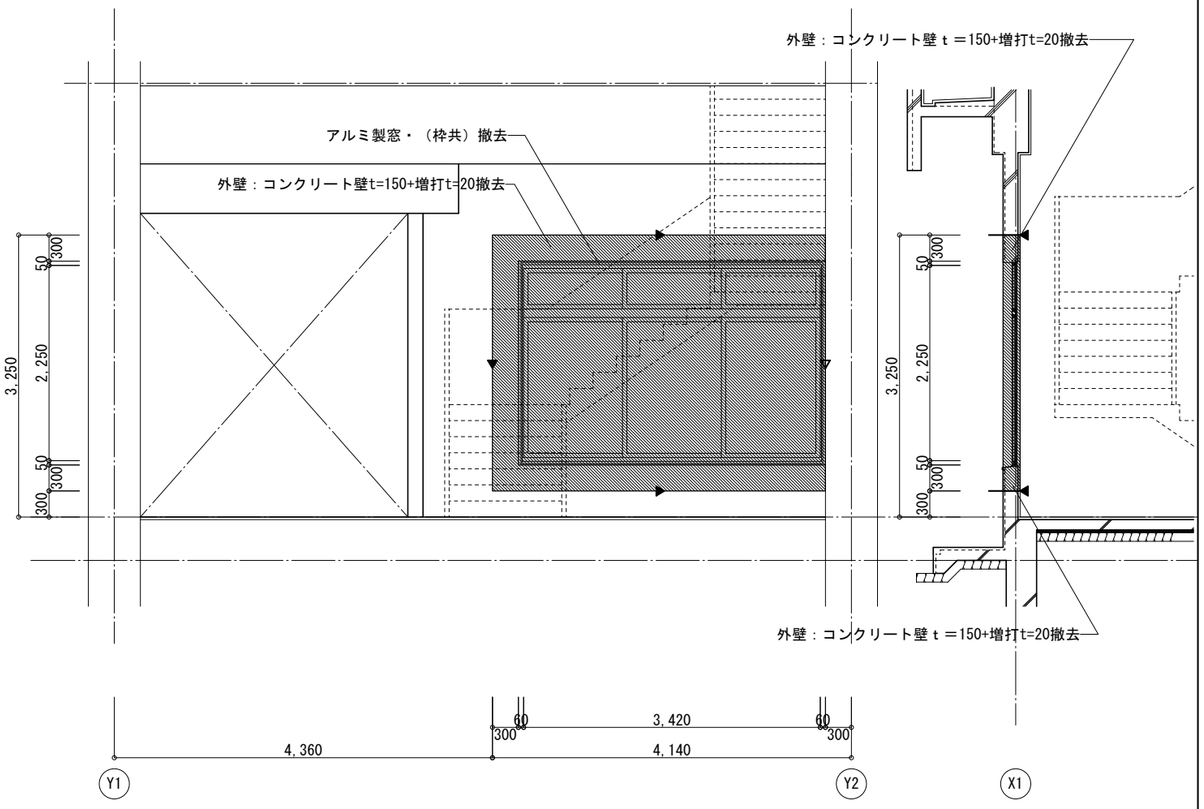
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笏置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-68
				図面名 現況・改修１階(X1通･Y2-Y3通間)開口閉鎖詳細図	令和　年　月　日	



現況1階(X1通･Y1-Y2通間)平面図　1/50

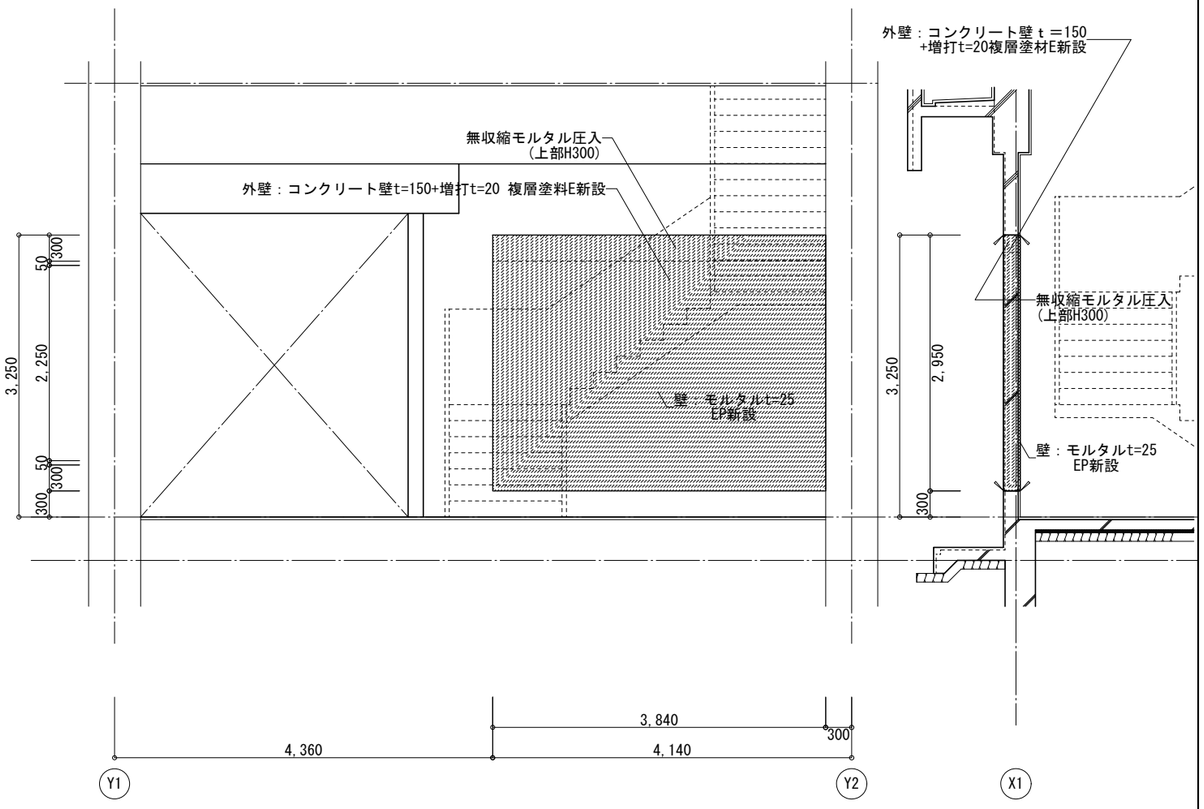


改修1階(X1通･Y1-Y2通間)平面図　1/50



現況1階(X1通･Y1-Y2通間)展開図　1/50

現況1階(X1通･Y1-Y2通間)断面図　1/50



改修1階(X1通･Y1-Y2通間)展開図　1/50

改修1階(X1通･Y2-Y3通間)断面図　1/50

凡　例

撤去部分を示す

▼　コンクリートカッターを示す

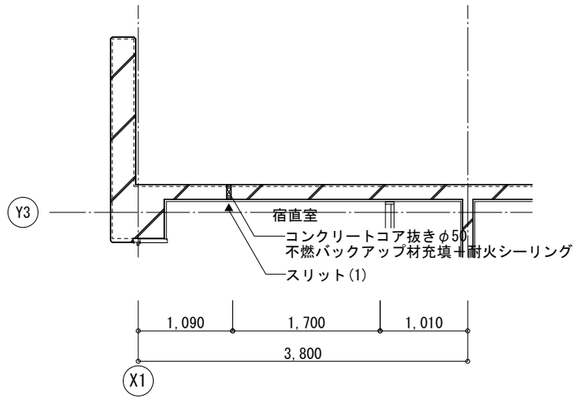
▽　モルタルカッターを示す

凡　例

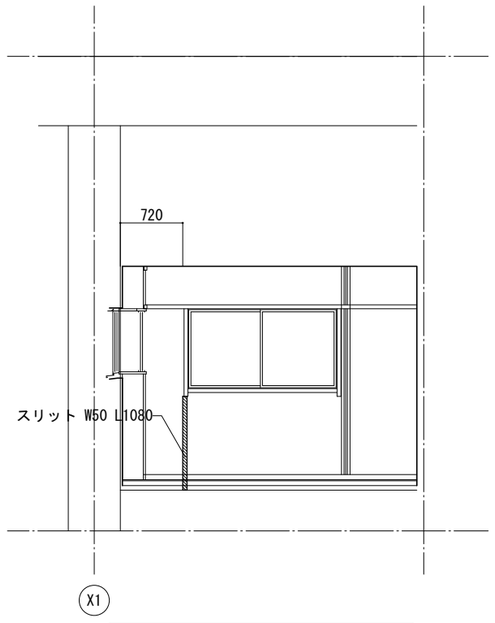
改修部分を示す

／　シーリングを示す

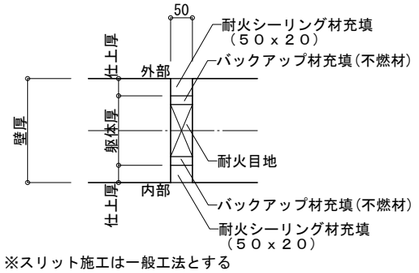
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況・改修１階(X1通･Y1-Y2通間)開口閉鎖詳細図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-69



現況1階(Y3通･X1-X2通間)平面図　1/50

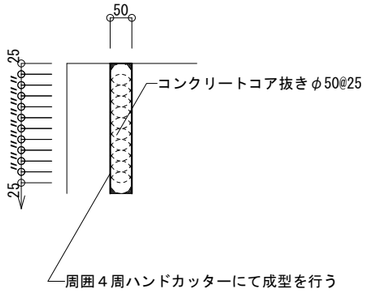


現況1階(Y3通･X1-X2通間)展開図　1/50

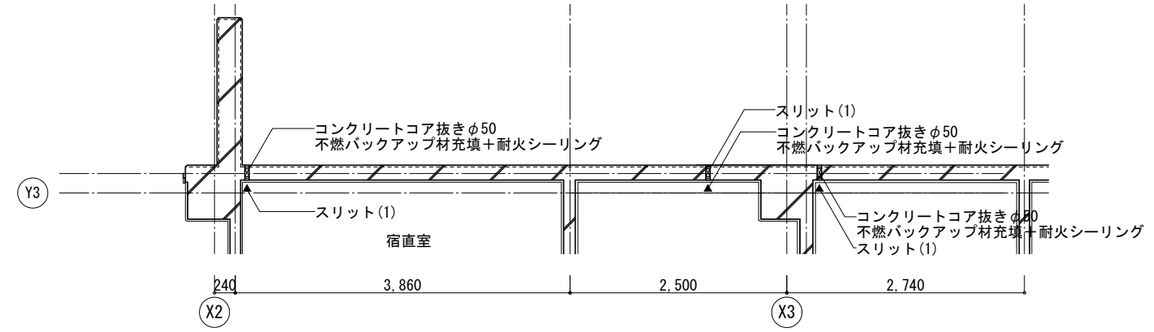


※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

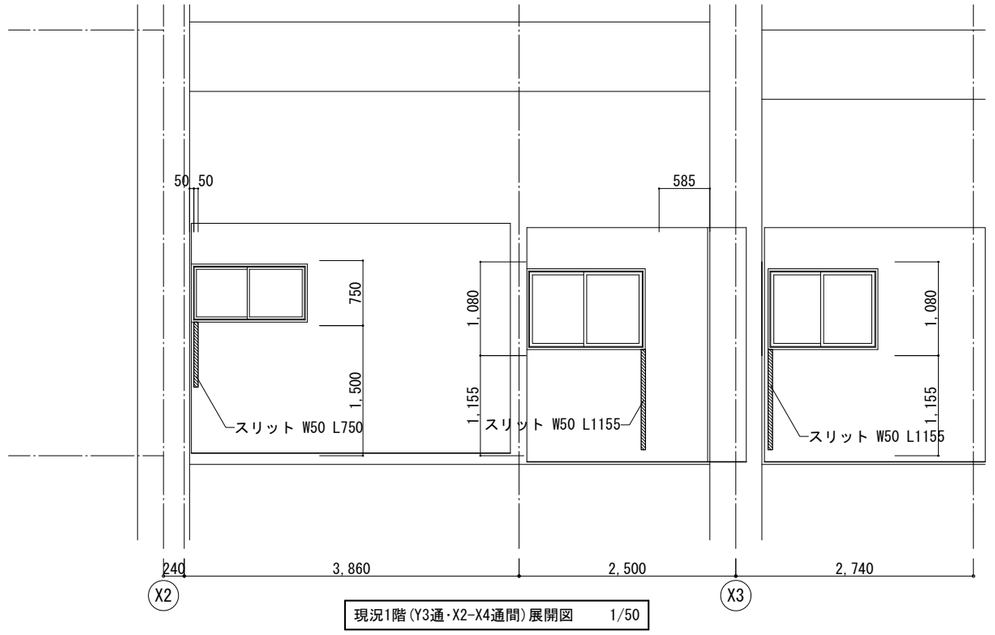
スリット詳細図　Ｓ＝１／１０



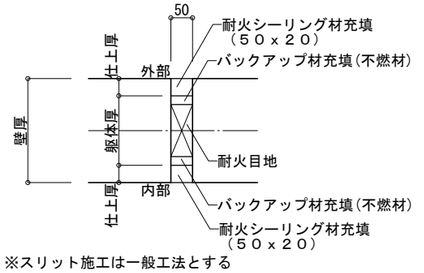
スリット詳細図　Ｓ＝１／１０



現況1階(Y3通･X2-X3通間)平面図　1/50

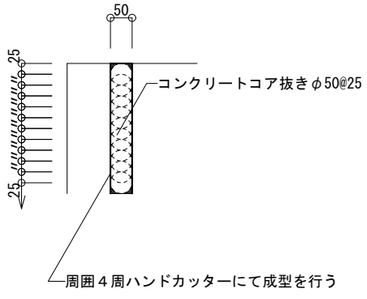


現況1階(Y3通･X2-X4通間)展開図　1/50



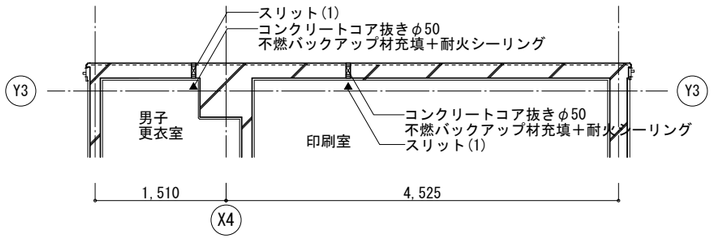
※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

スリット詳細図　Ｓ＝１／１０

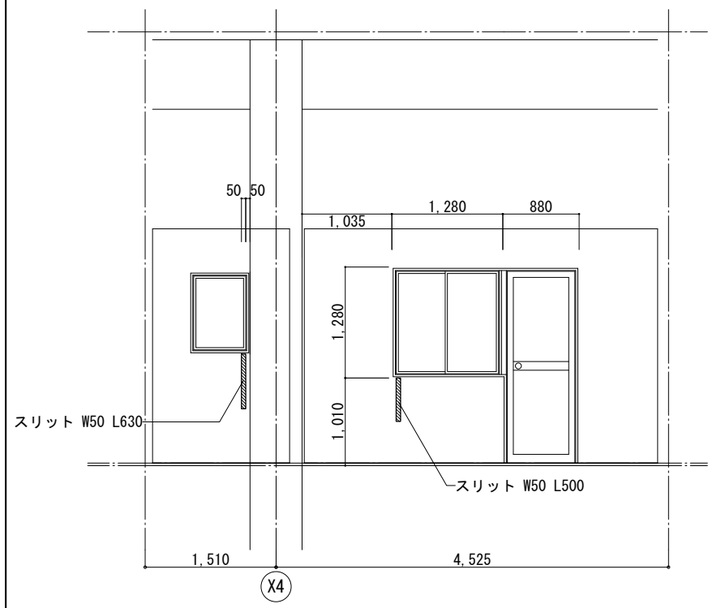


スリット詳細図　Ｓ＝１／１０

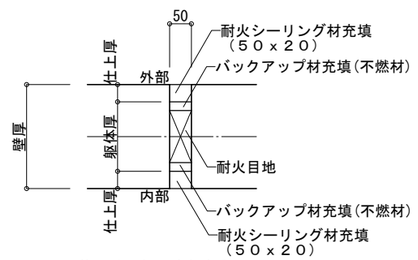
％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 現況・改修１階(Y3通･X1-X4)スリット詳細図	縮尺 1/10・1/50 令和 年 月 日	図面番号 A-70



現況1階(Y3通･X4-X5通間)平面図　1/50

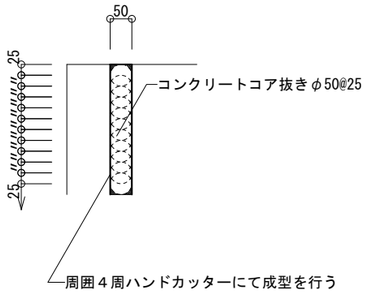


現況1階(Y3通･X4-X5通間)展開図　1/50

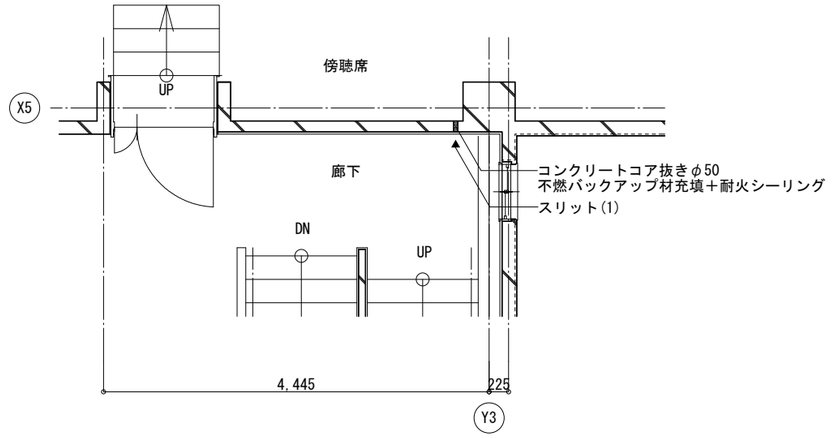


※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

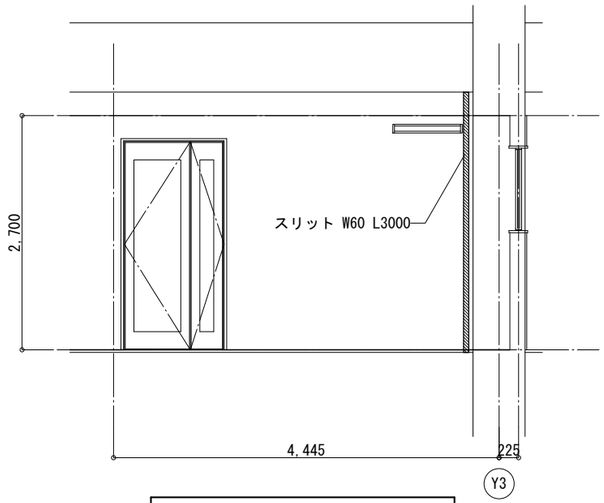
スリット詳細図　Ｓ＝１／１０



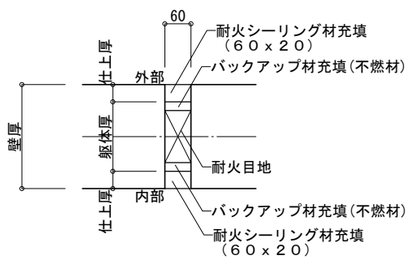
スリット詳細図　Ｓ＝１／１０



現況2階(X5通･Y2-Y3通間)平面図　1/50

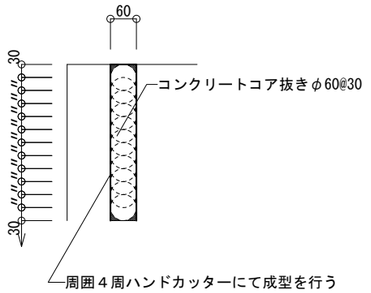


現況2階(X5通･Y2-Y3通間)展開図　1/50



※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

スリット詳細図　Ｓ＝１／１０



スリット詳細図　Ｓ＝１／１０

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

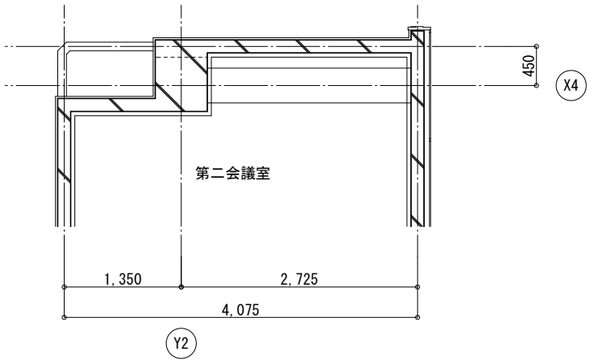
工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

図面名　現況・改修１階(Y3通･X4-X5通間)(X5通･Y2-Y3通間)スリット詳細図

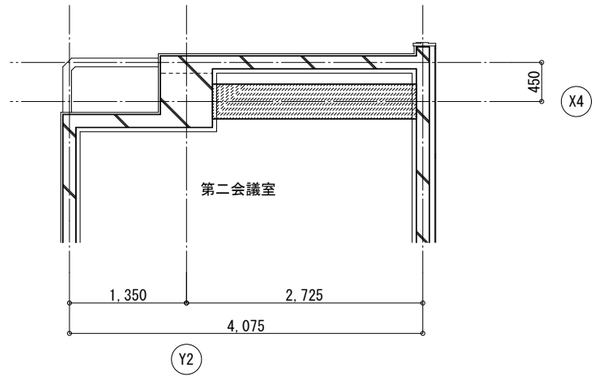
縮尺　1/10・1/50

令和　年　月　日

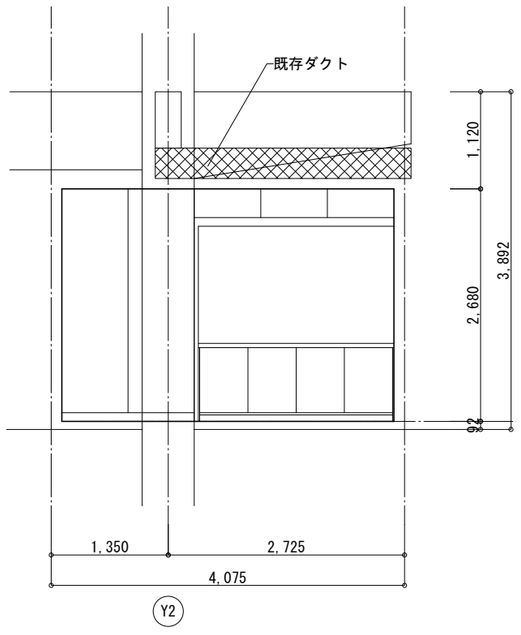
図面番号　A-71



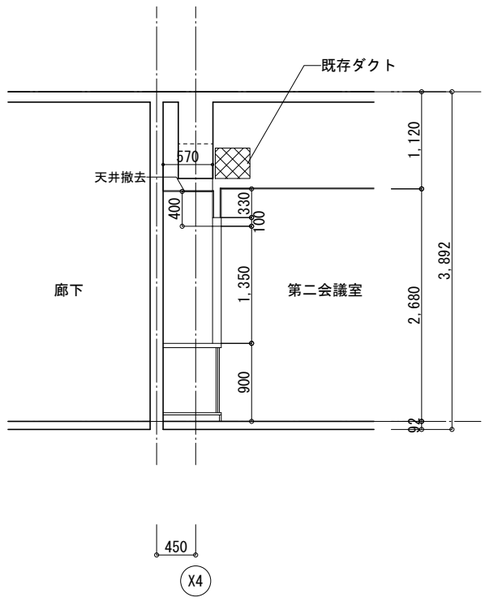
現況2階(X4通・Y2-Y3通間)平面図　1/50



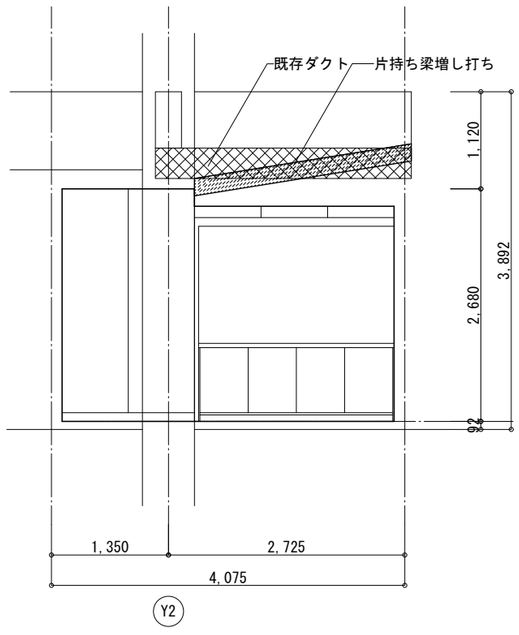
現況2階(X4通・Y2-Y3通間)平面図　1/50



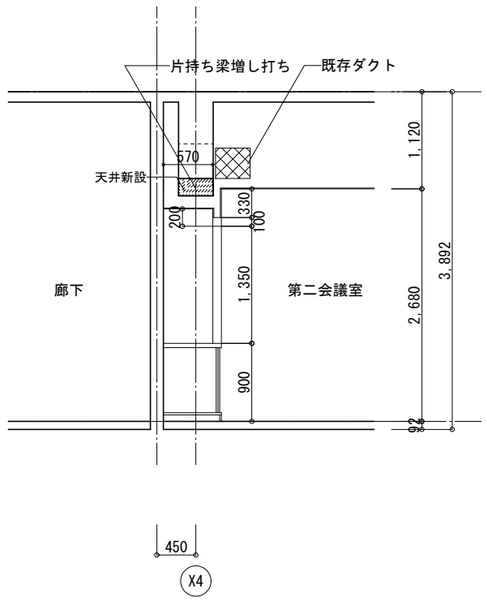
現況2階(X4通・Y2-Y3通間)展開図　1/50



現況2階(X4通・Y2-Y3通間)断面図　1/50



現況2階(X4通・Y2-Y3通間)展開図　1/50



現況2階(X4通・Y2-Y3通間)断面図　1/50

凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当

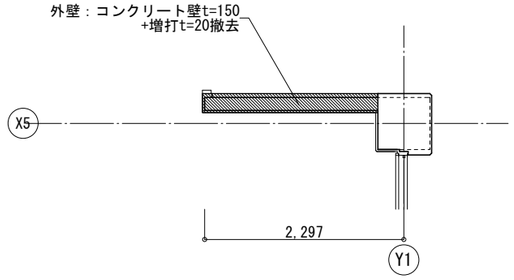
工事名　笠置町庁舎耐震補強工事

図面名　現況・改修２階(X4通・Y2-Y3通間)
片持ち梁増し打ち詳細図

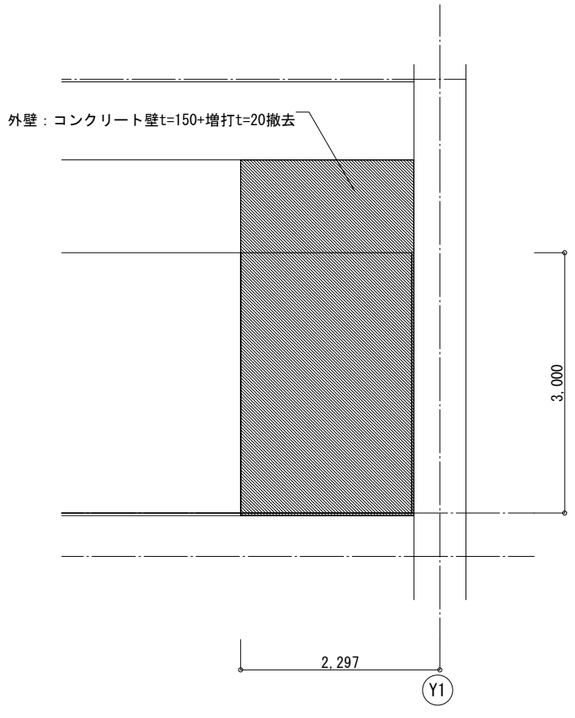
縮尺　1/50

令和　年　月　日

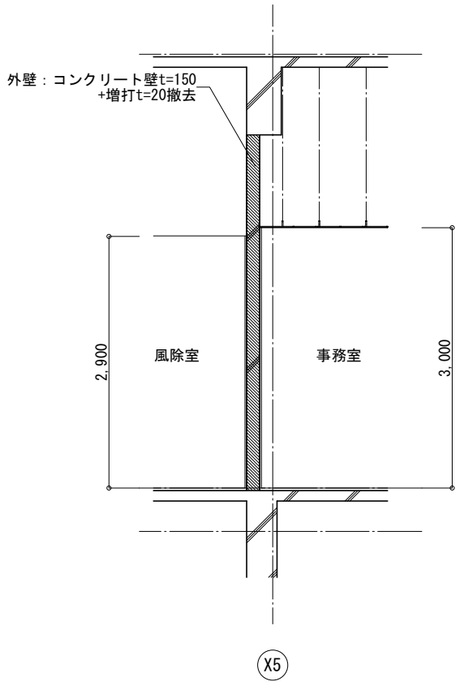
図面番号　A-72



現況1階(X5通･Y1-Y2通間)平面図　1/50



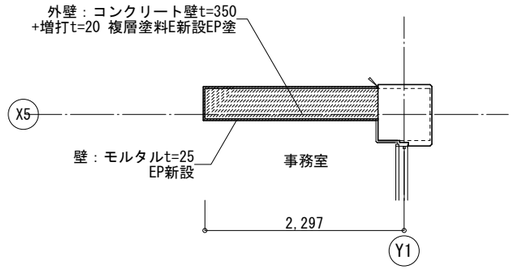
現況1階(X5通･Y1-Y2通間)展開図　1/50



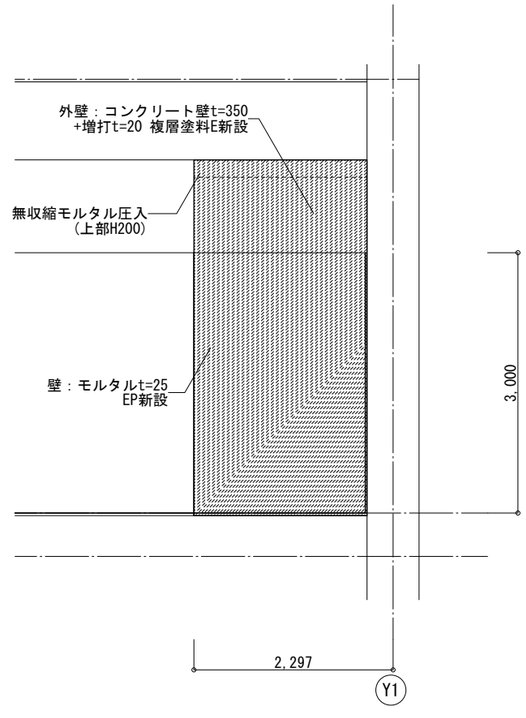
現況1階(X5通･Y1-Y2通間)断面図　1/50

凡　例

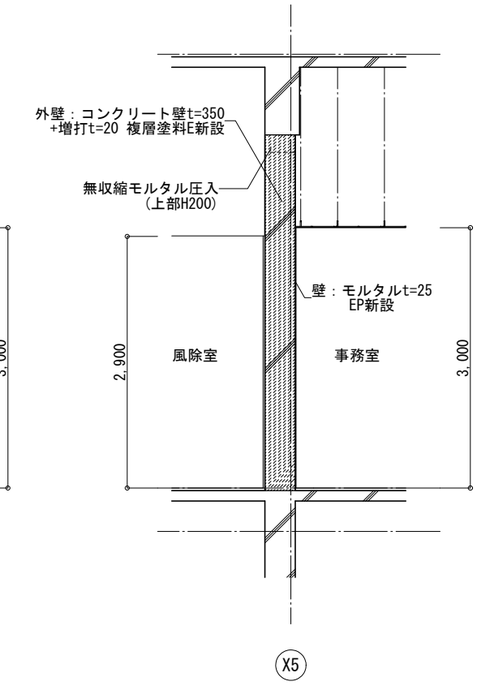
撤去部分を示す



現況1階(X5通･Y1-Y2通間)平面図　1/50



現況1階(X5通･Y1-Y2通間)展開図　1/50

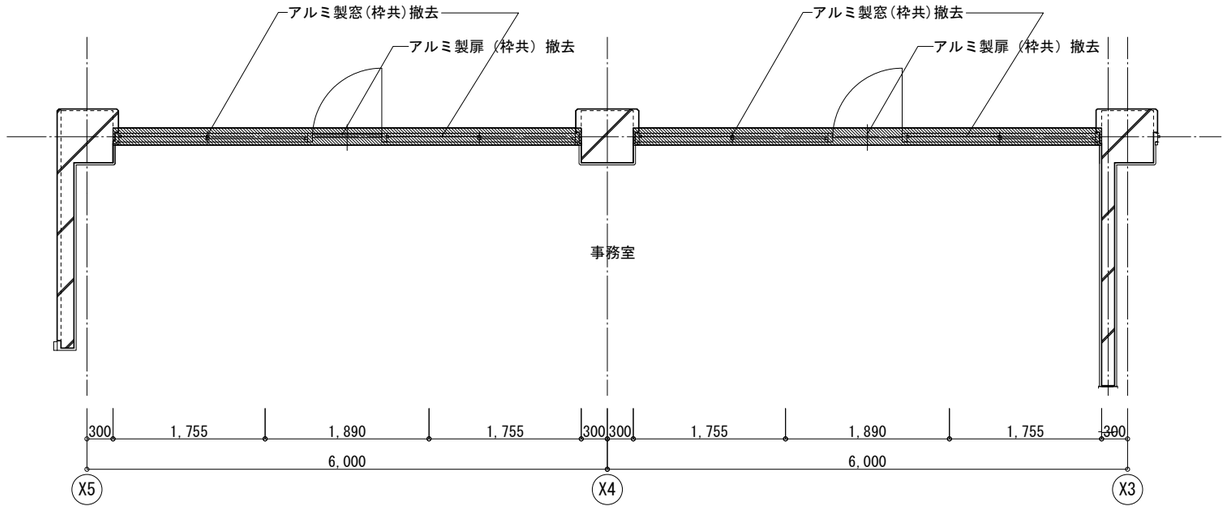


現況1階(X5通･Y1-Y2通間)断面図　1/50

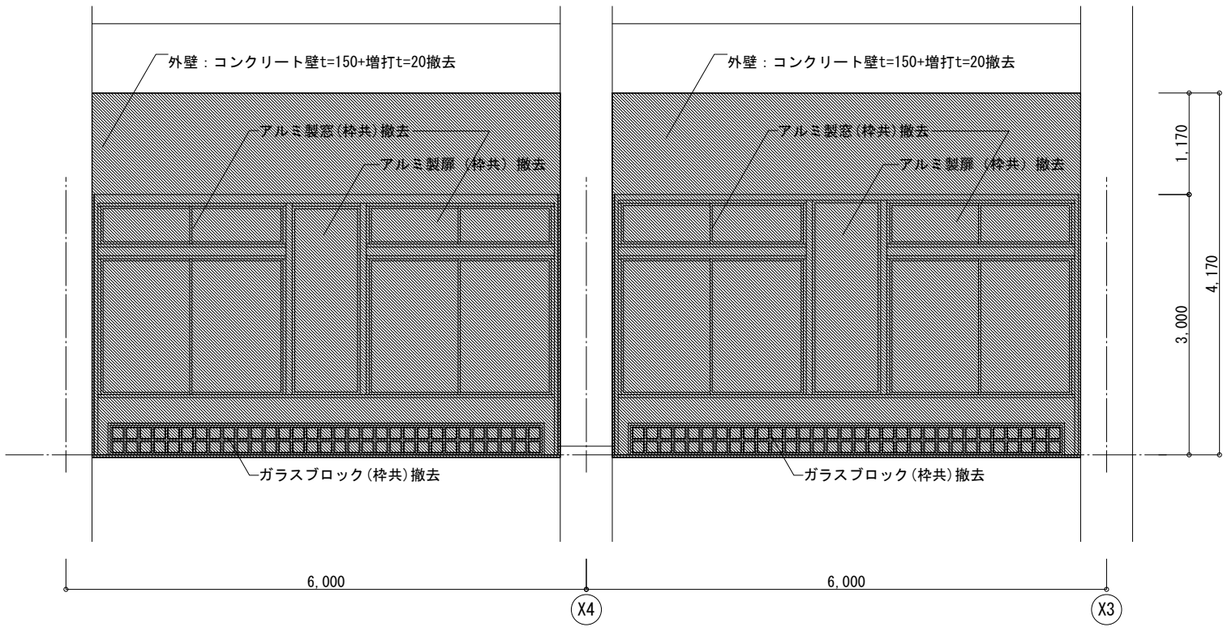
凡　例

改修部分を示す

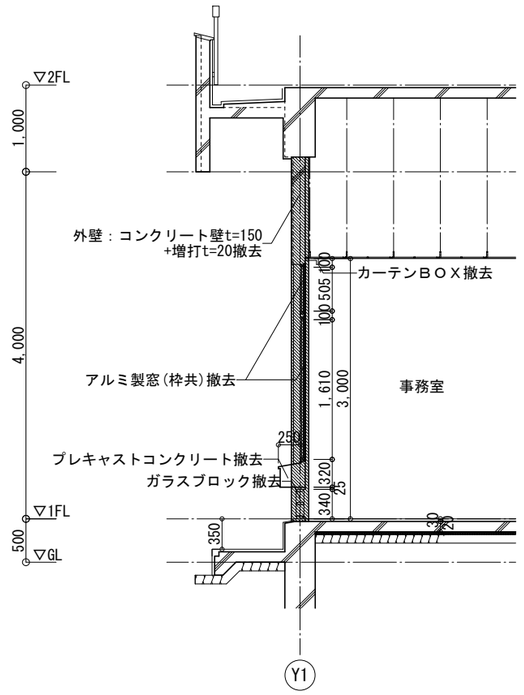
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-73
				図面名：現況・改修２階(X5通･Y1-Y2通間) 増し打ち壁詳細図	令和　年　月　日	



現況1階(Y1通･X3-X6通間)平面図　1/50



現況1階(Y1通･X3-X6通間)展開図　1/50

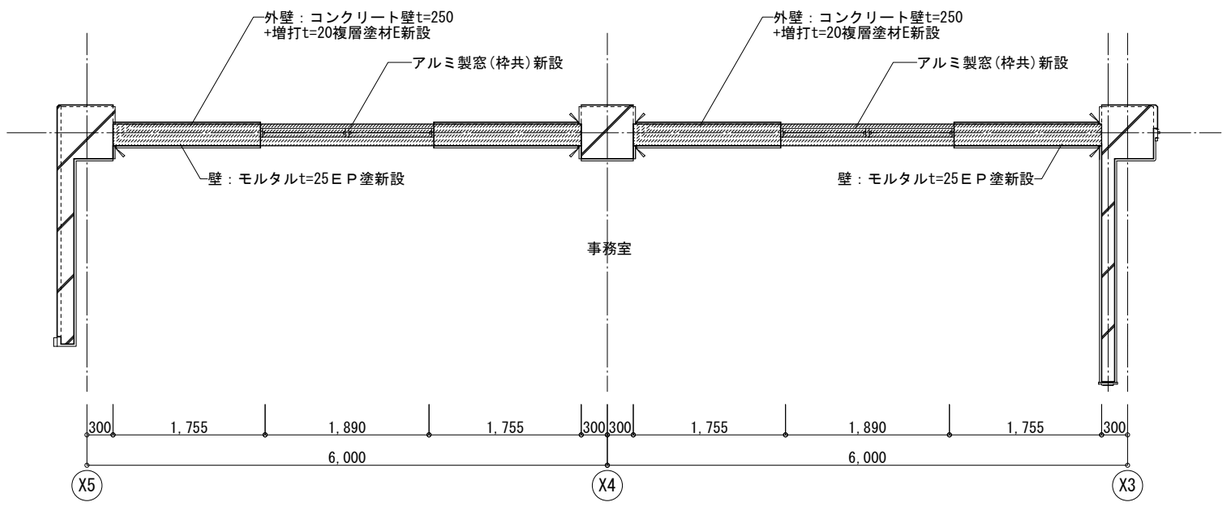


現況1階(Y1通･X3-X6通間)断面図　1/50

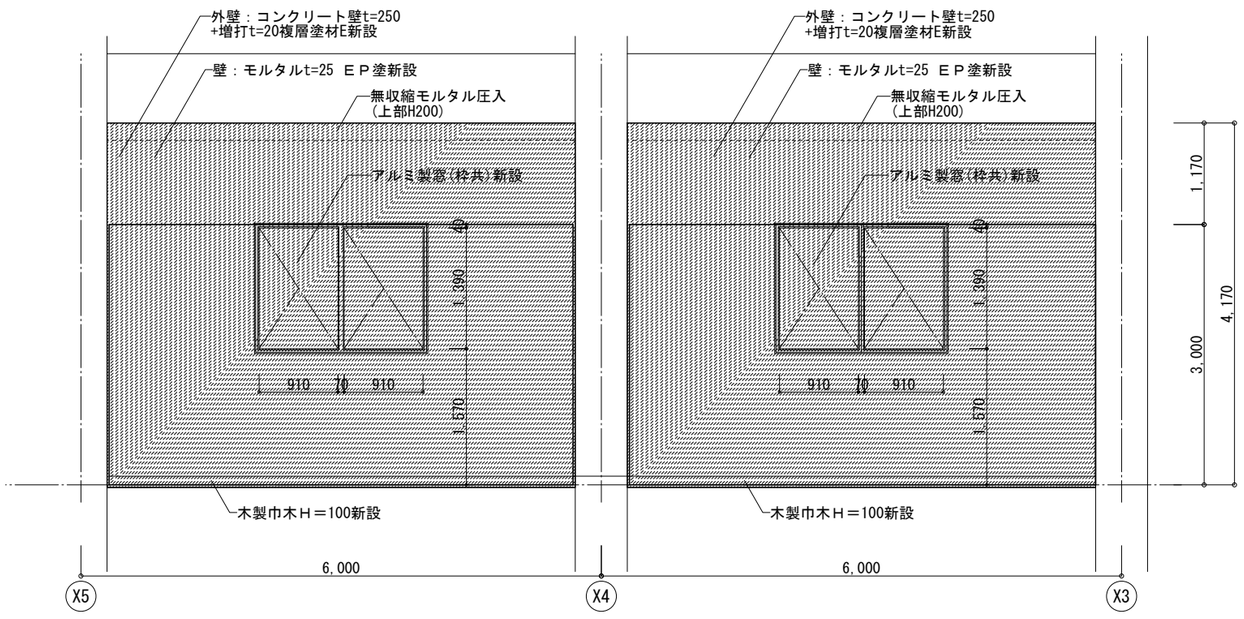
凡　例

撤去部分を示す

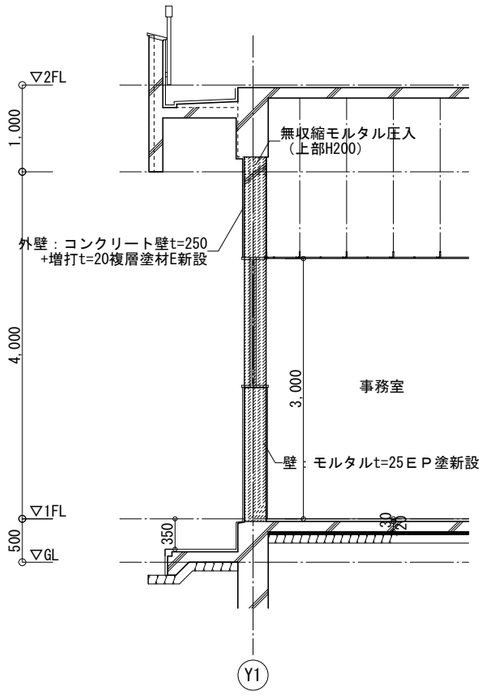
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-74
				図面名 現況１階(Y1通･X3-X6通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



改修1階(Y1通･X3-X6通間)平面図　1/50



改修1階(Y1通･X3-X6通間)展開図　1/50

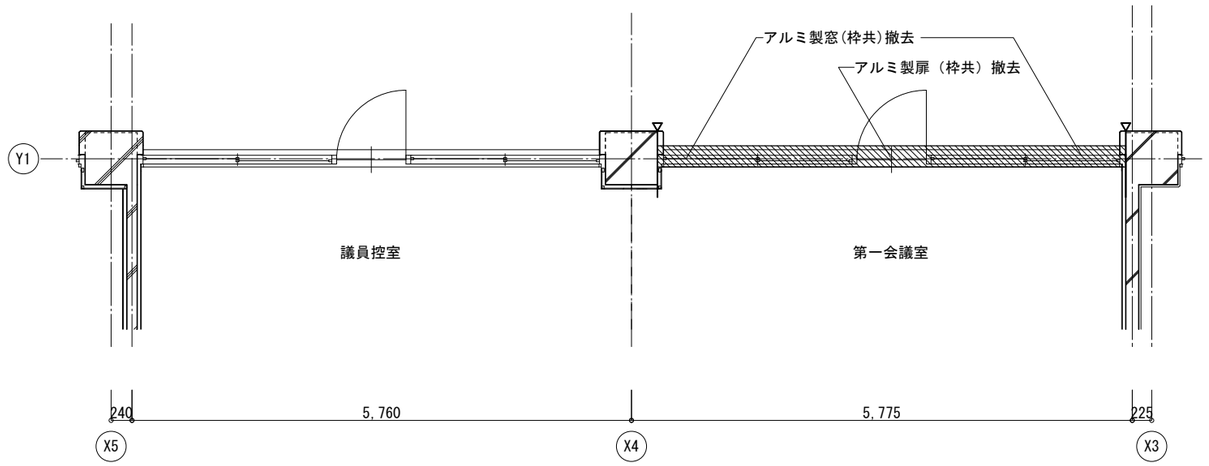


改修1階(Y1通･X3-X6通間)断面図　1/50

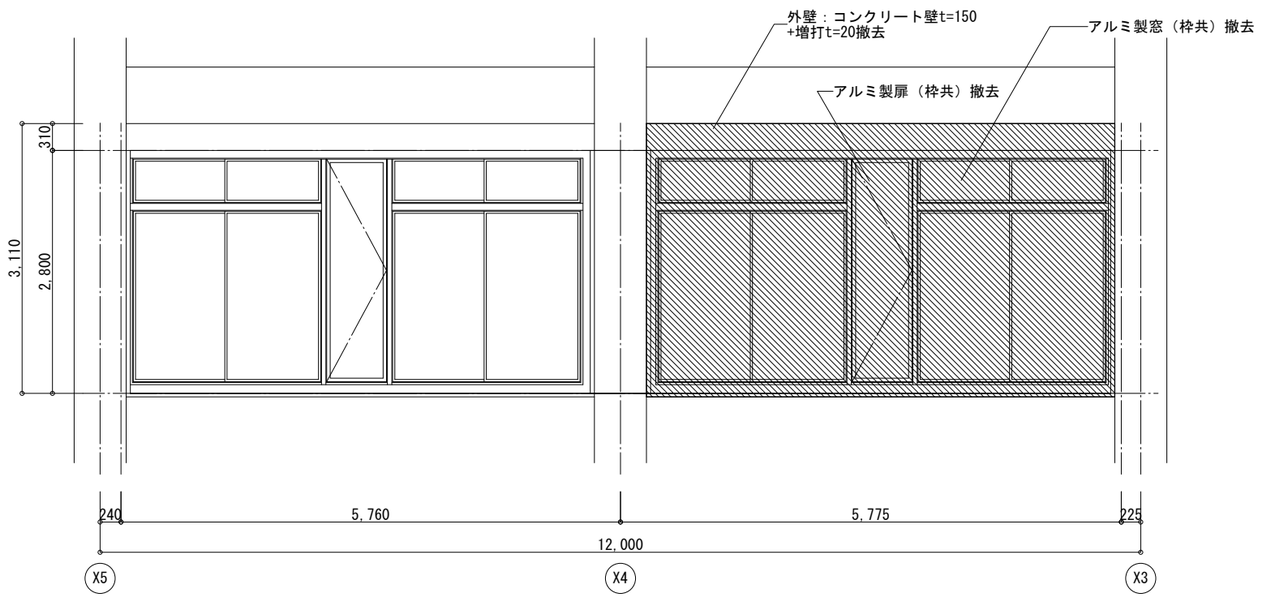
凡　例

改修部分を示す

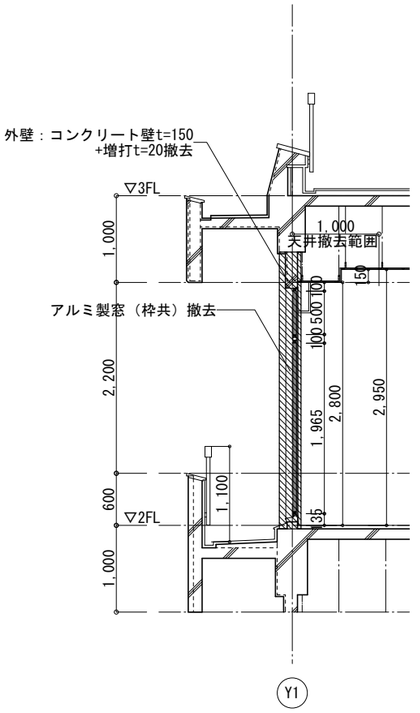
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-75
				図面名：改修１階(Y1通･X3-X6通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



現況2階(Y1通･X3-X5通間)平面図　1/50



現況2階(Y1通･X3-X5通間)展開図　1/50

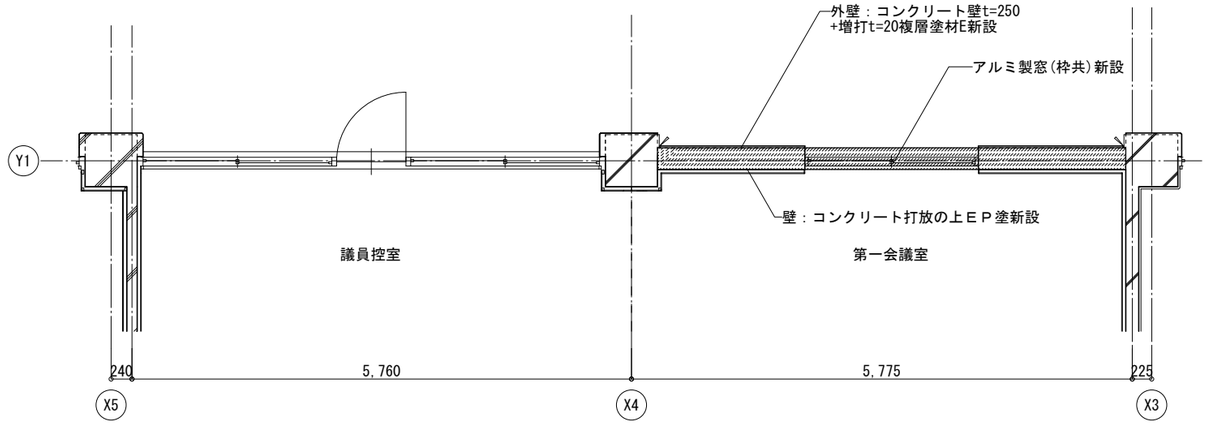


現況2階(Y1通･X3-X5通間)断面図　1/50

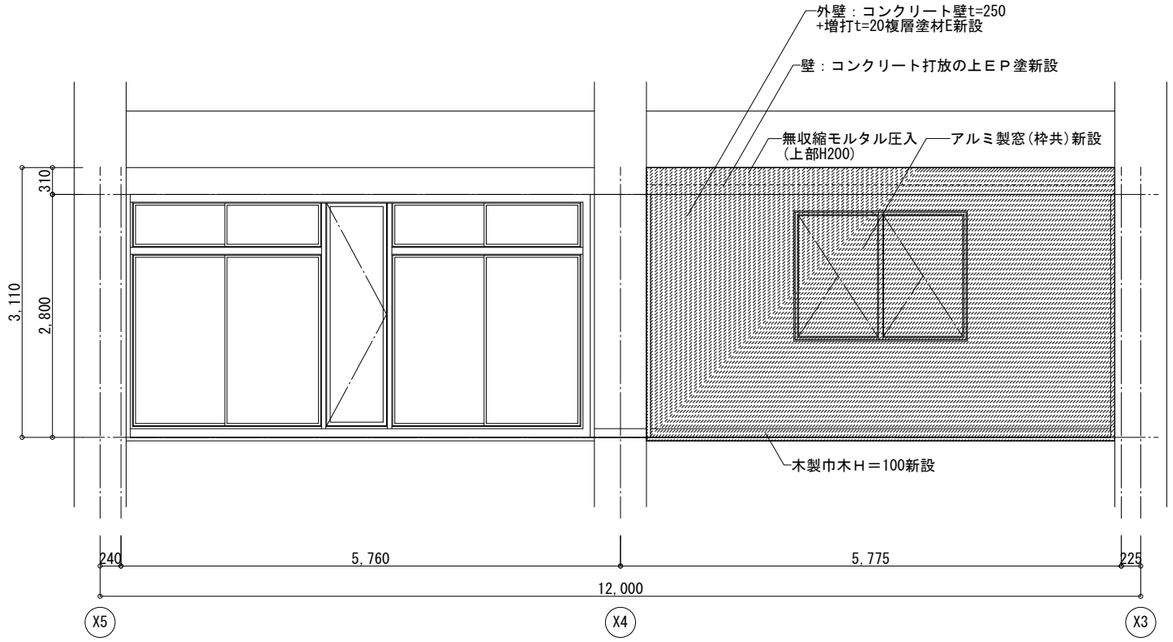
凡　例

撤去部分を示す

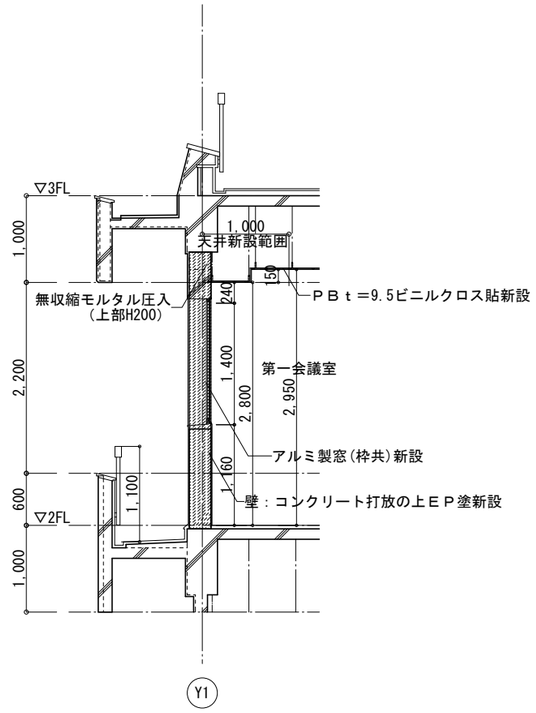
㈱ 株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-76
				図面名 現況２階(Y1通･X3-X5通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



改修2階(Y1通･X3-X5通間)平面図　1/50



改修2階(Y1通･X3-X5通間)展開図　1/50

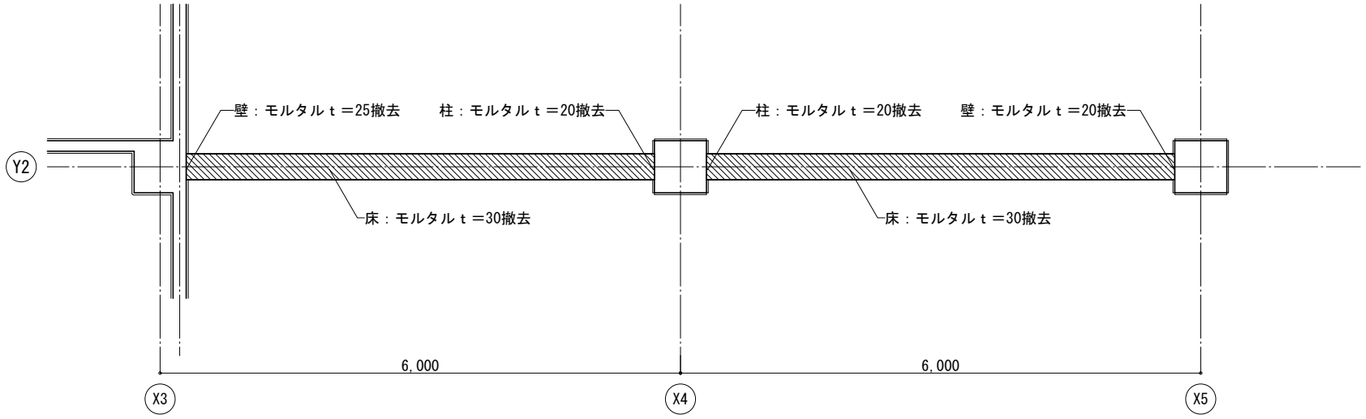


改修2階(Y1通･X3-X5通間)断面図　1/50

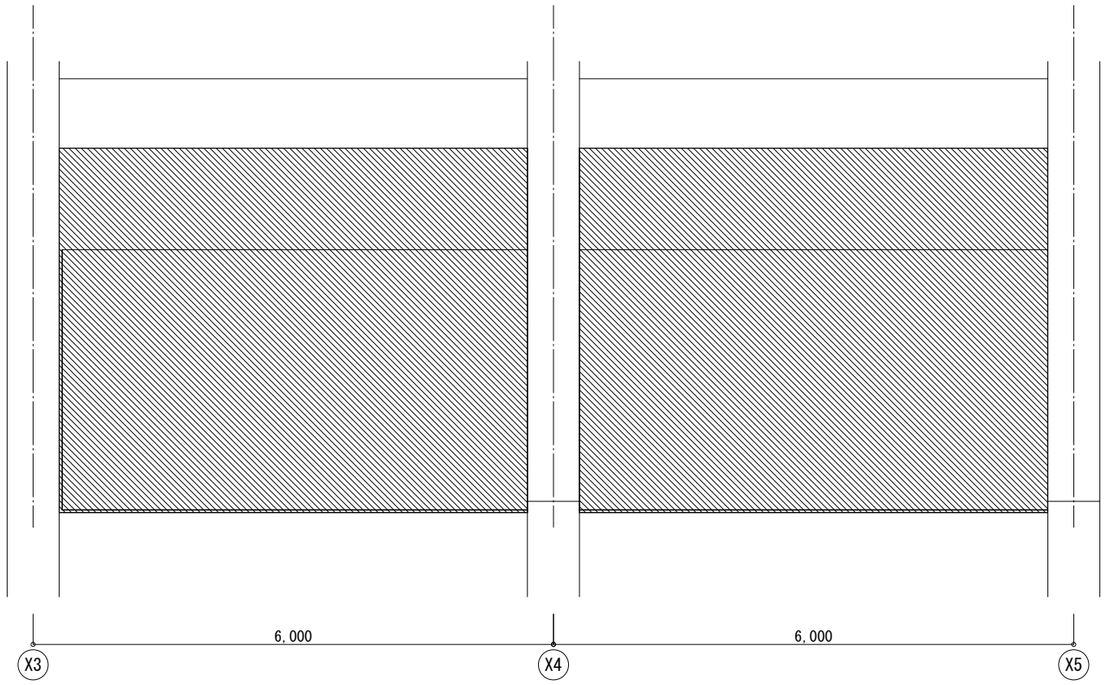
凡　例

改修部分を示す

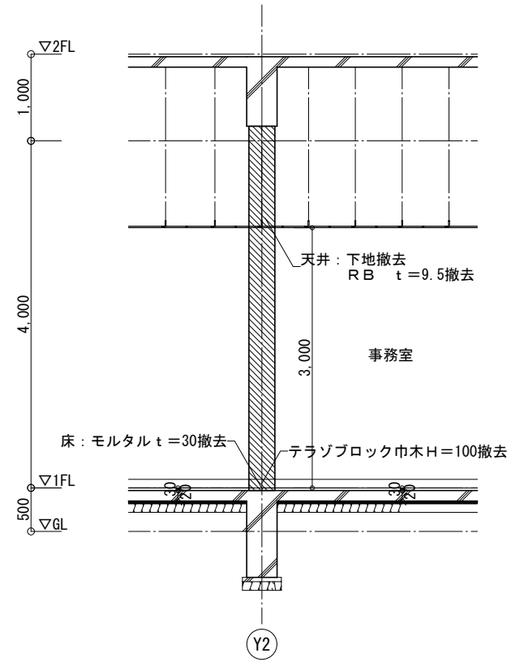
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-77
				図面名：改修２階(Y1通･X3-X5通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



現況1階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50



現況1階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50

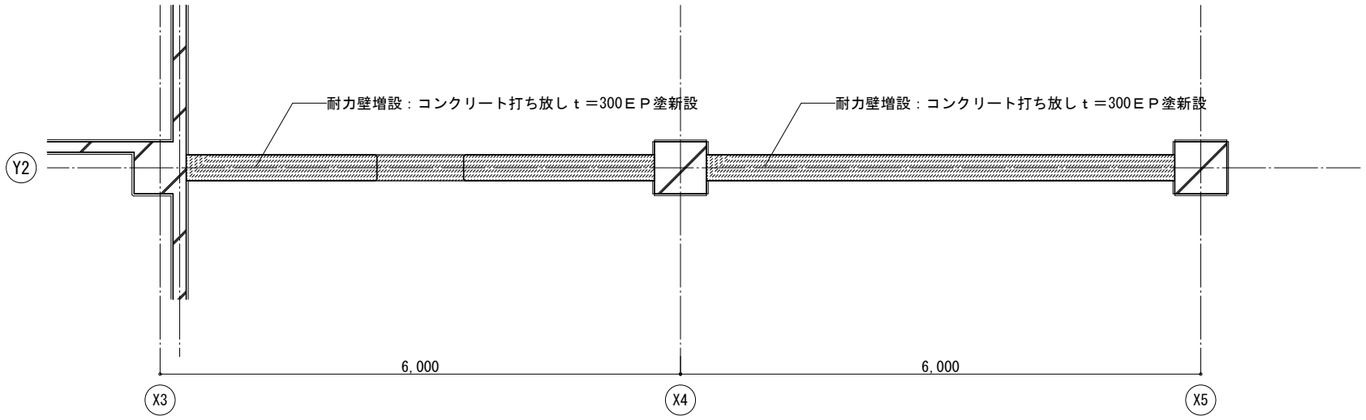


現況1階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50

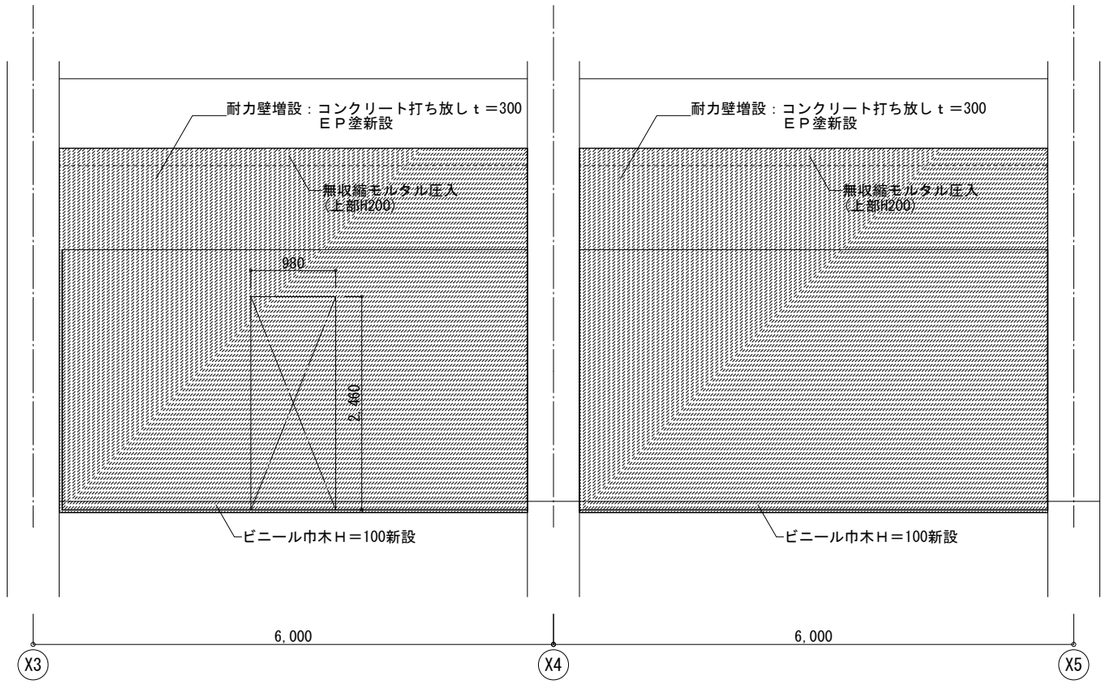
凡　例

撤去部分を示す

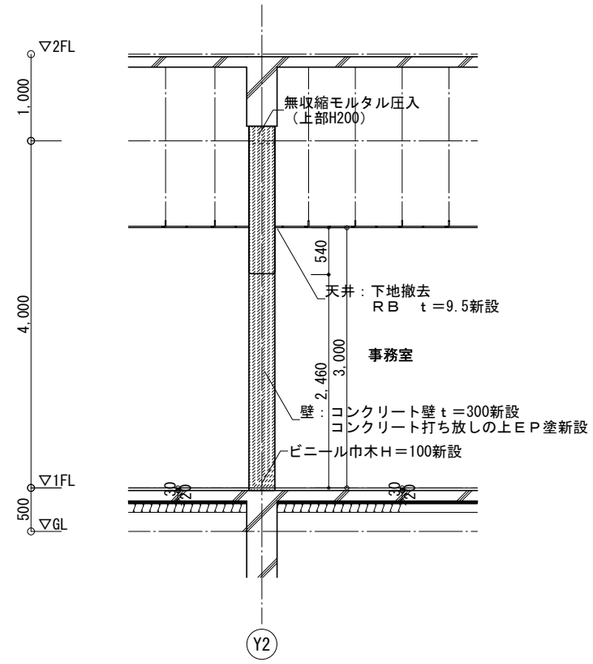
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-78
				図面名 現況１階(Y2通･X3-X5通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



改修1階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50



改修1階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50

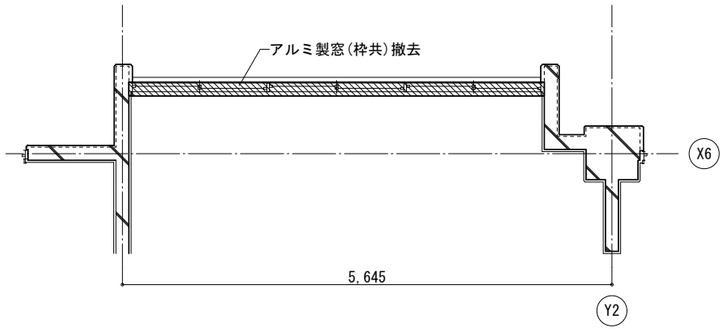


改修1階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50

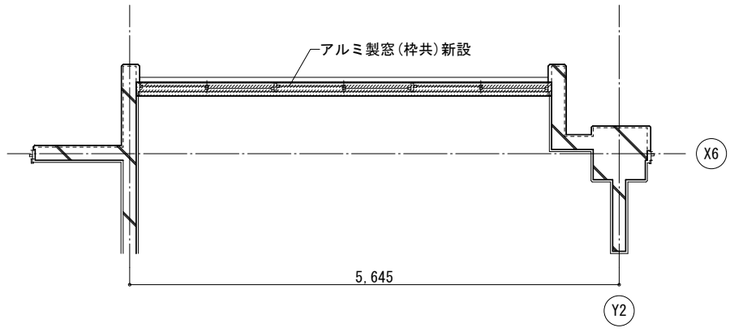
凡　例

改修部分を示す

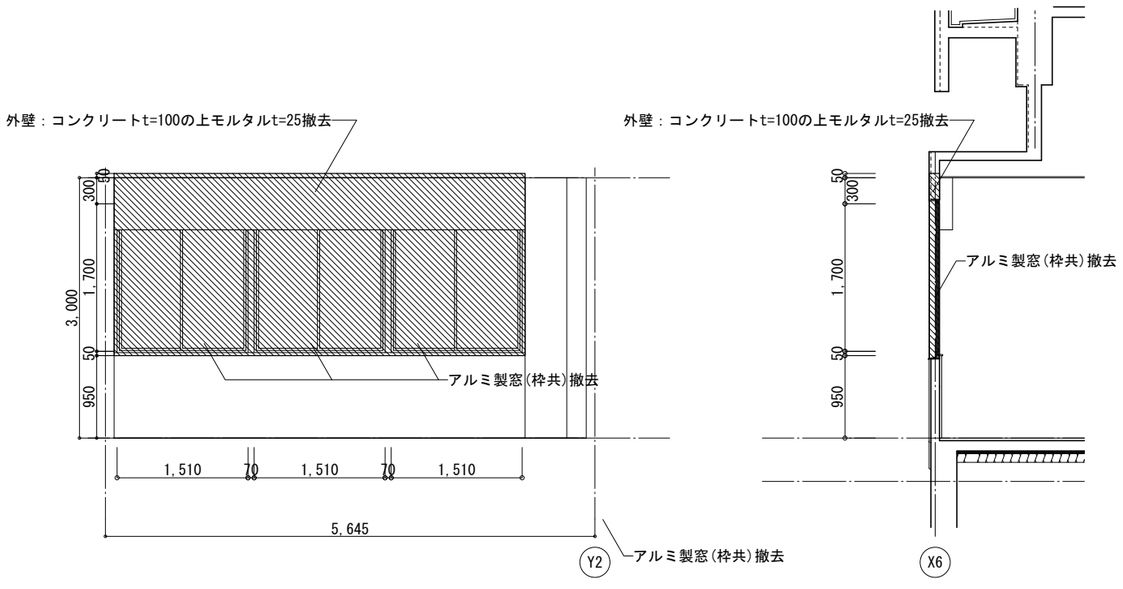
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/50	図面番号 A-79
				図面名 改修１階(Y2通･X3-X5通間)増設壁詳細図	令和　年　月　日	



現況　１階出納室　平面図　1/50

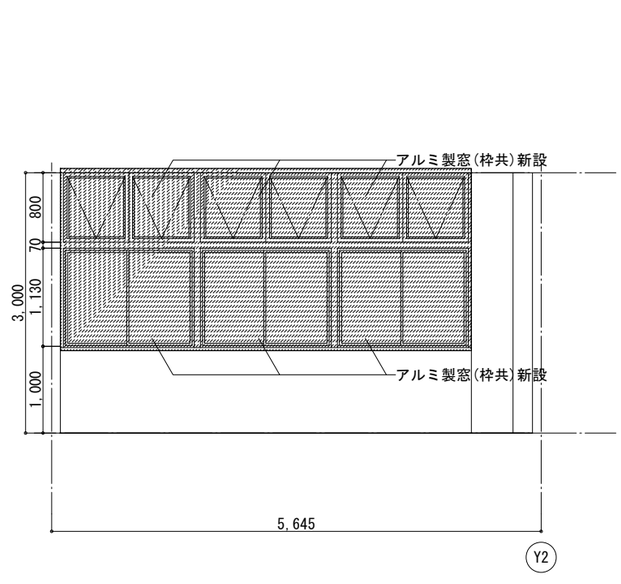


改修　１階出納室　平面図　1/50

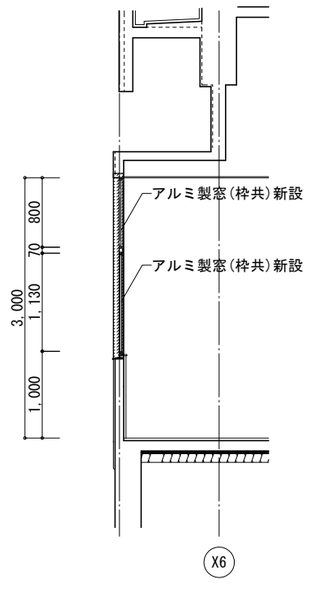


現況　１階出納室　展開図　1/50

現況　１階出納室　断面図　1/50



改修　１階出納室　展開図　1/50



改修　１階出納室　断面図　1/50

凡　例

撤去部分を示す

凡　例

改修部分を示す

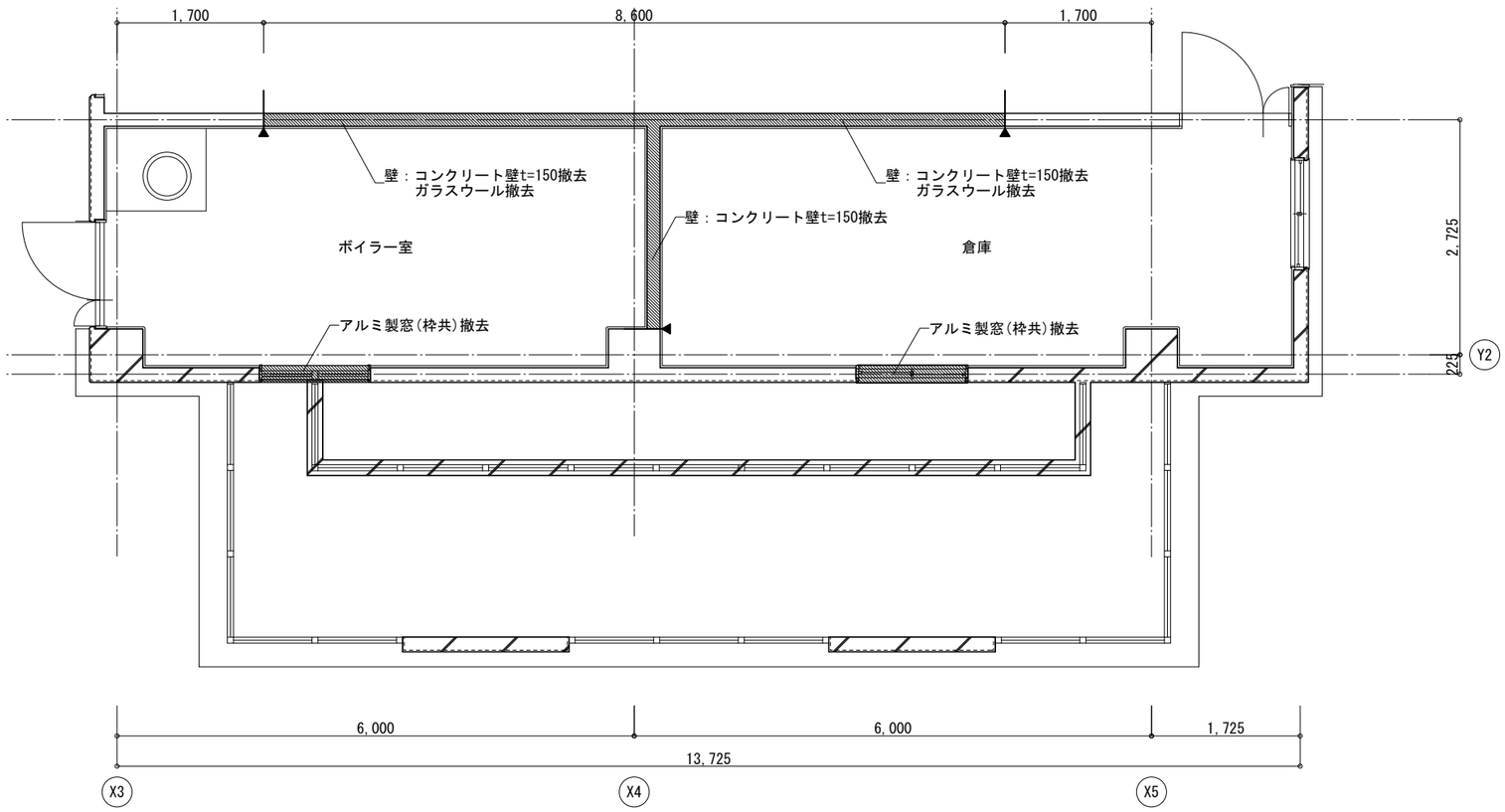
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：現況・改修１階出納室建具取替詳細図	縮尺：1/50 令和　年　月　日	図面番号：A-80

凡　例

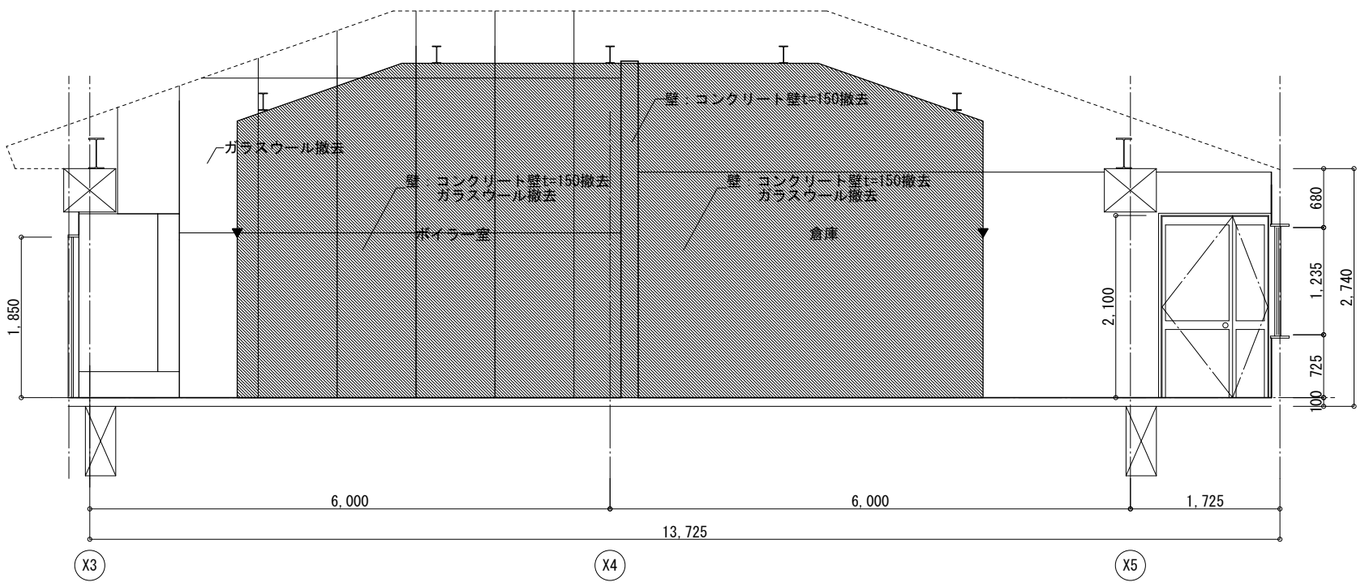
撤去部分を示す

▼ コンクリートカッターを示す

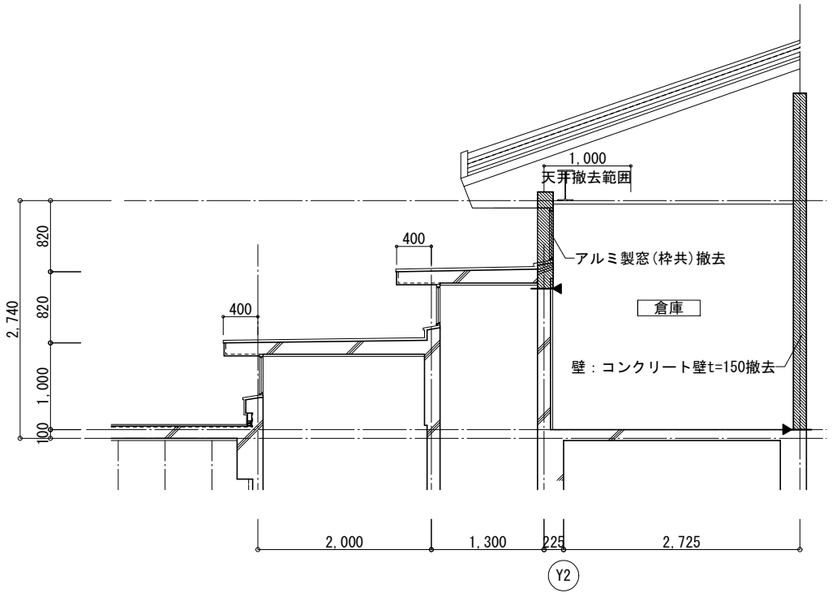
▽ モルタルカッターを示す



現況3階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50



現況3階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50



現況3階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50

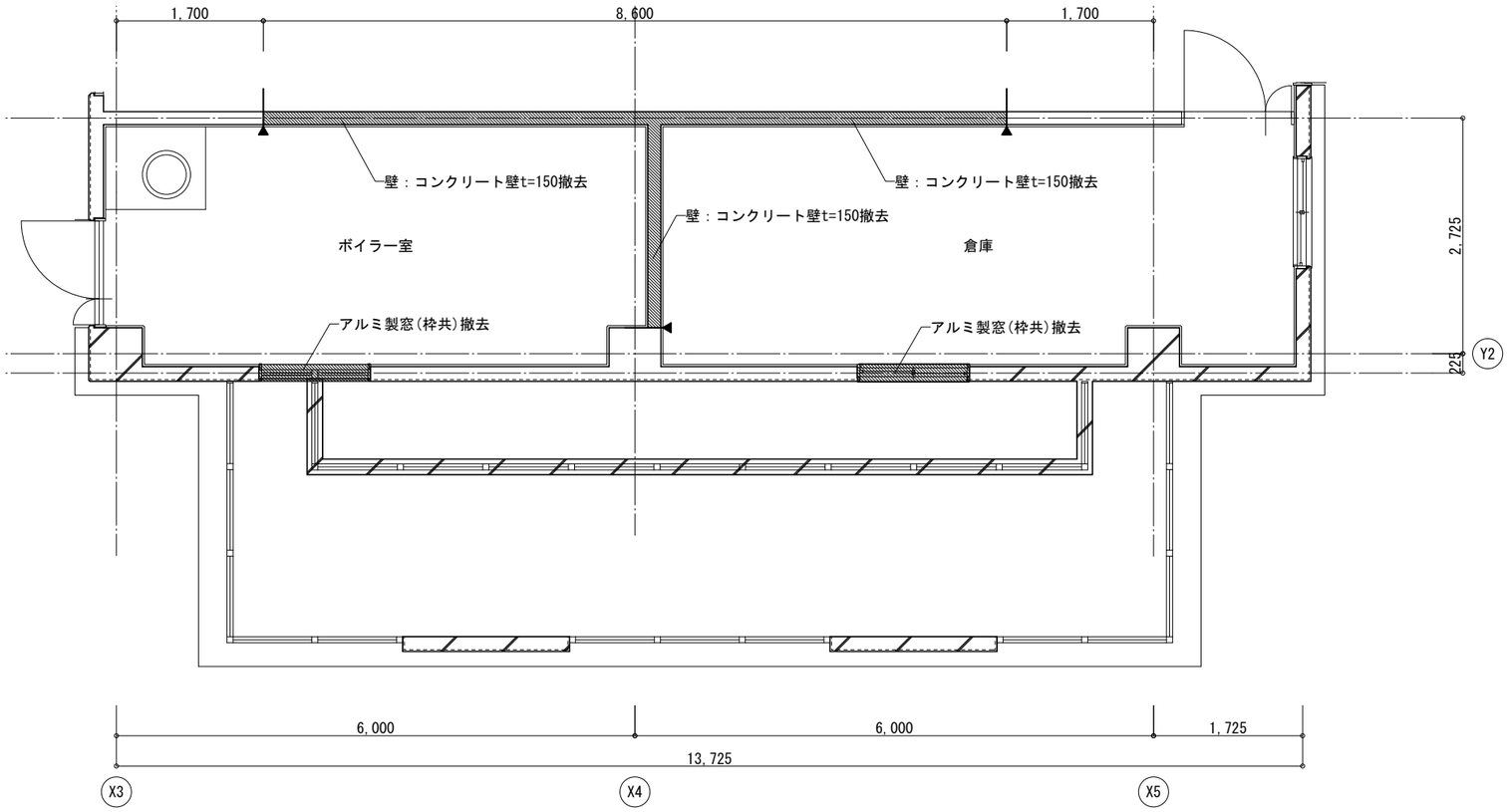
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-81
				図面名：現況3階(Y2通･X3-X5通間) 補強水平ブレース詳細図（1）	令和　年　月　日	

凡　例

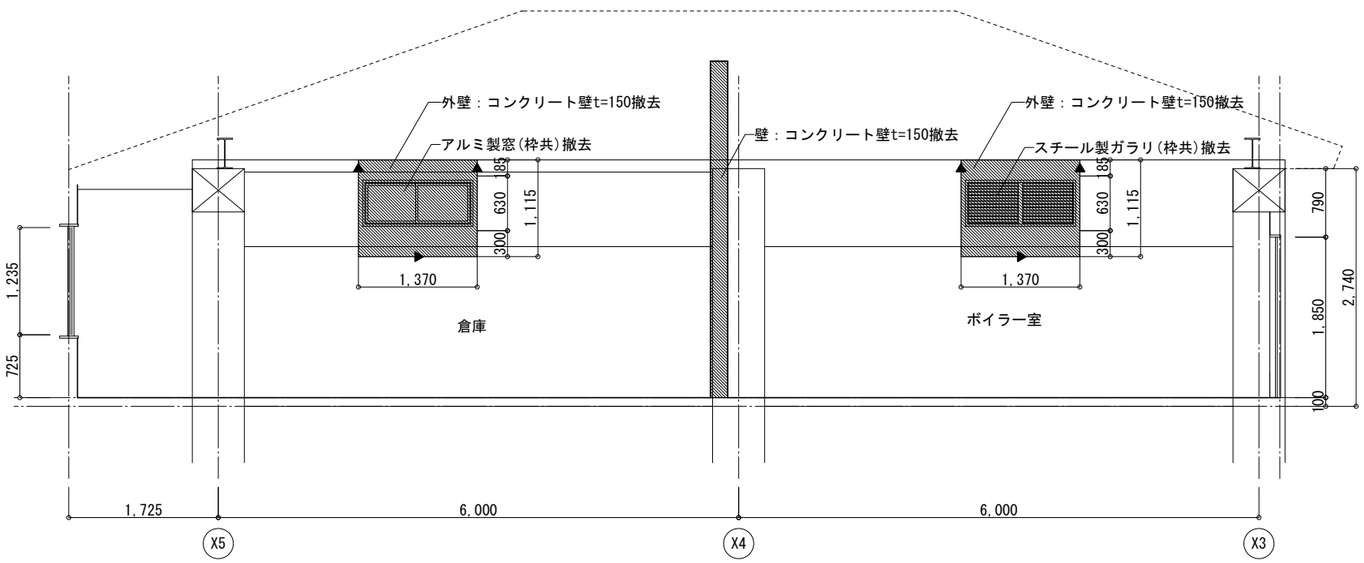
撤去部分を示す

▼　コンクリートカッターを示す

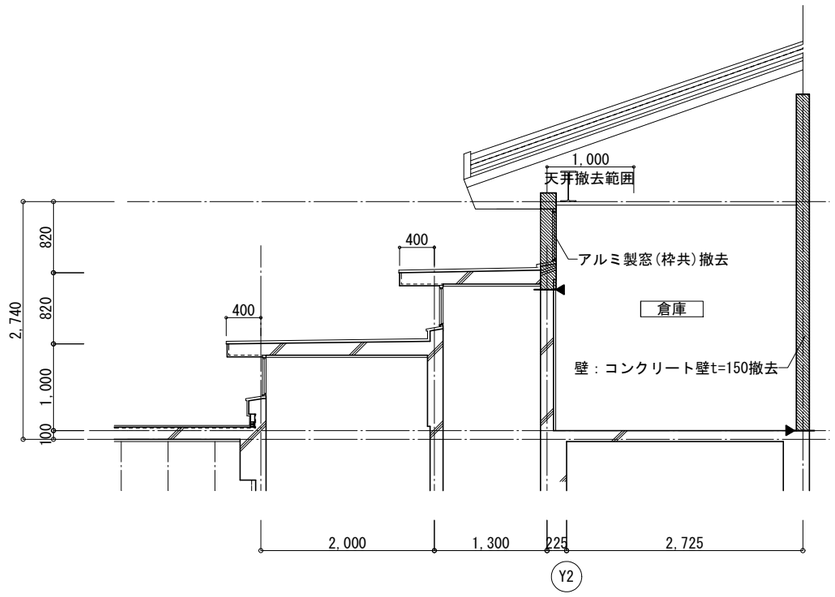
▽　モルタルカッターを示す



現況3階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50



現況3階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50

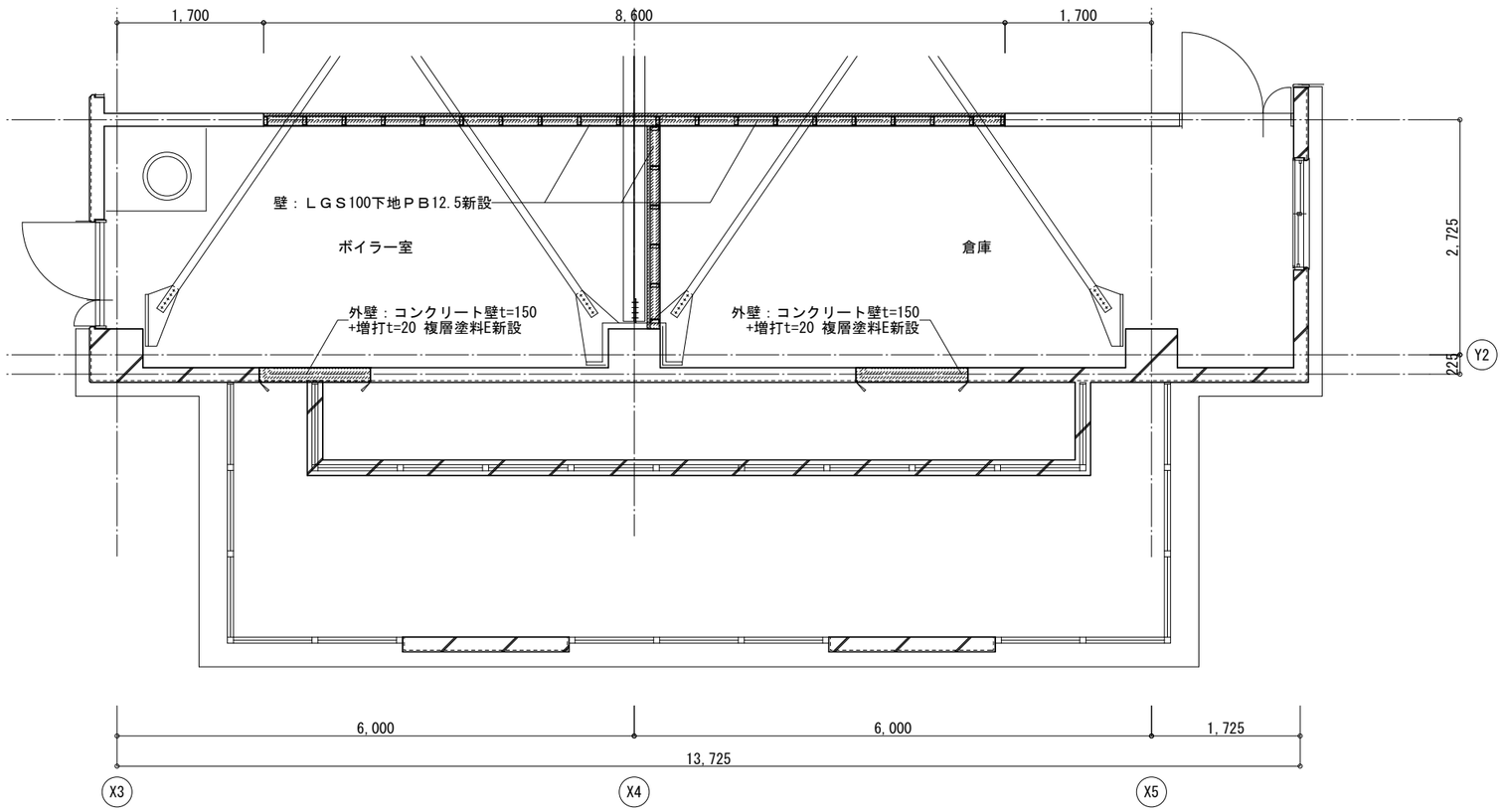


現況3階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50

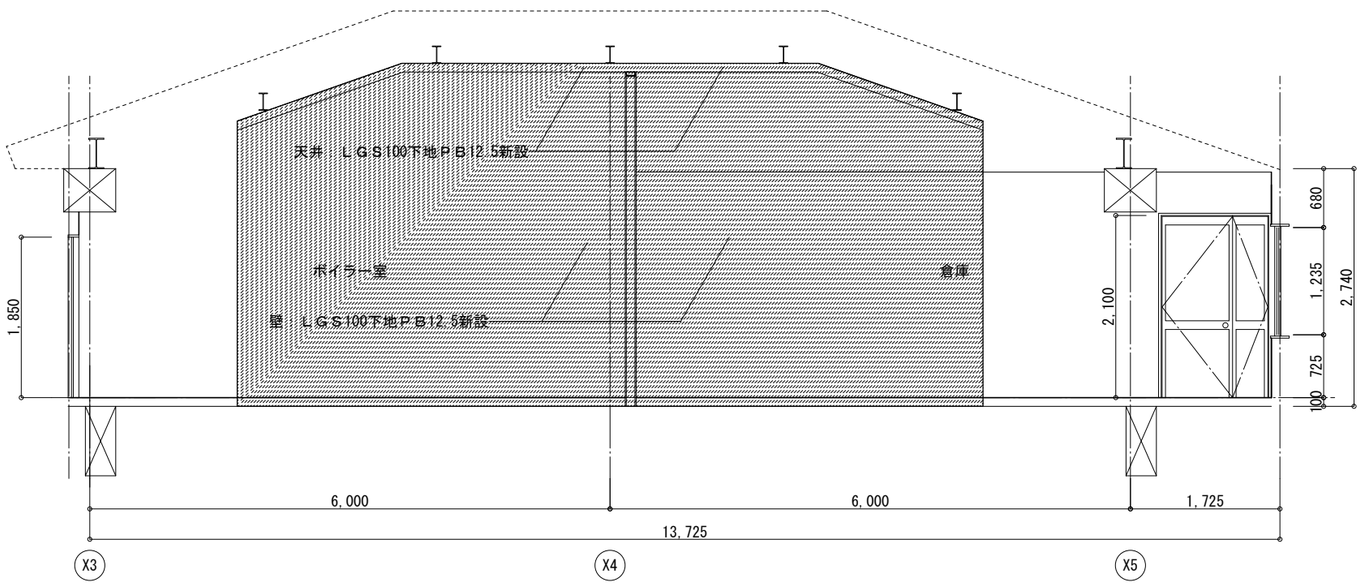
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-82
				図面名：現況3階(Y2通･X3-X5通間) 補強水平ブレース詳細図（２）	令和　年　月　日	

凡　例

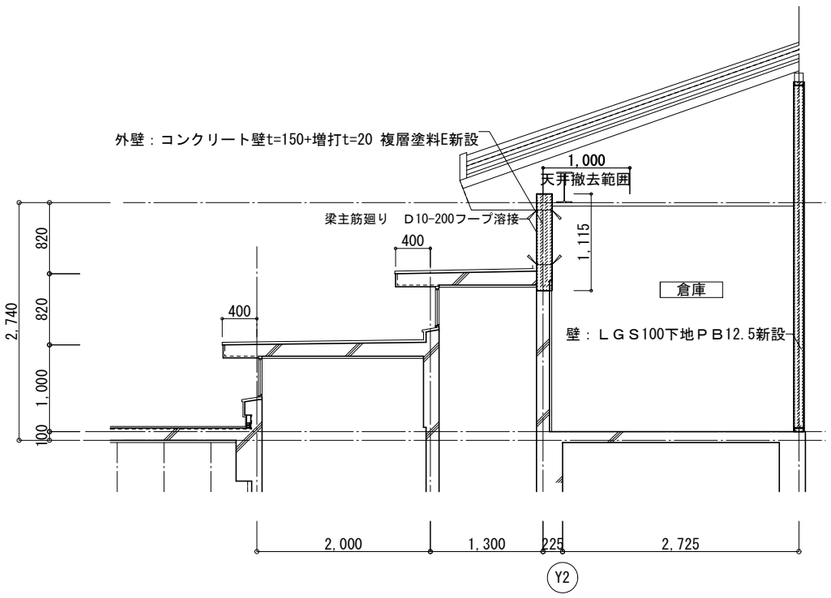
改修部分を示す



改修3階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50

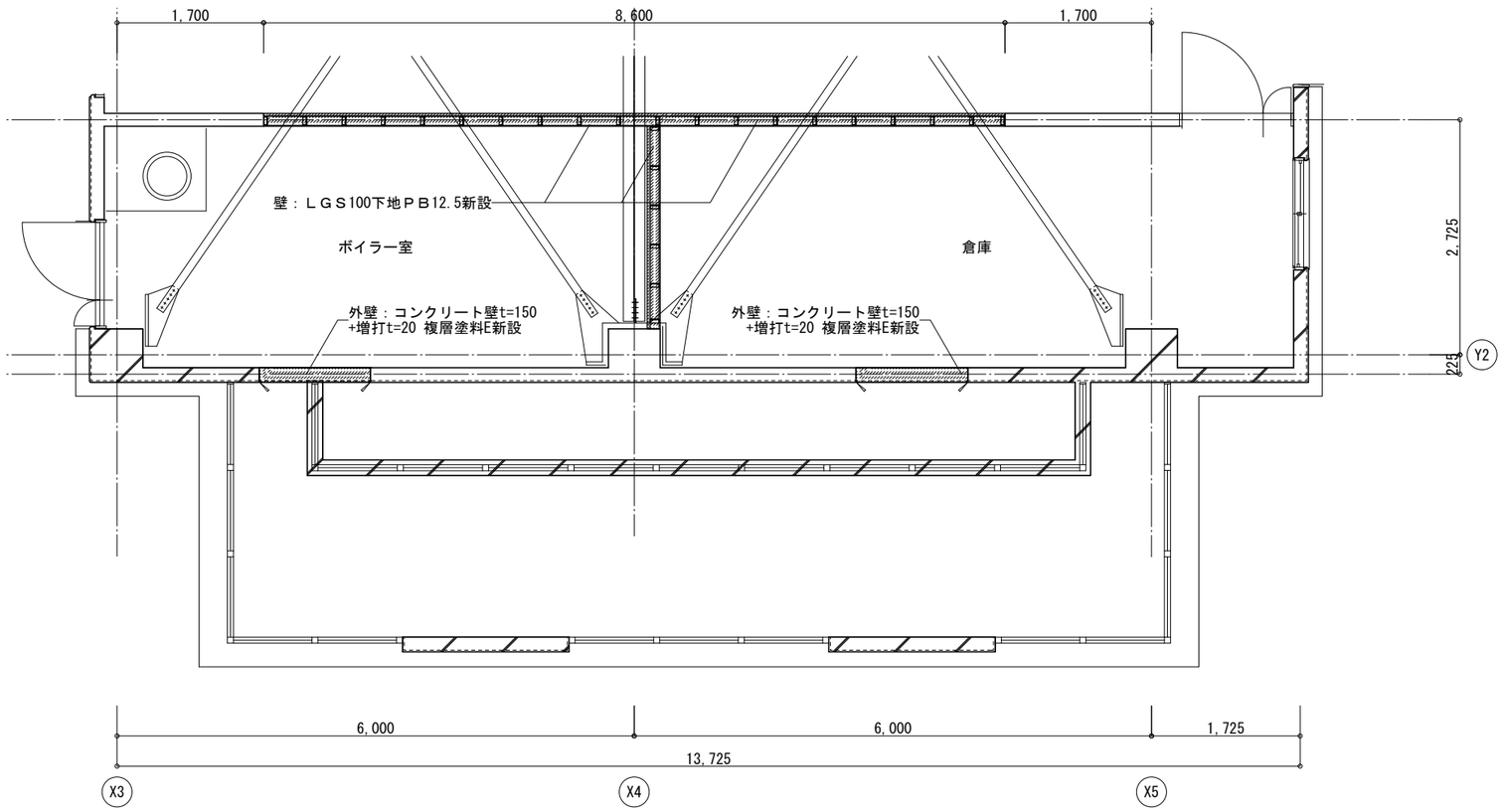


現況3階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50

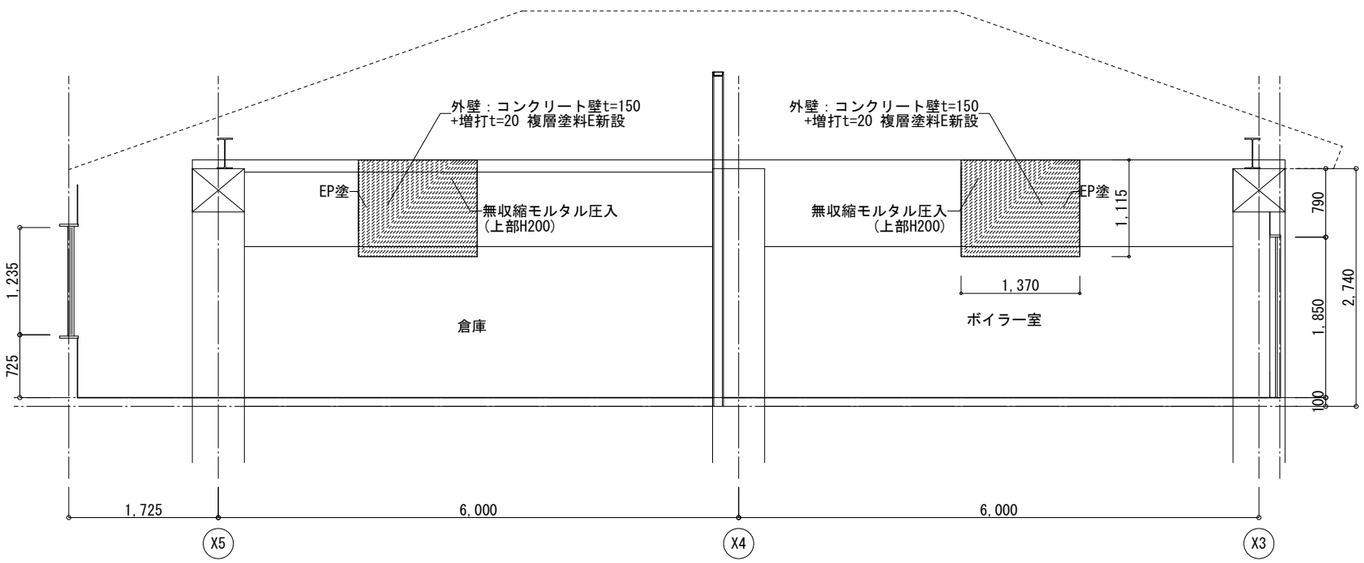


現況3階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50

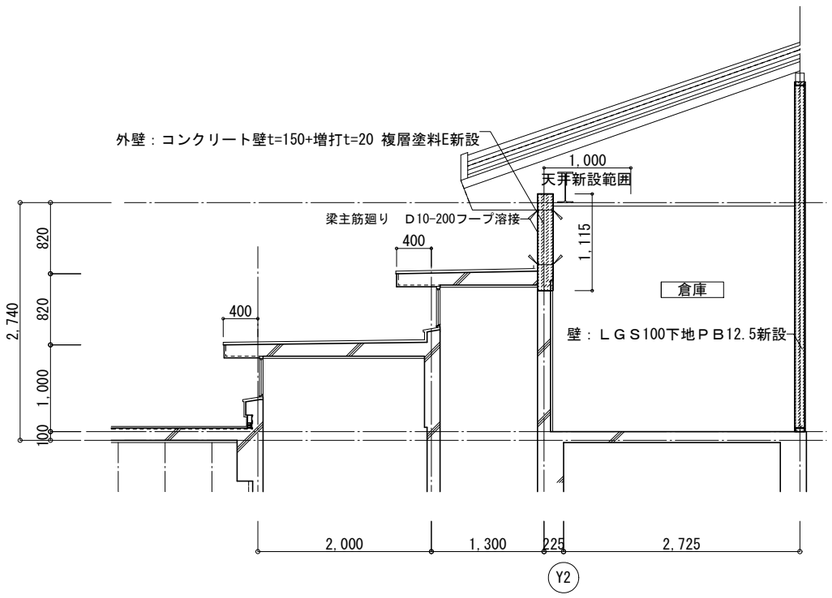
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-83
				図面名：改修3階(Y2通･X3-X5通間) 補強水平ブレース詳細図（１）	令和　年　月　日	



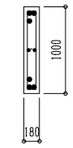
改修3階(Y2通･X3-X5通間)平面図　1/50



現況3階(Y2通･X3-X5通間)展開図　1/50



現況3階(Y2通･X3-X5通間)断面図　1/50



D10-□-200　フープ詳細　1/50

凡　例

改修部分を示す

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺：1/50	図面番号：A-84
				図面名：改修3階(Y2通･X3-X5通間) 補強水平ブレース詳細図（２）	令和　年　月　日	

既存建物耐震改修工事仕様書（１）　２０２０年度版

§１　一般事項

１－１ 適用範囲
既存建物（鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の耐震補強に関する鉄筋工事，コンクリート工事及び鉄骨工事に適用する。

１－２ 図面寸法
現況図面は参考図面とし，現地再調査のうえ現地寸法に合わせること。
本仕様書に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

１－３ 使用材料
使用材料は原則としてＪＩＳ規格品又は大臣認定品とする。

１－４ 施工順序
既存設備の配置等実測した後，工事計画書及び施工図を作成し，工事監理者の承諾を得ること。

１－５ 耐火被覆
鋼板補強，炭素繊維補強を行った部分は別途仕様書により耐火被覆を行う。

１－６ 補修
ｺﾝｸﾘ部の断面欠損，耐震壁増設部のすきま，鉄筋の露出，あと施工アンカー打設不良搾孔及びクラック等があれば樹脂モルタル等にて補修する。

１－７ 打設面の処理
耐震壁を増設する部分等に接する既設部分は目荒らし（深さ5mm程度を目安とする）を行い，ｺﾝｸﾘ粕，粉塵などはワイヤブラシ又は水洗いにより完全に除去する。

１－８ コンクリート打設時の注意事項
既設部分と接する箇所はコンクリート打設前に充分な水湿を行う。
コンクリート打設にはバイブレーターの使用，又はタタキにより密実にコンクリートを締め固める。
梁下の耐震壁等は梁下200~300程度までコンクリートを打設し，壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。

１－９ 参考図書
以下の参考図書は現場に常備すると共に十分理解し適用すること。
(財)日本建築防災協会
　改訂版　既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説
　改訂版　既存鉄筋鉄骨コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説
　改訂版　既存鉄骨造建築物の耐震改修設計施工マニュアル
(財)建築保全センター
　建築改修工事標準仕様書
　建築改修工事監理指針

１-10 その他
各種工程における検査等の費用は工事者の負担とする。
鉄骨ブレース接着工法の場合は，（財）日本建築防災協会技術評価書建防災発第１２７９号に基づく『鉄骨ブレース接着工法設計施工指針』による。

§２　使用材料

（選択項目は⊙印による。）

２－１ コンクリート

設計基準強度	⊙ Fc 21 N/mm²	• Fc　N/mm²			
セメント	⊙ 普通ポルトランドセメント	•			
粗骨材	• 砂利	• 砕石	最大径(mm)	⊙ 20	• 25
混和材	⊙ ＡＥ減水剤	• 高性能ＡＥ減水剤	• 膨張材		
スランプ(cm)	• 18				
水セメント比(%)	• 60%以下				
単位水量(kg/m³)	• 185以下				
圧縮強度試験（各工程につき）	JASS-5「品質管理・検査」に準じる。試験は公的機関によって行う。				

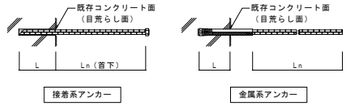
２－２ 無収縮モルタル
無収縮モルタルは原則としてプレミックスタイプを使用する。
設計基準強度　FC30N/mm(既存躯体同等程度)以上とする。
圧縮強度試験（各工程につき）　JIS1108とし、公的機関によって行う。

２－３ 鉄筋
D 16　以下　ＳＤ２９５Ａ
D 19　以上　ＳＤ３４５

２－４ スパイラル筋
• ＳＳ４００⊙ＳＲ２３５• ＳＤ２９５Ａ

適用	壁厚	径	外径	ピッチ	備考
⊙	120~150	6φ D6	60~80		
•	180	6φ D6	100		
•	200	6φ D6	120		
⊙	250	6φ D6 D10	150		
⊙	300	6φ D6 D10	200		

２－５ あと施工アンカー
あと施工アンカーの施工は工事内容に相応した施工管理技術者及び十分な経験と技能を有する技術者により実施する。
アンカーの設置に先立って鉄筋探査を行い，既存鉄筋が干渉しない位置で穴明けを行う。また孔内のコンクリート粕，粉塵を圧搾空気などにより，完全に除去した後に取り付ける。
⊙ 接着系アンカー　カプセル型の有機系又は無機系のものとしメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はSD295A，SD345としナット付きとする。
• 金属系アンカー　拡張部打込み型のものとしメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はJISG3101，3123，3445，4805の規格品とする。接合筋はSD295A，SD345とする。定着作業の終了したアンカー筋は24時間以上衝撃等与えない様に養生する。



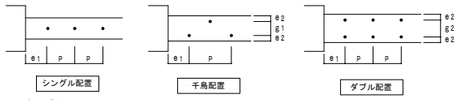
接着系アンカー　金属系アンカー

接着系アンカー　金属系アンカー

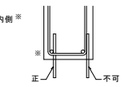
接着系アンカー筋径	Ln (20d)	L (8d)（アンカー埋込み長さ）	ピッチ	※設計用引張強度（参考） kN/本 Fc=15	Fc=18	Fc=21
• D13	260	110以上	100	17	19	20
			150	24	26	28
⊙ D16	320	130以上	150	31	34	36
			200	38	42	45
⊙ D19	380	160以上	150	37	41	44
			200	47	52	56
⊙ D22	440	180以上	200	56	62	67
			250	67	74	80

金属系アンカー径	接合筋径	Ln (30d)	L (5d)（アンカー埋込み長さ）	ピッチ	※設計用引張強度（参考） kN/本 Fc=15	Fc=18	Fc=21
• 13φ	D10	390	65以上	100	9	10	11
				150以上	10	11	12
• 16φ	D10,D13	480	80以上	150以上	15	16	17
				150	20	22	23
• 19φ	D13	570	95以上	200以上	21	23	25
• 22φ	D16	660	110以上	200以上	28	31	33

※　コーン状破壊による引き抜き耐力とする。



e1　≧　5da
e2　≧ 2.5da　かつ柱，梁主筋の内側※
g1　≧　4da
g2　≧ 5.5da
P　≧ 7.5da　かつ 300 以下
da はアンカー筋の径を示す。



アンカー固着力試験
アンカーの固着力の検査は，全数を打音検査する。またあと施工アンカー協会（ＪＣＡＡ）の試験方法により１日に施工されたものの各径毎を1ロットとしこの中から3本以上引張試験を行う。引張試験は非破壊試験により，設計引張強度の2/3程度以上の荷重に対してアンカーが抜け出す等の過大な変形が生じなければ合格とする。検査のうち1本でも不合格のものがある場合は，全数の20%以上を再試験し，さらにその中に不合格のものがあれば全数を試験する。不合格となったものは新たに施工し直すことを原則とする。打音検査は上記引張試験に合格となったアンカーを叩いて，音及び感触をつかみこれと比較して検査する。

接着系アンカーの埋込み長さの測定(超音波パルス反射法による)
• する　• しない
する場合原則全数測定とする。減じる場合は特記する。

２－６ 鋼材

規格名称	鋼材名	柱	ダイア	大梁	ブレース	小梁	他
一般構造用圧延鋼材	⊙ SS400 •			○	○		
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A • SM490A						
建築構造用圧延鋼材	• SN400A						
	⊙ SN400B • SN490B						○
	• SN400C • SN490C						
一般構造用角形鋼管	• STKR400 • STKR490						
冷間成形角形鋼管	• BCR295						
	• BCP235 • BCP325						
熱間成形角形鋼管	• SHC400B • SHC400C						
一般構造用炭素鋼管	• STK400 • STK490						
一般構造用軽量形鋼	• SSC400 •						

２－７ 炭素繊維補強
炭素繊維補強の工法は国土交通省告示，又は日本建築センターの認定工法，日本建築防災協会の技術評価を受けた工法とする。
高強度炭素繊維
引張強度　• 3400N/mm² 以上　• 2700N/mm² 以上
繊維重量　• 200g/m²　• 300g/m²
材料巾　• 250　•
巻数　• 1層　•　層

３－１ 標準仕様
(社)日本鋼構造協会・(財)日本建築防災協会編による既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル（改訂版）及び(社)日本建築学会ＪＡＳＳ６による。

３－２ 改修箇所
⊙印で示す

1) 架構全体の改修
1-1 軸組構面の改修
• 筋かいの新設　• 耐震フレームの設置
• 耐震開柱の新設　• 柱・梁接合部の方杖補強
1-2 水平構面の改修
⊙ 水平筋かいの新設　• 火打ちの新設　⊙ 鉄骨梁の新設
2) 部材断面の改修
2-1 柱の耐力増大
• コンクリートによる補強　• カバープレート，形鋼による補強
• 日の字形断面柱の補強
2-2 梁の耐力増大
• 梁フランジ溶接部の補強　• 梁フランジの補強
• 梁ウェブの補強
2-3 トラス梁の耐力増大
• 部材断面の増大　• トラス構面の外座屈の補剛
• トラス構面の内座屈の補剛　• トラス端束仕口補強
2-4 筋かいの耐力増大
• 引張筋かいの部材交換　• 圧縮筋かいの部材交換
• ボルト接合部の補強　• ガセットプレートの補強
3) 柱脚の改修
3-1 鋼板巻きによる補強
• 隅角部柱脚の補強　• 中央部柱脚の補強
3-2 ＲＣ根巻による補強
• 接着系アンカーによる補強　• 既存主筋と接合する補強
3-3 ＲＣ柱とＳ梁の接合部補強
• アンカーボルトの増設　• 貫通ボルトによる補強
• アンカーボルトのはしあき補強
4) 柱頭の改修
4-1
• ＲＣ柱頂部のＳ柱・梁接合部の補強　• ＲＣ柱頂部とＳ梁の接合部の補強

３－３ 現場作業要領
1) 前処理
補強する部位は塗料，コンクリート，耐火被覆，その他の異物を除去する。
2) 高力ボルト接合
高力ボルトは高力六角ボルトまたはトルシア形高力ボルトとする。
孔明けは電気ドリルを原則とするが，やむをえずガス加工による場合はリーマ通しを行う。
摩擦面の処理は，グラインダー掛けを原則とし，さび発生状態を標準とする。
3) 溶接接合
溶接方法は被膜アーク溶接及びガスシールドアーク溶接とする。
完全溶込溶接の端部はエンドタブを使用し，すみ肉溶接の端部は回し溶接を行う。
溶接と高力ボルト接合が併用される場合は高力ボルト接合を先行する。
4) 接合部の調査
高力ボルトの検査はＪＡＳＳ６　６節による。
溶接部の検査は完全溶込溶接は全数を超音波探傷試験をする。
すみ肉溶接および部分溶込溶接は全数目視検査とする。

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL(06)6763-8205　FAX(06)6763-8206　http：／／www．kse-web．com／
2020年2月1日作成　（不許複製）

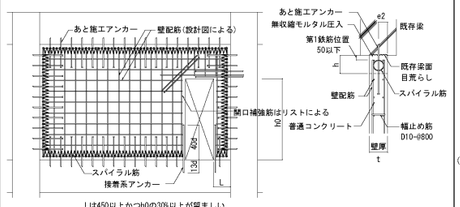
株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

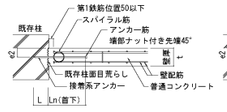
校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	—	S-01
			図面名：既存建物耐震改修工事仕様書（１）	令和　年　月　日	

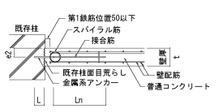
既存建物耐震改修工事仕様書(2)２０２０年度版

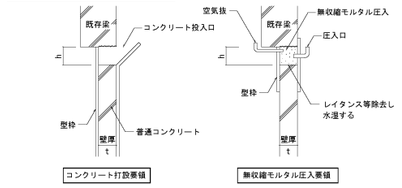
§4 壁補強要領

4-1 増設壁





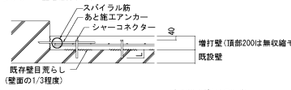




壁 厚	h
t≦300	200
t>300	300

4-2 増打壁

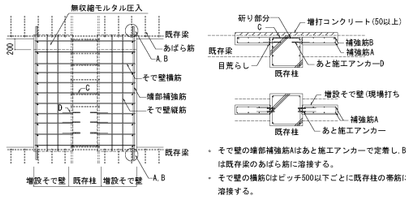
既設コンクリート壁を増打する。



( )は既設壁120の場合

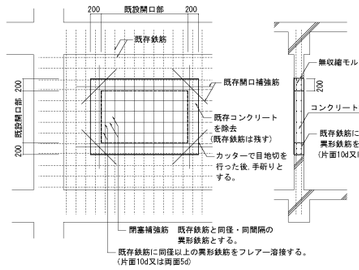
	シャーコネクター	定着長さ
接着系アンカー	D13-@500クロス	110(80)
金属系アンカー	13φ-@500クロス	65

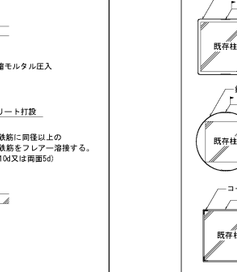
4-3 そで壁増設



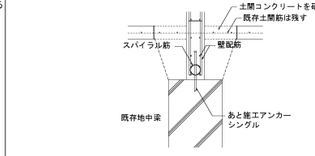
- そで壁の場部補強筋Aはあと施工アンカーで定着し、Bは既存梁のあばら筋に溶接する。
- そで壁の横筋はピッチ500以下ごとに既存柱の帯筋に溶接する。

4-4 開口部の閉塞

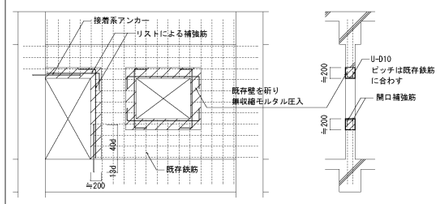




4-5 地中梁上に新設壁を設ける



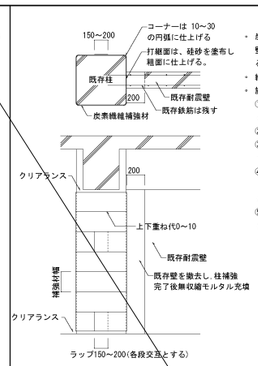
4-6 既存壁開口新設(耐震壁を除く)



4-7 スリット増設

- スリットは原則としてカッター切りとし、コア抜き併用も可能とする。
- 建具のある場合のカッター切りは、原則として建具の外部水切及び面台下端までとし、建具を破損しないよう留意し施工すること。

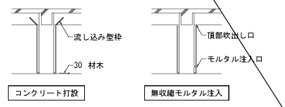
5-4 炭素繊維補強



- 炭素繊維補強材の幅は 250 を標準とする。ただし、耐震壁が取付いている場合は壁筋をさけて補強材を巻き付ける必要があるため、壁筋のピッチを考慮して決める。
- 繊維補強材の巻数は図示による。
- 施工手順
  ①耐震壁が取付いている場合は、既存壁を柱面から 200 の範囲でカッター目地切りの上、斫りとる。
  ②既存柱の仕上げは全て撤去する。
  ③コーナー部を半径10~30の円弧に仕上げ、全面プライマー塗布の上、樹脂モルタルにて下地調整を行う。
  ④各工法の技術資料に基づき、シート含浸接着剤を塗布し炭素繊維補強材を巻き付け、さらにシート含浸接着剤を上塗りする。必要に応じてこれを繰り返す。
  ⑤壁脇去部分に型枠を設置し、補強材の打継面に硅砂を塗布し粗面に仕上げ、打継面の付着性能の向上をはかった上、無収縮モルタルを充填する。

5-5 腰壁、たれ壁補強範囲

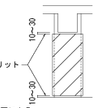
5-6 コンクリート打設無収縮モルタル注入法



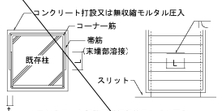
§5 柱補強工事要領

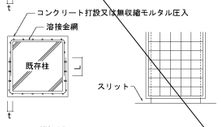
5-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)

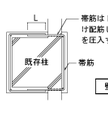
1. 既設仕上材を撤去する。
2. 既設柱のコンクリート面の1/3程度を目荒しする。
3. 補強材取り付け用の支持金物を設ける。
4. 柱の躯体寸法を測定し加工寸法を決める。
5. 補強部分は床上面及び梁下面に30程度のスリットを設ける。



5-2 帯筋補強溶接金網補強

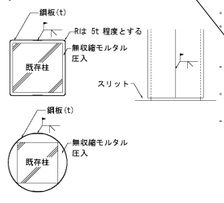






- 補強筋、溶接金網等は設計図による。
- 帯筋の溶接長さは片面10d以上とする。
- 溶接金網の継手長さは200以上とする。
- 増打コンクリート又はモルタル厚さは設計図によるが、被覆は30以上とする。

5-3 鋼板補強

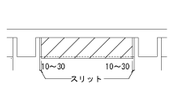


- 鋼板厚さは図示による。(t≧4.5)
  鋼板と躯体面との間には30以上のクリアランスを設ける。ただし、補強鋼板の厚さが9mm以上の場合には、既存躯体のφ24隅角部を10程度面取りする。
- 無収縮モルタル充填作業及び充填の確認が行えるよう適当な箇所に圧入孔 エアー抜き孔を設ける。
- 裏当て金が既存躯体に当たる部分は既存躯体を少し斫り既存躯体と裏当て金との クリアランスを5以上確保する。
- 補強鋼板を高さ方向に分割する場合には、鉛直方向を優先する。

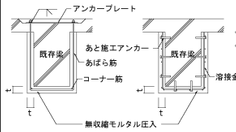
§6 梁補強工事要領

6-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)

1. 既設仕上材を撤去する。
2. 既設梁のコンクリート面の1/3程度を目荒しする。
3. 補強材取り付け用の支持金物を設ける。
4. 梁の躯体寸法を測定し加工寸法を決める。
5. 補強部分は梁の両端部に30程度のスリットを設ける。

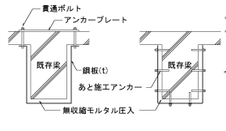


6-2 あばら筋補強溶接金網補強



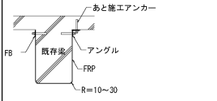
- 補強筋、溶接金網等は設計図による。
- モルタル厚さは設計図によるが、被覆は30以上とする。

6-3 鋼板補強



- 鋼板厚さは図示による。(t≧4.5)
- 鋼板と躯体面との間には30以上のクリアランスを設ける。ただし、補強鋼板の厚さが9mm以上の場合には、既存躯体の隅角部を10程度面取りする。
- 無収縮モルタル充填作業及び充填の確認が行えるよう適当な箇所に圧入孔 エアー抜き孔を設ける。

6-4 炭素繊維補強



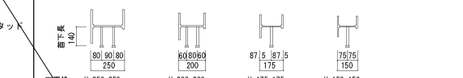
- 施工手順
  ①既存梁の仕上げは全て撤去する。
  ②コーナー部を半径10~30の円弧に仕上げ、全面プライマー塗布の上、樹脂モルタルにて下地調整を行う。
  ③各工法の技術資料に基づき、シート含浸接着剤を塗布し炭素繊維補強材を巻き付けさらにシート含浸接着剤を上塗りする。必要に応じてこれを繰り返す。

6-5 無収縮モルタル注入

§7 鉄骨ブレース補強要領

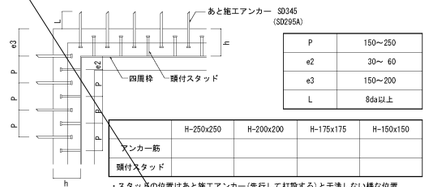
7-1 使用材料 形 状

使用材料・形状等は設計図による。



7-2 頭付スタッド

7-3 アンカー筋 頭付スタッド ピッチ

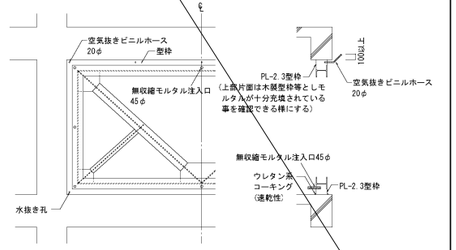


P	150~250
e2	30~ 60
e3	150~200
L	8da以上

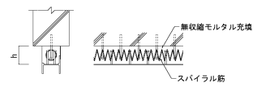
	H-250x250	H-200x200	H-175x175	H-150x150
アンカー筋				
頭付スタッド				

・スタッドの位置はあと施工アンカー(先行して打設する)と干渉しない様な位置を決めて打設する。
・hはアンカー径、スタッド径を考慮して決定する。

7-4 無収縮モルタル注入

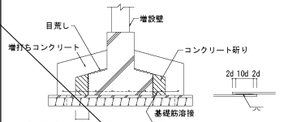


7-5 割裂補強

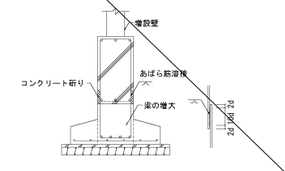


§8 基礎の補強

8-1 基礎底版の拡幅



8-2 基礎の増設



（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL(06)6763-8205　FAX(06)6763-8206　http：／／www. kse一web. com／
2020年2月1日作成　（不許複製）

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当

工事名：笠置町庁舎耐震補強工事
図面名：既存建物耐震改修工事仕様書（２）
縮尺：ー
令和 年 月 日
図面番号：S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１） ２０２０年度版

§１ 一般事項

1－1 基本事項

1．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書１－２－４に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3．本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。

1－2 その他

4．本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

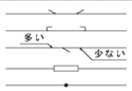
§２ 共通事項

2－1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	•	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎	⊕	◆	⊗
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合
○ フックのある場合
○ 本数に差がある場合
○ 機械式継手表示
○ ガス圧接、溶接継手表示



2－2 鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

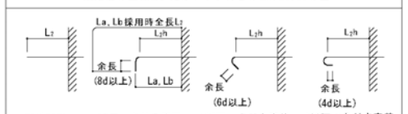
折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径 (D)
180°	余長 4d 以上	柱・梁主筋 基礎主筋 帯　筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁　筋	SD295	D16以下	3d以上
			SD345	D19～D41	4d以上
135°	余長 6d 以上		SD390	D41以下	5d以上
90°	余長 8d 以上		SD490	D25以下	5d以上
				D29～D41	6d以上

2－3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5 (2018)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手の長さ	定着の長さ 一般	定着の長さ 小梁・床スラブ
		上段筋 下段筋 フック付き / フック無し	上段筋 下段筋 フック付き Lₐh,La / フック無し	上端筋 フック付き Lb	下端筋 L₂, L₃h
SD295 SD345 ()はSD345を示す	18	45d(50d) 35d	40d 30d, 20d	15d (20d)	L₁=20d L₂h=10d 床ｽﾗﾌﾞの場合 L₁=10d かつ 150以上 SD490は適用外
	21	40d(45d) 30d	35d 25d, 15(20)d		
	24～27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d	15d	
	30～36	35d 25d	30d 20d, 15d		
	39～45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d), 15d		
	48～60	30d 20d	25d 15d, 15d		
SD390 (SD490) ()は適用外	21	50d(－) 35d(－)	40d(－) 30d(－), 20d(－)	20d (－)	
	24～27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d), 20(25)d		
	30～36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 20(25)d	15d (－)	
	39～45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 15(20)d		
	48～60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d		

一般定着の直線Lまたはフック付きのLₐh, La, Lbの図



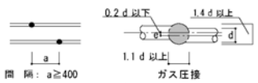
1．重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付き定着hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2．軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2－4 継手一般

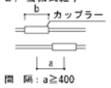
3．構造特記仕様書2-2で令第73条を選択した場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表し かつ40ｄ(軽量コンクリートを使用する場合は50ｄ)とする。
4．構造特記仕様書2-2でJASS5(2018)、RC規準2018とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計図によるが、参考値として左下表JASS5(2018)にL₁L₂を示す。

ガス圧接継手・溶接継手・機械式継手に関する事項は、爆発仕様書および施工委領ならびに鉄筋継手工事特記仕様書(2019年版)共に公益社団法人日本鉄筋継手協会編に準拠。

1．ガス圧接、溶接継手



2．機械式継手



3．重ね継手　（壁、スラブ筋を除く。）

4．D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
　（ガス圧接、溶接、機械式継手等による）
5．溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

2－5 鉄筋のフック

○ 下記の１．～７．に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
1．あばら筋及び帯筋　　2．煙突の鉄筋
3．柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）

上図の◎印の鉄筋の末端にはフックが必要。
4．片持ちスラブの上端筋の先端
5．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
6．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭２本打以上の場合）
7．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

2－6 鉄筋のあき

○ 鉄筋のあきａは原則として下記による。
　呼び名の数値の　1.5 倍以上
　粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上　　かつ 25 以上
※Dは最外径を示す
○ 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
○ 二段筋のあきは 1.5d とする。

2－7 かぶり厚さ

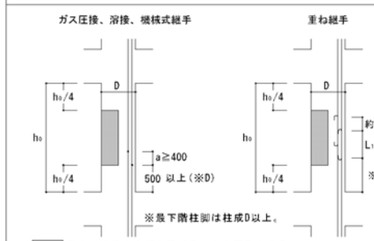
鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位			かぶり厚さ 仕上げあり	かぶり厚さ 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 耐力壁	屋内	30(20)	30(20)
		屋外	30(20)	40(30)
	柱 梁 耐力壁	屋内	40(30)	40(30)
		屋外	40(30)	50(40)
	擁壁		※1 ※2 50 (40)	※1 ※2 50 (40)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		※2 50 (40)	
	基礎・擁壁		※2 70 (60)	

1．( ) 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2．仕上げあり　とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3．※1　品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4．※2　軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5．柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

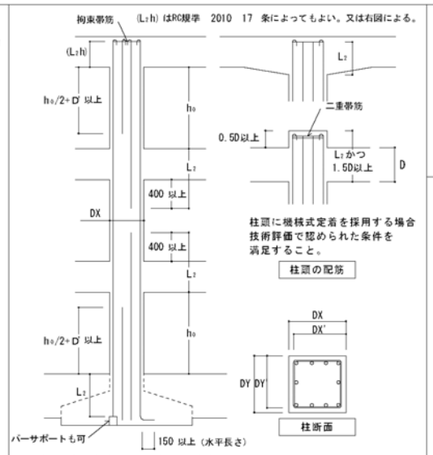
§３ 柱

3－1 主筋の継手

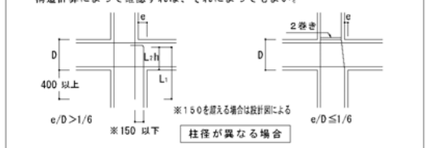


○ ■ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。
　設計者判断により、認定を取得した工法ではa=0とできる。

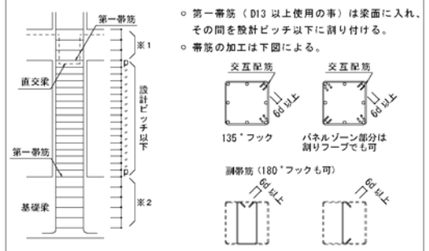
3－2 主筋の定着



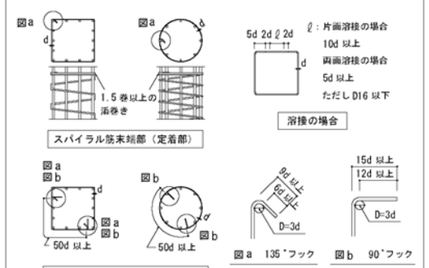
※ 余長 D' は柱有効径 (DX' DY' の大きい方) とし、構造計算によって確認すれば、それによってもよい。



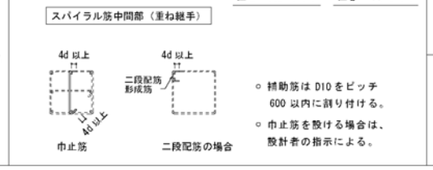
3－3 帯筋 副帯筋



○ 第一帯筋 (D13 以上使用の事) は梁面に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
○ 帯筋の加工は下図による。
○ パネルゾーンの帯筋は設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯筋量 (pw) は 0.2%以上とする。
　※1．設計ピッチの 1.5 倍以下とする。□ 形以上の場合は同径同材質で □ 形@100以下とする。
　※2．基礎梁部分は、同径で □ 形@150以下とする。
○ スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
　1．末端は 1.5 巻以上の添巻きをし、図a のフックをつける。
　2．重ね継手は重ね長さ 50d 以上とし、図a 又は図b のフックをつける。



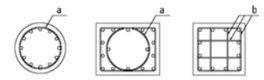
3－4 補助筋



○ 補助筋は D10 をピッチ 600 以内に割り付ける。
○ 巾止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

3－5 柱のコンファインド補強

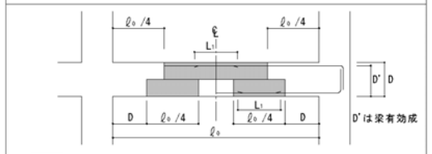
補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）



a スパイラル帯筋 @60～75 （有効間隔50 程度）
b 溶接閉鎖型帯筋 @60～75 （有効間隔50 程度）

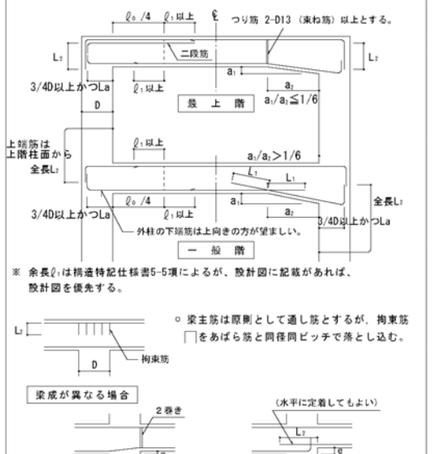
§４ 梁

4－1 主筋の継手



○ ■ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。（告示平　12 第 1463 号使用基準参照）溶接継手の場合でも柱面より 500 以上はなすこと。
○ 定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

4－2 主筋の定着及び余長

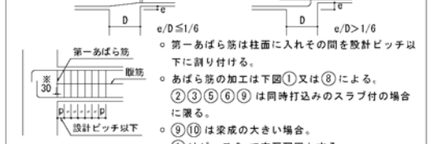


※ 余長ℓ₁は構造特記仕様書5-5項によるが、設計図に記載があれば、設計図を優先する。

中柱

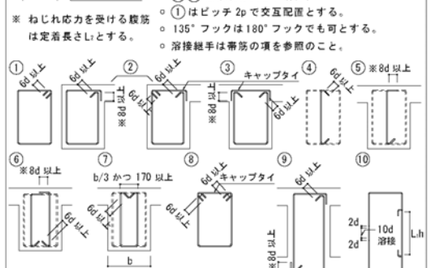
○ 梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋 □ をあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。

4－3 あばら筋 副あばら筋



※ ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL₁とする。

○ 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
○ あばら筋の加工は下図①又は⑧による。
　②③⑤⑥⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
○ ⑨⑩は梁成の大きい場合。
○ ①はピッチ 2p で交互配置とする。
○ 135° フックは 180° フックでも可とする。
○ 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。



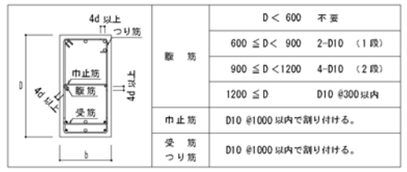
⑩ は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※ 柱面より梁成の範囲は、180° フック又は 135°フックが望ましい。

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL(06)6763-8205　FAX(06)6763-8206　http://www.ksc-web.com/
2020年2月1日作成
（不許複製）

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 －
				図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	令和 年 月 日
					図面番号 S-03

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２） ２０２０年度版

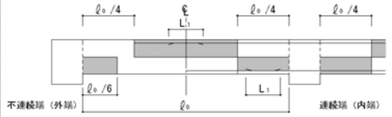
4－4 補助筋



腹筋	D＜ 600	不要
	600 ≦D＜ 900	2-D10 （１段）
	900 ≦D＜1200	4-D10 （２段）
	1200 ≦D	D10 @300以内
巾止筋		D10 @1000 以内で割り付ける。
受筋つり筋		D10 @1000 以内で割り付ける。

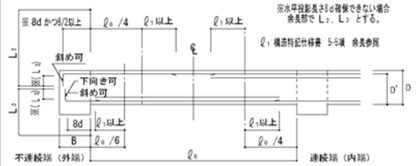
4－5 小梁及び片持梁

a）小梁継手

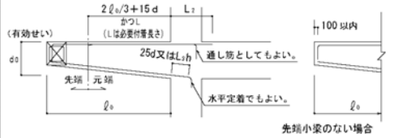


○ ▨ 印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継手の場合は梁面より 500 以上はなすこと。

定着



b）片持梁定着継手

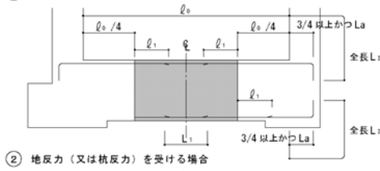


4－6 基礎梁及び基礎小梁

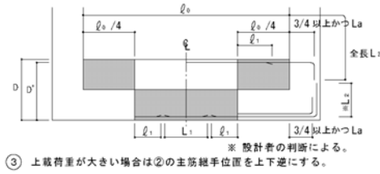
※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-5項および設計図に示す。
余長ℓ1は設計図に記載があれば、設計図を優先する。

a）基礎梁の継手及び定着

① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）



② 地反力（又は杭反力）を受ける場合



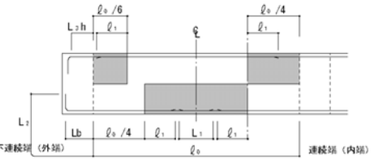
※ 設計者の判断による。

③ 上載荷重が大きい場合は②の主筋継手位置を上下逆にする。

b）基礎小梁の継手及び定着

① 地反力を受けない場合は（4-5）による。

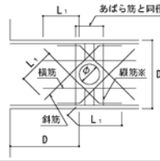
② 地反力を受ける場合



○ ▨ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より 500 以上はなすこと。Lb とれない場合 4-5ａ定着によってよい。

4－7 梁の貫通補強

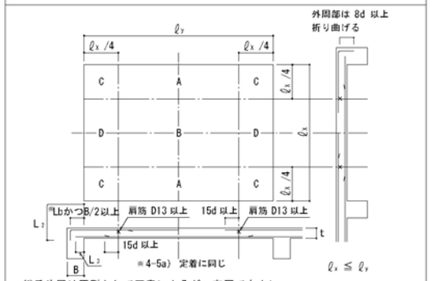
1．補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。
2．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計図による。



○ 梁貫通孔は梁成の 1/3 以下とする。
○ 孔が複数の場合は中心間隔を径（φ）の 3倍以上とする。
また位置は原則として柱面から梁成 D 以上はなし、梁成の中央 D/2の範囲内とする。
○ φが 100mm未満、かつD/10以下、かつ（あばら筋間隔−かぶり厚さ x 2−あばら筋径）以下の場合は補強を必要としない。
○ ※縦筋はあばら筋加工とする。

§５ スラブ

5－1 鉄筋の折り曲げ及び定着



5－2 継手

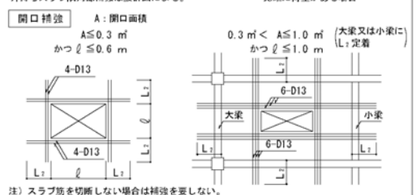
継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。

		標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B	D
	長辺方向	A	B
下端筋	短辺・長辺方向	A	C D

5－3 片持ちスラブ

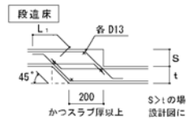
5－4 補強筋

開口補強　A：開口面積

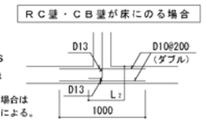


注）スラブ筋を切断しない場合は補強を要しない。

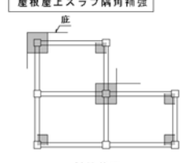
段造床



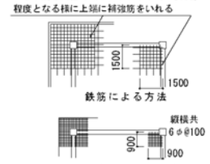
RC壁・CB壁が床にのる場合



セットバックを含む屋根屋上スラブ隅角補強

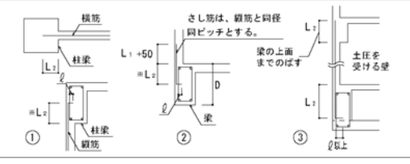


スラブ筋と同径で 1/2 ピッチ以下（≒@100）程度となる様に上端に補強筋をいれる



§６ 壁

6－1 定着及び継手

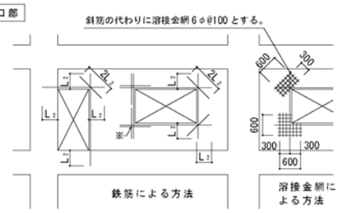


6－2 壁配筋

○ 定着長さは L_1、及び継手長さは L_1とする。
※ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の内側に定着できない場合は、ℓ=8d かつ 150 以上 45°～90°折り曲げ、定着長さは L_1かつ D/2 以上とする。
（通し配筋の場合は不要）
○ 土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は③図による。
○ 継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は 5-2 項の土圧面側を上端筋側に読み替える。
壁の配筋は設計図書による。
○ ダブル配筋では巾止筋を縦横共 D10@1000以内を標準とする。

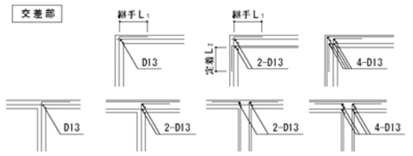
6－3 補強筋

開口部



○※ 斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計図による。
○ 斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。

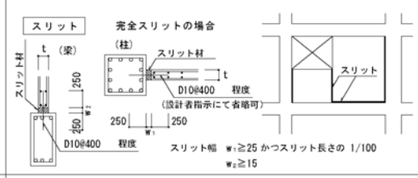
交差部



端部

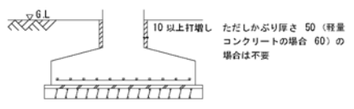
○ 開口補強筋はリストによる

スリット

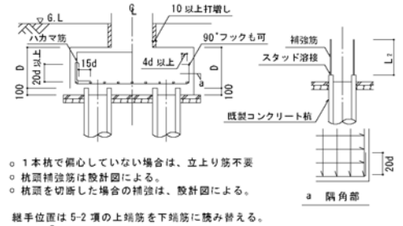


§７ 基礎

7－1 独立基礎



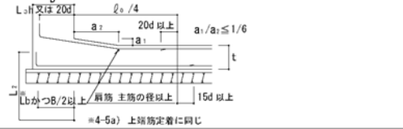
7－2 杭基礎



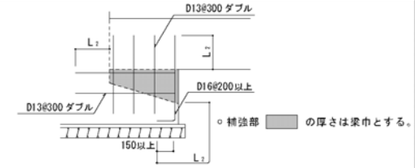
○ 1本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要
○ 杭頭補強筋は設計図による。
○ 杭頭を切断した場合の補強は、設計図による。

7－3 べた基礎継手及び定着

継手位置は 5-2 項の上端筋を下端筋に読み替える。



7－4 基礎と基礎梁

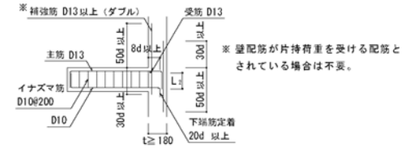


○ 補強部 ▨ の厚さは梁巾とする。

§８ その他

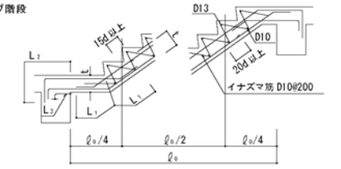
8－1 階段

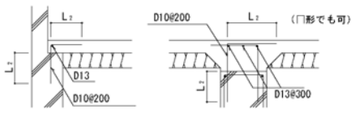
片持階段



※ 壁配筋が片持荷重を受ける配筋とされている場合は不要。

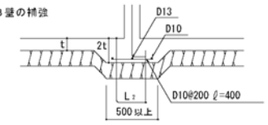
スラブ階段



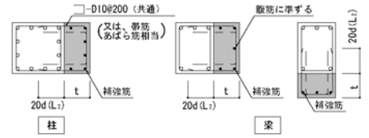


8－2 土間コンクリート

RC壁・CB壁の補強

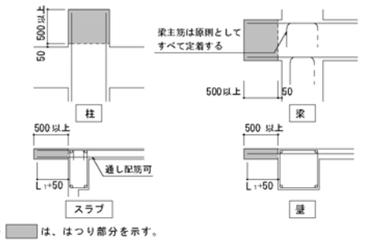


8－3 打増し補強



○ ▨ は打増し部分を示す。- - -と配筋してもよい。
○ 補強筋 定着は 20d(L2)（ ）は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。
t≦ 50 補強なし　50＜t≦100 D13@300
100＜t≦200 D16@300　200＜t≦300 D16@200
t＞300 設計図による
原則として、構造図に記載された箇所以外に打増ししてならない。

8－4 増築予定



○ ▨ は、はつり部分を示す。
○ 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手する。
（増築側の鉄筋は水平定着でもよい。）

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL.(06)6763-8205　FAX.(06)6763-8206　http：／／www.kse-web.com／
2020年2月1日作成

（不許複製）

㈱山崎設計	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 —
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号				図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	令和 年 月 日
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也					図面番号 S-04

鉄 骨 工 作 標 準 図　(1)　２０２０年度版

§１　一般事項

1－1 基本事項

1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書１－２－４，５に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3) 製作精度等に関しては、ＪＡＳＳ６の付則６「鉄骨精度検査基準」による。
4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1－2 その他

§２　共通事項

2－1 略号

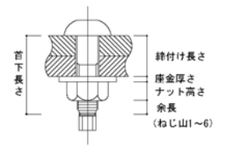
- ○ＡＢ ―― アンカーボルト
- ○ＢＰＬ ―― ベースプレート
- ○ＤＦＰＬ ―― ダイアフラム
- ○ＦＰＬ ―― フランジプレート
- ○ＨＴＢ ―― 高力ボルト
- ○ＳＰＬ ―― スプライスプレート
- ○ＷＰＬ ―― ウェブプレート
- ○ＢＨ ―― 組立てＨ形鋼
- ○ＣＨＰＬ ―― チェッカープレート
- ○ＦＢ ―― フラットバー
- ○ＧＰＬ ―― ガセットプレート
- ○ＲＰＬ ―― リブプレート
- ○ＴＢ ―― ターンバックル
- ○Ｗ□ ―― 溶接記号（§４参照）

§３　ボルト接合

3－1 高力ボルト

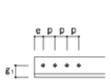
ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	
	F8T,F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40



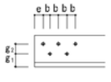
1. 特記以外はすべてS10T（トルシア形高力ボルト、上図）又はF10Tとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダー掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは１次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

3－2 高力ボルトのピッチ



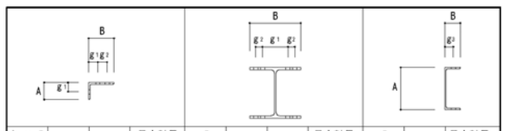
呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	P	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん断縁,手動ガス切断縁		28	34	38	44
	圧延縁,自動ガス切断縁等		22	26	28	32

（）内はボルトが応力方向に３本以上並ばない場合を示す。



ゲージ g_2	千鳥打ちのピッチ b	
	M16,20,22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

3－3 形鋼のゲージ



A or B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_2	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16
60	35		16	125	75		16	65	35	20
65	35		20	150	90		22	70	40	20
70	40		20	175	105		22	75	40	22
75	40		22	200	120		24	80	45	22
80	45		22	250	150		24	90	50	24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55		24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24			
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

＊B＝300は千鳥打ちとする。
＊＊印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

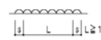
4－1 隅肉溶接

§４　溶接接合

t ≦ 16	16 < t ≦ 40
記号 脚長(S)　0 ≦ ΔS ≦ 0.5S かつ ΔS ≦ 5　ΔS = S'－S　S = 設計サイズ　S' = 実際サイズ　余盛 0 ≦ Δα ≦ 0.4S かつ Δα ≦ 4	記号

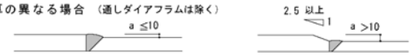
t	6 以下	9	12	14	16		19	22	25	28	32	36	40
s	t	7	9	10	12		11	13	15	17	19	21	24

断続隅肉溶接の長さL



かつ 40 以上

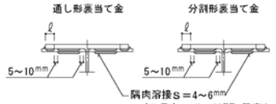
1)　板厚の異なる場合　（通しダイアフラムは除く）



クレーンガーダーの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。

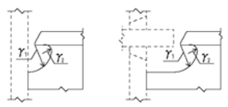
2)　エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さ ℓ は35以上かつ薄い方の板厚の２倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5～10mmはなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



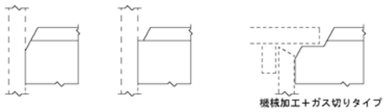
3)　開先加工　（下図は参考とする。）

a)　スカラップ工法



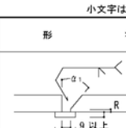
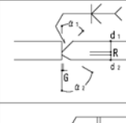
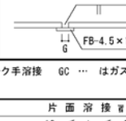
- スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。γ_1は35程度、γ_1は10以上とする。なお複合円は滑らかに仕上げること。
- 完全溶込み溶接部以外のスカラップはγ=25程度とする。

b)　ノンスカラップ工法



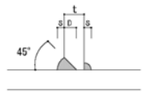
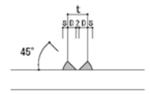
4)　開先形状

小文字は管理許容差（）は限界許容差を示す　※十分な品質管理を行う

記号	形状	適用板厚	寸法			
				アーク手溶接	ガスシールドおよびセルフシールドアーク溶接	
MC-BL-1B GC-BL-1B	 裏当て 25以上 9以上	6～	G	9 +∞ (+∞) −0 (−0)	7 +∞ (+∞) −2 (−3)	
			R	2 +1 (+2) −2 (−2)	2 +1 (+2) −2 (−2)	
			α_1	35° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	35° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	
			G		7 +∞ (+∞) −1 (−2)	
			R		2 +2 −2	
			α_1		30° +∞ (+∞) −1° (−2°)	
MC-BL-2 GC-BL-2	裏はつり	6～	G	0 +2.5 (+4) −2 (−0)	0 +2 (+3) −0 (−0)	
			R	2 +2 (+3) −2 (−2)	2 +2 (+3) −2 (−2)	
			α_1	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	
MC-BK-2 GC-BK-2	 裏はつり	16～	G	0 +2.5 (+4) −2 (−0)	0 +2 (+3) −0 (−0)	
			d_1	$\frac{2}{3}$(T−R)	$\frac{2}{3}$(T−R)	
			R	2 +2 (+3) −2 (−2)	2 +2 (+3) −2 (−2)	
			d_2	$\frac{1}{3}$(T−R)	$\frac{1}{3}$(T−R)	
			α_1	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	
			α_2	60° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	60° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	
MC-BI-1B GC-BI-1B	 裏当て FB-4.5×19	3～6	G	T +∞ (+∞) −2 (−3)	T +∞ (+∞) −2 (−3)	

MC …　はアーク手溶接　GC …　はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4－3 部分溶込み溶接

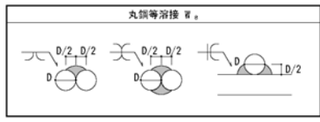
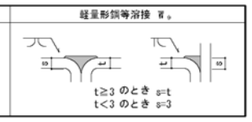
片面溶接	両面溶接
12 ≦ t ≦ 40	16 ≦ t ≦ 40
	

t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

t/4 ≦ S ≦ 10

D=(t−2)/2

4－4 フレア溶接

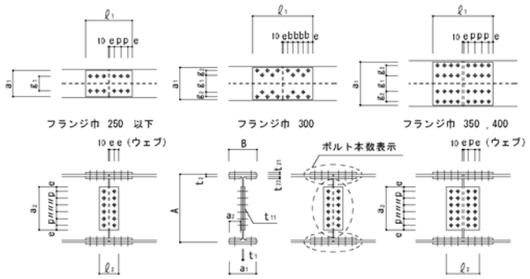
丸鋼等溶接	軽量形鋼等溶接
	 t≧3 のとき s=t　t<3 のとき s=3

4－5 その他

加工工程中及び現場組方後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

§５　継手

5－1 継手リスト

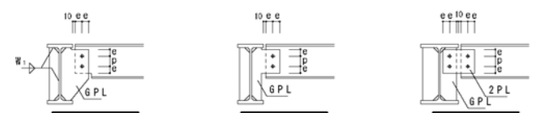


材理	主材	高力ボルト径	フランジ				ウェブ		
			ボルト	外側添板		内側添板	ボルト	添板	ピッチ
			総本数	2PL−		4PL−	総本数	2PL−	
	H− A × B × t_1 × t_2			t_{21} × a_1 × ℓ_1		t_{22} × a_2 × ℓ_1		t_{11} × a_3 × ℓ_1	
	BH− A × B × t_1 × t_2			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	
	H− × × ×			×	×	×		×	

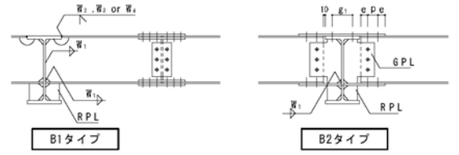
1．フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差１mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2．a_3は原則として梁成の2/3以上確保すること。

5－2 小梁仕口

ピン接合 Aタイプ



剛接合 Bタイプ



1．GPL,RPLは材種、板厚とも小梁のWPLと同等以上とする。
2．継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL(06)6763-8205　FAX(06)6763-8206　http://www.kse-web.com/　2020年2月1日作成

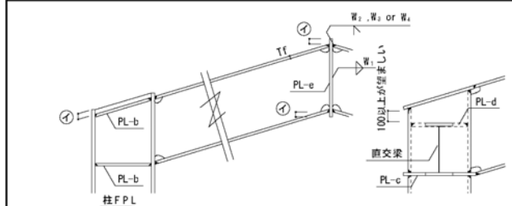
（不許複製）

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 —
				図面名 鉄骨工作標準図（１）	令和 年 月 日
					図面番号 S-05

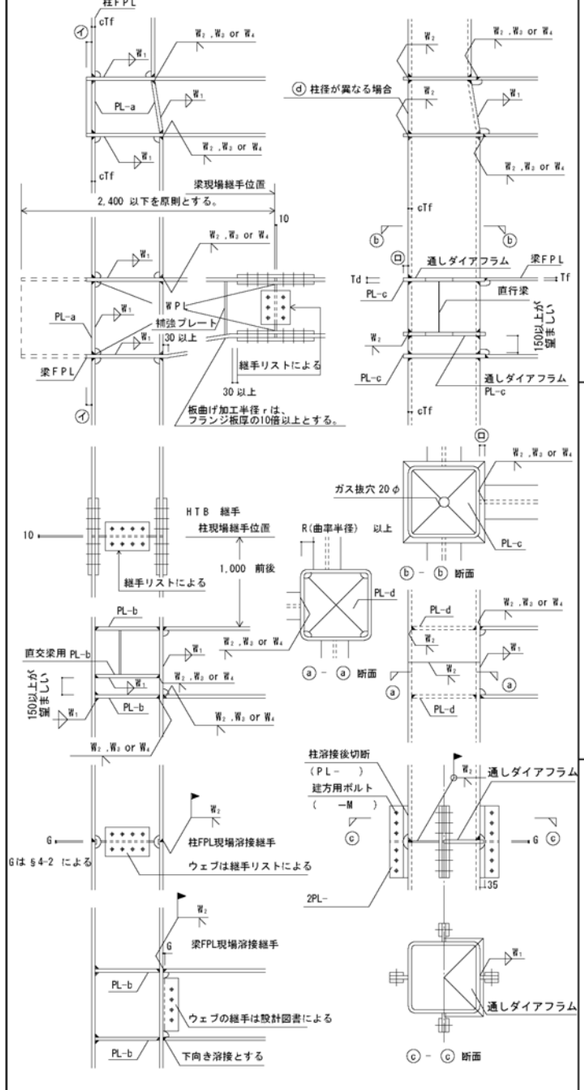
鉄 骨 工 作 標 準 図 (2) 2020年度版

§6 柱梁接合部及び継手

6－1 勾配屋根



6－2 梁通し



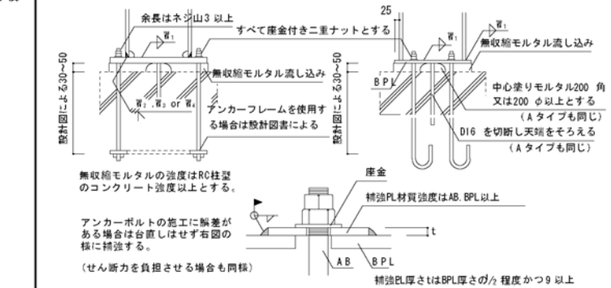
6－3 仕口と継手

6－4 柱通し

6－5 現場溶接継手

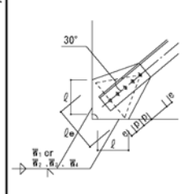
§7 柱脚

7－1 一般柱脚



§8 壁面ブレース

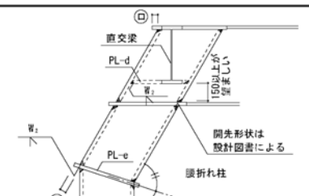
8－1 ブレースリスト



符号	部材	高力ボルト		GPL		溶接	
		径	本数	t	ℓe	脚長	Σℓ

1. GPLの最小幅 ℓe が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共ＪＩＳ規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

6－6 その他



1) パネルゾーンのPLの厚さ

1.	PL－a (鉛直スチフナ)	上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
2.	PL－b (水平スチフナ)	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
3.	PL－c (通しダイアフラム)	仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
4.	PL－d (内ダイアフラム)	仕口部に集結する梁の最大FPLより1～2サイズUP以上
5.	PL－e (折れ曲がり部)	梁 (柱) のFPLより1サイズUP以上

2) 出寸法

ⓓ 25 mm かつcTf以上
ⓑ cTf≦25の場合 25
cTf≧28の場合 30

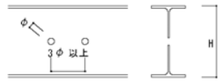
3) 注記

1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
2. ⓓ (6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部でFPLを折曲げる場合はR≧10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合 (1／6程度) は不要。
4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承認を得、養生に十分配慮して行うこと。

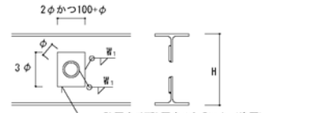
9－1 貫通補強

§9 その他

A タイプ (φ≦0.1H)

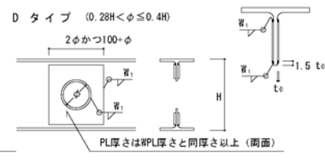


B タイプ (0.1H<φ≦0.2H)



C タイプ (0.2H<φ≦0.28H)

D タイプ (0.28H<φ≦0.4H)

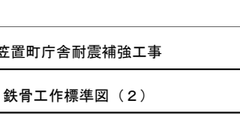


E タイプ (0.4H<φ≦0.5H)

F タイプ

既製品(評定品)を用いた場合

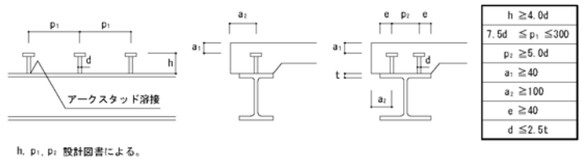
1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径 (φ) は0.5H以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。
(これを満足できない場合は設計者の指示による。)
2. 貫通孔を設ける範囲は右図の ▨ 部分を原則とする。
3. 貫通孔が多くある場合はWPLを厚くした (WPL＋補強PL) BHとする。



○ 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

9－2 デッキプレート

9－3 スタッドジベル



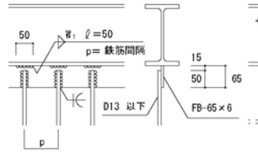
h	≧4.0d
7.5d	≦p1≦300
p1	≧5.0d
a1	≧40
a2	≧100
e	≧40
d	≦2.5t

h, p1, p2 設計図書による。

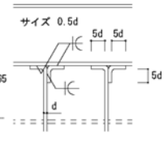
9－4 壁筋の溶接

A タイプ (標準)

B タイプ (経徴な RC 壁の場合)



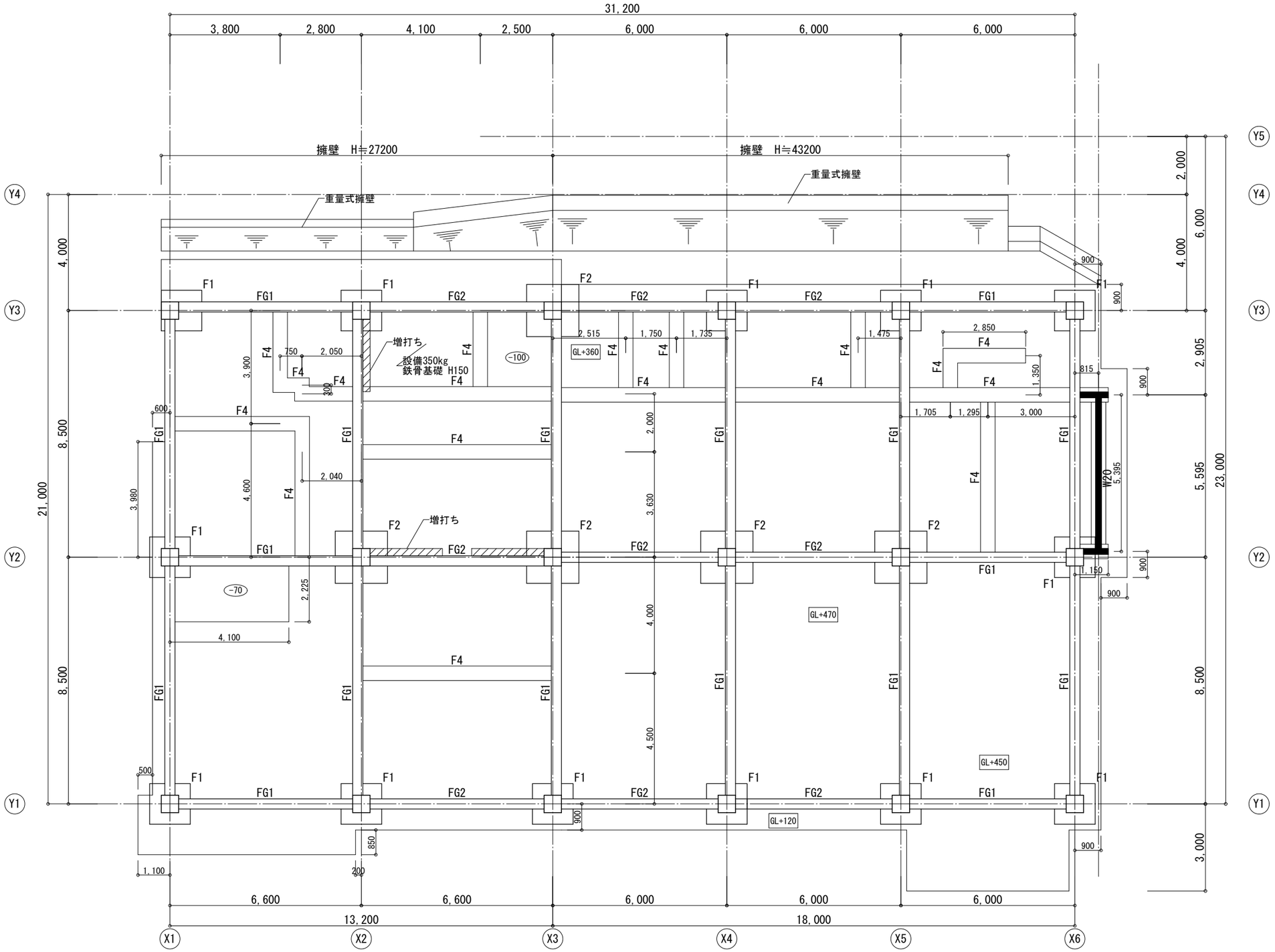
C タイプ (ブロック壁の場合)



(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 http://fasa-net.jp

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL(06)6763-8205 FAX(06)6763-8206 http://www.kse-web.com/ 2020年2月1日作成 (不許複製)

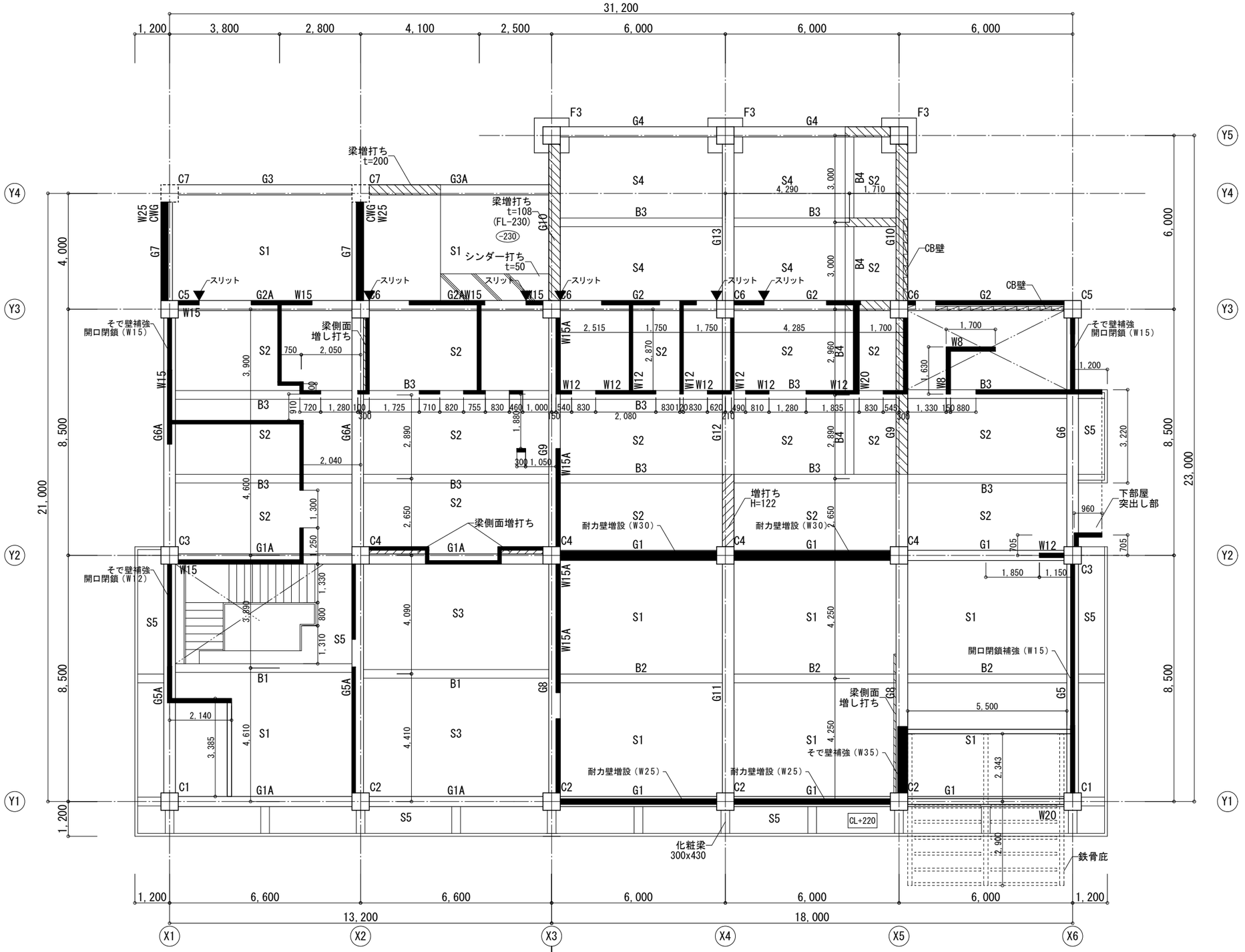
株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 －
				図面名 鉄骨工作標準図 (2)	令和 年 月 日
					図面番号 S-06



基礎伏図　　１／１００

※土間コンクリートt=100mm 配筋D10@250　タテヨコ共

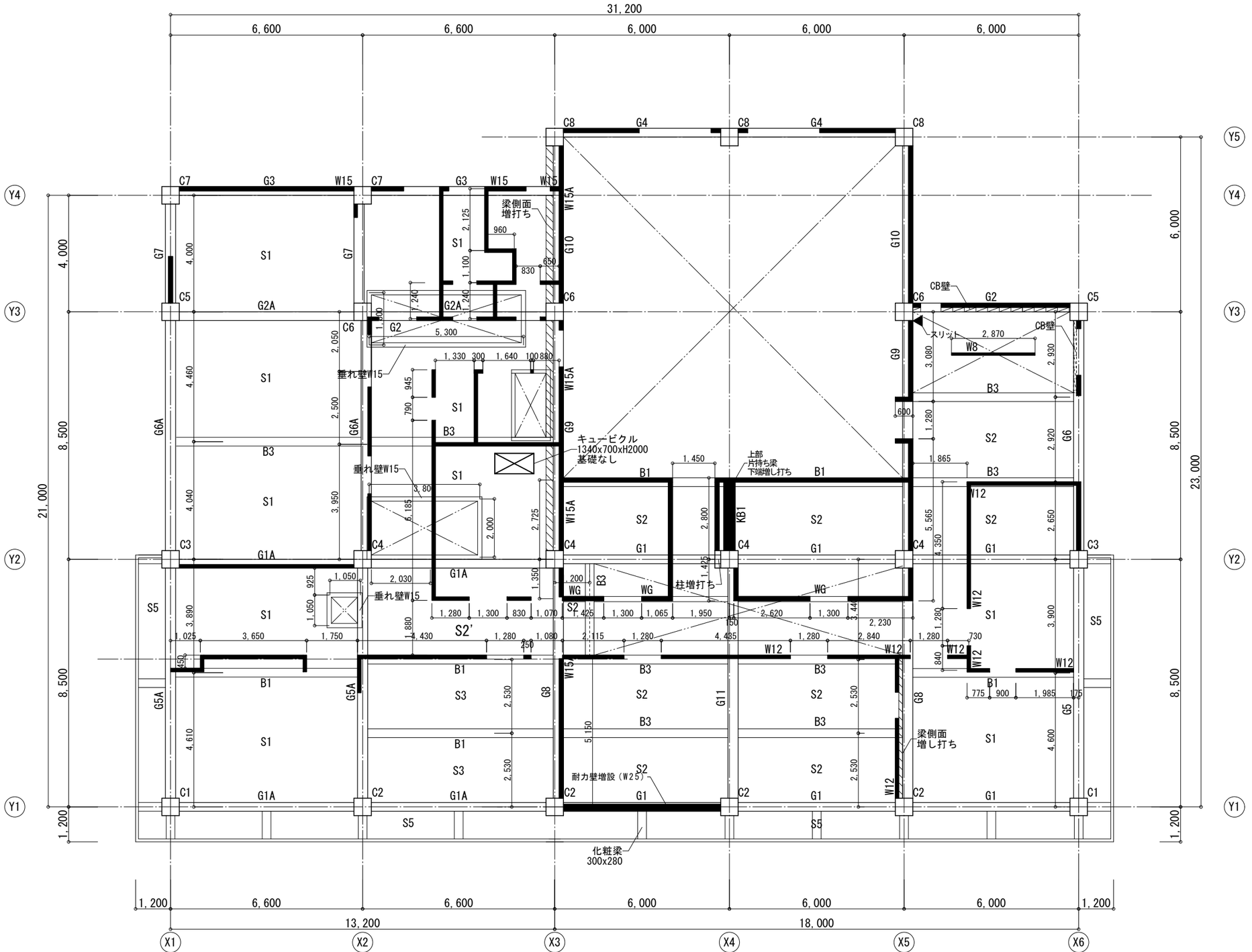
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-07
				図面名 基礎伏図	令和　年　月　日	



特記無き壁厚はW120とする　　特記無き壁厚はW150とする

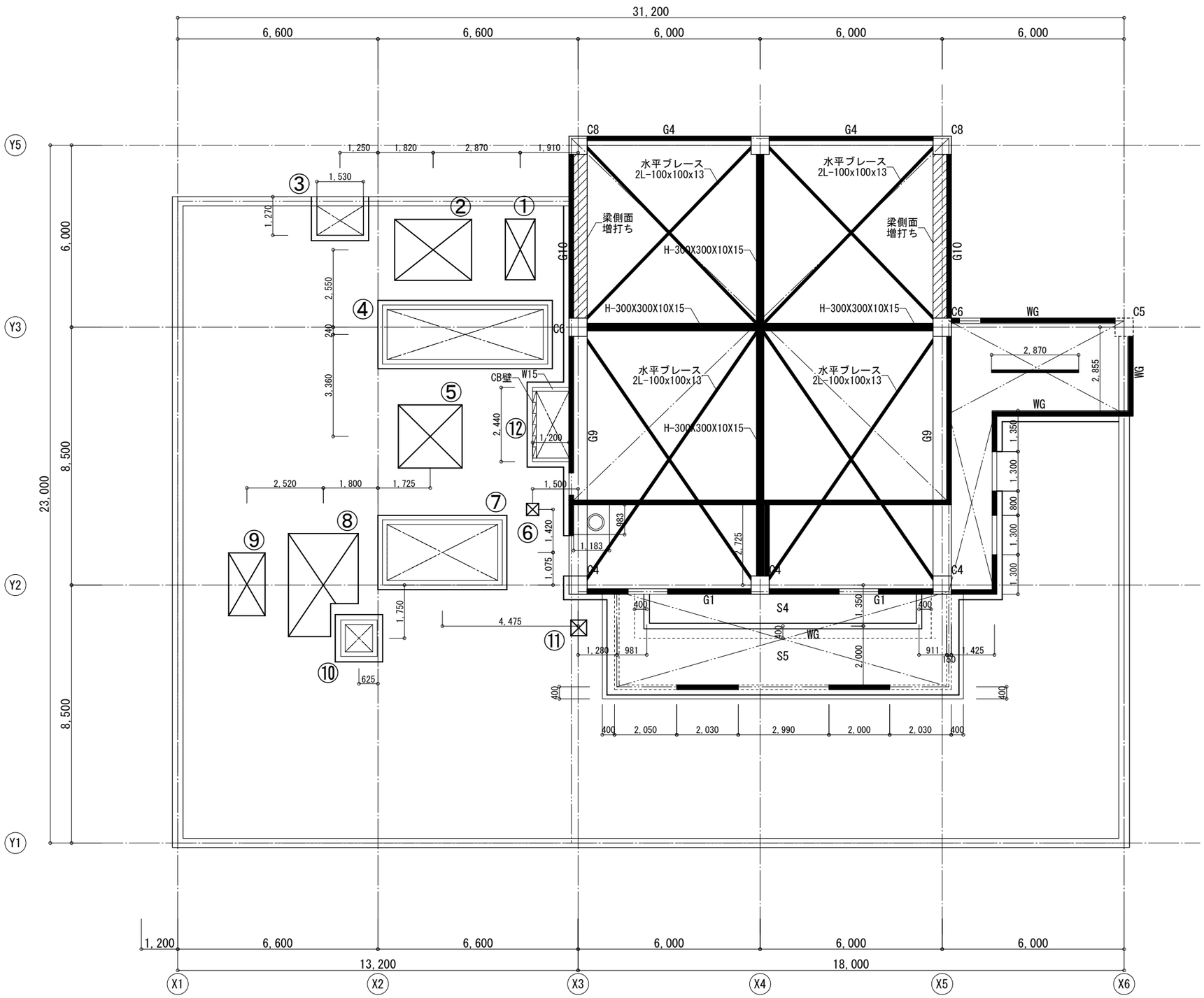
1階柱壁2階床梁伏図　　1／100

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-08
				図面名 1階柱壁2階床梁伏図	令和 年 月 日	



２階柱壁３階床梁伏図　　１／１００

	％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-09
					図面名 ２階柱壁３階床梁伏図	令和 年 月 日	

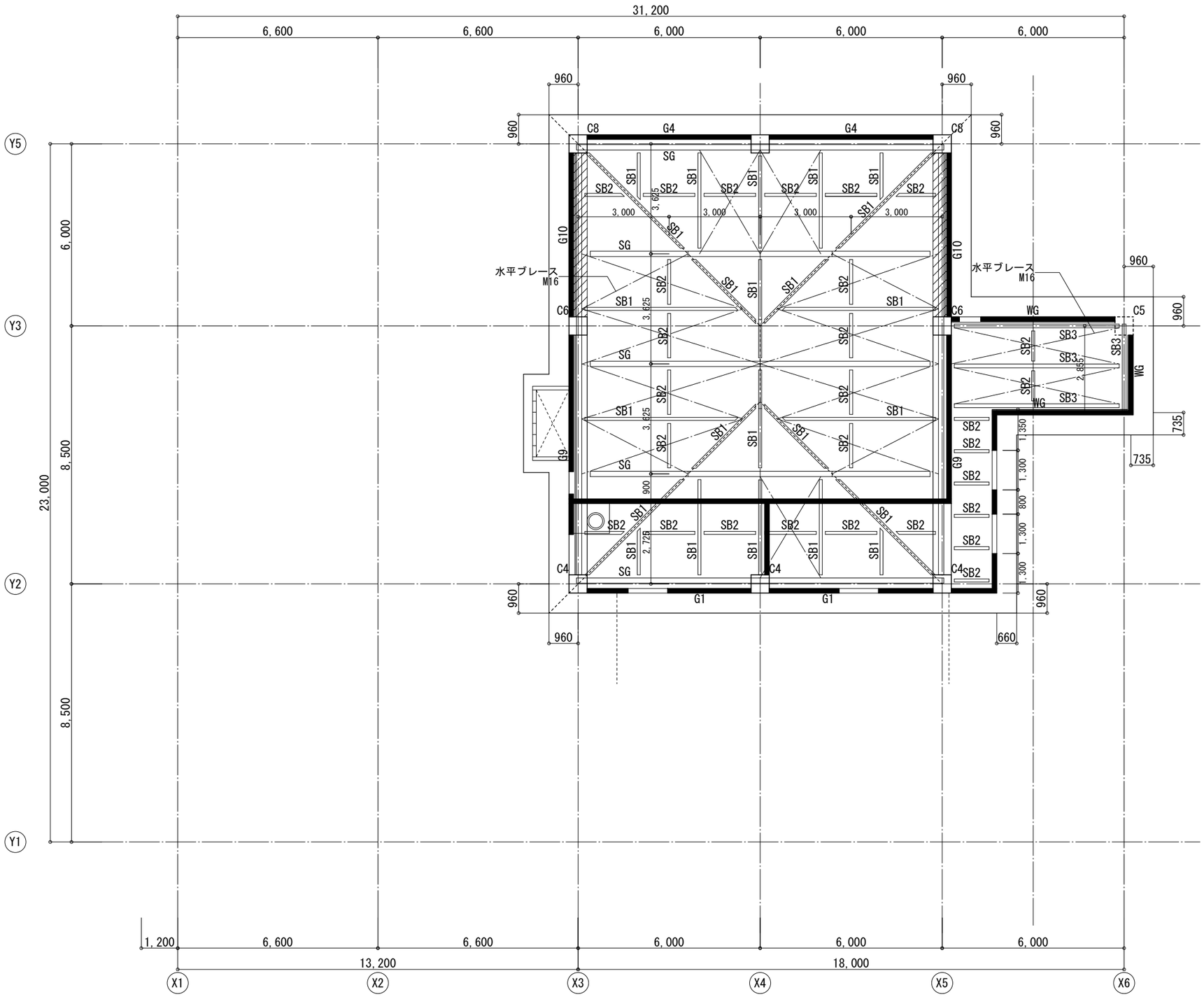


3階柱R階床伏図　　1／１００

※特記無き壁厚はW150とする

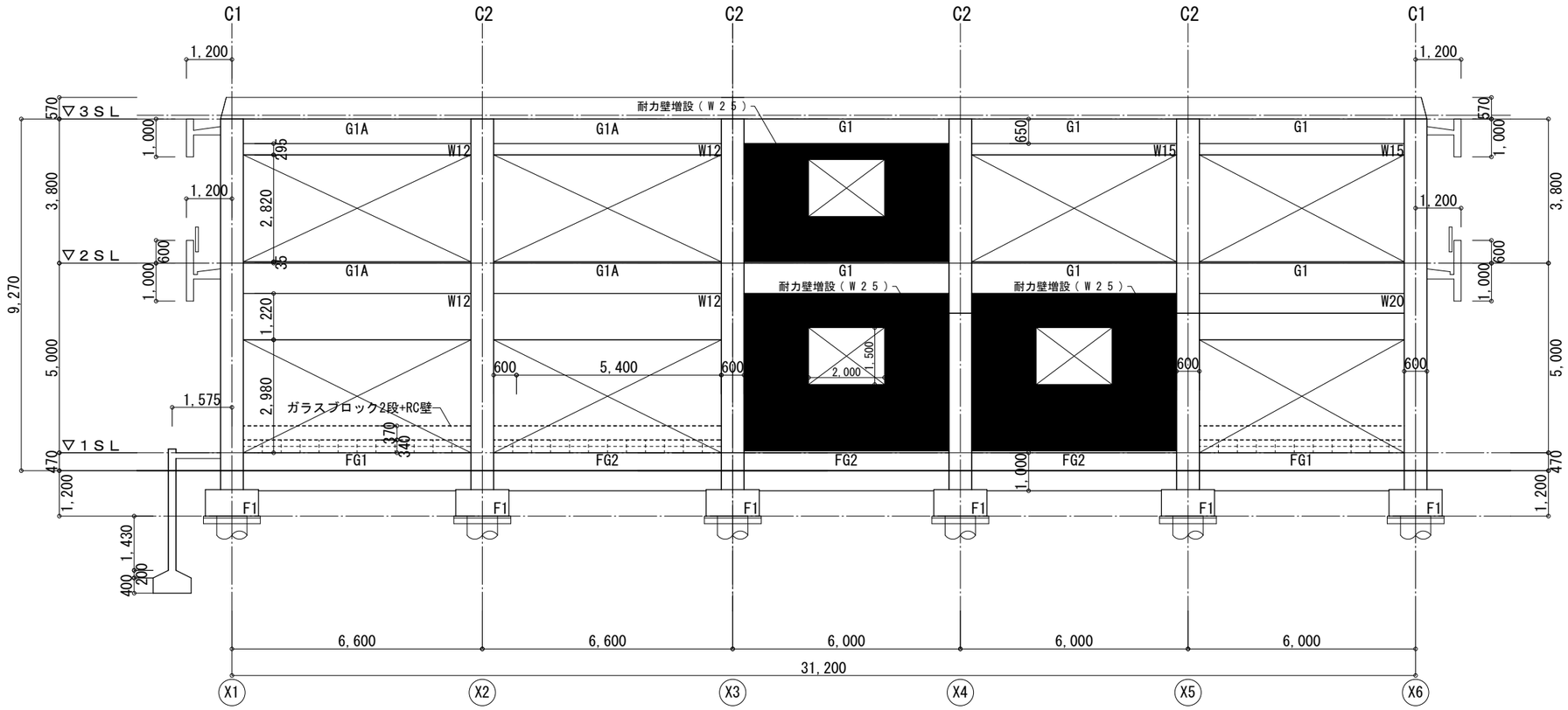
①高架水槽x2台　基礎980x2000x310
②基礎2530x2010x130
③電気配管立上がりスペース 1530x1270x900
④天窓5300x1800x1000
⑤キュービクル基礎2100x2080x450
　キュービクル外径1780x1900x2450
⑥アンテナ電柱φ190.7　H=9850　基礎400x400x300
⑦天窓3870x2000x1000
⑧室外機750kgx1台 基礎6.87㎡x200(H)
⑨室外機525kgx1台 基礎2.48㎡x190(H)
⑩天窓1000x1000x250
⑪アンテナ電柱φ114　H=7440　基礎520x520x320
⑫ダクトスペース　1200x2660x2570

	株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 3階柱R階床伏図	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 S-10



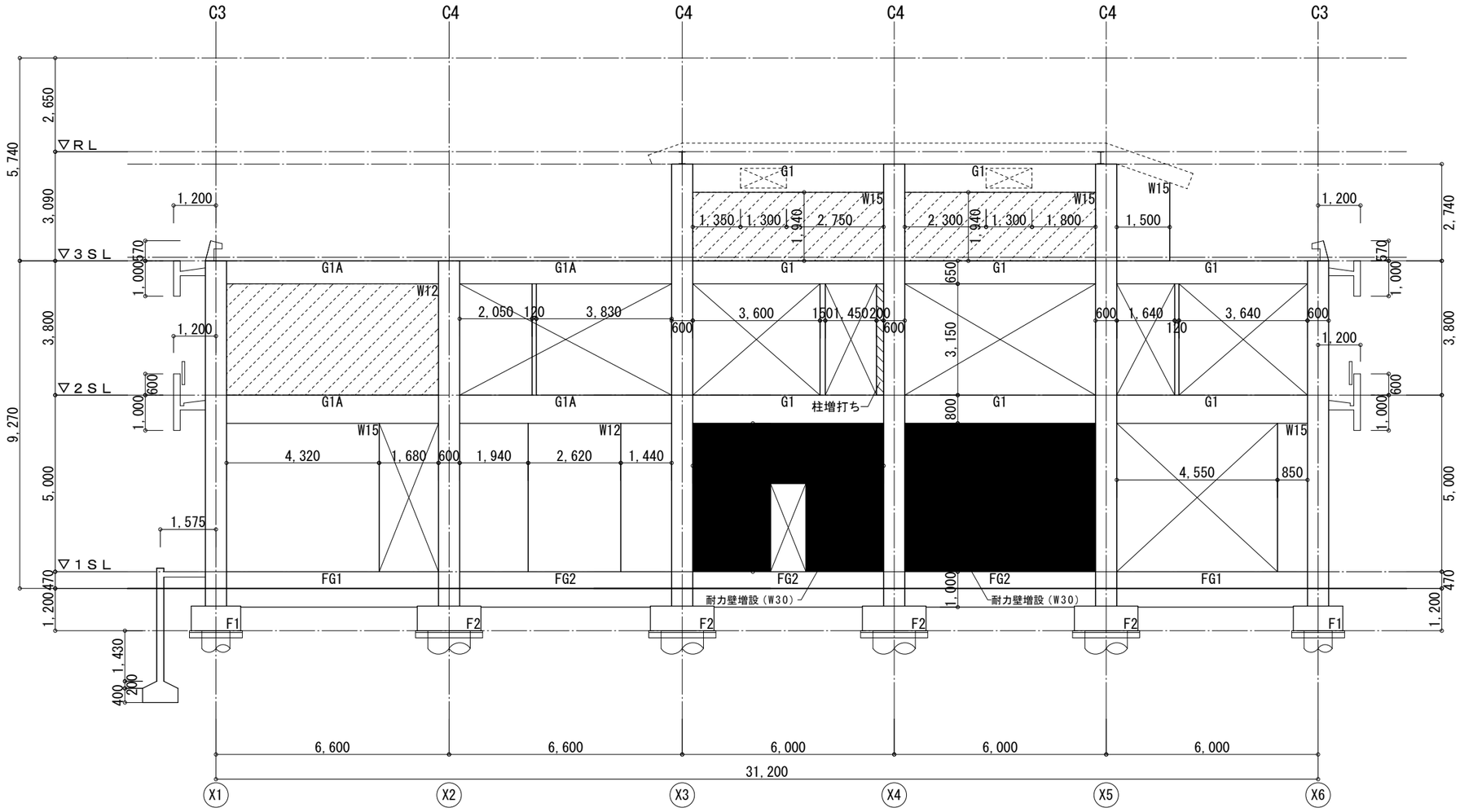
母屋伏図　　１／１００

	℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-11
					図面名 母屋伏図	令和 年 月 日	



Y1通り軸組図　　１／１００

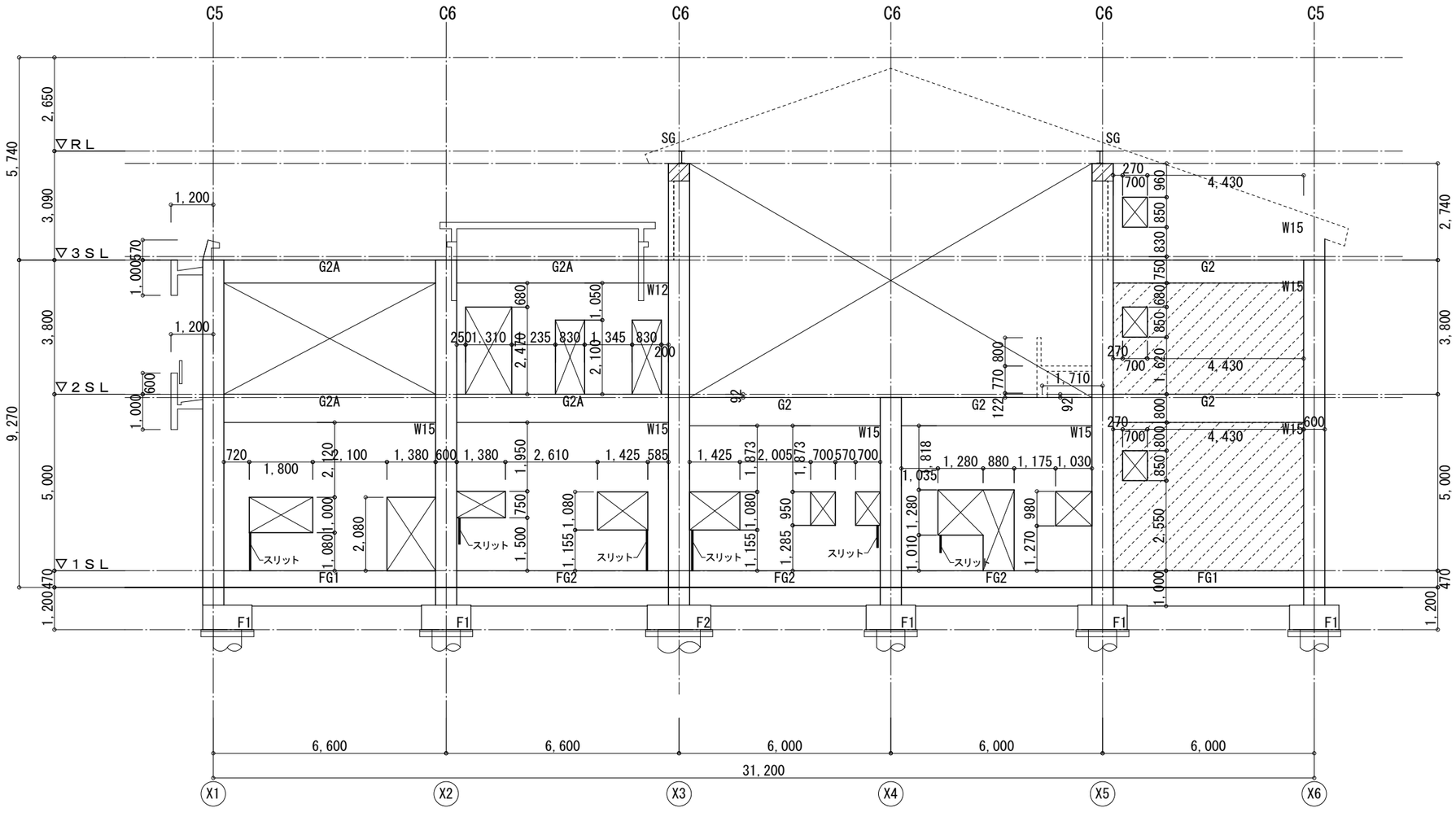
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-12
				図面名 Y1通り軸組図	令和　年　月　日	



Y2通り軸組図　　1／１００

耐力壁を示す

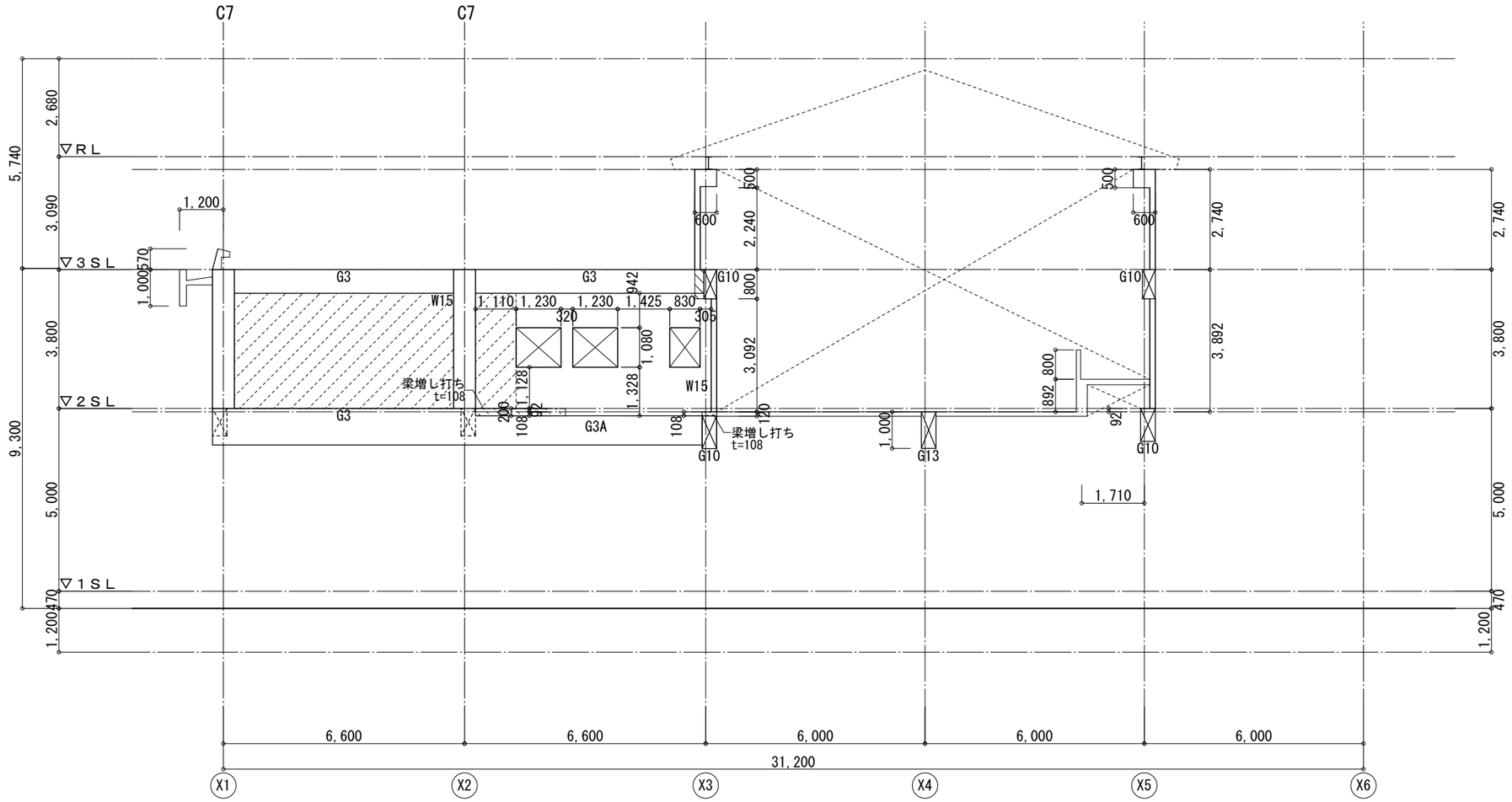
株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-13
				図面名 Y2通り軸組図	令和 年 月 日	



Y3通り軸組図　　1／１００

耐力壁を示す

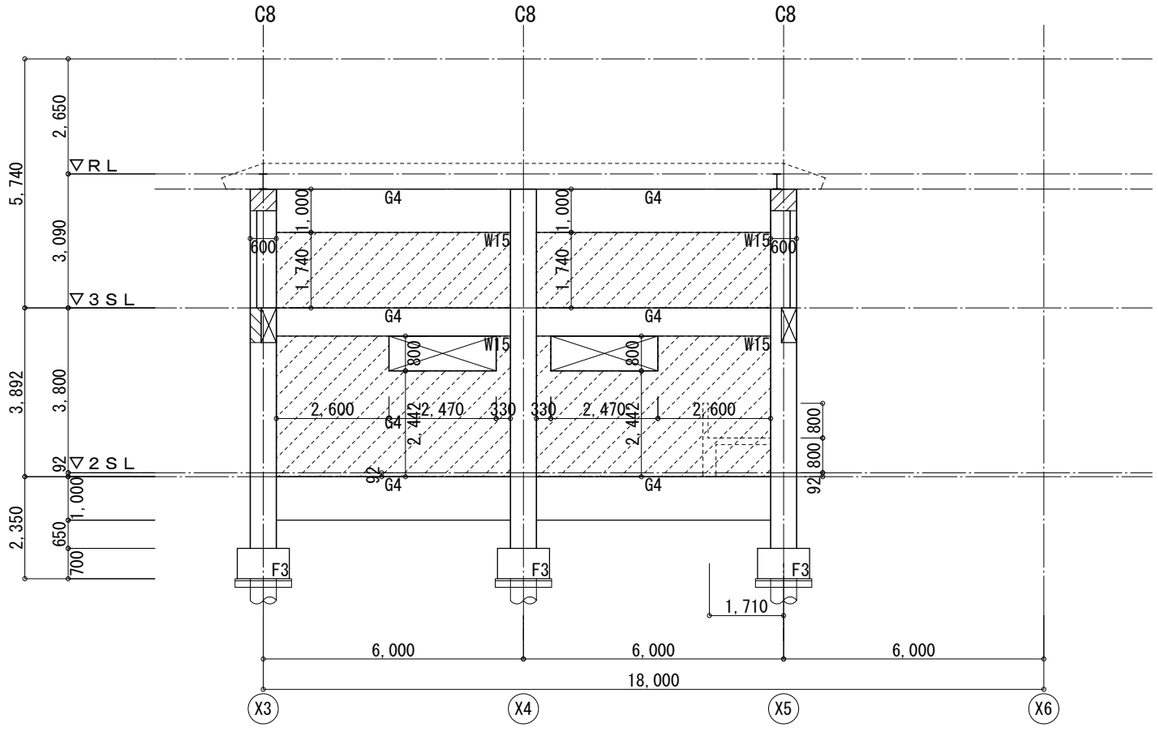
	℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 Y3通り軸組図	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 S-14



Y4通り軸組図　　1／100

耐力壁を示す

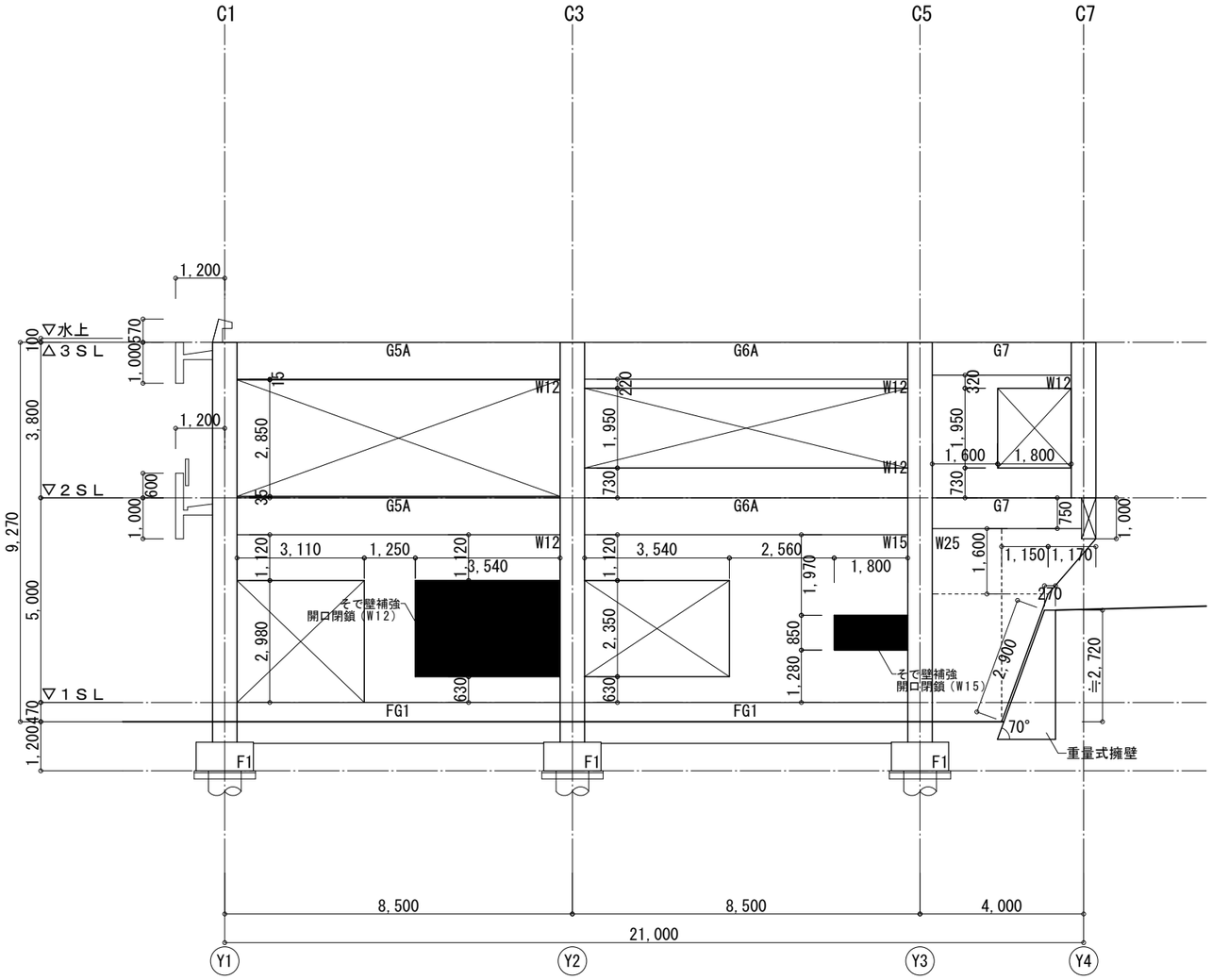
株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-15
				図面名 Y4通り軸組図	令和 年 月 日	



Y5通り軸組図　　１／１００

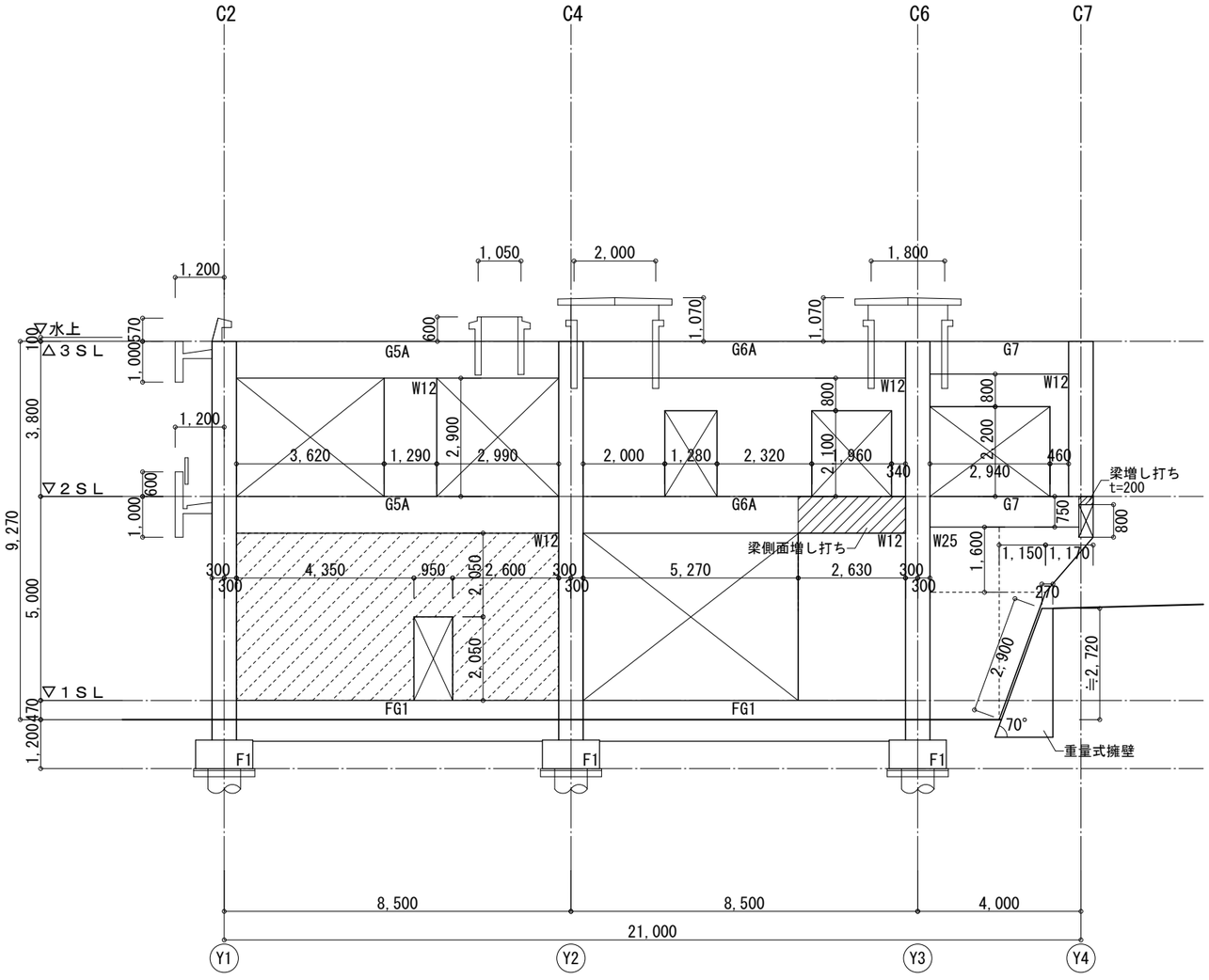
耐力壁を示す

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 Y5通り軸組図	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 S-16



X1通り軸組図　　１／１００

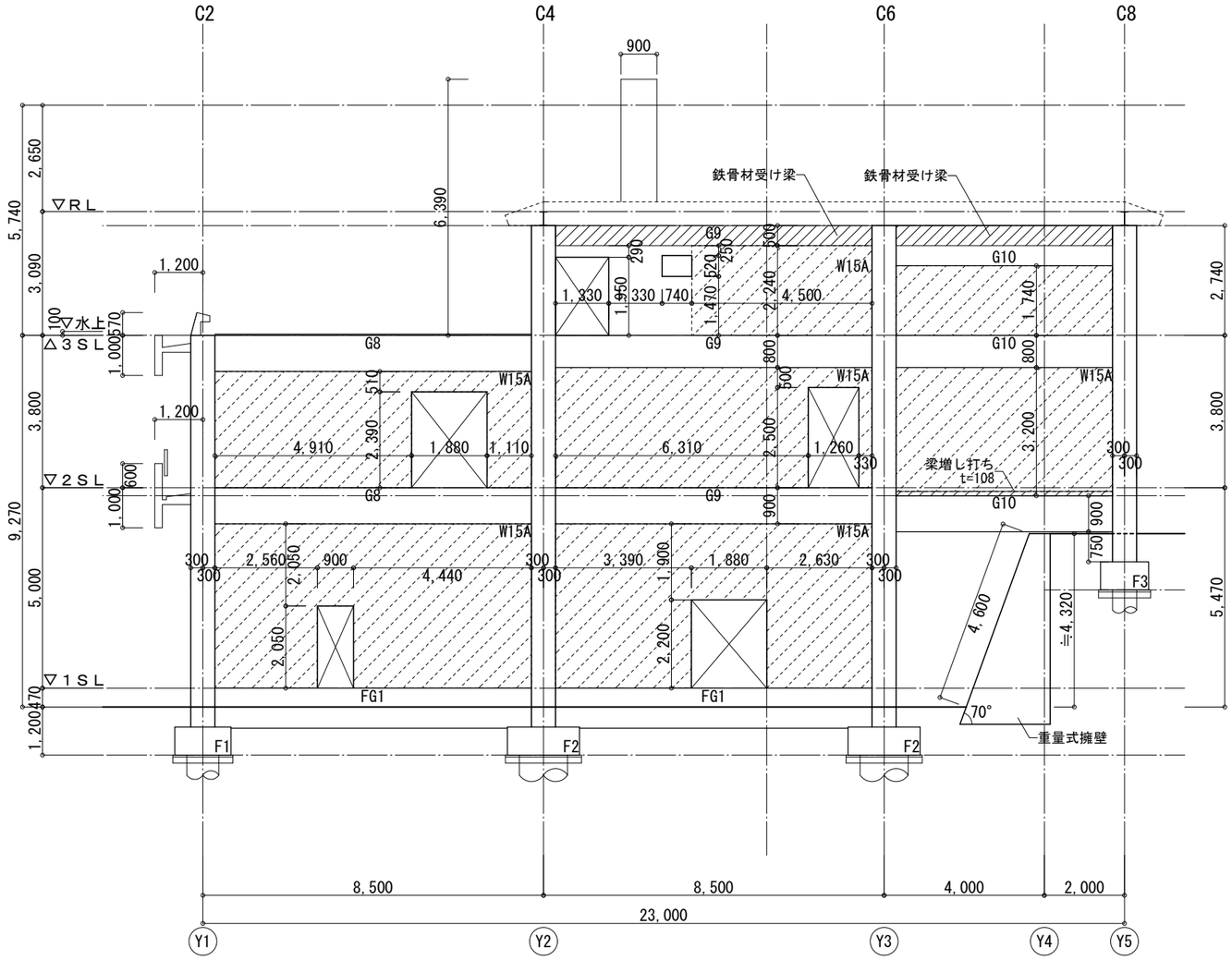
株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-17
				図面名 X1通り軸組図	令和 年 月 日	



X2通り軸組図　　１／１００

耐力壁を示す

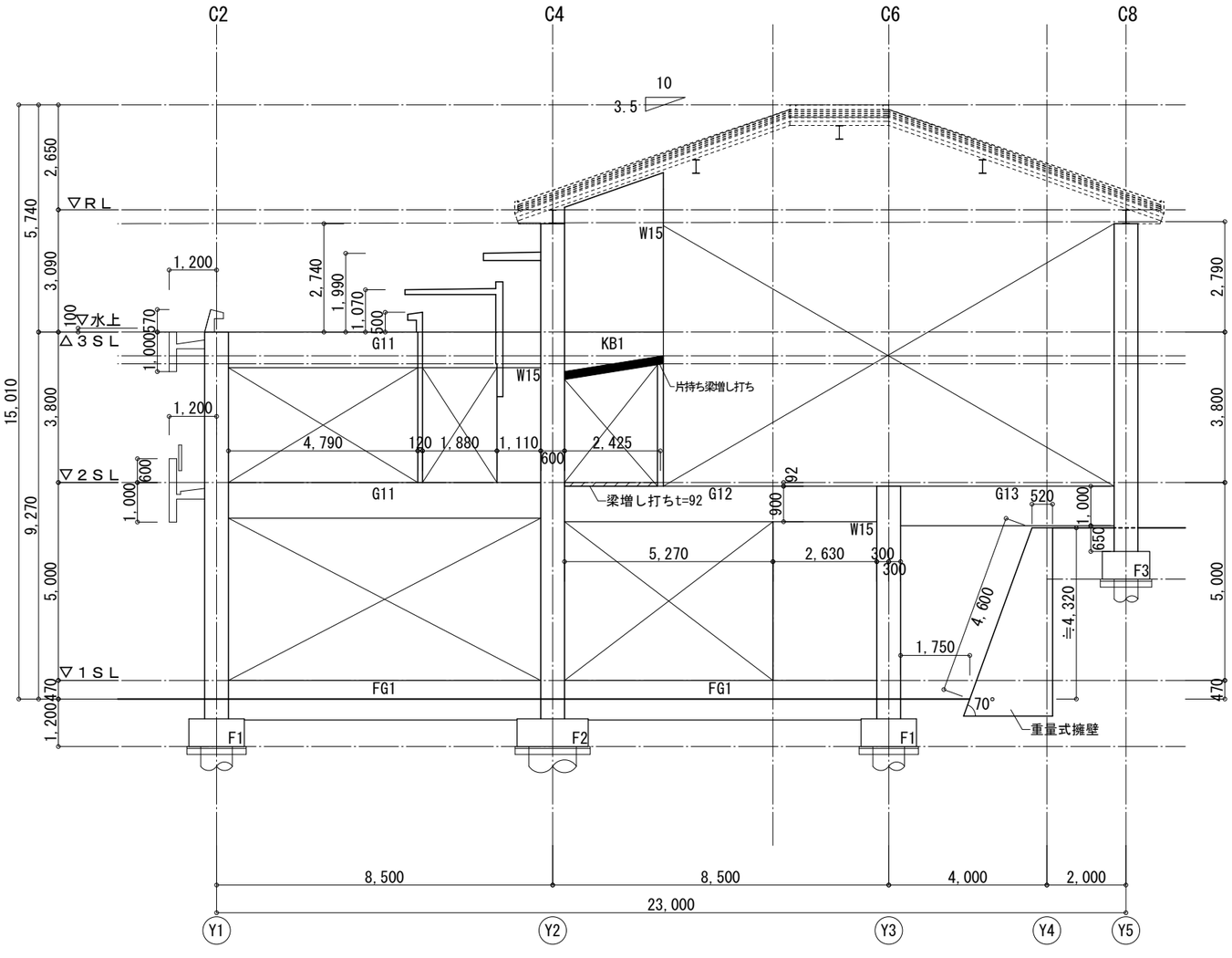
株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名：笠置町庁舎耐震補強工事 図面名：X2通り軸組図	縮尺：1/100 令和　年　月　日	図面番号：S-18



X3通り軸組図　　1／100

耐力壁を示す

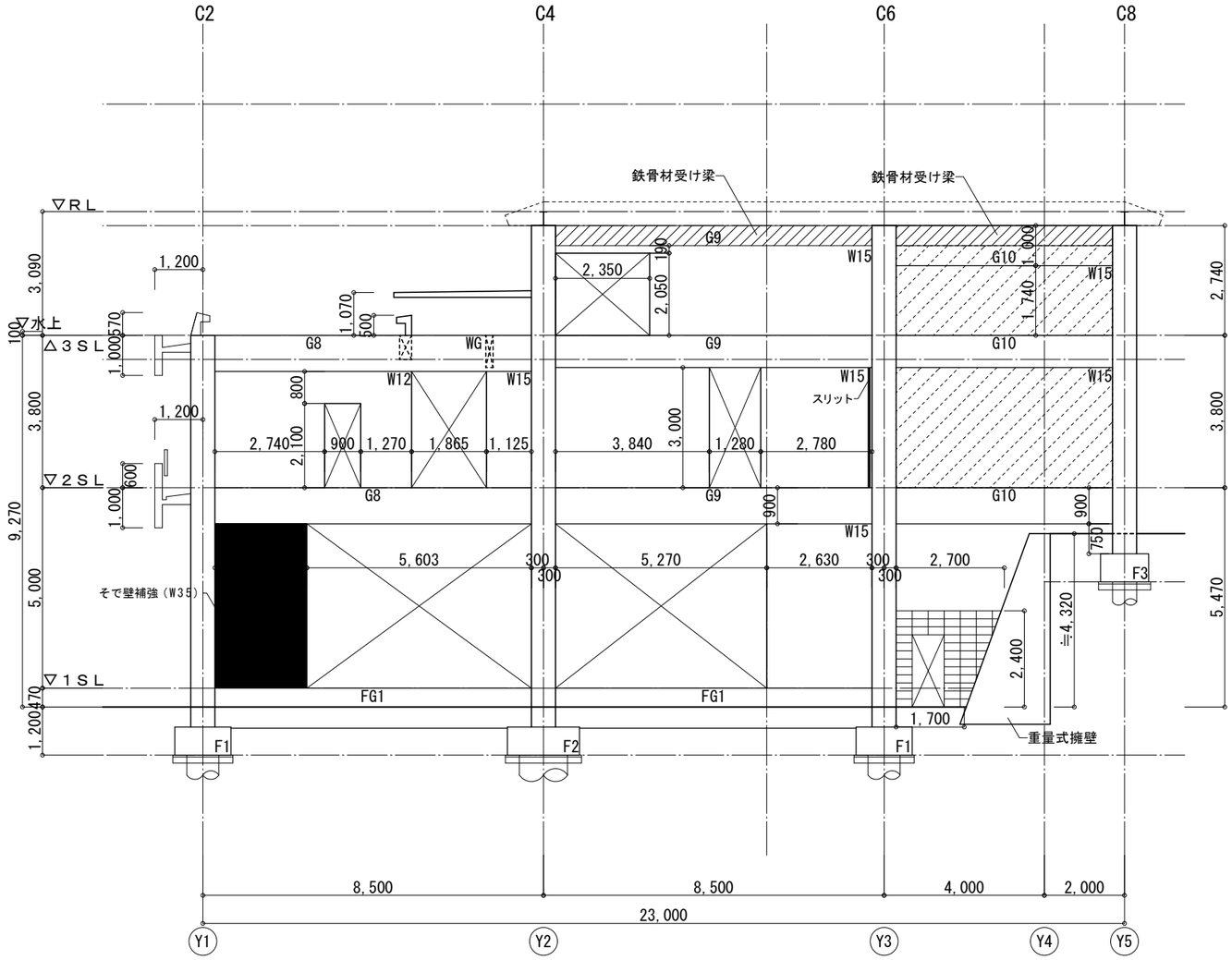
	％ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-19
					図面名 X3通り軸組図	令和 年 月 日	



X4通り軸組図　　1／100

耐力壁を示す

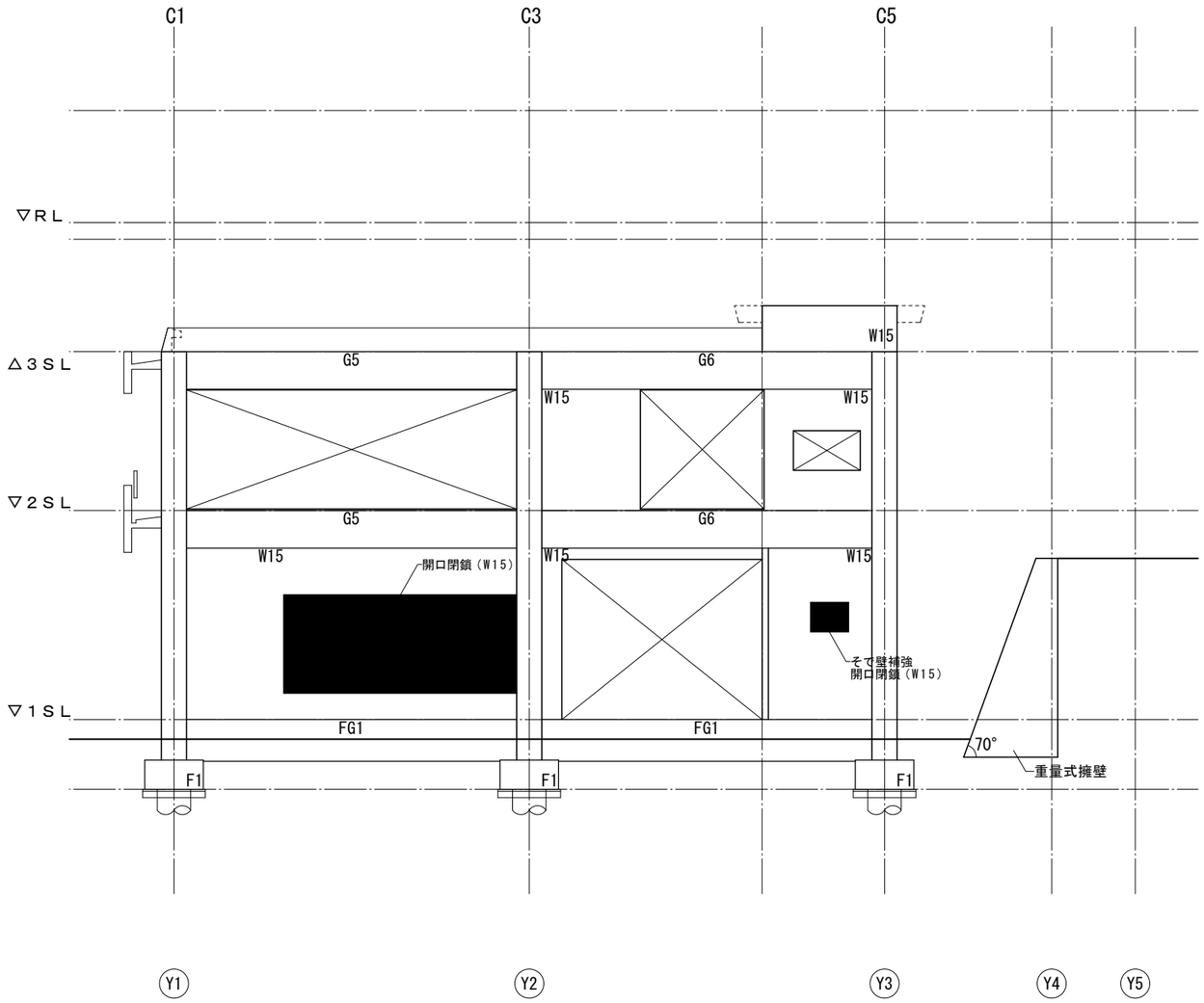
	℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 X4通り軸組図	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 S-20



X5通り軸組図　　1／100

耐力壁を示す

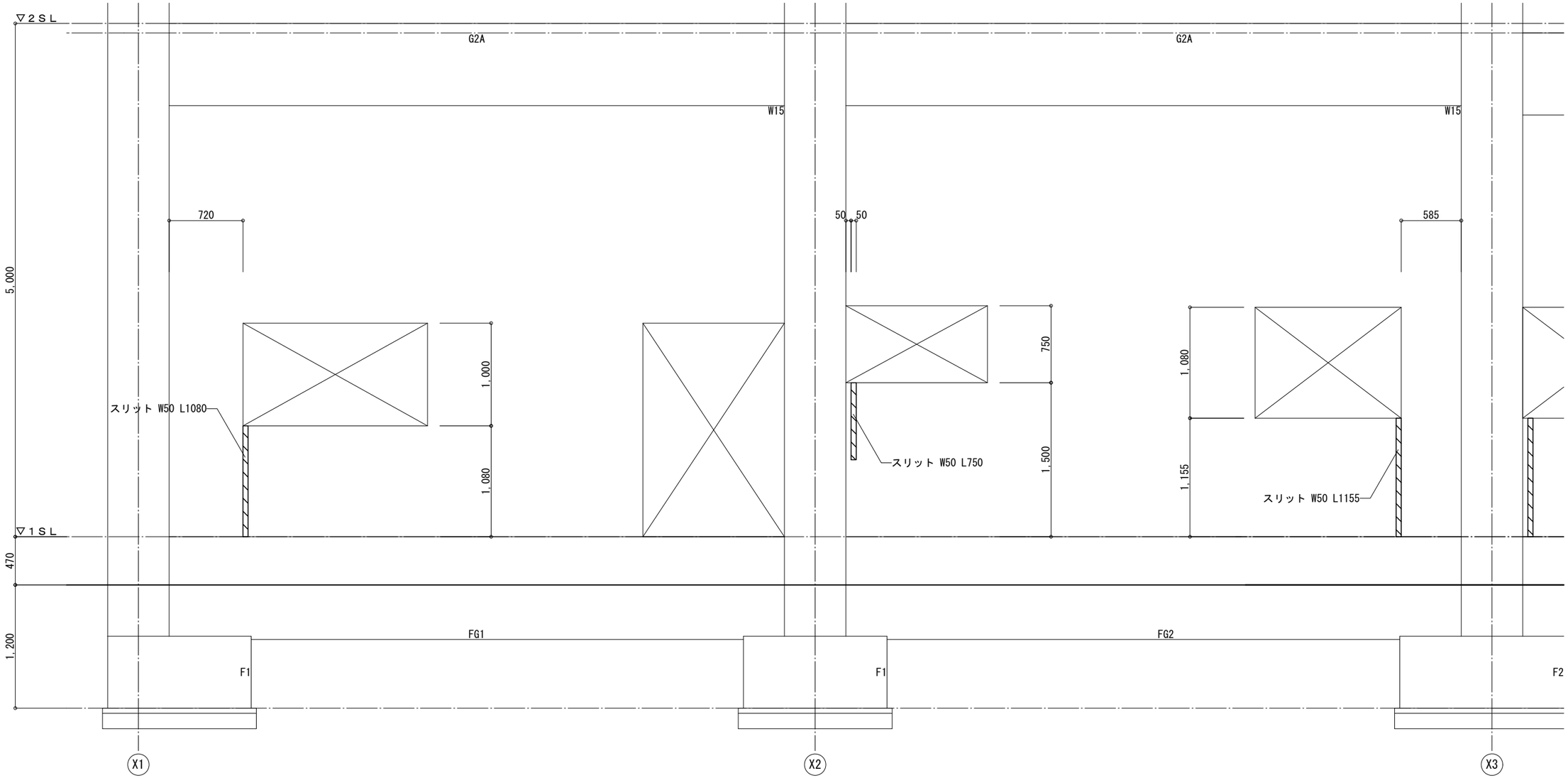
株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/100	図面番号 S-21
				図面名 X5通り軸組図	令和 年 月 日	

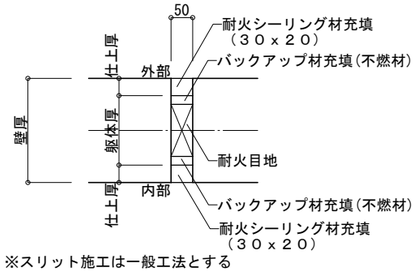


X6通り軸組図　　1／100

耐力壁を示す

	株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 X6通り軸組図	縮尺 1/100 令和 年 月 日	図面番号 S-22



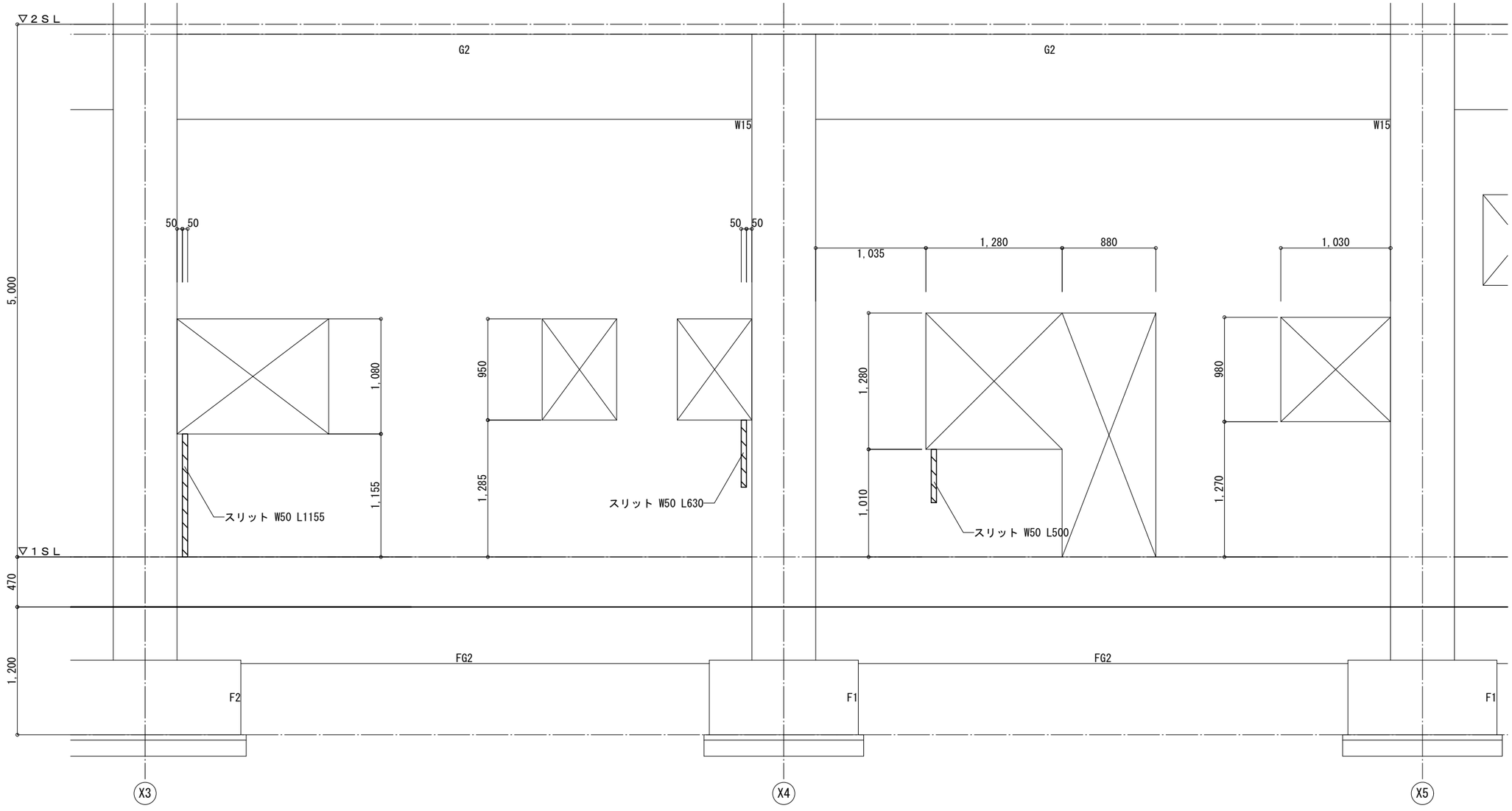


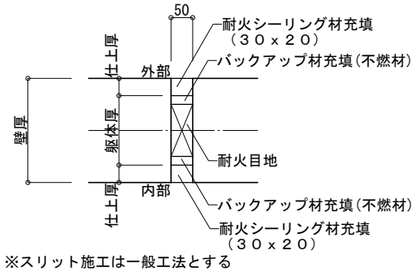
※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

スリット詳細図　　Ｓ＝１／１０

Ｙ３通りＸ１－Ｘ３間スリット詳細図　　Ｓ＝１／３０

℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/10･30	図面番号 S-23
				図面名 スリット詳細図（１）	令和 年 月 日	



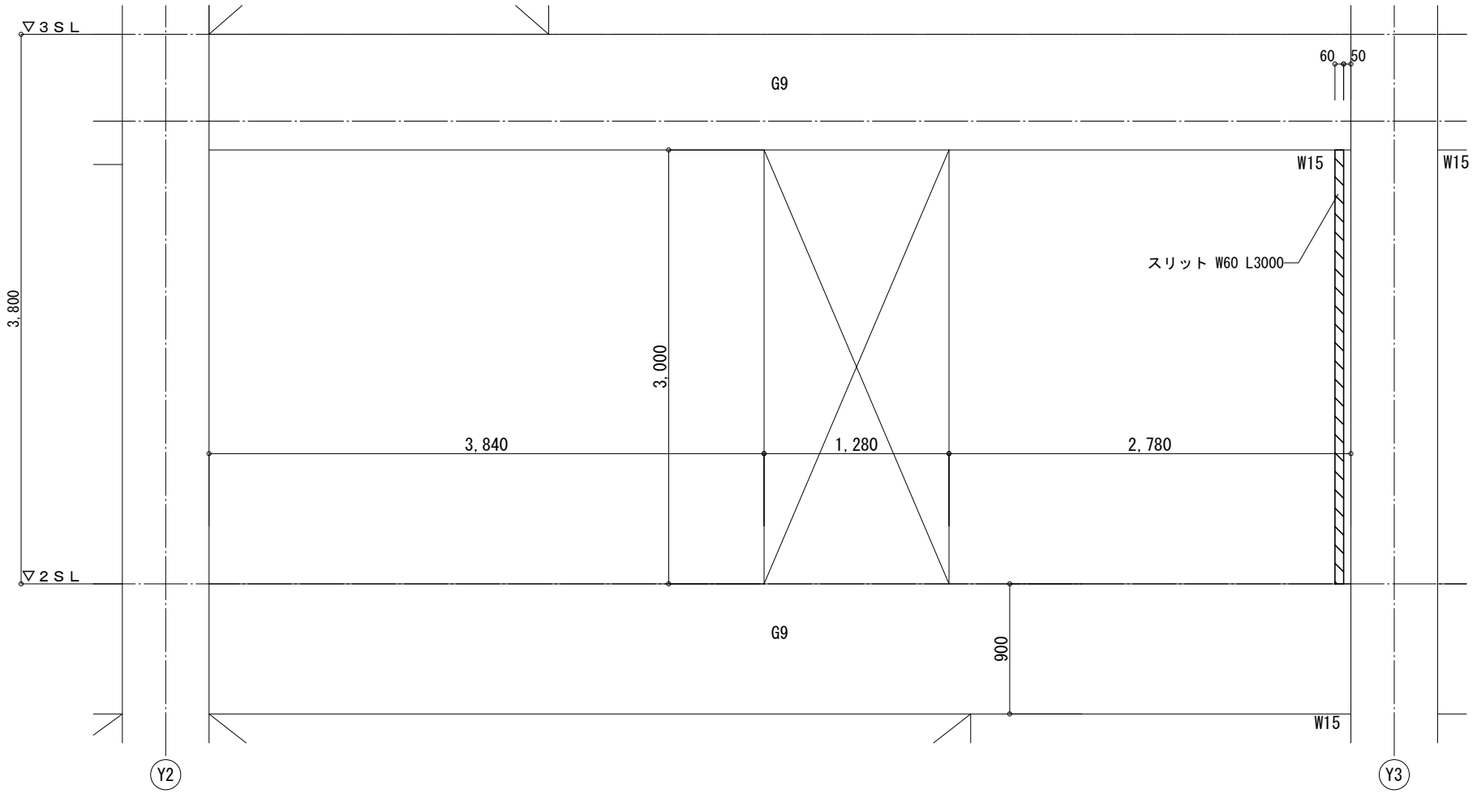


※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

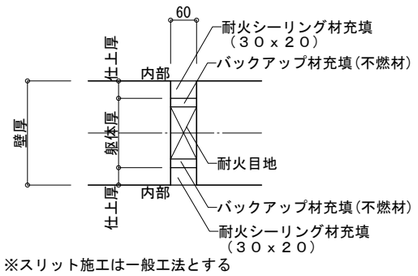
スリット詳細図　　Ｓ＝１／１０

Ｙ３通りＸ３－Ｘ５間スリット詳細図　　Ｓ＝１／３０

℅ 株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/10･30	図面番号 S-24
				図面名 スリット詳細図（２）	令和 年 月 日	



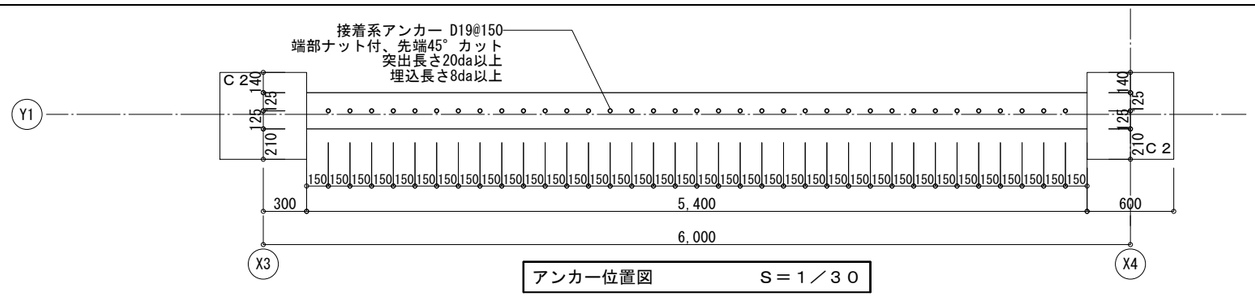
Ｘ５通りＹ２－Ｙ３間スリット詳細図　　Ｓ＝１／３０



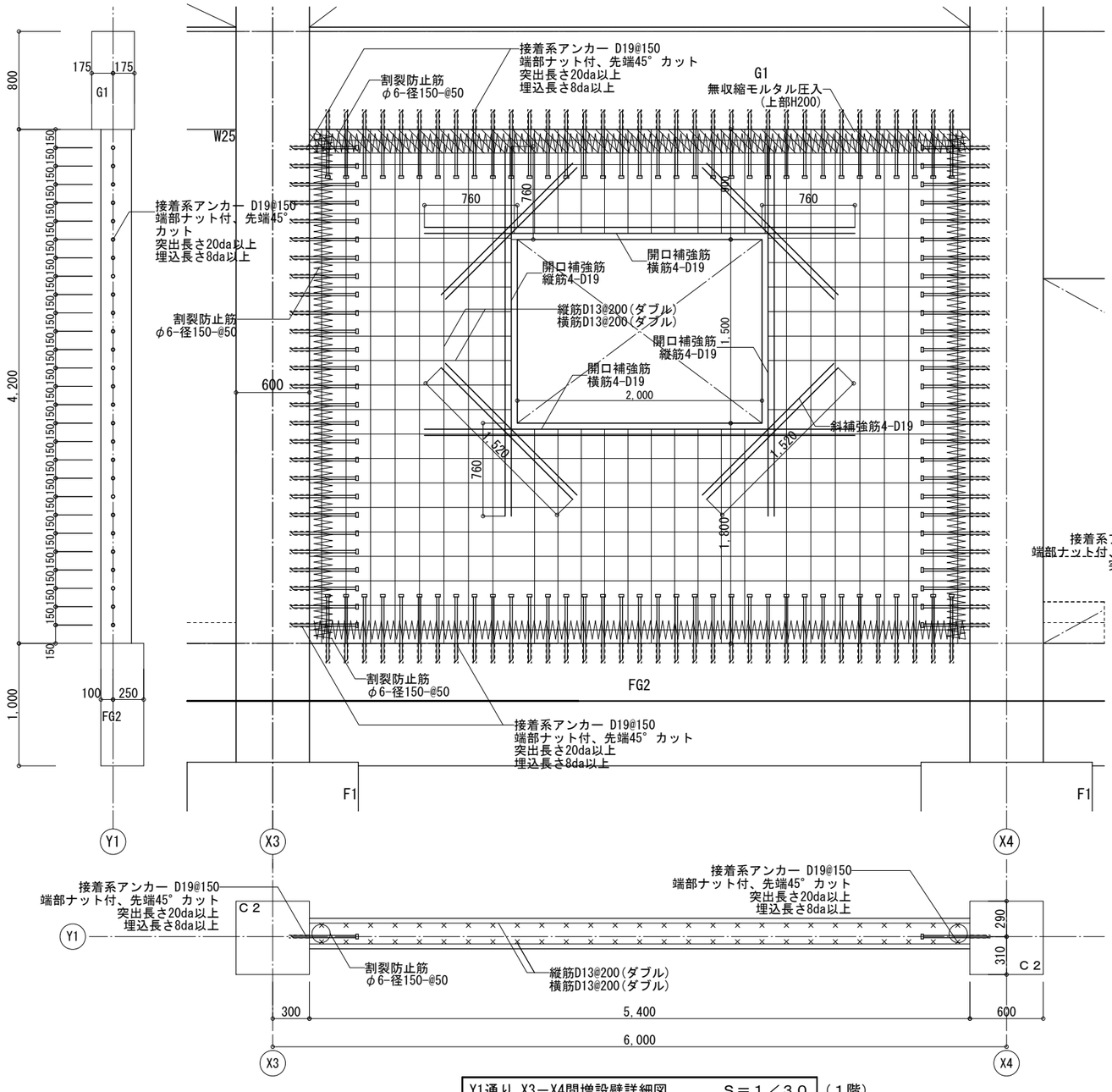
※スリット施工は一般工法とする
※耐火目地材はファイアガードＡＬシールーＢＳ
　国土交通大臣認定番号ＮＭ－３５０７同等品とする

スリット詳細図　　Ｓ＝１／１０

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/10･30	図面番号 S-25
				図面名 スリット詳細図（３）	令和 年 月 日	



アンカー位置図　　Ｓ＝１／３０



Y1通り X3－X4間増設壁詳細図　　Ｓ＝１／３０　（１階）

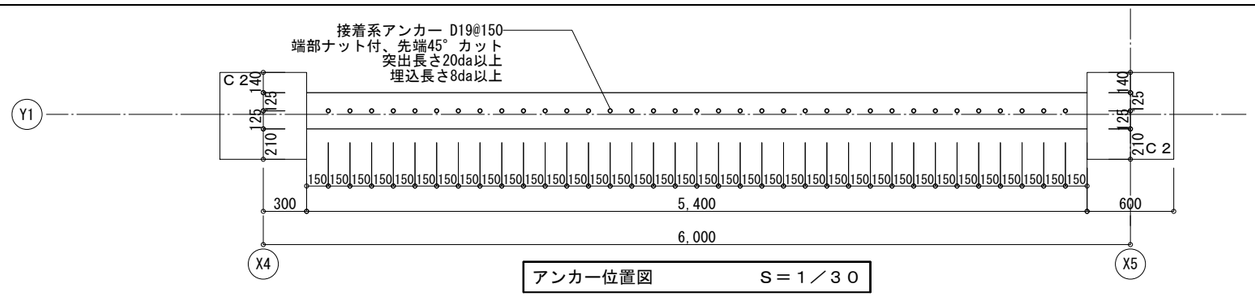
壁リスト

符　号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜筋
Ｗ２５	250	D13　-@200 ダブル	D13　-@200 ダブル	4-D19	4-D19	4-D19

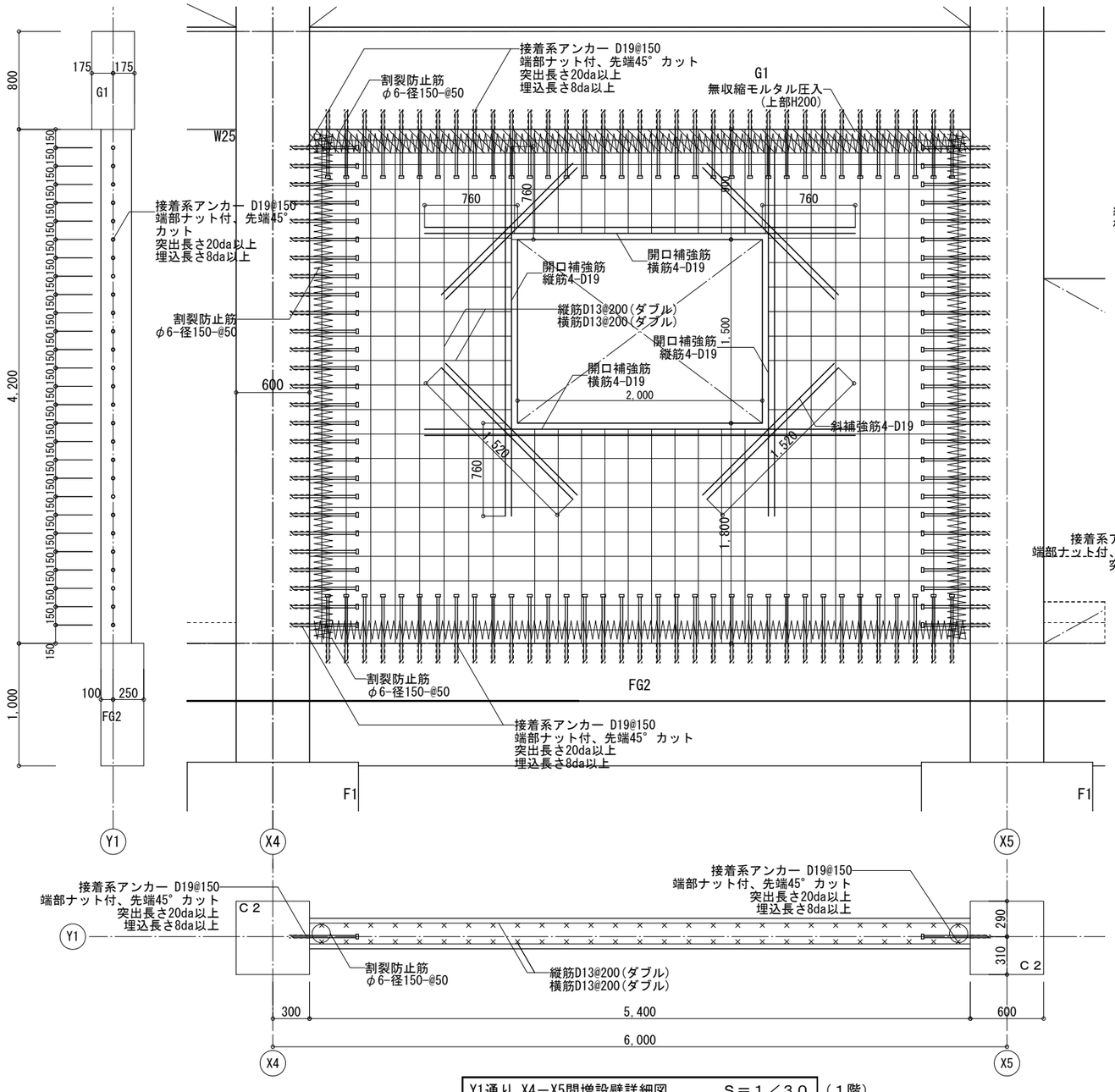
構造仕様「増設壁（１階）」	
（１）コンクリート	Ｆc=21N/mm^2　スランプ=18cm
（２）鉄筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SD295A
（３）スパイラル筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SR235
（４）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Ｆc=30N/mm^2
（５）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　ＪＩＳ Ｇ 3112 SD345 D19
接着系アンカー埋込長さ	
D19	埋め込み長さ８ｄ以上　Ｌ＝１６０

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-26
			図面名：増設壁詳細図（１）	令和　年　月　日	



アンカー位置図　　Ｓ＝１／３０



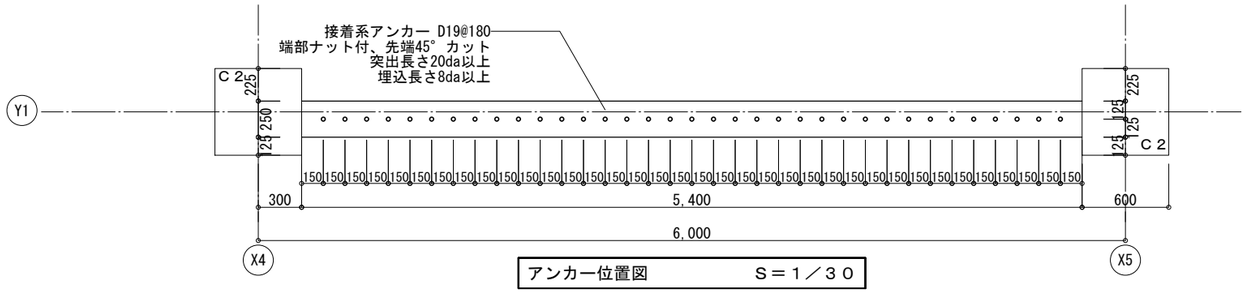
Y1通り X4－X5間増設壁詳細図　　Ｓ＝１／３０　（１階）

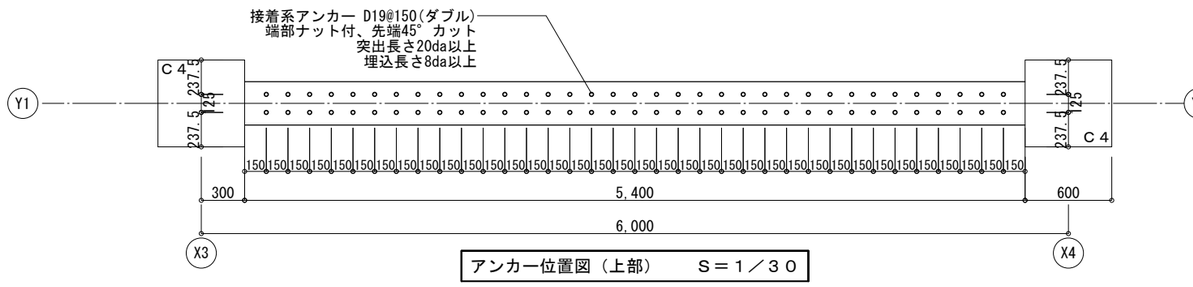
壁リスト

符　号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜筋
Ｗ２５	250	D13　-@200 ダブル	D13　-@200 ダブル	4-D19	4-D19	4-D19

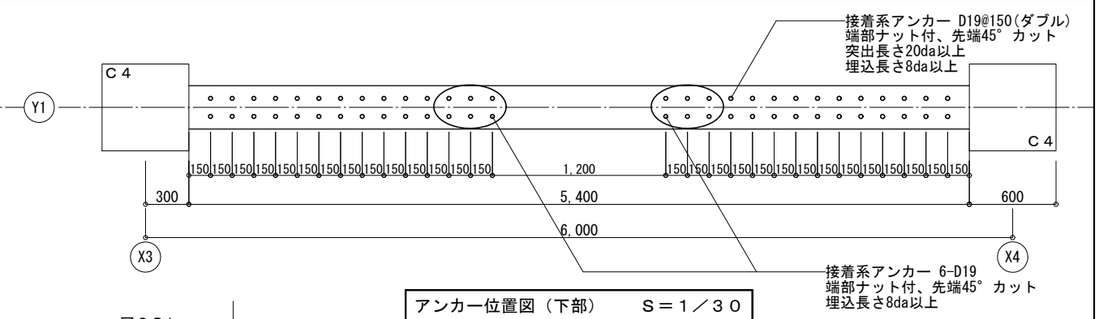
構　造　仕　様　「　増　設　壁（　１　階　）　」	
（１）コンクリート	Ｆc=21N/mm^2　スランプ=18cm
（２）鉄筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SD295A
（３）スパイラル筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SR235
（４）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Ｆc=30N/mm^2
（５）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　ＪＩＳ Ｇ 3112 SD345 D19
接着系アンカー埋込長さ	
D19	埋め込み長さ８ｄ以上　Ｌ＝１６０

	株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/30	図面番号 S-27
					図面名 増設壁詳細図（２）	令和　年　月　日	

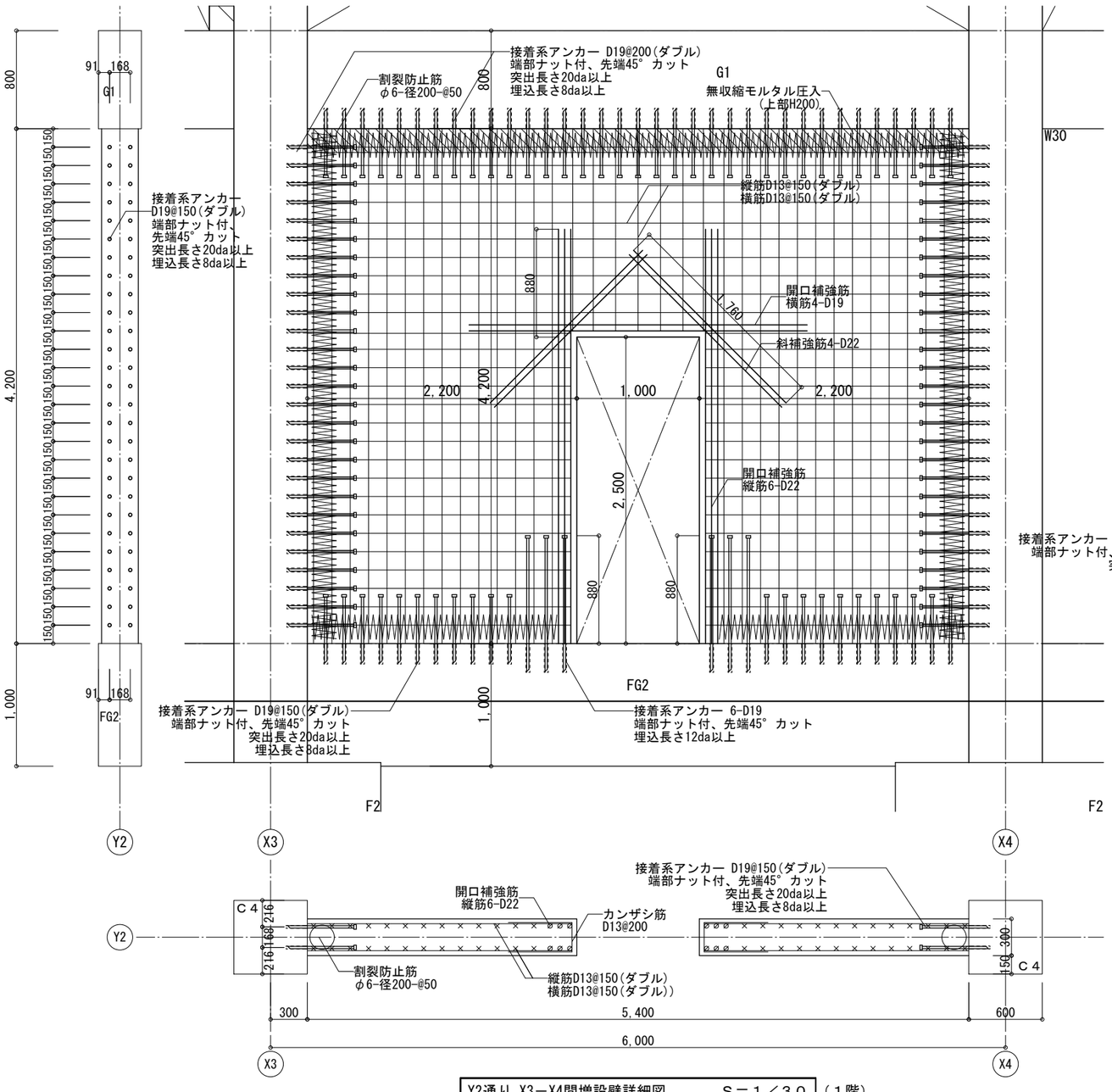

接着系アンカー D19@180
端部ナット付、先端45° カット
突出長さ20da以上
埋込長さ8da以上
Y1
C 2
225
250
125
150150150



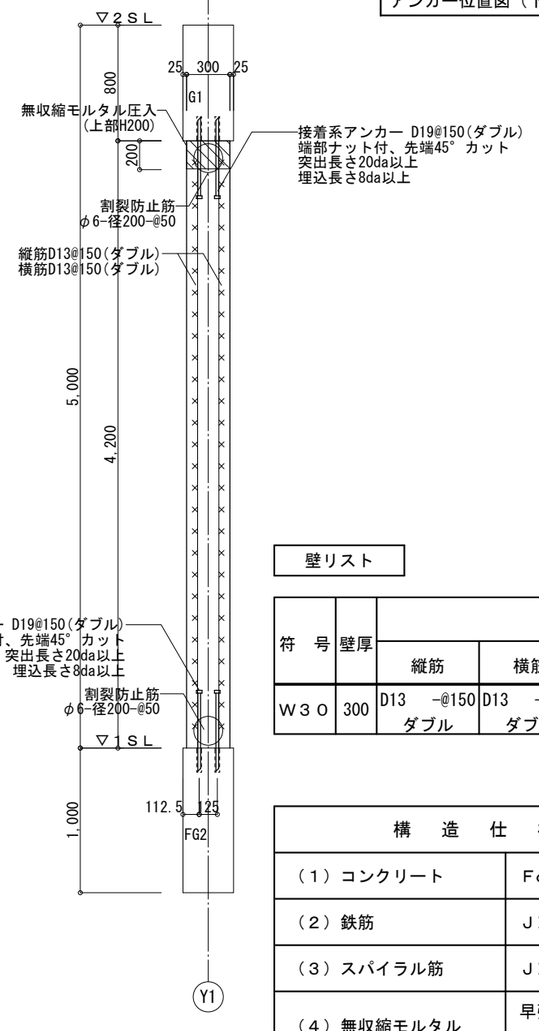
アンカー位置図（上部）　　Ｓ＝１／３０



アンカー位置図（下部）　　Ｓ＝１／３０



Y2通り X3－X4間増設壁詳細図　　Ｓ＝１／３０　（１階）



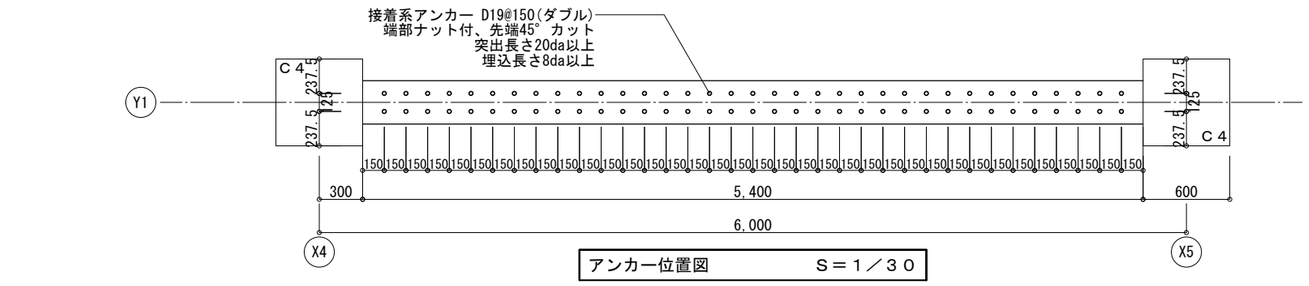
壁リスト

符　号	壁厚			開　口　補　強　筋		
		縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜筋
Ｗ３０	300	D13　-@150 ダブル	D13　-@150 ダブル	6-D22	4-D22	4-D22

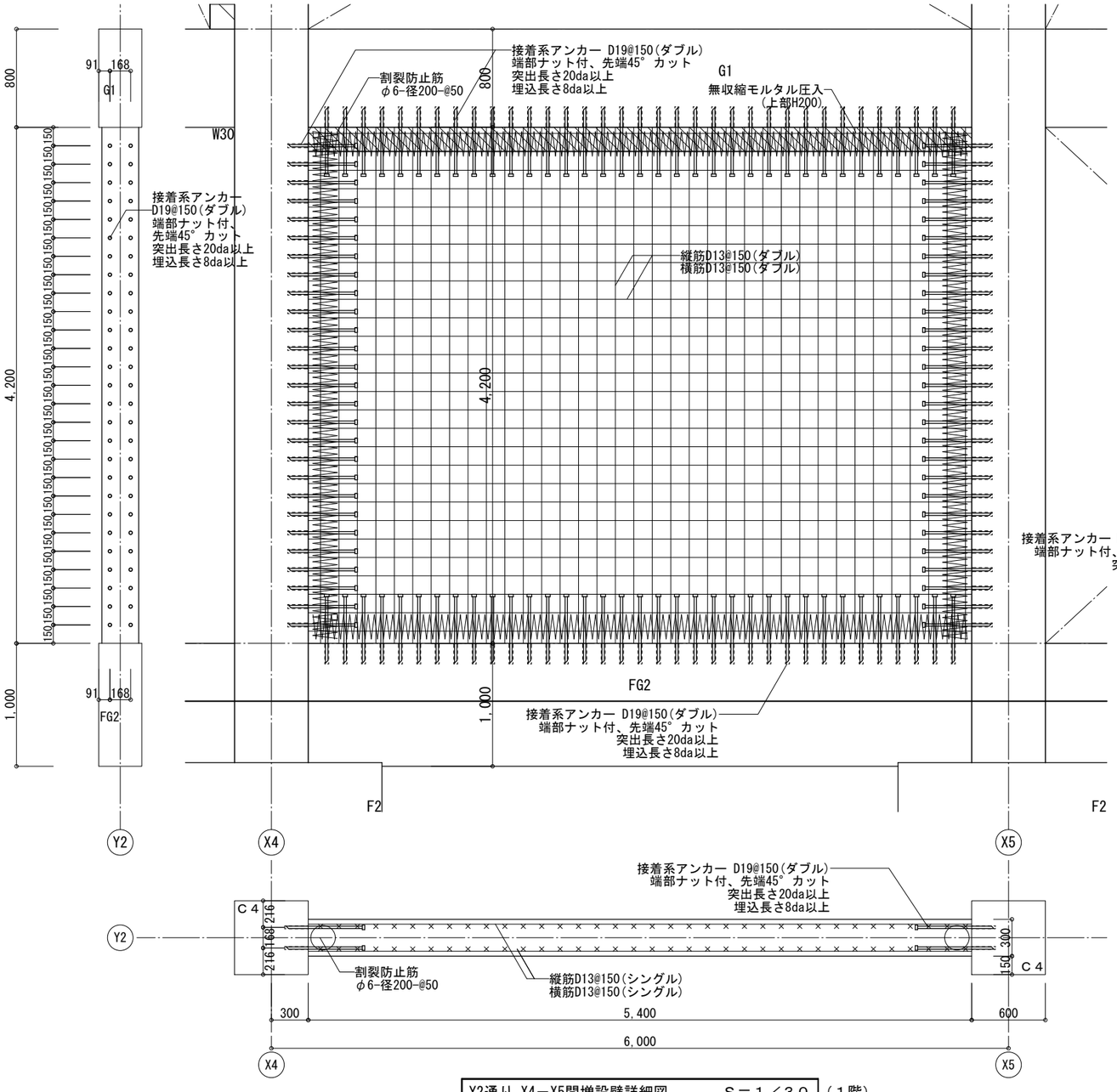
構　造　仕　様　「　増　設　壁（　１　階　）　」	
（１）コンクリート	Ｆc=21N/mm^2　スランプ=18cm
（２）鉄筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SD295A
（３）スパイラル筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SR235
（４）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Ｆc=30N/mm^2
（５）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　ＪＩＳ Ｇ 3112 SD345 D19
接　着　系　ア　ン　カ　ー　埋　込　長　さ	
D19	埋め込み長さ８ｄ以上　Ｌ＝１６０
	埋め込み長さ１２ｄ以上　Ｌ＝２３０

株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-29
			図面名：増設壁詳細図（４）	令和　年　月　日	



アンカー位置図　　Ｓ＝１／３０



Y2通り X4－X5間増設壁詳細図　　Ｓ＝１／３０　（１階）

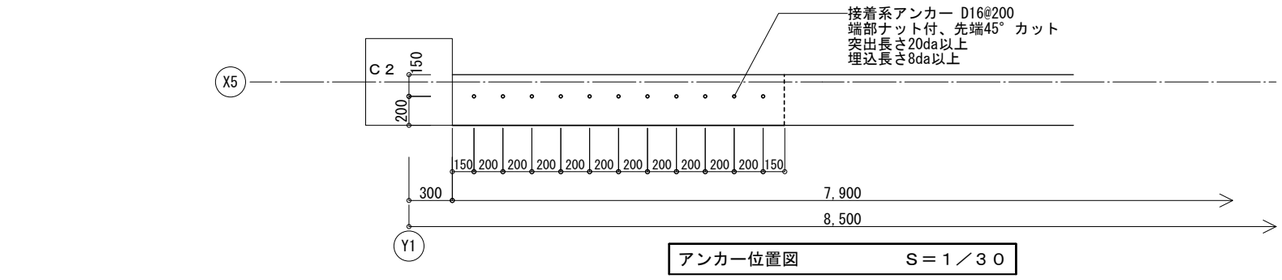
壁リスト

符　号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜筋
Ｗ３０	300	D13 −@150 ダブル	D13 −@150 ダブル	2-D13	2-D13	2-D13

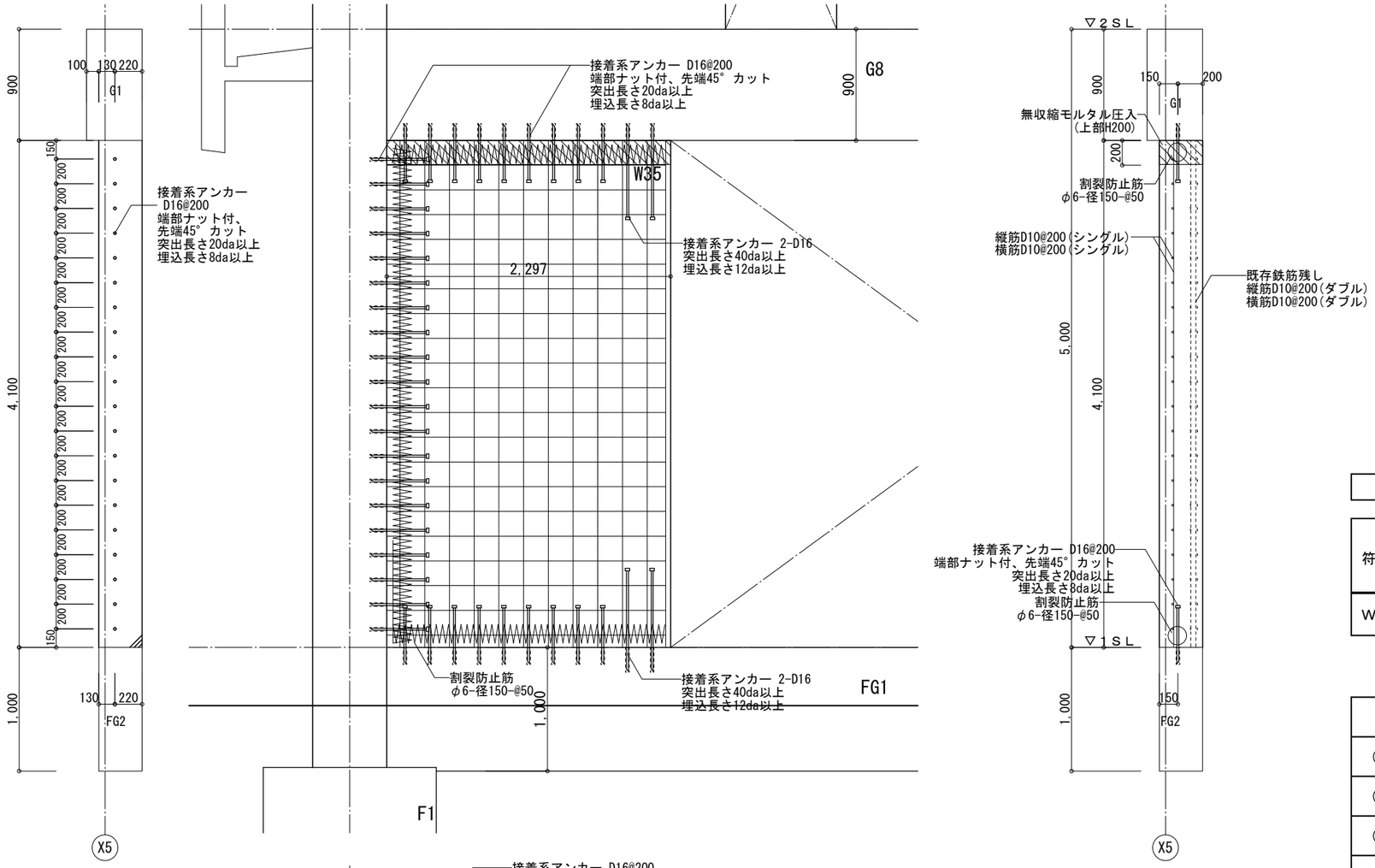
構　造　仕　様　「　増　設　壁（　１　階　）　」	
（１）コンクリート	Ｆc=21N/mm^2 スランプ=18cm
（２）鉄筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SD295A
（３）スパイラル筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SR235
（４）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Ｆc=30N/mm^2
（５）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　ＪＩＳ Ｇ 3112 SD345 D19
接着系アンカー埋込長さ	
D19	埋め込み長さ８ｄ以上　Ｌ＝１６０

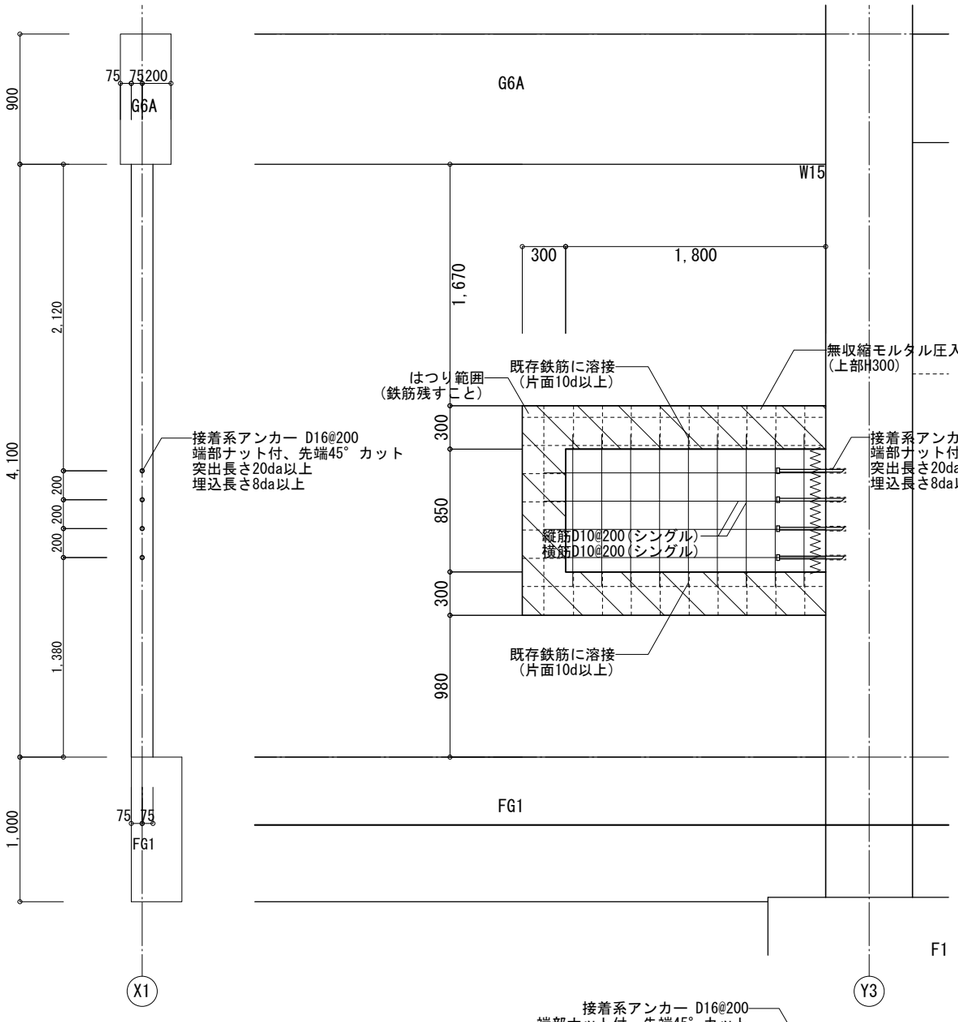
株式会社　山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也

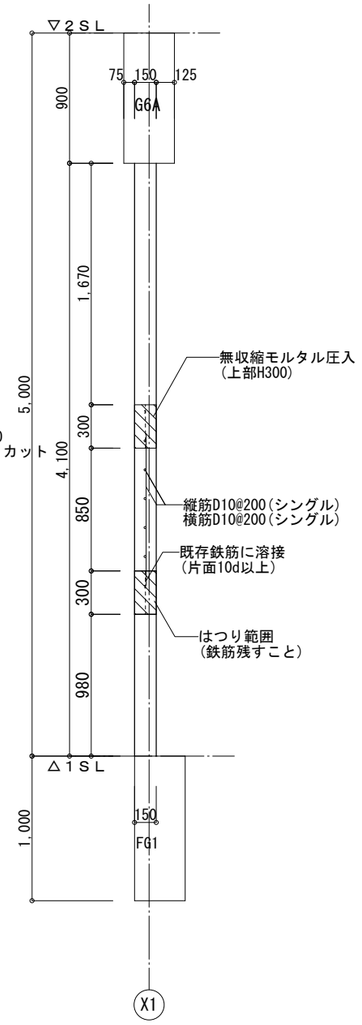
校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-30
			図面名：増設壁詳細図（５）	令和　年　月　日	

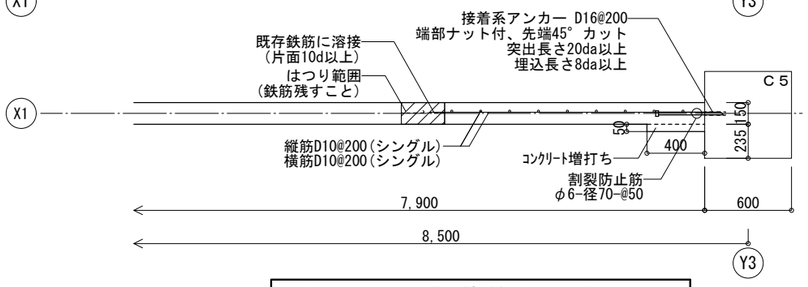


アンカー位置図　　Ｓ＝１／３０


100 130 220
G1
900
150
200 200 200 200 200 200 200 200 200 200







X1通り Y2－Y3間開口閉鎖詳細図　　S＝1／30

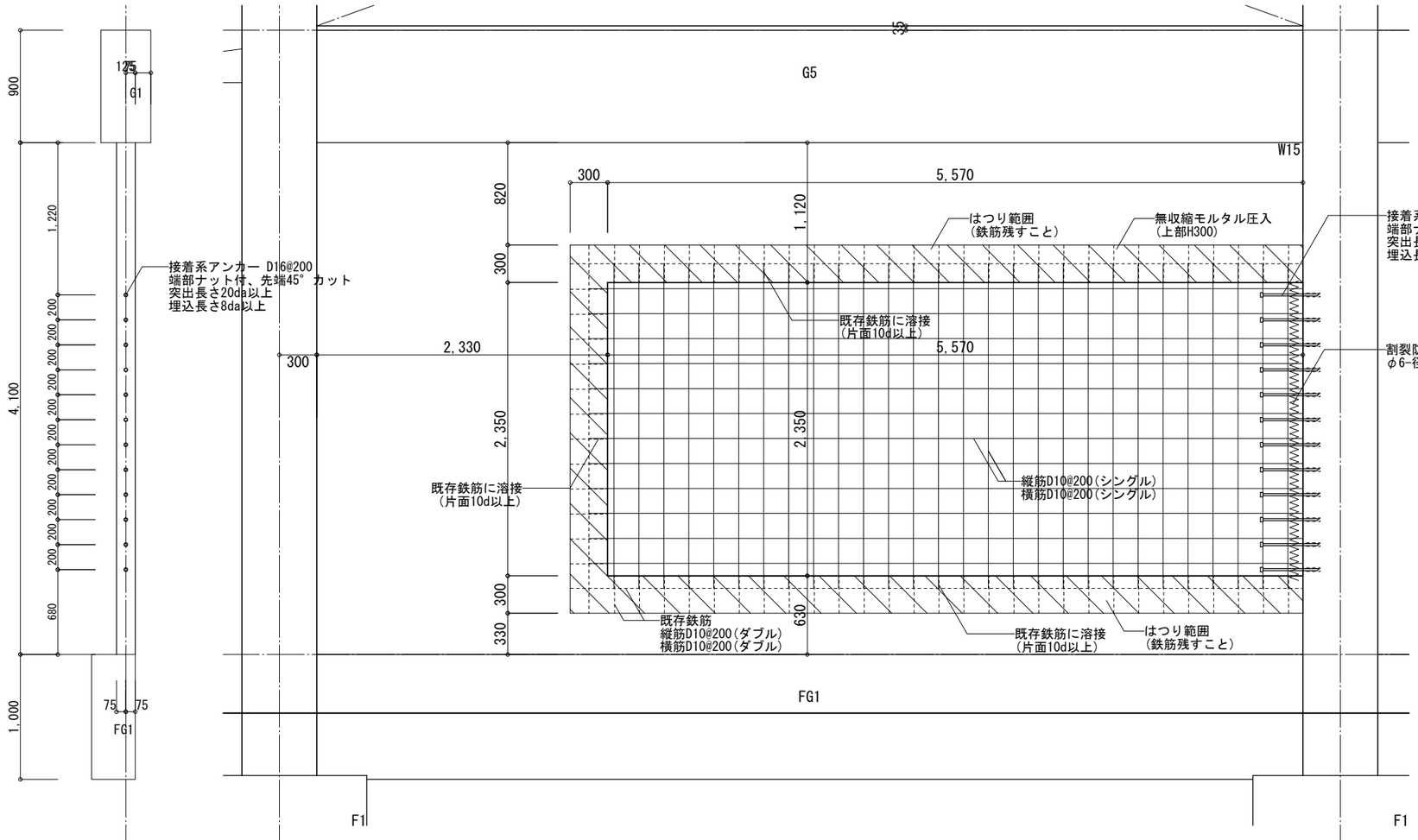
壁リスト

符号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜筋
W15	150	D10 -@200 シングル	D10 -@200 シングル	2-D13	2-D13	2-D13

構造仕様「開口閉鎖(1階)」	
(1) コンクリート	Fc=21N/mm² スランプ=18cm
(2) 鉄筋	JIS G 3112 SD295A
(3) スパイラル筋	JIS G 3112 SR235
(4) 無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材(プレミックス) Fc=30N/mm²
(5) あと施工アンカー	接着系アンカー(有機系カプセル型) アンカー筋 JIS G 3112 SD345 D16
接着系アンカー埋込長さ	
D16	埋め込み長さ8d以上 L=130

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-32
			図面名 開口閉鎖詳細図(1)	令和 年 月 日	



X6通り Y1−Y2間開口閉鎖詳細図　　S＝1／30

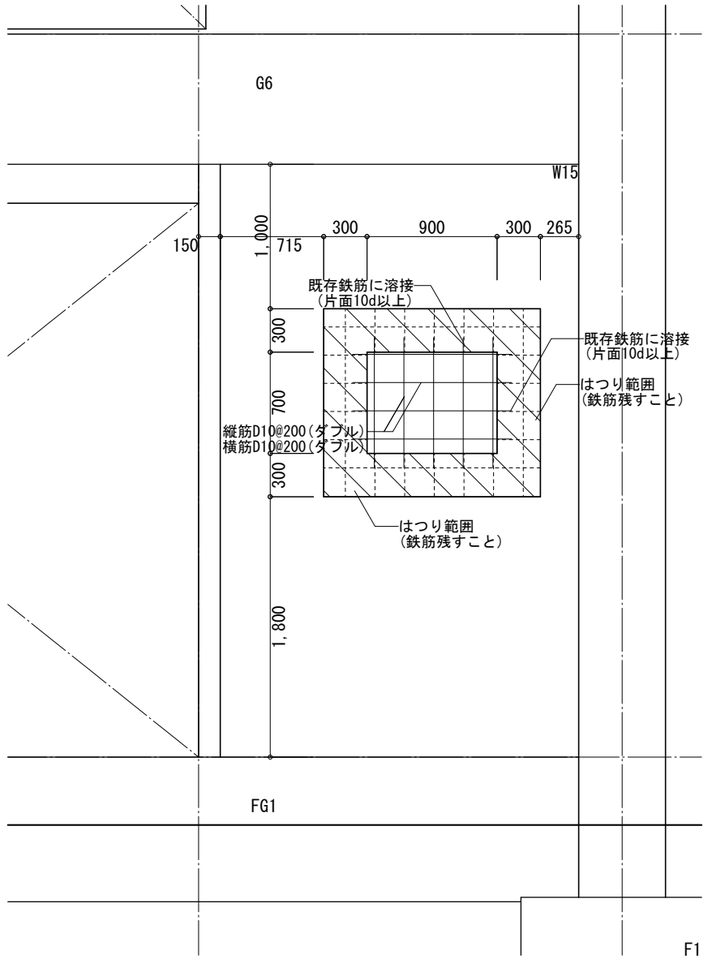
壁リスト

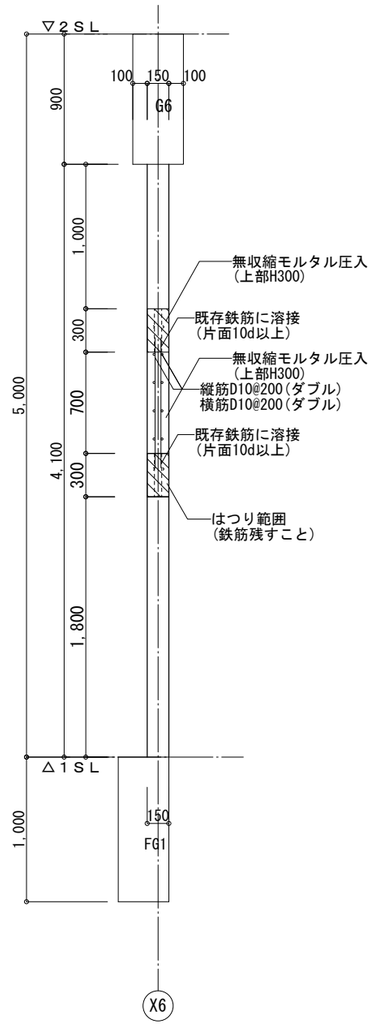
符号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	横筋	斜筋
W15	150	D10 -@200 ダブル	D10 -@200 ダブル	2-D13	2-D13	2-D13

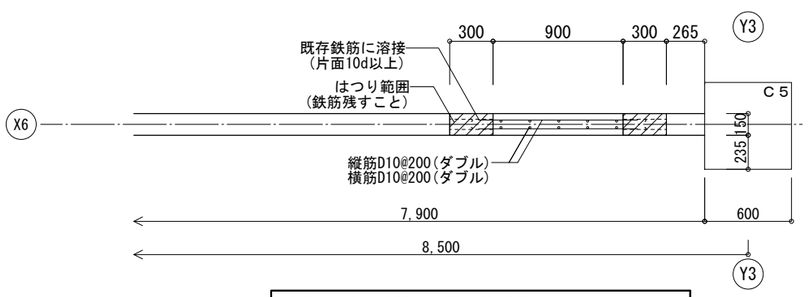
構造仕様「開口閉鎖（1階）」	
（1）コンクリート	Fc=21N/mm² スランプ=18cm
（2）鉄筋	JIS G 3112 SD295A
（3）スパイラル筋	JIS G 3112 SR235
（4）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Fc=30N/mm²
（5）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　JIS G 3112 SD345 D16
接着系アンカー埋込長さ	
D16	埋め込み長さ8d以上　L＝130

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-33
			図面名：開口閉鎖詳細図（2）	令和　年　月　日	







X6通り Y2－Y3間開口閉鎖詳細図　　S＝1／30

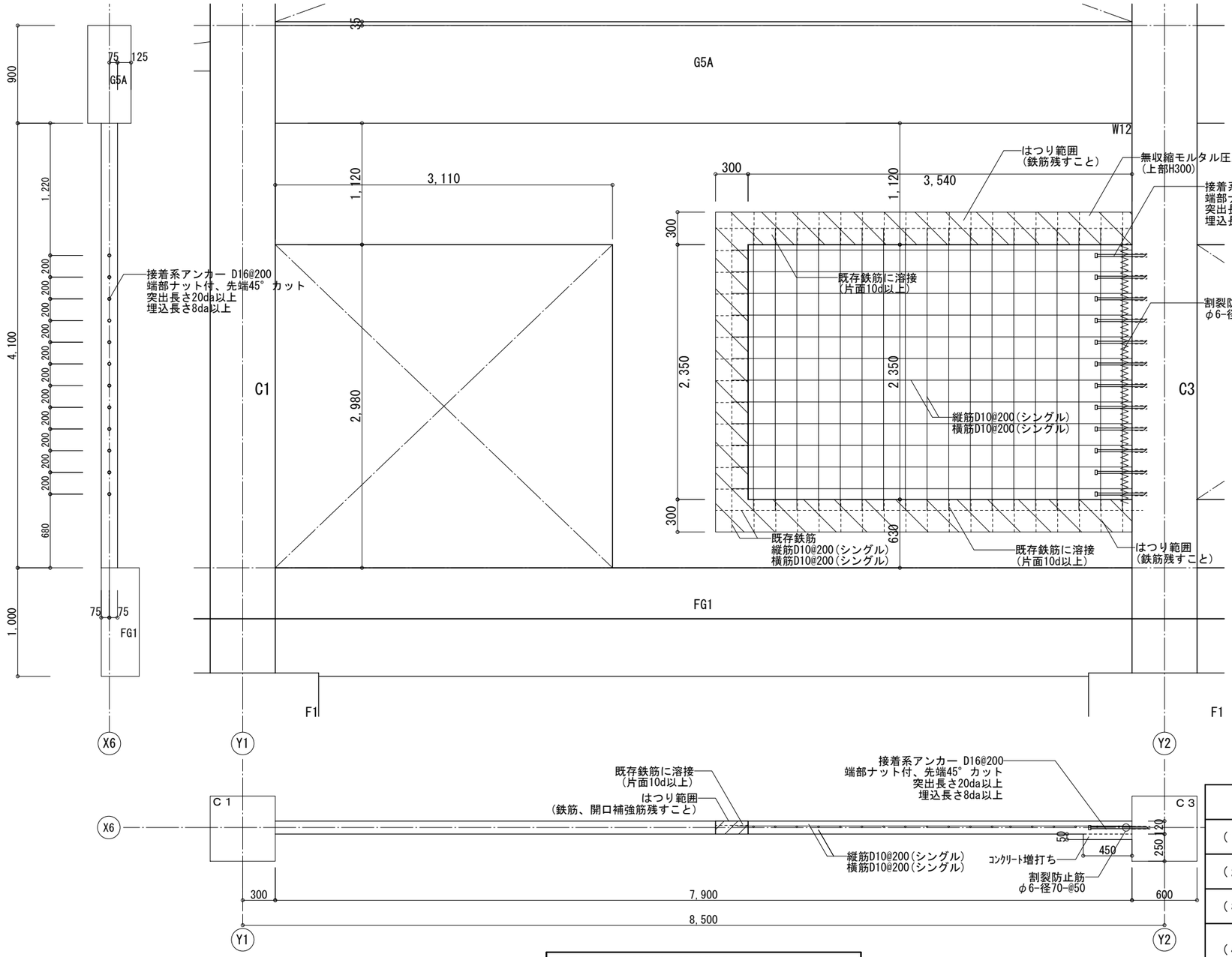
壁リスト

符号	壁厚	縦筋	横筋	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜筋
W15	150	D10 -@200 ダブル	D10 -@200 ダブル	2-D13	2-D13	2-D13

構造仕様「開口閉鎖(1階)」	
(1)コンクリート	Fc=21N/mm² スランプ=18cm
(2)鉄筋	JIS G 3112 SD295A
(3)スパイラル筋	JIS G 3112 SR235
(4)無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材(プレミックス) Fc=30N/mm²
(5)あと施工アンカー	接着系アンカー(有機系カプセル型) アンカー筋 JIS G 3112 SD345 D19
接着系アンカー埋込長さ	

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-34
			図面名 開口閉鎖詳細図(3)	令和 年 月 日	



X1通り Y1－Y2間開口閉鎖詳細図　　S＝1／30

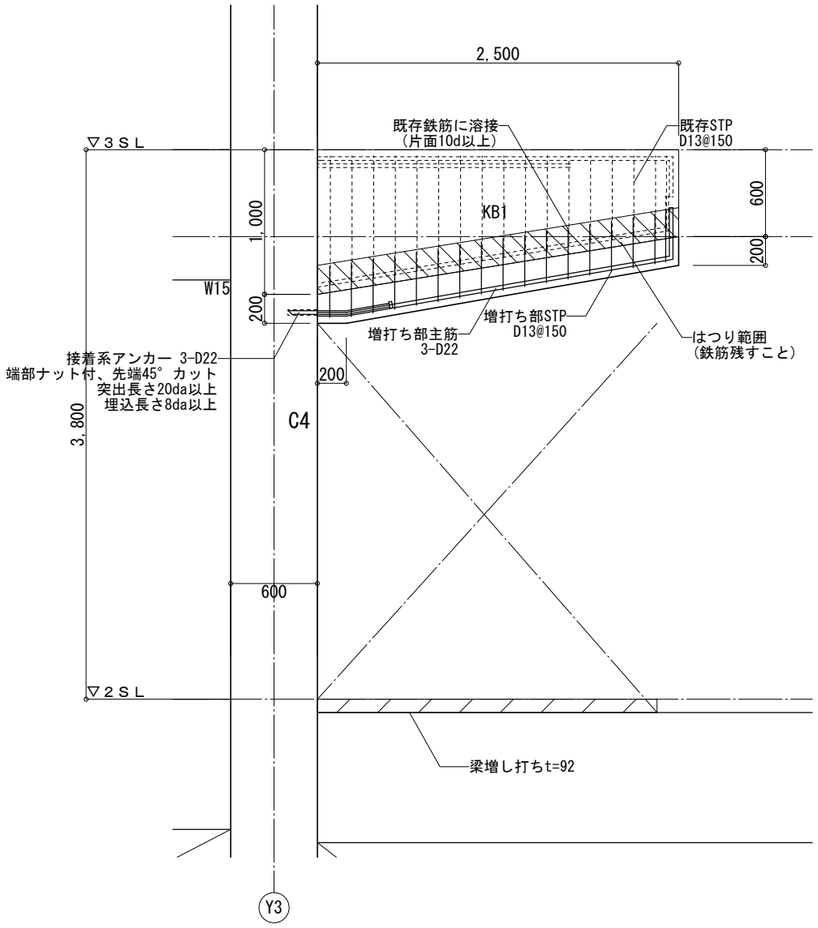
壁リスト

符号	壁厚	開口補強筋				
		縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜筋
W15	150	D10 -@200 シングル	D10 -@200 シングル	2-D13	2-D13	2-D13

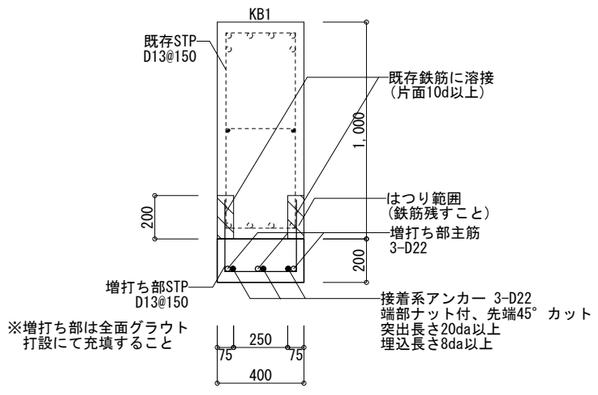
構造仕様「開口閉鎖（1階）」	
（1）コンクリート	Fc=21N/mm² スランプ=18cm
（2）鉄筋	JIS G 3112 SD295A
（3）スパイラル筋	JIS G 3112 SR235
（4）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Fc=30N/mm²
（5）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　JIS G 3112 SD345 D16
接着系アンカー埋込長さ	
D16	埋め込み長さ8d以上　L＝130

株式会社 山崎設計
一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号
一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也

校閲	作図	担当	工事名	縮尺	図面番号
			笠置町庁舎耐震補強工事	1/30	S-35
			図面名 開口閉鎖詳細図（4）	令和 年 月 日	



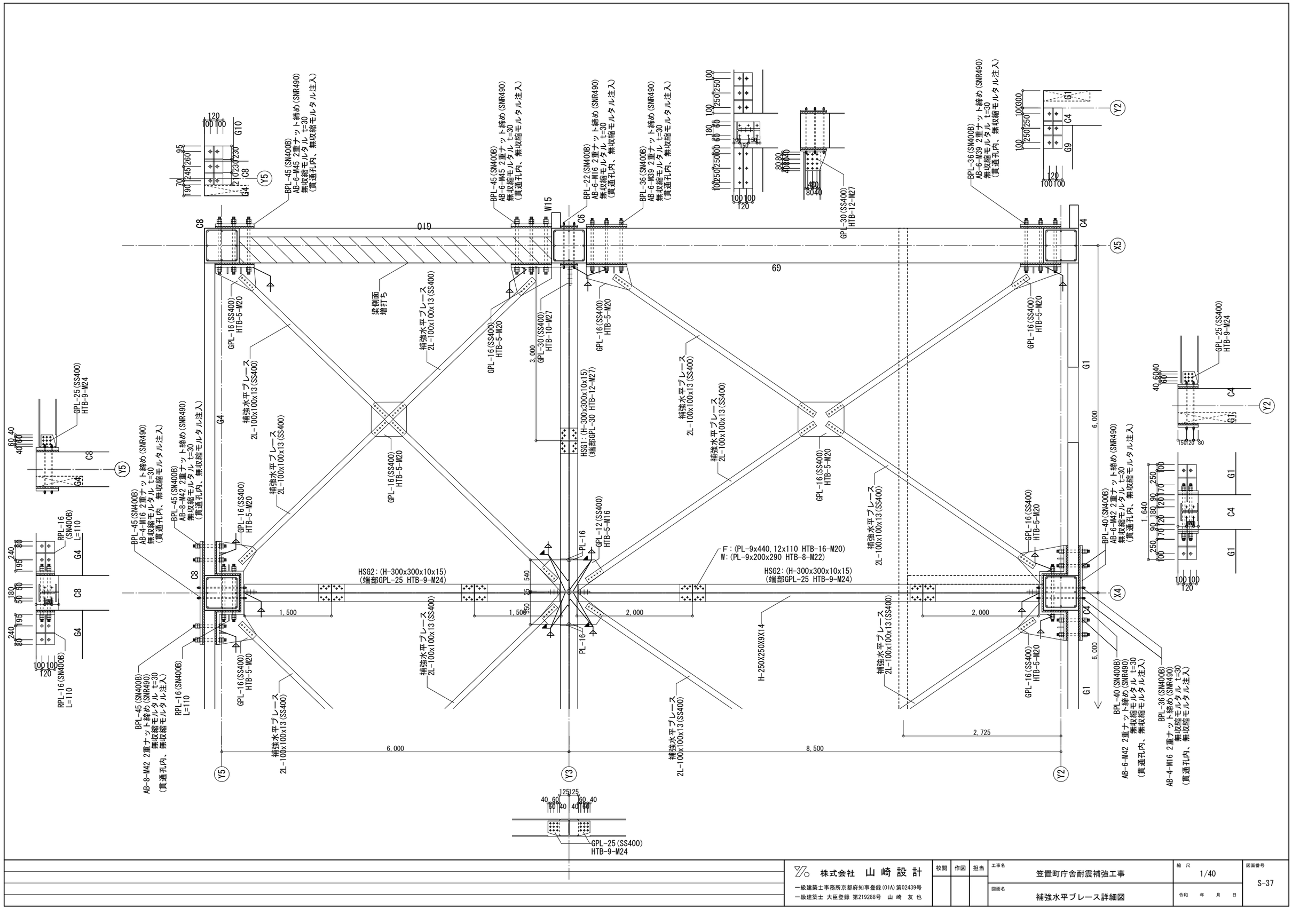
片持ち梁（ＫＢ１）断面詳細図　　Ｓ＝１／３０



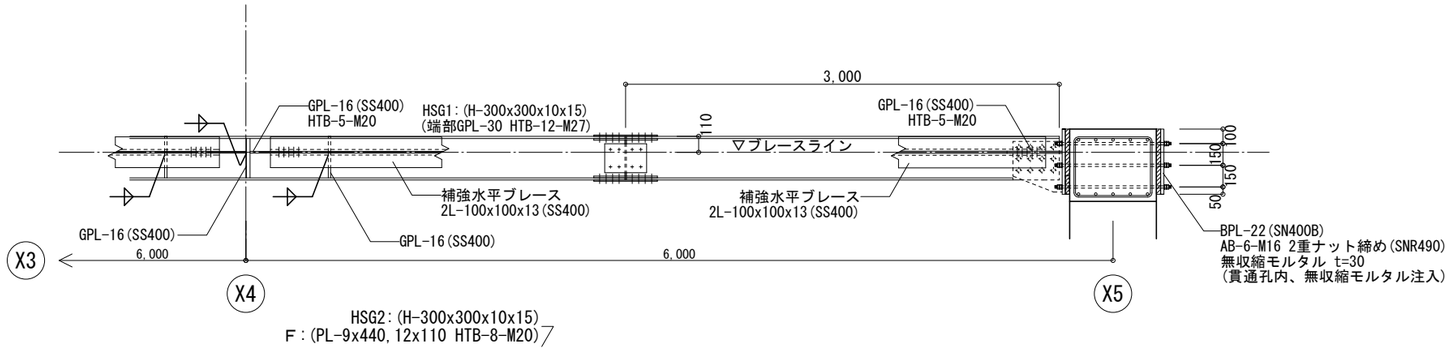
片持ち梁（ＫＢ１）断面詳細図　　Ｓ＝１／２０

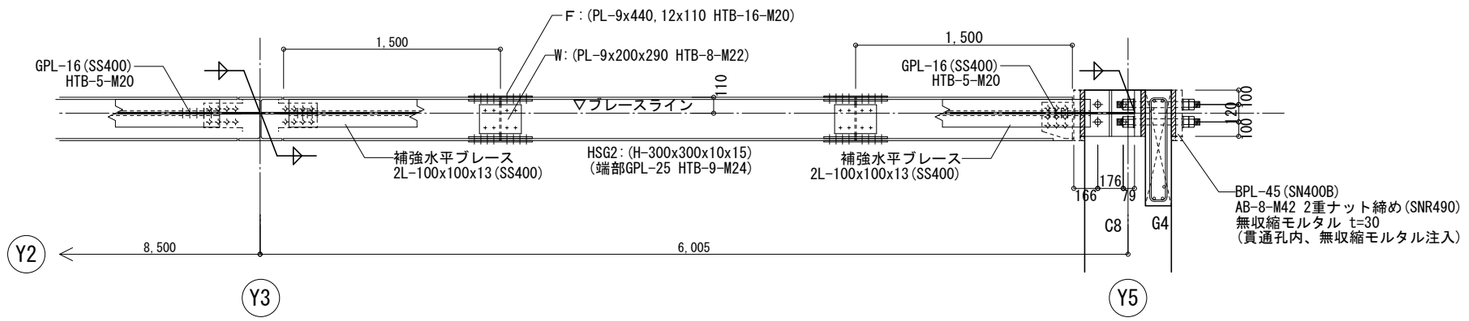
構　造　仕　様　「　片　持　ち　梁　増　打　ち　補　強　」	
（１）コンクリート	Ｆｃ=21N/mm^2　スランプ=18cm
（２）鉄筋	ＪＩＳ Ｇ 3112 SD295A
（３）スパイラル筋	~~ＪＩＳ Ｇ 3112 SR235~~
（４）無収縮モルタル	早強型特殊セメント系無収縮グラウト材（プレミックス） Ｆｃ=30N/mm^2
（５）あと施工アンカー	接着系アンカー（有機系カプセル型） アンカー筋　ＪＩＳ Ｇ 3112 SD345 D22
接　着　系　ア　ン　カ　ー　埋　込　長　さ	
D22	埋め込み長さ８ｄ以上　Ｌ＝１８０

株式会社　山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号　山崎　友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事	縮尺 1/20・30	図面番号 S-36
				図面名 片持ち梁詳細図	令和　年　月　日	



株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 補強水平ブレース詳細図	縮尺 1/40 令和 年 月 日	図面番号 S-37





使用材料
ブレース：２Ｌ－１００ｘ１００ｘ１３ ＳＳ４００（ＪＩＳ Ｇ ３１０１）
：５－Ｍ２０（ＪＩＳ Ａ ５５４０）
鋼 材 ：ＳＳ４００（ＪＩＳ Ｇ ３１０１）
ＳＮ４００Ｂ（ＪＩＳ Ｇ ３１３６）
ボルト ：Ｈ．Ｔ．Ｂ Ｓ１０Ｔ
無収縮モルタル：早強型特殊セメント系無収縮グラウト材(プレミックス)
Ｆｃ＝３０Ｎ／ｍｍ²

補強水平ブレース架構詳細図 Ｓ＝１／３０

株式会社 山崎設計 一級建築士事務所京都府知事登録(01A)第02439号 一級建築士 大臣登録 第219288号 山崎 友也	校閲	作図	担当	工事名 笠置町庁舎耐震補強工事 図面名 補強水平ブレース架構詳細図	縮尺 1/30 令和 年 月 日	図面番号 S-38